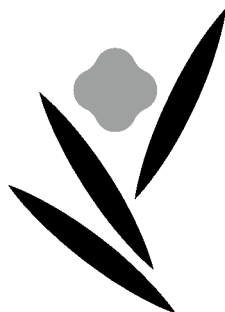


福祉心理学科の教育と授業計画

2020年度



福島学院大学福祉学部
福祉心理学科



建学の精神

本学は学則第1条に『教育基本法、学校教育法に則り、学院創設者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき Sincerity（真心）と Hospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを目的とする』とうたっています。

「真心」を身につけた学生を育成することが、本学の創立者菅野慶助先生の建学の理想だったのです。

「真心」

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」としてあります。

このように、真心はまず、自己に対していつわりのないこと。すなわち「自らの良心の声に聞いて恥じないこと」を意味しています。

また、他人に対しては、自己に対するいつわりのない心で接し、その人の身になって考える思いやりがあり、他人を決して欺かないことを意味しています。

「すべてのすべて」

以上のような意味の「真心」こそは、人間の行為のすべてを貫くものでなければならないのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べているのはこのことを指しています。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を含めて「すべてのすべて」と言っているのです。

「信念のことは」

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それはまず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは様々です。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

1. 真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。

真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。

心のこもった応対や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。

2. 夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。

夢をもって生きること、浪漫を求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。

3. 的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。

的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。

自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。

4. 国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。

情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを理解することのできる人間の育成につとめます。

5. 感銘と感動を素直に表現できるひとを育てます。

感銘と感動ある人生ほど素晴らしいものはありません。

一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうした「ひとを育てる教育」でありたいと思います。

こうした学生を育成することを教育の理念として掲げ、本学はこれを建学の精神と合わせて学是としています。

2020年度学生用便覧 Campus Life



I. 福祉学部福祉心理学科の教育	1
II. 教育課程と履修の方法	3
III. 科目履修	6
IV. 資格取得の方法	9
V. 地域社会に学ぶ体験教育	18
VI. その他	19

平成30年度以前入学者は、入学年度の便覧 Campus Life を参照ください。

I 福祉学部福祉心理学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程編成・実施、卒業認定・学位授与の方針

(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

福祉心理学科では、心理的対人援助活動に関心を持ち、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において広く地域社会に根ざし、将来に渡って地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

福祉心理学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して教科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、福祉心理学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

福祉心理学科の教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育科目は、福祉と心理という学際的領域で、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成するために「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の科目群で構成し、「福祉」と「心理」の分野から所定の単位を修得することを卒業要件とし、心のケアができる人材を育てる教育課程を編成しています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得など対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるように各年次に配当して編成しています。

(3) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

福祉心理学科においては、心理的対人援助活動に関心を持ち、広く社会の福祉に貢献する人材の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していると福祉心理学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（福祉心理学）」の学位を授与します。

2. 教育課程の考え方

(1) 「福祉」と「心理」の両面から援助できる専門家の養成

福祉心理学科が目指す福祉の専門家を育成するために、教育課程は「福祉」と「心理」の2分野の専門性を両軸として「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の3科目群が

ら構成されています。「福祉」と「心理」の2分野それぞれ30単位以上履修することが卒業要件となっており、「福祉」と「心理」の両面から心のケアのできる人材を育てる教育課程となっています。

現代はストレス社会、少子超高齢社会等と指摘されていますが、このような社会で生活していくためには、「心の問題」とどう向き合っていくかが重要です。福祉心理学科では、地域福祉の担い手として、幅広いニーズに対応できるとともに、深刻になりつつある「心の問題」を理解し、「心のケア」のできる福祉の専門家を養成しようとしています。

(2) 教養教育の充実

本学の学是である“真心こそすべてのすべて”の精神を持った人材を育成し、現代社会のニーズに応えるため、福祉心理学科の教養教育には、大学生に求められる表現力、マナー、異文化理解、地域ボランティア活動に重点を置いた特色ある科目を用意しています。

- ① 「本学の教育」は、大学教育に必要な学修方法の習得等を目的に入学生を対象に作られた総合教育プログラムです。また、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、本学創立者が掲げた「真心をもって行動し、社会に貢献できる人材」となることを目指します。
- ② 「文章表現」では、社会においてどのような場面でも必要になる表現力の向上のため、その基礎となる漢字能力と対話能力を高めることを目標にしています。
- ③ 「生活教養Ⅰ」および「生活教養Ⅱ」では、大学生としてあるいは社会人として必要なコミュニケーションの基本となるマナーをしっかりと身につけるため、ケース・スタディ（事例研究）を通して学びます。
- ④ 「国際理解論」「国際理解演習」では、国際的な視野に立って物事を考えることのできる人材育成の観点から、異文化への理解を深めることで、多様性を理解することを目標にしています。
- ⑤ 「地域ボランティア活動」「地域振興活動」では、活動中での人間関係の錬磨を通して、基本的な対人コミュニケーション力、的確な判断力、問題解決に立ち向かう態度を育てます。

3. 学習の成果を挙げるための方法

① きめ細かい履修指導と個別相談

クラスアドバイザーの他に全学生に対して、個別面談担当教員を配置しています。

個別面談担当教員が学生との個別面談を実施することによって、学生一人一人と向き合い学生生活における様々な相談に応じる体制をとっています。

また、資格取得に必要な学修や就職活動、国家試験受験対策などについて、クラスセミナーや個別相談を通じて随時対応しています。

② 演習・実習科目の充実

資格取得に必要な科目はもちろんのこと、実社会において即戦力として役立つ知識や能力を身につけるため、授業は可能な限り体験・演習・実験の形態で進めていくよう工夫しています。演習等の科目においては、具体的な事例を通して理解を深めていきます。

③ ゲストスピーカーの招聘

授業では、それぞれの授業内容に関連し、授業担当教員が学生にとって最も効果的で新鮮な話を提供できる、ゲストスピーカーを招聘する授業も行います。ゲストスピーカーは、地域あるいは様々な職業現場で幅広く活躍している方々です。

④ 映像及びプレゼンテーションツール利用授業

授業は、本学が長年推進してきた映像教育を行い、またプレゼンテーションツールを利用し、分かりやすく効果的に行います。

⑤ ディスカッション及びグループワークを用いた授業

一方的な講義ではなく、ディスカッションやグループワークの時間を授業に多く導入したアクティブラーニングを実施しています。

⑥ 施設見学

「相談援助演習Ⅱ」「精神保健福祉援助演習（専門）」等の実践的な授業科目については、福祉施設などを実際に訪問し、学生が目指す福祉の現場を見て学ぶ機会を設けています。

⑦ 附属施設スタッフ（兼任）による指導

大学院には心理臨床相談センターというメンタルケアに対応している附属施設を併設しています。ここで相談業務にあたっている医師、公認心理師、臨床心理士は福祉学部の教員です。常に実践現場にいる教員が授業を担当することで、より実践的な授業が受けられます。

⑧ 成績評定平均点・本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）の重視

厳格な成績評価の方法として本学独自のGPA制度を設け、各種表彰や実習・卒業のための基準のひとつに採用しています。GPAを学習成果の目安とし、4年間意欲的に学ぶことができます。（P 6～P 7のGPAについての説明を参照してください）

4. 学生の努力目標 — 生きた知識と実践教育

- 本学の学是である「真心こそすべてのすべて」の精神にもとづき、福祉と心理を学ぶ本学の学生としての「真心」と「専門職者意識」を高めるように努めましょう。
- 卒業後の社会生活・職業生活を支える基盤をつくるために、専門的立場から、物事を多角的に判断し、実践できるような教養を身につけましょう。
- 対人援助に必要な知識と技能を身につけるように努めましょう。
- 各種のボランティア活動を体験し、他者理解や対人援助について能動的に考え、自らの福祉に関する興味関心を深めましょう。
- 授業のなかで、実際に福祉・心理の現場で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘します。教科書だけでは学ぶことのできない生きた知識を吸収し、さらに積極的な姿勢で自分の問題意識を高めましょう。
- 実習後には、事後指導の一環として、実習事後指導（実習反省会）を実施します。自分が体験したことをまとめて人に伝えることは、さらなる気付きのきっかけとなります。また、後輩の実習意欲を喚起する役割も兼ねていますので頑張って取り組みましょう。
- 大学開講科目で学ぶ基礎知識をさらに専門的な知識・技術として習得するために大学が地域貢献として開催するセミナーなどへの参加に努めましょう。
- 福祉・心理は人や社会と切り離しては考えられない学問です。常に地域社会の現状に関心を持ち、将来、地域社会と連携して活躍できる専門家を目指して日々の授業や課題に取り組みましょう。

Ⅱ 教育課程と履修の方法

1. 教育課程（カリキュラム）

(1) 基本的な考え方

福祉学部福祉心理学科で開講される授業は「教育課程表」（P 22～P 30）のとおりです。

教育課程（カリキュラム）は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。そして、科目ごとに、授業の方法（講義・演習・実習）、履修できる学年（1年次～4年次）、科目の種類（必修・選択）、単位数（1単位・2単位・4単位等）が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修には幾つかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目（授業）を受けて、学期末の試験（筆記試験・レポート試験等）に合格すると「単

位」が認定されます。「単位」については、後で説明しますが、卒業や資格取得への目安になる「数字」と考えてください。

(2) 履修できる学年

教育課程表の「標準履修年次」に1～4までの数字がありますが、これはその授業を受けることができる標準的な履修年次です。「1」の場合、「1年次に受けることが望ましい授業」、「1・2」の場合、「1年次もしくは2年次に受けることが望ましい授業」ということです。下位学年が「標準履修年次」になっている科目は、上位学年になってからでも履修することができますが、上位学年が「標準履修年次」になっている科目を下位学年の者が履修することはできません。

(3) 科目の種類

科目には「必修科目」と「選択科目」の2種類があります。

卒業までに必ず単位取得しなければならないのが「必修科目」であり、それ以外の科目は「選択科目」となっています。

「必修科目」は福祉心理学科で学ぶ学生が、最低限単位を取得する必要がある科目であり、卒業時にこれらの科目のうちひとつでも単位を取得できていなければ卒業ができません。

「選択科目」は原則として「受けてみたい」という科目を卒業に必要な単位数を満たす範囲で自由に選ぶことができますが、興味ある授業だけを選択するのではなく、「授業計画」を参考にして、幅広い教養を学ぶために様々な分野の科目を選択してください。

また、資格取得のために必要な科目もありますので留意してください。

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士、公認心理師の指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

(4) 授業の開講期及び単位制

学習時間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。

- ① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を「時限」としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間（90分）で15回の授業では、2時間×15回＝30時間（90時間の1／3）の学修になります。90－30＝60時間は授業外の学修時間（予習・復習）となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(5) 卒業に必要な単位数

「単位数」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。福祉心理学科の「卒業に必要な単位数」は次のとおりです。

卒業に必要な単位数（令和元・2年度入学者対象）

教養教育科目	26単位以上	必修	16単位		合計 124単位以上
		選択必修	7単位		
		選択	3単位以上		
専門教育科目	98単位以上	必修	心理系（P系）	7単位	
			福祉系（W系）	10単位	
			ゼミナール	4単位	
		選択	77単位以上 （うち、P系科目23単位以上、W系科目20単位以上を含む）		

(6) 科目ごとの授業期間

「教育課程表」の「授業期間」の欄に「通年科目」と「半期科目」があり、各科目ごとに定められています。「通年科目」とは、1年間を通して授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。半期ごとに期末試験が実施されます。期末試験は、原則として授業回数に含まれません。

2. 履修の方法【履修規程】

学則第32条に「学生は履修する科目を選定し、履修届を提出するものとする」とあります。

大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入の方法、提出期日については、オリエンテーションで教務課より説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修ができません。また、教員や教務課職員が早く出すよう一人一人に指示をしたりはしませんので、全て自分の責任で届出を行うことになります。十分に注意してください。

<単位取得までの一連の手続き>

- ① 必要書類の確認 履修届の用紙、学生便覧等の書類がオリエンテーションの際に配付されます。
- ② 履修科目の選定 卒業必修科目、資格必修科目を確認してください。（不明な点は、必ず教員に確認すること）
- ③ 履修届の提出 指定された日時までに必ず提出してください。
- ④ 履修確認 履修登録にミスがないか確認し、修正の必要があれば教務課に提出します。
- ⑤ 授業の出席 定められた授業時数の3分の2以上を出席しなければなりません。5分の4以上の出席を義務付けている科目もありますので、注意してください。
- ⑥ 期末試験 【試験規程】参照
- ⑦ 成績通知 取得単位数の確認
- ⑧ 単位取得

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

- (1) (授業を行う学生数) 学則第29条
- (2) (履修科目の制限) 履修規程第22条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。標準履修年次が1・2年次の科目はその学年で取っておきましょう。1・2年次の科目を落としてしまうと、3・4年次に実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

- (3) (履修科目の登録の上限) 学則第34条

修得しようとする一年間の単位数は、希望資格取得に必要な単位数や一人一人の能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり、授業科目を適切に履修するため、1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位としています。オリエンテーション時に履修の上限について説明・指導しますので注意してください。

4. 資格の取得

福祉心理学科において指定された単位を取得すると、次の資格が取得できます。

- ① 社会福祉士国家試験受験資格
- ② 精神保健福祉士国家試験受験資格
- ③ 社会福祉主事任用資格
- ④ 認定心理士

なお、公認心理師国家試験受験資格は、「大学における必要な科目」を全て修得して卒業し、さらに、大学院修士課程において「必要な科目」を全て修得してはじめて得られるものです。

詳しくは、資格取得の方法（P 9～P 18）の説明をよく読んでください。

Ⅲ 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数え、授業時間は1コマ90分です。

【福島駅前キャンパス】

1時限目	9:40 ~ 11:10	4時限目	15:20 ~ 16:50
2時限目	11:20 ~ 12:50	5時限目	17:00 ~ 18:30
昼休み	12:50 ~ 13:40	6時限目	17:50 ~ 19:20 (大学院)
3時限目	13:40 ~ 15:10	7時限目	19:30 ~ 21:00 (大学院)

【宮代キャンパス】

1時限目	8:50 ~ 10:20	3時限目	12:50 ~ 14:20
2時限目	10:30 ~ 12:00	4時限目	14:30 ~ 16:00
昼休み	12:00 ~ 12:50	5時限目	16:10 ~ 17:40

2. 評価

単位を取得するためには、履修した科目の評価を受けなければなりません。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、59点以下は不合格となります。

成績の段階は次の6段階です。成績通知書にはこの評価が記載されます。

A ⁺	90点以上	A	80～89点	B	70～79点
C	60～69点	D	50～59点	F	50点未満

【本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）】

本学では、厳格な成績評価を実施することとしています。その方法として本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を設けています。

(1) 本学のGPA成績評価方法

- ① 授業科目はシラバスにより学習目標、成績評価基準を明示したうえで100点満点で成績評価し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
- ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。
- ③ GPAは、次項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学習指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
- ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意してください。

(2) GPA評価の利用

① 進 級

学則第40条の2にあるように、3年次への進級に関して2年次末のGPA評価が利用されており、GPA65点未満もしくは取得単位数60単位未満の場合は3年次への進級を認めないことがあります。

② 実習科目の履修制限

福島学院大学福祉学部履修規程第22条にあるように、実習科目の履修をするうえで、GPAが70点に達している必要があります。

③ 卒 業

心身ともに健康で豊かな「福祉社会」の実現のために、地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする本学においては、高い付加価値を身に付けた質の高い卒業生を送り出すために、厳格な卒業認定基準を設定します。

すなわち、各授業科目の取得単位はそれぞれ60点以上の評価点を得れば認定され、必修科目を含むその累計単位数が124単位（教養教育科目26単位、専門教育科目98単位）以上であれば卒業認定要件を満たすことができます。

本学ではさらに、学則第49条第1項第3号にあるように卒業年次末のGPAが70点以上であることを卒業要件として、学生の質の確保を図ることとします。

④ 卒業年次で留年した場合

卒業要件が満たせず卒業年次で留年した場合は、下記のような学費免除もしくは軽減措置をとります（学則第62条）。

ア. 再履修科目が20単位以内であり、GPAが68点以上の場合については、留年後1年以内に限り授業料および教育充実費を免除します。

イ. ア.に定める履修の期間を超えて留年となった場合は、所定の学費を適用します。ただし、卒業に必須な科目が10単位以内でGPAが70点以上の場合は科目履習生の学費を適用します。

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学習成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験日程については、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配付されたりすることはありませので注意してください。

(1) 試験の種類

① 定期試験（中間試験、期末試験等）

授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。

② 追試験

履修規程第13条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。

ただし、本人の不注意だった場合には、満点は80点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）

③ 再試験【履修規程第14条】参照

卒業学年に在籍し、履修規程第15条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業もしくは国家試験受験資格、認定資格等取得に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

① 筆記試験

筆記試験は通常90分です。

試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められます。

科目によって、教科書やノートを持ち込んでよいという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。

② レポート

レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。

③ その他の方法

調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 科目「書写演習」

2年次の書写演習は指定者必修科目です。1年次に履修する文章表現の成績がC評価以下だった者は必ず履修してください。この単位は、教養教育科目の選択の単位に含みます。

5. 科目「情報機器操作」

情報機器操作はⅠ～Ⅲまであり、入学時の能力検定により履修レベルを決定します。

科目名	レベル	開講年次	単 位
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	1単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル(1)	1年	1単位
情報機器操作Ⅲ	中級レベル(2)	1年	1単位

- 1年次に初級レベルである「情報機器操作Ⅰ」を指定された人
前期に「情報機器操作Ⅰ」を履修して1単位を取得した後、後期に「情報機器操作Ⅱ」も履修して1単位を取得してください。
- 1年次に中級レベル(1)の「情報機器操作Ⅱ」を指定された人
前期に「情報機器操作Ⅱ」を履修して1単位を取得した後、後期に「情報機器操作Ⅲ」を履修して1単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、福祉・心理に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次、4年次と2カ年の継続履修で、2学年がともに学修に励む科目となっています。「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文等の提出が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は学科定員の10%程度とし、当該学年学生数を勘案したうえで、事前希望調査に基づいて極端な偏りを防ぐよう配属できるよう計画されています。1年次より問題意識を持ち、3年次までに研究課題を絞り込んでいきましょう。

Ⅳ 資格取得の方法

福祉心理学科では、福島学院大学福祉学部履修規程第20条「卒業後の公認心理師国家試験受験資格取得」に定める通り、複数の国家試験受験資格を取得しようとする場合、最大2種類までとしています。①社会福祉士と精神保健福祉士、②公認心理師と社会福祉士、③公認心理師と精神保健福祉士の組み合わせで、資格取得に必要な科目の履修が可能です。

1. 社会福祉士

(1) 社会福祉士とは

社会福祉士とは、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格です。平成19年12月「社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律」の改正により、現行のカリキュラムが施行されています。社会福祉士制度の施行から現在に至るまでの間に、介護保険制度の施行等による措置制度から契約制度への転換など、社会福祉士を取り巻く状況は大きく変化しており、今後の社会福祉士に求められる役割としては、①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割、②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割、③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割、これらを適切に果たしていくことが求められています。

社会福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

社会福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は26科目履修する必要があります。

「◎」のついた2科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

「A2」のついた科目について、法令では「3科目のうち1科目を履修する」となっていますので、「A2」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

社会福祉士 指定科目表

法令指定科目	本学開講科目	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A 1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A 1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A 1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
社会調査の基礎	社会調査法	○	3	2
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	○	1	4
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	○	2	4
	社会福祉援助技術論Ⅱ	○	3	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	2	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理	○	3	2
社会保障	社会保障	○	2	4
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者に対する支援と介護保険制度	○	1	4
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
就労支援サービス	就労支援	A 2	3	1
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	A 2	3	2
更生保護制度	更生保護制度	A 2	3	1
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	○	2	1
	相談援助演習Ⅱ	○	3	2
	相談援助演習Ⅲ	○	4	2
相談援助実習指導	相談援助実習指導	○	3・4	3
相談援助実習	相談援助実習	○	3・4	4

(3) 科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」

① 科目の内容

「相談援助実習指導」では、年間45コマ（前期30コマ、後期15コマ）の授業を開講し、前期（実習事前学習）は、実習の意義と目的を学び、実習施設の理解を深めるとともに、実習に向けての「実習計画書」の作成を行います。後期（実習事後学習）は、「実習日誌」「実習全体のまとめ」から実習を振り返り、実習報告書の作成と実習反省会での発表を行います。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「相談援助実習」は、社会福祉士の受験資格のため「180時間以上」の配属実習を学外（集中）で行うものです。これまで学んできた社会福祉援助に関する倫理、専門知識や専門技術について自らの体験を通じて主体的に学び、社会福祉専門職として基本的な態度を学びます。

② 履修制限

a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり、「相談援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「相談援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

(1) 3年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、2年次末までに単位を取得する必要のある科目は次の8科目です。

条件1：B評価以上で単位取得をを求める科目

- | | |
|------------|-----------|
| ① 「文章表現」 | ② 「心理学概論」 |
| ③ 「社会福祉原論」 | ④ 「社会保障」 |

条件2：単位取得済みであることが求められる科目

- | | |
|------------------|-----------------|
| ⑤ 「人体の構造と機能及び疾病」 | ⑥ 「相談援助の基盤と専門職」 |
| ⑦ 「社会福祉援助技術論Ⅰ」 | ⑧ 「相談援助演習Ⅰ」 |

(2) 4年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、3年次末までに単位を取得する必要のある科目は、前述の8科目に次の3科目を加えた11科目です。

上記(1)の条件を満たすことに加え、単位取得済みであることが求められる科目

- | | |
|----------------|--------------|
| ⑨ 「社会福祉援助技術論Ⅱ」 | ⑩ 「保健医療サービス」 |
| ⑪ 「相談援助演習Ⅱ」 | |

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「相談援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

2. 精神保健福祉士

(1) 精神保健福祉士とは

平成9年（1997年）に制定された「精神保健福祉士法」に基づく国家資格です。精神保健福祉士法が改正され、平成24年4月から新カリキュラムが施行されています。

精神保健福祉士の仕事の内容は、精神障がい者の退院促進を支援し、精神障がい者が地域でその人らしく生きるための生活課題に取り組み地域生活の維持・継続ができるよう相談援助を行います。

精神保健福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

精神保健福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は24科目履修する必要があります。

「◎」のついた3科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

精神保健福祉士 指定科目表

法令指定科目	本学開講科目	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A 1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A 1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A 1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	2	2
社会保障	社会保障	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	○	3	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	◎	1	4
精神保健の課題と支援	精神保健学	○	1	4
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	○	2	2
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	○	2	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	○	3	4
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	○	3	4
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	○	2	4
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	○	2	2
精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉援助演習(基礎)	○	3	1
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習(専門)	○	4	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導	○	4	3
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	○	4	5

(3) 科目「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」

① 科目の内容

「精神保健福祉援助実習指導」では、年間45コマの授業があります。前期の実習事前指導30コマは、当事者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術などの専門的援助技術を学ぶとともに、専門職としての自覚に基づいた行動ができるよう学習を行います。後期の実習事後指導15コマは、実習の振り返りを個別やグループで行い、実習事後指導（実習反省会）で発表し、それらを報告書にまとめます。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「精神保健福祉援助実習」（210時間、27日以上）では、①90時間以上の医療保健福祉関係機関での

実習が法律上必修になっています。②また医療機関の他に必ず福祉サービス事業施設等での現場実習を行う必要があります。現場実習を通して精神保健福祉士の役割と業務の理解や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びます。

② 履修制限

- a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり「精神保健福祉援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。
- b. 「精神保健福祉援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目の単位が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次末(実習を履修する前年度末)までに単位を取得する必要のある科目は次の10科目です。

条件1：B評価以上で単位取得を求める科目

- | | |
|------------|-----------|
| ① 「文章表現」 | ② 「心理学概論」 |
| ③ 「社会福祉原論」 | ④ 「社会保障」 |

条件2：単位取得済みであることが求められる科目

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ⑤ 「人体の構造と機能及び疾病」 | ⑥ 「精神疾患とその治療」 |
| ⑦ 「精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)」 | |
| ⑧ 「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」 | |
| ⑨ 「精神保健福祉援助演習(基礎)」 | ⑩ 「保健医療サービス」 |

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「精神保健福祉援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

3. 社会福祉主事任用資格

(1) 社会福祉主事とは

「社会福祉主事」とは社会福祉法第19条に規定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

つまり卒業して地方公務員試験を受けて地方自治体職員に採用され、福祉事務所に配属になったときに初めて名乗れる資格といえます。

しかし一般的に社会福祉の領域では、「社会福祉に関する業務を行うのに、最低限必要な資格」と位置づけられています。卒業後に社会福祉施設などで働く者にとって、最低限必要な資格といえるでしょう。

(2) 指定科目

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」が与えられます。

本学では必修科目である「社会福祉原論」「心理学概論」の他、「社会保障」「地域福祉論」「人体の構造と機能及び疾病」など「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の多くが指定科目に該当します。指定科目の詳細を知りたい場合は、教員に問合わせてください。

※「社会福祉主事任用資格」は大学で付与する資格ではありません。資格を有することについては、

本学の卒業証明書と成績証明書の2点をもって証明できます。

4. 認定心理士

(1) 認定心理士とは

認定心理士（日本心理学会認定心理士）とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な、「最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と日本心理学会が認定した者のことです。

つまり、学会が認定している「認定資格」と呼ばれるもので、国家資格ではありません。心理学を専門に学ぶ者が、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性を向上していくために作られた制度です。

認定心理士の資格を取得するためには、定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して、卒業（または卒業見込み）しなければなりません。この条件を満たして初めて、資格認定の申請を行うことができます。

申請後、資格認定委員会の審査を経て認められた場合、「認定心理士」の資格を取得することが出来ます。

(2) 指定科目

認定心理士の資格を取得するには、日本心理学会が定める「指定科目」を履修し、36単位以上修得することが必要です。「指定科目」は基礎科目と選択科目に分かれています。

基礎科目はさらにA・B・Cの3領域に分かれ、Aは4単位以上、BとCは合わせて8単位以上、合計12単位以上修得する必要があります。

また選択科目はDからHまでの5領域に分かれています。そのうち3領域以上から各4単位以上修得し、合計16単位以上修得しなければなりません。その他、残りの8単位はA～Hの領域にある残りの科目から任意に選択して履修することとなります。

これらの「指定科目」を本学のカリキュラムにあてはめたのが次の表です。「認定心理士」の資格を取得したい学生は、この表を参考に履修科目を決めてください。

認定心理士 指定科目表

	領域	本学授業科目	単位	配当年次	履修方法
基礎科目	A	心理学概論	2	1	A領域：4単位以上 B・C領域の合計：8単位以上 合計：12単位以上
		臨床心理学概論	1(注1)	1	
		感情・人格心理学	1(注1)	2	
	B	心理学研究法	2	2	
		心理学統計法	2	3	
	C	心理学実験	2	2	
		心理的アセスメントⅠ	1	3	
心理的アセスメントⅡ		1	3		
選択科目	D	知覚・認知心理学	2	2	D～Hまでの5領域のうち3領域以上で、それぞれが少なくとも4単位以上 合計：16単位以上
		学習・言語心理学	2	2	
	E	神経・生理心理学	2	2	
	F	発達心理学	2	1	
		発達臨床心理学	2	3	
		教育・学校心理学	2	3	
	G	司法・犯罪心理学	2	2	
		障害者・障害児心理学	2	2	
		心理療法	2	2	
		健康・医療心理学	2	3	
		福祉心理学Ⅱ	2	3	
	H	社会・集団・家族心理学	2	2	
産業・組織心理学		2	3		

(注1) これら2科目は、A領域の副次主題での申請とするため、開講単位数の半数が認定単位数となる。

(注2) 基礎科目および選択科目、その他の科目を合わせて、総単位36単位以上必要。

5. 公認心理師

(1) 公認心理師とは

公認心理師とは、平成29年（2017年）9月に施行された「公認心理師法（平成27年制定）」に基づく国家資格です。心理学に関する専門知識及び技術をもって、保健医療、福祉、教育その他の分野で、心理に関する支援を必要としている人の心理状態の観察と分析、相談、助言、指導その他の援助等を行う者であり、国家試験合格により公認心理師の名称を用いて仕事を行うことができますようになります。

公認心理師の資格を取得するためには、「大学で必要な科目をすべて修め、かつ、大学院で必要な科目をすべて修めて課程を修了した者」が受験資格を得た上で、国家試験に合格することが求められます。つまり、大学を卒業しただけでは公認心理師国家試験受験資格を得ることはできない、ということです。

大学卒業後、一定の実務経験（医療機関等において心理専門職として2年以上の援助実績）でも国家試験受験資格を得ることはできますが、これから大学で学びを始める人にとっては、大学で必要な科目を修め、その後、大学院で必要な科目を修めることが公認心理師国家試験受験資格取得の早道といえるでしょう。

本学には大学院も設置されており、公認心理師養成を行っております。福祉心理学科においても、法に規定されている「大学における必要な科目」をすべて開講し、公認心理師を目指す学生に対して、大学院進学および資格取得の支援を行っております。

(2) 大学における必要な科目

公認心理師法では、「大学における必要な科目」として25科目を規定していますが、本学の開講科目は27科目となっており、全ての科目を履修する必要があります（資格必修）。

本学開講科目一覧は次の通りです。

公認心理師 大学における必要な科目表

公認心理師法に定められた 大学における必要な科目名称	開講科目の名称	配当年次	単位
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	2
心理学概論	心理学概論	1	4
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	2
心理学研究法	心理学研究法	2	2
心理学統計法	心理学統計法	3	2
心理学実験	心理学実験	2	2
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	2
発達心理学	発達心理学	1	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	2
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	3	1
	心理的アセスメントⅡ	3	1
心理学的支援法	心理学的支援法	2	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	3	2
福祉心理学	福祉心理学Ⅰ	1	2
	福祉心理学Ⅱ	3	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	3	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1	4
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	1	4
関係行政論	関係行政論	3	2
心理演習	心理演習	3	1
心理実習	心理実習	4	2

(3) 科目「心理演習」「心理実習」

① 科目の内容

「心理演習」および「心理実習」は、福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項に規定する通り、履修者の上限を30名としています。学生個別面談等を通して取得希望資格について教員と話し合い、その結果に基づいて履修者が決定されます。

「心理実習」は、「80時間以上」の学外実習および事前・事後指導によって構成されています。

学外実習の実習施設については、「心理に関する支援の実態に対する理解を促す観点から、主要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）に関する施設の見学を中心とした実習が必要」とされています。ただし、経過措置期間中は、医療機関（病院又は診療所）での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行うことが認められているため、実習年度に実習先について説明します。

事前・事後指導は、学外実習の前後に適宜実施します。

② 履修制限

- a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項のとおり、「心理実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。
- b. 「心理実習」を履修する前までに履修する必要のある26科目のうち1科目以上の単位が未修得の者は、学科会議で不適格とされた場合、実習科目を履修することができない場合があります。
- c. 履修制限の解除

福島学院大学福祉学部履修規程第23条のとおり、第22条第2項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「心理実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」「地域振興活動」

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

V 地域社会に学ぶ体験教育

「地域ボランティア活動」「地域振興活動」を開講し、地域社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 「地域ボランティア活動」では、学生の興味関心に基づいたボランティア活動を行い、福祉の専門職として地域に関わる視点を構築します。
- (2) 「地域振興活動」では県内・市内において実施される各種の地域イベントに参加し、参加者および地域振興の担い手としての役割を体験的に実習します。

VI その他

1. クラスセミナー

「クラスセミナー」とは、重要な連絡事項、履修指導、学習指導、資格説明等のオリエンテーション、就職対策セミナー、特別講演会などに使われる時間です。基本的に全ての連絡事項は、掲示によって行われますが、特に説明を必要とするような重要な事項等はこの時間に行われます。また、学科学友会を中心に于行われる行事や、検討事項の協議等も行います。必ず出席してください。

2. 表彰制度

本学では、本学独自のGPA制度の導入により卒業者のレベル向上を図ると同時に優秀な成績を修めた学生には「学長表彰」を行い、学生全体の学習意欲の向上につなげます。

「学長表彰」は、年次毎に前年度に履修し取得した授業科目のGPAおよび学外実習の成績や学外活動等を参考とし、卒業時に原則として88点以上の学生を授与対象とします。（【学長賞授与規程】参照）

なお、成績優秀者には、学長賞以外にも学部長賞、学科長顕賞が授与されます。（【学部長賞授与規程】【福祉心理学科長顕賞規程】参照）

■ 福祉学部福祉心理学科カリキュラムツリー〔2019～2020年度入学生用〕

福祉学部福祉心理学科の教育目標		社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング 人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を
項目	〔1〕 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の取得、公認心理師を目指す（大学院入学）、	

科目群	専門教育科目		
資格等	社会福祉士国家試験受験資格	精神保健福祉士国家試験受験資格	公認心理師に必要な科目

	↑	↑	↑	↑
	専門科目	共通科目	専門科目	
4年	相談援助演習Ⅲ		精神保健福祉援助演習 (専門)	
3年	社会調査法 社会福祉援助技術論Ⅱ 社会福祉運営管理 就労支援 更生保護制度 相談援助演習Ⅱ	福祉行財政と福祉計画 低所得者に対する支援と生活保護制度 保健医療サービス 権利擁護と成年後見制度	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉援助演習(基礎)	福祉心理学Ⅱ 教育・学校心理学 産業・組織心理学 心理的アセスメントⅠ・Ⅱ 心理学統計法 心理演習 公認心理師の職責 健康・医療心理学 関係行政論
2年	社会福祉援助技術論Ⅰ 児童・家庭福祉 相談援助演習Ⅰ	社会福祉原論 地域福祉論 コミュニティーソーシャルワーク 社会保障 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	心理学研究法 感情・人格心理学 知覚・認知心理学 心理学的支援法 心理学実験 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 司法・犯罪心理学 学習・言語心理学 神経・生理心理学
1年	相談援助の基盤と専門職 高齢者に対する支援と介護保険制度	心理学概論 人体の構造と機能及び疾病	精神疾患とその治療 精神保健学	心理学概論(再掲) 福祉心理学Ⅰ 発達心理学 臨床心理学概論 人体の構造と機能及び疾病(再掲) 精神疾患とその治療(再掲)

等の分野において将来の専門職として必要な教育を行うとともに、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える育成する（学則第6条の3第1項第1号）

認定心理士申請資格の取得	〔2〕 対人援助職として望まれる資質を修得	〔3〕 学外実習とその事前・事後指導を通して、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師を目指す者としての技術・態度を修得
--------------	-----------------------	---

		教養教育科目	専門教育科目（実習）	
認定心理士申請資格	本学独自の科目	※教養教育科目全般を通して、「知識」「論理的思考力」「文章表現能力」「まごころ、思いやりの発現力」等の力を身につけていく。	事前・事後指導	実習



	ゼミナール		相談援助実習指導 精神保健福祉援助 実習指導	相談援助実習 精神保健福祉援助 実習 心理実習
福祉心理学Ⅱ（再掲） 発達臨床心理学 教育・学校心理学（再掲） 産業・組織心理学（再掲） 心理的アセスメントⅠ・Ⅱ（再掲） 心理学統計法（再掲） 健康・医療心理学（再掲）	犯罪行動と心理演習 医療福祉論 福祉住環境演習 ゼミナール	生活教養Ⅱ ウェブ動画制作 現代人間関係論	相談援助実習指導 （精神保健福祉士とW取得を目指す学生）	相談援助実習 （精神保健福祉士とW取得を目指す学生）
心理学研究法（再掲） 感情・人格心理学（再掲） 知覚・認知心理学（再掲） 心理学実験（再掲） 社会・集団・家族心理学（再掲） 障害者・障害児心理学（再掲） 司法・犯罪心理学（再掲） 学習・言語心理学（再掲） 神経・生理心理学（再掲） 心理療法	福祉キャリア研究	書写演習 法学 社会学（再掲） 英会話Ⅱ 中国語会話Ⅱ 体育実技Ⅱ		
心理学概論（再掲） 発達心理学（再掲） 臨床心理学概論（再掲）	国際理解演習 アカデミック・スキル演習	本学の教育 文章表現 情報機器操作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 生活教養Ⅰ 地域ボランティア活動 地域振興活動 音楽演習 美術演習	心理学概論（再掲） 食生活と健康 英会話Ⅰ 中国語会話Ⅰ 国際理解論 スマートフォン活用法 スマートフォンのモラルとリスク 体育実技Ⅰ	

令和元・2年度福祉学部福祉心理学科 教育課程

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」については、入学時にテストによりⅠ、Ⅱのクラス分けを実施します。
Ⅰの履修者はⅡを、Ⅱの履修者はⅢを続けて履修してください。教室規模により、1クラス35名程度で実施します。
- ④ 備考欄の「備考B」について、1年次に選択語学を1種類選択します。同一言語のⅠ・Ⅱを、2年間で2科目履修することを基本としています。
- ⑤ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑥ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「○」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」（Aは本学では必修科目です）のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら6科目全てについて試験が実施されますので、全て履修することが望めます。
- ⑦ 「公認心理師」を目指す場合は、「必要な科目」欄に「○」のついたすべての科目（27科目）の履修が必要です。
- ⑧ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Gは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

福島学院大学

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	公認心理師 必要な科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択					通年	半期				
教育方針 本学の教育		講義	1	1							○		8			
表現力向上分野	文章表現	講義/演習	1	4							○		30			文字・成語・小論文を含む
	書写演習	演習	2		1						○		15			指定者必修
	会話演習	演習	2	2							○		15			対話及びプレゼンテーションを含む
情報教養分野	情報機器操作Ⅰ	演習	1	選択必修 2単位以上	1						○		15			備考A
	情報機器操作Ⅱ	演習	1		1						○		15			
	情報機器操作Ⅲ	演習	1		1						○		15			
	スマートフォン活用法	演習	1		1						○		8			
	スマートフォンのモラルとリスク	演習	1		1						○		8			
	ウェブ動画制作	演習	2		1						○		15			
人間関係分野	生活教養Ⅰ	講義/演習	1	2							○		15			
	生活教養Ⅱ	講義/演習	3		2						○		15			
	現代人間関係論	講義	2		2						○		15			
	地域ボランティア活動	実習	1・2・3・4	選択必修 1単位以上	1							時間割外	45時間		認定	※事前事後指導10時間を含む
	地域振興活動	実習	1・2・3・4		1							時間割外	45時間		認定	※事前事後指導10時間を含む
人文社会及び健康分野	音楽演習	演習	1・2		2						○		30			
	美術演習	演習	1		2						○		30			教室規模により24名までとする。
	心理学概論	講義	1	4			A	A	基礎A	○	○		30			
	法学	講義	2		2						○		15			
	社会学	講義	2		2		A1	A1			○		15			
	癒しと心	講義	1		2						○		15			
	職場とストレス	講義	1		2						○		15			
	食生活と健康	講義	1		2						○		15			
国際理解分野	英会話Ⅰ	演習	1	選択必修 2科目4単位以上	2						○		30			備考B
	英会話Ⅱ	演習	2		2						○		30			
	中国語会話Ⅰ	演習	1		2						○		30			
	中国語会話Ⅱ	演習	2		2						○		30			
	国際理解論	講義	1	2							○		15			
	国際理解演習	演習	1・2・3・4		2							時間割外	15	認定		
体育分野 体育実技	実技	1	1								○		20			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	公認心理師 必要な科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択必修	選択					通年	半期					
専門基礎科目(P系およびW系科目)	福祉心理学Ⅰ	P	講義	1	2					○		○		15			
	福祉心理学Ⅱ	P	講義	3	2				選択G	○		○		15			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2							○		15	認定	クラスセミナーとの隔週開講	
	アカデミック・スキル演習	P	演習	1	1								○		15		
	人体の構造と機能及び疾病	W	講義	1			4	A1	A1		○	○			30		
	精神疾患とその治療	W	講義	1	4				◎		○	○			30		
専門教育科目(P系科目)	発達心理学	P	講義	1	2				選択F	○		○		15			
	臨床心理学概論	P	講義	1			2		基礎A	○		○		15			
	心理学研究法	P	演習	2			2		基礎B	○	○			30			
	感情・人格心理学	P	講義	2			2		基礎A	○		○		15			
	知覚・認知心理学	P	講義	2			2		選択D	○		○		15			
	教育・学校心理学	P	講義	3			2		選択F	○		○		15			
	発達臨床心理学	P	講義	3			2		選択F	○		○		15			
	産業・組織心理学	P	講義	3			2		選択H	○		○		15			
	心理的アセスメントⅠ	P	演習	3			1		基礎C	○		○		15			
	心理的アセスメントⅡ	P	演習	3			1		基礎C	○		○		15			
	心理学統計法	P	講義	3			2		基礎B	○		○		15			
	心理学的支援法	P	講義	2			2			○		○		15			
	心理演習	P	演習	3			1		基礎C	○		○		15			
	心理学実験	P	実習	2			2		基礎C	○	○		60時間	30			
	社会・集団・家族心理	P	講義	2			2		選択H	○		○		15			
	障害者・障害児心理学	P	講義	2			2		選択G	○		○		15			
	司法・犯罪心理学	P	講義	2			2		選択G	○		○		15			
	犯罪行動と心理演習	P	演習	3			2					○		30			
	心理療法	P	講義	2			2		選択G			○		15			
	公認心理師の職責	P	講義	3			2			○		○		15			
学習・言語心理学	P	講義	2			2		選択D	○		○		15				
神経・生理心理学	P	講義	2			2		選択E	○		○		15				
健康・医療心理学	P	講義	3			2		選択G	○		○		15				
関係行政論	P	講義	3			2			○		○		15				
心理実習	P	実習	4			2			○		時間割外	80時間以上					
社会福祉・精神保健福祉関連科目(W系科目)	社会福祉原論	W	講義	2	4			◎	◎			○		30			
	医療福祉論	W	講義	3			2					○		15			
	社会調査法	W	講義	3			2		◎			○		15			
	相談援助の基盤と専門	W	講義	1			4		◎			○		30			
	社会福祉援助技術論Ⅰ	W	講義	2			4		◎			○		30			
	社会福祉援助技術論Ⅱ	W	講義	3			4		◎			○		30			
	地域福祉論	W	講義	2			2		◎	◎			○		15		
	コミュニティソーシャルワーク	W	講義	2			2		◎	◎			○		15		
	福祉行財政と福祉計画	W	講義	3			2		◎	◎			○		15		
	社会福祉運営管理	W	講義	3			2		◎				○		15		
	社会保障	W	講義	2			4		◎	◎			○		30		
	高齢者に対する支援と介護保険制度	W	講義	1			4		◎				○		30		
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	W	講義	2			2		◎	◎			○		15			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	公認心理師 必要な科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択					通年	半期				
児童・家庭福祉	W	講義	2			4	○				○		30			
低所得者に対する 支援と生活保護制度	W	講義	3			2	○	○			○		15			
保健医療サービス	W	講義	3			2	○	○			○		15			
就労支援	W	講義	3			1	A2				8コマ		8			
権利擁護と 成年後見制度	W	講義	3			2	A2	○			○		15			
更生保護制度	W	講義	3			1	A2				8コマ		8			
相談援助演習Ⅰ	W	演習	2			1	○				○		15			
相談援助演習Ⅱ	W	演習	3			2	○				○		30			
相談援助演習Ⅲ	W	演習	4			2	○				○		30			
相談援助実習指導	W	演習	3・4			3	○				○		45			
相談援助実習	W	実習	3・4			4	○				時間割外	180時間以上				
精神保健学	W	講義	1			4		○			○		30			
精神保健福祉に関する 制度とサービス	W	講義	2			4		○			○		30			
精神障害者の 生活支援システム	W	講義	2			2		○			○		15			
精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎)	W	講義	2			2		○			○		15			
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	W	講義	2			2		○			○		15			
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3			4		○			○		30			
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3			4		○			○		30			
精神保健福祉 援助演習(基礎)	W	演習	3			1		○			○		15			
精神保健福祉 援助演習(専門)	W	演習	4			2		○			○		30			
精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4			3		○			○		45			
精神保健福祉 援助実習	W	実習	4			5		○			時間割外	210時間以上				
福祉住環境演習	W	演習	3			2					○		30			
共通 科目 ゼミナール	一	演習	3,4	4							○		60			2年連続4単位

卒業に必要な単位数

教養教育科目	26単位 以上	必修	16単位	合計 124単位以上
		選択必修	7単位	
		選択	3単位以上	
専門教育科目	98単位 以上	必修	心理系(P系)	7単位
			福祉系(W系)	10単位
			ゼミナール	4単位
選択	77単位以上 (うちP系科目23単位以上、 W系科目20単位以上を含む)			

令和 2 年度 福祉学部福祉心理学科授業計画 目次

令和 2 年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた	27
成績評価への補足的対応措置	29
他大学・短期大学に開放する科目	30

教養教育科目

本学の教育	桜田 葉子	31
文章表現/国語表現 (旧カリ)	安田 信二	33
書写演習	白石 真弓	37
文章演習 (旧カリ)	安田 信二	40
会話演習	安田いつ美	41
情報機器操作Ⅰ	桑木 道子	44
情報機器操作Ⅱ (後期科目)	桑木 道子	47
情報機器操作Ⅱ (前期科目)	桑木 道子	50
情報機器操作Ⅲ	桑木 道子	53
情報機器操作Ⅰ (旧カリ)	桑木 道子	56
情報機器操作Ⅱ (旧カリ)	桑木 道子	60
スマートフォン活用法	桑木 道子	64
スマートフォンのモラルとリスク	桑木 道子	66
ウェブ動画制作	菅田 清正	68
生活教養Ⅰ/生活教養 (旧カリ)	小松 由美	71
生活教養Ⅱ	渡辺 雅子	73
現代人間関係論	小松 由美	77
地域ボランティア活動	日下 輝美	80
地域振興活動	日下 輝美	82
音楽演習	山崎 信政	84
美術演習	古畑 雅規	87
心理学概論/心理学 (旧カリ)	岸 良範	90
社会学	牧田 実	93
職場とストレス	茂木 積雄	95
食生活と健康	石川 和信	98
英会話Ⅰ	オカンポ・メリッサ・ブラザ	101
英会話Ⅰ	サインブヤン・オドバヤル	105
英会話Ⅱ	高橋 了治	108
国際理解論	坂本 恒夫	112
国際理解演習 (シンガポール)	中丸 一志	115
国際理解演習 (バリ島)	佐藤 敦子	118
体育実技 (バレーボール)	島田 貴広	121
体育実技 (卓球)	宮崎 利勝	124
体育実技 (バドミントン)	藤本 要	127
体育実技 (ジャズダンス)	佐藤 香	130
体育実技 (サッカー)	原 隆弘	133

専門教育科目

福祉心理学Ⅰ	星野 仁彦	136
福祉心理学Ⅱ	松田 るり	138
福祉心理学 (旧カリ)	茂木 積雄/藤原 正子	141
福祉キャリア研究	茂木 積雄/日下 輝美	145
アカデミック・スキル演習	遠藤 寿海	148
人体の構造と機能及び疾病	茂木 積雄	150
精神疾患とその治療/精神医学 (旧カリ)	星野 仁彦	154
発達心理学	松田 るり	157
発達心理学 (旧カリ)	松田 るり	159
臨床心理学概論	木村 泰博	162
心理学研究法	阿部 恒之	164
感情・人格心理学	田辺 稔	167
人格心理学	田辺 稔	170
知覚・認知心理学	和田 裕一	174
認知心理学	和田 裕一	176
教育・学校心理学	松田 るり	179

発達臨床心理学	杉山 雅彦	181
産業・組織心理学	渡部 敦子	183
心理的アセスメントⅠ	渡邊 宏周	185
心理的アセスメントⅡ	渡邊 宏周	187
心理学統計法／心理統計学（旧カリ）	和田 裕一	189
心理学的支援法	杉山 雅彦	191
カウンセリング概論	杉山 雅彦	193
心理演習	杉山 雅彦	196
心理学実験	渡邊 宏周	198
社会・集団・家族心理学	松田 るり	201
障害者・障害児心理学／障害児・者への心理援助（旧カリ）	渡邊 宏周	203
司法・犯罪心理学	生島 浩	205
心理療法	星野 仁彦	208
公認心理師の職責	木村 泰博	210
学習・言語心理学	田辺 稔	212
神経・生理心理学	角田 裕	215
健康・医療心理学	木村 泰博	217
関係行政論	木村 泰博／松田 るり／渡邊 宏周／北本明日香 藤原 正子／齊藤 隆之／遠藤 寿海／杉山 雅彦	219
社会福祉原論	齊藤 隆之	221
医療福祉論	伊藤久美子	224
社会調査法	遠藤 寿海	226
相談援助の基盤と専門職	齊藤 隆之	228
社会福祉援助技術論Ⅰ	遠藤 寿海	231
社会福祉援助技術論Ⅱ	舟山 信悟	234
地域福祉論	日下 輝美	237
コミュニティーソーシャルワーク	日下 輝美	240
福祉行財政と福祉計画	日下 輝美	243
社会福祉運営管理	遠藤 寿海	246
社会保障	遠藤 寿海	249
高齢者に対する支援と介護保険制度	遠藤 寿海	253
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	齊藤 隆之	257
児童・家庭福祉	安部 郁子	260
低所得者に対する支援と生活保護制度	日下 輝美	264
保健医療サービス	伊藤久美子	267
就労支援	北本明日香	269
権利擁護と成年後見制度	中里 真	271
更生保護制度	北本明日香	273
相談援助演習Ⅰ	齊藤 隆之	275
相談援助演習Ⅱ	舟山 信悟	277
相談援助演習Ⅲ	齊藤 隆之	281
相談援助実習指導	日下 輝美／齊藤 隆之	285
相談援助実習	日下 輝美／齊藤 隆之	290
精神保健学	星野 仁彦	292
精神保健福祉に関する制度とサービス	北本明日香	295
精神障害者の生活支援システム	藤原 正子	299
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	藤原 正子	301
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	北本明日香	303
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	北本明日香	306
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	藤原 正子	310
精神保健福祉援助演習（基礎）	藤原 正子／北本明日香	313
精神保健福祉援助演習（専門）	藤原 正子／北本明日香	316
精神保健福祉援助実習指導	藤原 正子／北本明日香	319
精神保健福祉援助実習	藤原 正子／北本明日香	323
福祉住環境演習	中丸 一志	325
特別研究Ⅱ（こころの健康と精神障がい者の地域生活支援）	藤原 正子	328
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	木村 泰博	331
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	岸 良範	333
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	渡邊 勉	335
ゼミナール	藤原 正子／日下 輝美／岸 良典／渡邊 勉 齊藤 隆之／北本明日香／木村 泰博／桑木 道子	337

シラバス 令和2年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた

この授業計画は、福祉心理学科で学ぶ全学生のために作成されています。構成は教育課程表と各授業の内容とになっています。まずは教育課程表にきちんと目を通し、とらなければならない「必修」科目を確認しましょう。次に興味をかき立てられる授業を探します。どのような授業が開かれ、どのような内容で勉強するのかを知るために、この授業計画を使います。

*注意 教育課程表は「入学年度別」に3種類あります。まずは自分の入学年度を確認してください。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画 2020年度

授業科目名	①	授業形態・単位数	②	・ 単位
		開講年次	③	年次
担当教員	職名：	開講期	④	
	氏名：	授業回数	⑤	回
	(本務先： 職名：)	期末試験の有無	⑥	
卒業・資格・免許 ⑦		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
開講キャンパス	⑧	授業時間以外の必要な学修時間		⑨
オフィスアワー・メールアドレス等		⑩		

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目 ⑫
⑪	アクティブラーニングの要素 ⑬
授業の到達目標 ⑭	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
	目標 ⑮

- ① 「科目名」 教育課程表に基づく科目の名称です。
- ② 「授業形態・単位数」 「講義」「演習」「実習」「実技」があります。取得できる単位数が記入されています。
- ③ 「開講年次」 教育課程表の標準履修年次が書かれています。
- ④ 「開講期」 「前期」「後期」「通年」「集中」「時間割外」があります。
- ⑤ 「授業回数」
- ⑥ 「期末試験の有無」
- ⑦ 「卒業要件資格指定科目」
 - 卒業：卒業に「必修」か「選択必修」かが記載されています。
 - 資格：資格取得のための指定内容が書かれています。目指す資格を取得するために、その科目が「必修」なのか、「選択必修」なのかをきちんと確認の上、履修するようにしてください。
- ⑧ 「開講キャンパス」 授業は基本的に、福島駅前キャンパスにて開講されますが、一部宮代キャンパス開講のものがあります。
- ⑨ 「授業時間以外の必要な学修時間」
- ⑩ 「オフィスアワー・メールアドレス等」 授業時間外の学生からの質問受け付け方法等が書かれています。
- ⑪ 「授業の概要」 授業で取り上げる内容のあらましや考え方が記されています。
- ⑫ 「授業の概要及び到達目標との対応項目」 授業の概要に対応して本科目を受講することによりどのような知識や理解に結びつのか、A～Gに該当する項目に○がついています。
- ⑬ 「アクティブラーニングの要素」 この授業ではどんなアクティブラーニングで学んでいくかが示されています。
- ⑭ 「授業の到達目標」 この授業を受けることでどのような力が身につくのか、授業の具体的な到達目標が書かれています。
- ⑮ 「授業の概要・到達目標との対応項目」 受講することによりどのような力が得られるのか到達目標A～Gの対応項目が示されています。

A	知識	専門的内容について理解すること。
B	技能	各分野において目的を達成するための手段・手法を身に付けること。
C	論理的思考力	道理や道筋にそって結論を導くこと、複雑な事柄を分かりやすく説明すること。
D	文章・身体・感性等に関する表現力	文章、身体等を使って自分の気持ちや考えを伝えること。
E	課題対処力	事柄の状況を正確に把握し、課題を見出し、解決策を考え、実行すること。
F	多様性の理解力	幅広い性質や傾向のものを理解し、認めること。
G	対人関係構築力	対人的なやり取りにおいて、お互いの意思疎通をスムーズにするための心や手法を身に付けること。

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
⑯	⑰	⑱	⑲

内容の欄には、⑯各回に、⑰どんな内容を、⑱どのような方法で授業が実施されるかが明示されています。その授業を的確に理解するための予習復習や授業時間以外での学修が⑲に記載されています。

なお、授業計画については、授業の進度などによって多少の変更や回の入替えが生じる場合があります。

到達の評価 評価をする観点とその比重が明示されています。
詳しくは次頁の「成績評価への補足的対応措置」を確認してください。

教科書 授業の指定教科書が明示されています。指定の販売日に必ず購入してください。

参考書 授業をよりよく、そしてより深く理解するために、是非読んでほしい文献や、手引き書などが書かれています。購入の義務はありませんが、勉強する上で参考にする価値がある文献です。

その他の補足事項 履修する上で必要なことが記載されています。

成績評価への補足的対応措置

成績評価において、遅刻、早退、欠席、および授業中の態度等に関わる減点については、次の事項をご参照ください。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語

注意学生1回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。

2. 遅刻・早退・欠席

遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。

ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。

ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書（書式自由）で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。

- ① 学内外における本学所定の実習に参加する場合
- ② 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験や面接を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等によりやむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

3. 欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。

4. 質問応答

指名応答

指名した学生が質問に適切に応答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。質問に不適切な応答をしたと認めるとき、または質問に答えられなかったとき、1回につき1点減点とする。

自発的応答

教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。

5. 小論文（宿題）

未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。

6. 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。

7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合

レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様とする。

令和2年度 福島学院大学が他大学・短期大学に開放する科目

学科名	区分	科目名	授業形態	単位	開講時期	履修年次
福祉学部 福祉心理学科	教養 教育科目	心理学概論	講義	4	通年	1
		社会学	講義	2	後期	2
		食生活と健康	講義	2	前期	1
		国際理解論	講義	2	前期	1
	専門 教育科目	福祉心理学Ⅰ	講義	2	前期	1
		発達心理学	講義	2	前期	1
		臨床心理学概論	講義	2	後期	1
		社会福祉原論	講義	4	通年	2
		人体の構造と機能及び疾病	講義	4	通年	1
		精神疾患とその治療	講義	4	通年	1
		感情・人格心理学	講義	2	前期	2
		知覚・認知心理学	講義	2	前期	2
		心理統計学	講義	2	前期	3
		心理学的支援法	講義	2	前期	2
		社会・集団・家族心理学	講義	2	前期	2
		心理療法	講義	2	後期	2
		医療福祉論	講義	2	後期	3
		社会調査法	講義	2	前期	3
		相談援助の基盤と専門職	講義	4	通年	1
		社会福祉援助技術論Ⅰ	講義	4	通年	2
		社会福祉援助技術論Ⅱ	講義	4	通年	3
		地域福祉論	講義	2	前期	2
		コミュニティーソーシャルワーク	講義	2	後期	2
		福祉行財政と福祉計画	講義	2	前期	3
		社会福祉運営管理	講義	2	後期	3
		社会保障	講義	4	通年	2
		高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	4	通年	1
		障害者に対する支援障害者自立支援制度	講義	2	前期	2
		児童・家庭福祉	講義	4	通年	2
		低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2	後期	3
		保健医療サービス	講義	2	前期	3
		就労支援	講義	1	後期	3
		権利擁護と成年後見制度	講義	2	後期	3
精神保健学	講義	4	通年	1		
精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	通年	2		
精神障害者の生活支援システム	講義	2	前期	2		
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	講義	2	前期	2		
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義	2	後期	2		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	4	通年	3		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	4	通年	3		

授 業 科 目 名	本 学 の 教 育		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：桜 田 葉 子		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	8 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		福島県議会議員・平成15年～平成29年		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問、福島県美容業生活衛生同業組合顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県歯科技士会顧問、福島職業訓練技能協会顧問		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		国立音楽大学声楽学科卒業 (芸術学士) 大学行政管理学会会員		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授業終了後に教室で質問等に対応します。 オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
建学の精神「真心こそすべてのすべて」の理念と本学の教育が目指す姿を三つの視点で学ぶ。 一つ目の視点は「高校と大学の学びの違い」 二つ目の視点は「地域課題」 三つ目の視点は「本学での学生生活」 この三つの視点で本学の目指す姿を学ぶことによって、感性豊かな心と無限の可能性に挑戦する心を育む大学生生活の充実につなげる。	A	知識
	B	技能
	○ C	論理的思考力
	○ D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力
	F	多様性の理解力
	G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	イ	ディスカッション、ディベート
○ ウ	グループワーク	
○ エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標		授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
① 本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。		目標 C・E・D
② 挑戦する心を育む。		目標 E

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	福島学院大学で学ぶということ ・ 建学の精神 ・ 教育理念 ・ 福島学院の歴史	「本学の教育」 パワーポイント ※スーツ着用	「本学の教育」を読んでおく。
2	大学で学ぶということ① ・ 高校までの学びとの違い ・ 受講のルールやマナー ・ ノートの取り方、質問の仕方 ・ オフィスアワー活用の仕方	「教務・履修ガイド」 パワーポイント ※スーツ着用	「教務・履修ガイド」を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	大学で学ぶということ② ・レポート／小論文／作文の違い ・レポート課題の取り組み方 ・著作権の基礎（研究不正も含む）	自作資料	授業に関するキーワードを予習する。
4	大学で学ぶということ③ ・プレゼンテーションと発表の違い ・話し方の基礎 ・メディアリテラシー（SNSなどの注意）	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
5	地域課題を理解する ・人口減少社会について ・生産性向上と働き方改革について ・地域創生について ・SDGsについて ・地域連携活動	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
6	福島学院で学生生活を送るということ① ・ボランティア活動 ・友人関係などで悩んだら ・学習が思うように進まなくて悩んだら ・差別とハラスメントについて	「学生生活ガイドブック」 「教務・履修ガイド」 パワーポイント ※スーツ着用	レポート作成を始める。（レポート提出は6月26日まで） 「学生生活ガイドブック」を読んでおく。
7	福島学院で学生生活を送るということ② ・キャリアデザイン ・卒業生講話	「学生生活ガイドブック」 パワーポイント ※スーツ着用	「学生生活ガイドブック」を読んでおく。
8	生と性を考える （福島県立医科大学との連携）	自作資料 パワーポイント ※スーツ着用	授業に関するキーワードを予習する。
期末試験	レポート提出		
期末試験の講評			
レポートの評価は、コメントを付して返却します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：レポート（1,000字以上1,200字以内）は、次のいずれかのテーマで作成し、6月26日(金)13:00までに教務課（駅前キャンパスは5階事務室）へ所定様式にて提出のこと。なお、誤字・脱字の多いもの、文章不整なもの及び内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求めます。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とします。レポートにより100点満点で評価します。 <レポートのテーマ> 2つのうちのいずれかを選択 ①私の夢 ②私のキャリアデザイン			
教科書			
「本学の教育」「学生生活ガイドブック」「教務・履修ガイド」 ※必要に応じて資料を配付します。			
その他補足事項			
授業はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行います。3回目の授業だけは学科別とします。出欠確認をスムーズに行うため座席指定とします。 授業8回の3分の1を超える回数を欠席した場合は欠格となります。遅刻・早退は3回で1回の欠席となります。2コマ連続授業ですので注意してください。			

授 業 科 目 名	文 章 表 現 国語表現 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開 講 年 次	H31 年以降入学 1 年次 H30 年度以前入学 4 年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：安 田 信 二		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		福島民報社論説委員（2002年4月より2020年3月まで。このうち2018年4月より論説委員長）。福島学院大学短期大学部客員教授（2019年4月より2020年3月まで）		
社会貢献としての委員会・職 等		中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学文学部卒業、文学士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー、メールアドレスは初回講義時に説明します。		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
大学生、社会人として日本語表現の基本的な能力を高めるための講義と演習を展開します。 プリントへの記述、日本語検定に備えた模擬試験の受験、小論文の提出等を通して文章表現への理解を深めます。 また、広報紙作りにも取り組みます。広報紙に掲載する内容のテーマの設定、取材の方法、記事の書き方や写真の撮影、記事のレイアウト（割り付け）などを学びます。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会人として通用する文章表現力を身に付けます。	目標	A・C・D
② グループ活動による広報紙作りの基本を学びます。	目標	B・D・F
③ 日本語検定を受検し、3級合格を目指します。	目標	C・D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	(1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法 (3) 日本語検定試験	授業計画 ワークシートに平仮名、片仮名を書いて提出する。	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (12P～22P)
2	文章表現力(1) 文は短く (21回目まで毎回、不適切な表現を記入したワークシートを配付し、直して答えてもらいます。その後に解説します)	ワークシートの返却。 日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (24P～27P)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	文章表現力(2) 主語と述語	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (28P～42P)
4	文章表現力(3) 能動と受動	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (43P～54P)
5	文章表現力(4) 「に」「を」正しく	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (55P～64P)
6	文章表現力(5) 「てにをは」を省かない	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (65P～69P)
7	日本語検定の模擬試験 (60分) 文章表現力(6) 「するか」「させるか」か	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (70P～75P)
8	文章表現力(7) 話し言葉の影響を避ける①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (76P～80P)
9	文章表現力(8) 話し言葉の影響を避ける②	日本語検定模擬試験の返却 と解説。 日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (86P～97P)
10	文章表現力(9) 言いたいことを明確にする	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(102P～108P)
11	文章表現力(10) 分かりやすく書く①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(109P～122P)
12	文章表現力(11) 分かりやすく書く②	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(123P～133P)
13	文章表現力(12) 分かりやすく書く③	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(138P～140P)
14	文章表現力(13) 簡潔に書く①	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(141P～146P)
15	文章表現力(14) 簡潔に書く②	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(147P～151P)
期末 試験	小論文 (800字程度)		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	文章表現力(15) 簡潔に書く③	前期末小論文の指導。	日本語検定問題を解く。 教科書予習(152P～156P)
17	文章表現力(16) 簡潔に書く④	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(157P～162P)
18	文章表現力(17) 簡潔に書く⑤	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(164P～181P)
19	文章表現力(18) 強調する言葉は控えめに	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(186P～187P)
20	文章表現力(19) 句読点	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(188P～201P)
21	文章表現力(20) せりふや考えを「 」でくくる	日本語検定問題の解答。 プリントの文章を直す。 教科書	新聞を読む。
22	広報紙作り(1) (新聞を活用しながら広報紙作りの基本となる作業を解説します。自宅、図書館などで新聞や広報紙などを読んで理解を深めてください)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
23	広報紙作り(2) 広報紙の記事は、書いた人の名前を入れる署名記事とします。各自の記事をグループごとに紙面に割り付けて仕上げます。	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
24	広報紙作り(3)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
25	広報紙作り(4)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
26	広報紙作り(5)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
27	広報紙作り(6)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
28	広報紙作り(7)	新聞 グループワーク	広報紙の取材と執筆。 新聞を読む。
29	広報紙作り(8) 各グループが広報紙の1ページと2ページを印刷する。発表会の準備(感想発表や反省の準備)	新聞 グループワーク	発表会の準備。 新聞を読む。
30	広報紙作り(9) 広報紙作り発表会 ※ゲスト 学内評価協力者	発表会、講評	広報紙作りのまとめ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	小論文(800字。広報紙作りを振り返り、まとめる)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①：70点満点 授業中の返答(10点)、授業課題への取り組み(10点)、授業中の日本語検定課題への取り組み(10点)、前期小論文(20点)、後期小論文(20点)</p> <p>目標②：20点満点 グループ活動による広報紙作り(1回10点)、特に優れた記事(1回15点)</p> <p>目標③：日本語検定の合格級に応じて点数を加算 加点内容(加点基準 準3級5点、3級8点、準2級20点、2級30点)</p> <p>以上を合計して100点を上回る場合は、一律100点として評価します。 詳しくは初回授業時に説明します。</p>			
教科書		参考書	
書名：文章力の基本 著者名：阿部紘久 発行所：日本実業出版社 価格：1,300円(税別)		書名：日本語検定公式練習問題集3訂版2級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：1,000円(税別)	
書名：日本語検定公式練習問題集3訂版3級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：900円(税別)			
その他補足事項			
前期、後期の小論文は、内容と正しい表現の両面から評価します。 記事の優秀加点は、授業担当者と学内評価協力者2人の合計点(5点×3=15点)で構成します。 日本語検定試験は11月14日(土)に行います。			

授業科目名	書 写 演 習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員	職名：非常勤講師		開 講 期	後期
	氏名：白石真弓 (本務先：梓風書道教室 職名：主宰)		授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		梓風書道教室（主宰）1998年～現在		
社会貢献としての委員会・職等		墨雅書道会監事（2014年～現在） 北信学習センター運営審議会委員（2015年～現在） 福島県書道連盟理事、同連盟副審査員（2016年～現在）		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		聖和学園短期大学国文科 準学士 墨雅書道会 漢字部・実用書部・ペン字部・細字部・近代詩文書部・かな部 師範		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	指定者必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応します。		

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
「文章表現」授業担当者から、受講を指定された学生が履修する科目です。 1. 文字を適切かつ美的に筆記できるように演習を行い、書写能力の向上・美的書写表現技法を修得します。また、文字の成り立ちを学び、記録・伝達手段としての文字についての専門的知識を高めていきます。 2. 教養教育科目「文章表現」との関連性を考慮した教材の使用により、適切な用語用法を修得し、豊かな教養と情緒の涵養を図っていきます。	○ A	知識	
	○ B	技能	
		C	論理的思考力
	○ D	文章・身体・感性等に関する表現力	
		E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
	ウ	グループワーク	
	エ	プレゼンテーション	
	○ オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 目的に応じて用語用法を考え、表現技法や書体を工夫することができる能力を養う。	目標	A・D	
② 書表現技法の修得、鑑賞力と美意識の高揚を図る。	目標	A・B	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の進め方 (2) 授業時間以外の必要な学修の進め方 (3) 評価の観点と方法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト、授業計画	自己紹介の用意 授業計画の確認
2	書くための準備 —姿勢・用具・持ち方	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	漢字とかな (文字の成り立ち) / 隙間均等法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
4	美文字三原則	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・補充課題	予習：テキストの練習課題
5	漢字の8パーツ	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
6	字形の整え方 ルール1～3	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・補充課題	予習：テキストの練習課題
7	字形の整え方 ルール4～7	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
8	「へん」と「つくり」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
9	「にょう」と「たれ」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・補充課題	予習：テキストの練習課題
10	ひらがな 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
11	ひらがな 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・補充課題	予習：テキストの練習課題
12	カタカナ 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
13	カタカナ 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・補充課題	予習：テキストの練習課題
14	文字の揃え方 (中心線串刺し法)	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
15	まとめと振り返り	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	予習：テキストの練習課題
期末試験	後期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①：期末試験（60%）

目標①②：実技の完成度（40%）

上記項目から評価します。

※テキスト忘れは一回につき3点減点とします。詳細については初回授業時に説明します。

教科書

参考書

書名：クセ字が直る美文字レッスン帳
著者名：青山浩之
発行所：NHK出版
価格：500円（税別）

特に指定しません。

授 業 科 目 名	文章演習 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・演習・1単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：安 ^{やす} 田 ^だ 信 ^{しん} 二 ^じ		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島民報社論説委員 (2002年4月より2020年3月まで。このうち2018年4月より論説委員長)。福島学院大学短期大学部客員教授 (2019年4月より2020年3月まで)			
社会貢献としての委員会・職 等	中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学文学部卒業、文学士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	指定者必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー、メールアドレスは初回講義時に説明します。			

詳細は別紙で配付する。

授 業 科 目 名	会 話 演 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：兼任講師 氏名：安 田 いたみ		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	元TUFアナウンサー（平成4年4月～平成10年3月） フリーアナウンサー（平成10年4月～）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特記事項なし			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	法政大学社会学部社会学科卒業（社会学士）			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	初回授業時に説明します。 yasuda.itsumi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>SNSの普及により、顔を合わせない「非対面コミュニケーション」が促進され、コミュニケーションは相手や話題、時間さえも選べる時代になりました。</p> <p>この授業では、社会生活上不可欠な「対面コミュニケーション」である言葉を受けて返す「話すこと」「聞くこと」に焦点を当てます。</p> <p>実践的な演習により、社会生活で役立つ「会話力」「対話力」を身に付けます。</p> <p>また好感がもてる自己表現力、相手に伝わる話し方を習得します。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 「話し言葉」の正しい知識を持ち、会話力を高める。	目標	A
② 自分の意見を持ち、表現できるようになる。	目標	D
③ 対面でのコミュニケーション力、会話力を身に付ける。	目標	G

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 授業の進め方と評価方法について	シラバス	シラバスを読んでくる
2	自己紹介	発表 VTR収録	自己紹介を考えてくる
3	自己紹介からわかること 話し方・口癖・伝わり方・印象の確認	VTRプレビュー 評価表作成	日常生活で話し方を確認
4	話し方の基礎 発声・発音・アクセントなど	プリント グループディスカッション	プリント復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	「話す力」を高める① 会話するときの心構え 話題の選び方	プリント グループディスカッション	日常的に話している話題を考えてくる
6	「話す力」を高める② 印象の良い話し方 間違えやすい日本語	グループに分かれ演習 プリント	プリント復習
7	「聞く力」を高める 話の要点をとらえる ポジティブリスニング	グループに分かれ演習	日常生活でポジティブリスニングを実践
8	フリートーク① 人前で話す時のコツ 事実を正確に伝える	グループに分かれ演習	復習 物事の伝え方について考える
9	フリートーク② テーマに沿って発表	発表 個別に指導	発表準備
10	会話力実践～取材をして動画を作る① 班分けと番組企画・取材計画 動画制作・取材の進め方・原稿の書き方指導	班ごとに取材計画 撮影・編集は各自のスマートフォンを使用	授業時間外に取材、原稿をまとめ編集する
11	会話力実践～取材をして動画を作る② 原稿にまとめる・編集	グループごとに準備 撮影・編集は各自のスマートフォンを使用	〃
12	会話力実践～取材をして動画を作る③ 伝わりやすい話し方、相手の話しを聞き出す会話力について考える	試写会 感想発表 全体討議	感想をまとめる
13	「対話力」を高める① グループディスカッション	グループ演習	ニュース、新聞に目を通す
14	「対話力」を高める② ディベート	グループ演習	〃
15	まとめ 正しい言葉遣い 会話力が人間関係を豊かにする	全体討議 プリント	復習 プリント
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①：期末試験50点 目標②：授業での発表・動画制作30点 目標③：グループ活動・取材活動20点 総計100点満点で評価 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			

教科書	参考書
使用しない。	書名：「日本語会話表現法とプレゼンテーション」 著書名：古閑博美 他 発行所：学文社 価格：2,000円（税別）
その他補足事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2クラスに分けて開講します。 2. 動画制作の取材活動は、班ごとに通常授業時間外で行います。 3. 撮影、編集には原則スマートフォンを使用しますが、希望者にはデジタルカメラを貸与します。 	

授 業 科 目 名	情報機器操作 I	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師(情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師(教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム(Tohoku U.PFFP)修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
現代の情報ネットワーク社会を支えるICT(情報通信技術)活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキル(リテラシー)を身につける演習科目です。授業開始前に実施するタイピングスキルテストで初級レベルと判断された受講者を対象とし、本科目と後期の「情報機器操作Ⅱ」を併せて以上の内容を実施します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excelの基礎的知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 コンピュータおよびインターネットの基礎 著作権と情報モラル SNSの安全な利用	タイピング練習アプリ テキスト序章	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 WindowsおよびWordの基礎知識 Wordによる文書の作成(1) ・文書作成の基本	タイピング練習アプリ テキスト1章 テキスト2章-1	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(2) ・文書作成の基本 ・文書の印刷とページ設定	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-2～2章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習 Wordによる文書の作成(3) ・表の作成	タイピング練習アプリ テキスト2章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 Wordによる文書の作成(4) ・文書の編集	タイピング練習アプリ テキスト2章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 Wordによる文書の作成(5) ・図や数式の挿入	タイピング練習アプリ テキスト2章-6	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(6) ・レポート作成をサポートする機能 ・ビジネス文書の基礎知識	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 Excelによる表計算(1) ・Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習アプリ テキスト3章-1～3章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習 Excelによる表計算(2) ・表の作成①	タイピング練習アプリ テキスト3章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 Excelによる表計算(3) ・表の作成②	タイピング練習アプリ テキスト3章-3～3章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(4) ・いろいろな数式①	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習 Excelによる表計算(5) ・いろいろな数式②	タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習 Excelによる表計算(6) ・グラフと図形①	タイピング練習アプリ テキスト3章-6	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(7) ・グラフと図形②	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-6	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	前期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
①③	：授業内の課題提出	10点満点	
①②③	：授業のふりかえり提出	5点満点	
②	：タッチタイピング目標達成	25点満点	
①③	：Word文書作成(期末試験)	30点満点	
	Excel表作成(期末試験)	30点満点	
教科書		参考書	
書名：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応) 著者名：杉本くみ子、大澤栄子 発行所：実教出版株式会社 価格：1,300円(税別)		書名：改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー 著者名：奥村晴彦、森本尚之 発行所：技術評論社 価格：1,480円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・テキストの実習課題は、基本的には復習課題として授業外の学修時間に各自演習していただきます。実習課題は、授業内で指示された提出日までに提出してください。 ・本科目を履修し合格した後に、後期開講の「情報機器操作Ⅱ」を単位取得する必要があります。 ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師（情報処理科目） (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師（教科「情報」） (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学）、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム（Tohoku U.PFFP）修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
1年次の前期に情報機器操作Ⅰを履修した学生が受講する科目です。 コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、応用レベルの情報機器操作スキルを習得します。タッチタイピングスキルの向上を目指しながら、Excelを使ったデータ分析およびPowerPointを使ったプレゼンテーションの基礎的な知識・技能を習得します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力スキルを向上させる。	目標	B
③ ExcelおよびPowerPointの応用的知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習とタイピング速度の測定	ピアアセスメント 授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 Excelによるデータ分析の基礎 ・データベース機能(並べ替え・抽出)	タイピング練習アプリ テキスト3章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 ExcelとWordの連携 ・レポート作成のコツ (図書館利用法、文献検索の仕方、引用の取り扱い、Word文書へのExcel図表の埋め込み等)	タイピング練習アプリ テキスト3章-8	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習 データ分析の応用(1) ・統計の基礎	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 データ分析の応用(2) ・Excelによる量的データの分析(1)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 データ分析の応用(3) ・Excelによる量的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 データ分析の応用(4) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(1)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習 データ分析の応用(5) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 プログラムによるデータ収集および解析 ・Pythonによるオープンデータの分析	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習とタイピング速度の測定 PowerPointによるプレゼンテーション(1) ・ユニバーサルデザインを意識したスライド作成の基本と発表原稿作成のコツ ・情報の分析評価の手法(ロジックツリー等)	ピアアセスメント グループワーク タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(2) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(3) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(4) ・プレゼンテーション(1)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(5) ・プレゼンテーション(2)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
①③	：授業内の課題提出	10点満点	
①②③	：授業のふりかえり提出	5点満点	
②	：タッチタイピング目標達成	25点満点	
①③	：Excelデータ分析(期末試験)	30点満点	
	PowerPointスライド作成(期末試験)	30点満点	
教科書		参考書	
書名：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応) 著者名：杉本くみ子、大澤栄子 発行所：実教出版株式会社 価格：1,300円(税別)		書名：改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー 著者名：奥村晴彦、森本尚之 発行所：技術評論社 価格：1,480円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・テキストの実習課題は、基本的には復習課題として授業外の学修時間に各自演習していただきます。実習課題は、授業内で指示された提出日までに提出してください。 ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師(情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師(教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム(Tohoku U.PFFP)修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
現代の情報ネットワーク社会を支えるICT(情報通信技術)活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキル(リテラシー)を身につける演習科目です。授業開始前に実施するタイピングスキルテストで中～上級レベルと判断された受講者を対象とし、本科目と後期の「情報機器操作Ⅲ」を併せて以上の内容を実施します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力スキルを向上させる。	目標	B
③ Word、Excelの基礎から応用までの知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 コンピューターおよびインターネットの基礎 著作権と情報モラル SNSの安全な利用	タイピング練習アプリ テキスト序章	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 WindowsおよびWordの基礎知識 Wordによる文書の作成(1) ・文書作成の基本	タイピング練習アプリ テキスト1章 テキスト2章-1～2章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(2) ・文書の印刷とページ設定 ・表の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-3～2章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習 Wordによる文書の作成(3) ・文書の編集	タイピング練習アプリ テキスト2章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 Wordによる文書の作成(4) ・図や数式の挿入	タイピング練習アプリ テキスト2章-6	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 Wordによる文書の作成(5) ・レポート作成をサポートする機能 ・ビジネス文書の基礎知識	タイピング練習アプリ テキスト2章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(1) ・Excelの基礎知識、データの入力・編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-1～3章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 Excelによる表計算(2) ・表の作成①	タイピング練習アプリ テキスト3章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習 Excelによる表計算(3) ・表の作成②	タイピング練習アプリ テキスト3章-3～3章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 Excelによる表計算(4) ・いろいろな数式①	タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(5) ・いろいろな数式②	ピアアセスメント テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習 Excelによる表計算(6) ・グラフと図形	タイピング練習アプリ テキスト3章-6	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習 Excelによるデータ分析の基礎 ・データベース機能(並べ替え・抽出)	タイピング練習アプリ テキスト3章-7	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 ExcelとWordの連携 ・レポート作成のコツ (図書館利用法、文献検索の仕方、引用の取り扱い、Word文書へのExcel図表の埋め込み等)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-8	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	前期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
①③	：授業内の課題提出	10点満点	
①②③	：授業のふりかえり提出	5点満点	
②	：タッチタイピング目標達成	25点満点	
①③	：Word文書作成(期末試験)	30点満点	
	Excel表作成(期末試験)	30点満点	
教科書		参考書	
書名：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応) 著者名：杉本くみ子、大澤栄子 発行所：実教出版株式会社 価格：1,300円(税別)		書名：改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー 著者名：奥村晴彦、森本尚之 発行所：技術評論社 価格：1,480円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・テキストの実習課題は、基本的には復習課題として授業外の学修時間に各自演習していただきます。実習課題は、授業内で指示された提出日までに提出してください。 ・本科目を履修し合格した後に、後期開講の「情報機器操作Ⅲ」を単位取得する必要があります。 ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅲ	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師（情報処理科目） (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師（教科「情報」） (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学）、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム（Tohoku U.PFFP）修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
1年次の前期に情報機器操作Ⅱを履修した学生が受講する科目です。 コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、応用的なレベルの情報機器操作スキルを習得します。タッチタイピングスキルの向上を目指しながら、PowerPointを使ったプレゼンテーション、および画像編集の応用的な知識・技能を習得します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ PowerPointおよび画像編集の応用的知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習とタイピング速度の測定	ピアアセスメント 授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 PowerPointによる画像編集(1) ・画像編集の基礎知識	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 PowerPointによる画像編集(2) ・PowerPointを活用したイラストの描画	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習 データ分析の応用(1) ・統計の基礎	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 データ分析の応用(2) ・Excelによる量的データの分析(1)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 データ分析の応用(3) ・Excelによる量的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 データ分析の応用(4) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(1)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習 データ分析の応用(5) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 プログラムによるデータ収集および解析 ・Pythonによるオープンデータの分析	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習とタイピング速度の測定 PowerPointによるプレゼンテーション(1) ・ユニバーサルデザインを意識したスライド作成の基本と発表原稿作成のコツ ・情報の分析評価の手法(ロジックツリー等)	ピアアセスメント グループワーク タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(2) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(3) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(4) ・プレゼンテーション(1)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(5) ・プレゼンテーション(2)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
①③	：授業内の課題提出	10点満点	
①②③	：授業のふりかえり提出	5点満点	
②	：タッチタイピング目標達成	25点満点	
①③	：画像編集(期末試験)	30点満点	
	PowerPointスライド作成(期末試験)	30点満点	
教科書		参考書	
書名：30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応) 著者名：杉本くみ子、大澤栄子 発行所：実教出版株式会社 価格：1,300円(税別)		書名：改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー 著者名：奥村晴彦、森本尚之 発行所：技術評論社 価格：1,480円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作 I (旧カリ)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師 (情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師 (教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士 (情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム (Tohoku U.PFFP) 修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
現代の情報ネットワーク社会を支えるICT (情報通信技術) 活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキル (リテラシー) を身につける演習科目です。授業開始前に実施するタイピングスキルテストで初級レベルと判断された受講者を対象とします。タッチタイピングスキルの向上を目指しながら、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算方法、およびPowerPointを使ったプレゼンテーションの応用的な知識・技能を習得します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excel、PowerPointの応用的知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 コンピュータおよびインターネットの基礎 著作権と情報モラル SNSの安全な利用	タイピング練習アプリ テキスト序章	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 WindowsおよびWordの基礎知識 Wordによる文書の作成(1) ・文書作成の基本	タイピング練習アプリ テキスト1章 テキスト2章-1	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(2) ・文書作成の基本 ・文書の印刷とページ設定	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-2～2章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習 Wordによる文書の作成(3) ・表の作成	タイピング練習アプリ テキスト2章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 Wordによる文書の作成(4) ・文書の編集	タイピング練習アプリ テキスト2章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 Wordによる文書の作成(5) ・図や数式の挿入	タイピング練習アプリ テキスト2章-6	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(6) ・レポート作成をサポートする機能 ・ビジネス文書の基礎知識	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 Excelによる表計算(1) ・Excelの基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習アプリ テキスト3章-1～3章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習 Excelによる表計算(2) ・表の作成①	タイピング練習アプリ テキスト3章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 Excelによる表計算(3) ・表の作成②	タイピング練習アプリ テキスト3章-3～3章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(4) ・いろいろな数式①	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習 Excelによる表計算(5) ・いろいろな数式②	タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習 Excelによる表計算(6) ・グラフと図形①	タイピング練習アプリ テキスト3章-6	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(7) ・グラフと図形②	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-6	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	前期末試験(実技試験)		
16	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習とタイピング速度の測定	ピアアセスメント 授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
17	タイピング練習 Excelによるデータ分析の基礎 ・データベース機能(並べ替え・抽出)	タイピング練習アプリ テキスト3章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
18	タイピング練習 ExcelとWordの連携 ・レポート作成のコツ (図書館利用法、文献検索の仕方、引用の取り扱い、Word文書へのExcel図表の埋め込み等)	タイピング練習アプリ テキスト3章-8	タイピング練習 課題の完成と提出
19	タイピング練習 データ分析の応用(1) ・統計の基礎	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
20	タイピング練習とタイピング速度の測定 データ分析の応用(2) ・Excelによる量的データの分析(1)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
21	タイピング練習 データ分析の応用(3) ・Excelによる量的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
22	タイピング練習 データ分析の応用(4) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(1)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
23	タイピング練習 データ分析の応用(5) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
24	タイピング練習 プログラムによるデータ収集および解析 ・Pythonによるオープンデータの分析	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
25	タイピング練習とタイピング速度の測定 PowerPointによるプレゼンテーション(1) ・ユニバーサルデザインを意識したスライド作成の基本と発表原稿作成のコツ ・情報の分析評価の手法(ロジックツリー等)	ピアアセスメント グループワーク タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
26	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(2) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
27	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(3) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
28	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(4) ・プレゼンテーション(1)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
29	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(5) ・プレゼンテーション(2)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
30	タイピング練習とタイピング速度の測定 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>前期</p> <p>①③ : 授業内の課題提出 10点満点</p> <p>①②③ : 授業のふりかえり提出 5点満点</p> <p>② : タッチタイピング目標達成 25点満点</p> <p>①③ : Word文書作成(期末試験) 30点満点</p> <p>Excel表作成(期末試験) 30点満点</p> <p>後期</p> <p>①③ : 授業内の課題提出 10点満点</p> <p>①②③ : 授業のふりかえり提出 5点満点</p> <p>② : タッチタイピング目標達成 25点満点</p> <p>①③ : Excelデータ分析(期末試験) 30点満点</p> <p>PowerPointスライド作成(期末試験) 30点満点</p>			
教科書		参考書	
<p>書名: 30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応)</p> <p>著者名: 杉本くみ子、大澤栄子</p> <p>発行所: 実教出版株式会社</p> <p>価格: 1,300円(税別)</p>		<p>書名: 改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー</p> <p>著者名: 奥村晴彦、森本尚之</p> <p>発行所: 技術評論社</p> <p>価格: 1,480円(税別)</p>	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・テキストの実習課題は、基本的には復習課題として授業外の学修時間に各自演習していただきます。実習課題は、授業内で指示された提出日までに提出してください。 ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ (旧カリ)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：講師 氏名： <small>くわ き みち こ</small> 桑 木 道 子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師 (情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師 (教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士 (情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム (Tohoku U.PFFP) 修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
現代の情報ネットワーク社会を支えるICT (情報通信技術) 活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキル(リテラシー)を身につける演習科目です。タッチタイピングスキルの向上を目指しながら、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算方法PowerPointを使ったプレゼンテーション、および画像編集の応用的な知識・技能を習得します。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excel、PowerPointおよび画像編集の応用的知識・技能を習得する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習 コンピューターおよびインターネットの基礎 著作権と情報モラル SNSの安全な利用	タイピング練習アプリ テキスト序章	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習 WindowsおよびWordの基礎知識 Wordによる文書の作成(1) ・文書作成の基本	タイピング練習アプリ テキスト1章 テキスト2章-1～2章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Wordによる文書の作成(2) ・文書の印刷とページ設定 ・表の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト2章-3～2章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習 Wordによる文書の作成(3) ・文書の編集	タイピング練習アプリ テキスト2章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習 Wordによる文書の作成(4) ・図や数式の挿入	タイピング練習アプリ テキスト2章-6	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習 Wordによる文書の作成(5) ・レポート作成をサポートする機能 ・ビジネス文書の基礎知識	タイピング練習アプリ テキスト2章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(1) ・Excelの基礎知識、データの入力・編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-1～3章-2	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習 Excelによる表計算(2) ・表の作成①	タイピング練習アプリ テキスト3章-3	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習 Excelによる表計算(3) ・表の作成②	タイピング練習アプリ テキスト3章-3～3章-4	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習 Excelによる表計算(4) ・いろいろな数式①	タイピング練習アプリ テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excelによる表計算(5) ・いろいろな数式②	ピアアセスメント テキスト3章-5	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習 Excelによる表計算(6) ・グラフと図形	タイピング練習アプリ テキスト3章-6	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	タイピング練習 Excelによるデータ分析の基礎 ・データベース機能（並べ替え・抽出）	タイピング練習アプリ テキスト3章-7	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング練習とタイピング速度の測定 ExcelとWordの連携 ・レポート作成のコツ (図書館利用法、文献検索の仕方、引用の取り扱い、Word文書へのExcel図表の埋め込み等)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3章-8	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	前期末試験（実技試験）		
16	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習とタイピング速度の測定	ピアアセスメント 授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
17	タイピング練習 PowerPointによる画像編集(1) ・画像編集の基礎知識	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
18	タイピング練習 PowerPointによる画像編集(2) ・PowerPointを活用したイラストの描画	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
19	タイピング練習 データ分析の応用(1) ・統計の基礎	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
20	タイピング練習タイピング速度の測定 データ分析の応用(2) ・Excelによる量的データの分析(1)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
21	タイピング練習 データ分析の応用(3) ・Excelによる量的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
22	タイピング練習 データ分析の応用(4) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(1)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
23	タイピング練習 データ分析の応用(5) ・ユーザーローカルテキストマイニングによる質的データの分析(2)	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
24	タイピング練習 プログラムによるデータ収集および解析 ・Pythonによるオープンデータの分析	タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
25	タイピング練習とタイピング速度の測定 PowerPointによるプレゼンテーション(1) ・ユニバーサルデザインを意識したスライド作成の基本と発表原稿作成のコツ ・情報の分析評価の手法（ロジックツリー等）	ピアアセスメント グループワーク タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(2) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
27	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(3) ・情報収集 ・発表スライドおよび発表原稿の作成	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
28	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(4) ・プレゼンテーション(1)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
29	タイピング練習 PowerPointによるプレゼンテーション(5) ・プレゼンテーション(2)	タイピング練習アプリ グループワーク テキスト4章	タイピング練習 課題の完成と提出
30	タイピング練習とタイピング速度の測定 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験(実技試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
前期 ①③ : 授業内の課題提出 10点満点 ①②③ : 授業のふりかえり提出 5点満点 ② : タッチタイピング目標達成 25点満点 ①③ : Word文書作成(期末試験) 30点満点 Excel表作成(期末試験) 30点満点 後期 ①③ : 授業内の課題提出 10点満点 ①②③ : 授業のふりかえり提出 5点満点 ② : タッチタイピング目標達成 25点満点 ①③ : 画像編集(期末試験) 30点満点 PowerPointスライド作成(期末試験) 30点満点			
教科書		参考書	
書名: 30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 (Windows10対応) 著者名: 杉本くみ子、大澤栄子 発行所: 実教出版株式会社 価格: 1,300円(税別)		書名: 改訂第3版 ver.2 基礎からわかる情報リテラシー 著者名: 奥村晴彦、森本尚之 発行所: 技術評論社 価格: 1,480円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。) ・テキストの実習課題は、基本的には復習課題として授業外の学修時間に各自演習していただきます。実習課題は、授業内で指示された提出日までに提出してください。 ・ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	スマートフォン活用法		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	8回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師(情報処理科目) (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師(教科「情報」) (平成21年4月～平成31年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学)、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム(Tohoku U.PFFP)修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
この授業では、近年、普及と活用が拡大傾向にあるスマートフォンを、授業や業務で効果的に活用する方法をグループワークにより検討し、活用の実践を行います。また、福祉心理学科の学生がスマートフォンをより効果的に活用できることを目的に、その活用法を提案書としてまとめます。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① スマートフォンを活用する上で必要なセキュリティ関連の基礎知識を得る。	目標	A
② 授業および福祉・心理分野におけるスマートフォン活用の提案ができる。	目標	A・B・C
③ 授業および福祉・心理分野におけるスマートフォンの活用法を習得する。	目標	A・B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション スマートフォン利用に関するセルフアセスメント 企業等におけるスマートフォン活用実態の把握 SNSを活用した情報発信の留意点	経済産業省による統計資料などの配付資料	
2	スケジュール管理(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
3	スケジュール管理(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Evernoteで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる
4	授業における活用(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
5	授業における活用(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Evernoteで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる
6	福祉・心理分野における活用(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
7	福祉・心理分野における活用(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Evernoteで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる
8	これまでに提案した活用法についての意見交換 スマートフォン利用に関するセルフアセスメント	Slackで意見交換	予習：これまでの活用報告をふりかえる
期末試験	前期末試験（レポート）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：期末試験 40点満点 提案書作成 3回×5点＝15点満点 Slackでの意見交換 5点満点 授業後のふりかえり 8回×5点＝40点満点			
教 科 書			
使用しません。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・各自所有のスマートフォン（Android、iPhone等）を持参してください。iPad等のタブレット端末の持込みも可とします。 ・Wi-Fi環境が整備された教室で授業を行い、無料アプリを使用します。ただし、授業中に発生したパケット通信料金は自己負担とします。 ・授業を通して使用するアプリ（Gmail、Evernote、Slack）の合計サイズは400MB程度です。そのほかに、各自が調査のためにインストールするアプリやデータが入る分の容量がスマートフォンには必要となります。 ・授業中にバッテリー切れにならないように授業前に自宅で充電をしてきてください。モバイルバッテリーの利用を推奨します。 			

授 業 科 目 名	スマートフォン <small>の</small> モラルとリスク	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 <small>くわ</small> 木 <small>き</small> 道 <small>みち</small> 子 <small>こ</small>	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	民間ソフトウェア開発会社のシステムエンジニアおよび研修講師 (平成元年5月～平成31年3月) 宮城県内公立職業能力開発校および専門学校講師（情報処理科目） (平成6年4月～平成31年3月) 宮城県公立および私立高等学校非常勤講師（教科「情報」） (平成21年4月～平成31年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学）、同大学院情報科学研究科情報リテラシー教育プログラム博士課程前期2年の課程修了 東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教員準備プログラム（Tohoku U.PFFP）修了 情報処理学会、日本教育工学会 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」、高等学校教諭第一種免許「数学」		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 メールアドレス：kuwaki.michiko fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>インターネットに接続できるスマートフォンやタブレット端末の普及により私たちの生活は便利になりました。その反面、情報技術を悪用したトラブルや事件なども増えてきています。</p> <p>この授業では、そのようなトラブルや事件などから身を守るために最低限必要な情報モラルおよび情報セキュリティに関する知識を習得した上で、情報社会におけるスマートフォンやタブレット端末を活用する際の望ましい態度について考えます。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 情報社会における問題の現状を理解する。	目標	A・C
② 情報モラルおよび情報セキュリティに関する知識を習得する。	目標	A・C
③ スマートフォンやタブレットを活用する際の望ましい態度を身につける。	目標	A・B・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション スマートフォン利用に関するセルフアセスメント 企業等におけるスマートフォン活用実態の把握 SNSを活用した情報発信の留意点	配付資料	復習：授業のふりかえり
2	情報と情報社会	テキスト1章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえり
3	個人情報と知的財産	テキスト2章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえり
4	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	テキスト3章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえり
5	情報社会における生活	テキスト4章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえり
6	情報セキュリティとネット被害	テキスト5章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえり
7	まとめのプレゼンテーション資料作成	グループワーク	復習：授業のふりかえりを SNSで発信
8	プレゼンテーション	グループ単位で発表 ピアアセスメント	復習：授業のふりかえり
期末 試験	後期末試験（レポート）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：期末試験 40点満点 プレゼンテーション 20点満点 授業後のふりかえり 8回×5点=40点満点			
教 科 書			
書 名：インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版 著者名：情報教育学研究会（IEC）・情報倫理教育研究グループ 発行所：実教出版 価 格：450円（税別）			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・各自所有のスマートフォン（Android、iPhone等）を持参してください。iPad等のタブレット端末の持込みも可とします。 ・Wi-Fi環境が整備された教室で授業を行い、無料アプリを使用します。ただし、授業中に発生したパケット通信料金は自己負担とします。 ・授業中にバッテリー切れになることがないように授業前に自宅で充電をしてきてください。モバイルバッテリーの利用を推奨します。 			

授 業 科 目 名	ウェブ動画制作		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：菅 田 清 正 <small>すが た きよ まさ</small>		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		(株)テレビユー福島において番組制作ディレクター及び報道記者として番組・TV-CM等の制作を担当 (昭和58年4月～平成14年3月)		
社会貢献としての委員会・職 等		学校法人福島学院元理事・元評議員		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		千代田工科芸術専門学校 放送芸術科卒業 映像情報メディア学会 正会員		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは月曜午後4時以降 研究室(宮代キャンパス) メールアドレス：sugata.kiyomasa fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>技術の進歩によりモバイルデバイスが劇的に普及して数年。その実用性が高まっている現在、インターネット上で見られる動画の割合が増えてきている。</p> <p>本科目は、そのような背景を踏まえ、スマートフォンで動画制作を行い、様々なビジネスシーンで活用するための基礎知識と技能を学び、身に付ける。</p> <p>撮影から編集まで個人のスマートフォンを使用して、動画制作を行い発表する。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 動画制作に必要な基礎知識と技能を身に付ける。	目標	A・B
② 動画による感性等の表現力を身に付ける。	目標	D
③ 実習を通して他者との協力関係を築き、併せてプレゼン力も身に付ける。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と評価方法の説明 ・「動画制作のワークフロー」	・資料配付	指定したウェブサイトで予習復習する
2	「著作権とは何か」 ・著作隣接権と権利制限について	・資料配付	著作権をネットで調べておく
3	「撮影の基礎」 ・画面サイズとカメラワーク ・イマジナリーラインとは?	・資料配付 ・DVD(ハリウッド白熱教室・撮影篇)視聴(30分)	指定したウェブサイトで予習復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「音声・照明の基礎」 ・マイクアレンジ ・人物照明	・資料配付 ・実演で説明	指定したウェブサイトですり習復習する
5	「絵コンテとは何か」 ・コンテの要素と構成 ・動画制作の立案	・資料配付	次回までに企画案をまとめる
6	「絵コンテの作成」 ・CM絵コンテの企画と作成 ※小テスト実施予定	・資料配付 ・企画書の作成 ・小テストの実施	次回までに企画案をまとめる
7	「撮影1」 ・動画撮影アプリVIVA VIDEOの説明 ・ビデオカメラの操作方法説明	・アプリ操作法DVD視聴(15分) ・カメラ操作法の実地説明 ・(オ)	時間外でコンテに基づいて撮影する
8	「撮影2」 ・撮影開始及び継続 ・DVD(ハリウッド白熱教室)視聴	・DVD(ハリウッド白熱教室・編集篇)視聴(30分) ・(オ)	次回までに撮影を完了させる
9	「編集とは何か?」 ・編集とは何か? ・モンタージュ理論について	・DVD(モンタージュ理論篇)視聴(15分) ・資料配付	指定したウェブサイトですり習復習する
10	「編集1」 ・アプリで編集開始	・個人のスマホで編集を開始する	編集を続ける
11	「編集2」 ・編集の継続 ・MA(音編集)作業	・個人のスマホで編集の継続 ・映像、音声の最終編集	編集が完了しないときは継続する
12	「インサートカット及び映像加工処理」 ・挿入と上書き ・特殊効果	・資料配付	指定したウェブサイトですり習復習する
13	「CM作品発表」 ・個々に作品を発表する ・講評	・資料配付 ・(エ)	発表用の資料を作成する
14	「放送・舞台用語の理解」 ・放送用語、舞台用語	・資料配付	用語の復習
15	「まとめ、振り返り」 ・これまでの振り返り	・資料配付	次回のプレゼン資料を作成する
期末試験	制作したCM作品の上映と作品についてのプレゼンテーションを実施し、評価する	一人3分で作品の上映とプレゼンを行う ・(エ)	プレゼン用の資料を準備しておく
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①：小テスト 20 点
目標②③：期末試験（CM 作品完成度 40 点）
目標②③：期末試験（プレゼンテーション力 20 点）
授業への積極性等（発言、協調性等 20 点）
ほか、評価に関する共通理解に則る減点（欠席等）を総合点により行う。

その他補足事項

- 個人のスマートフォンを使用するため、データ通信料が発生する可能性がある。
- 撮影に必要な小物などは自己負担で準備する。
- 完成した作品を DVD 出力する場合は、DVD を自己負担とする。

授 業 科 目 名	生活教養 I 生活教養 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・演習・2単位
			開 講 年 次	H31 年度以降入学 1 年次 H30 年度以前入学 3 年次～
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：小 松 由 美		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	(公財) 実務技能検定協会ビジネス系検定面接試験委員			
社会貢献としての委員会・職 等	日本ビジネス実務学会理事、秘書サービス接遇教育学会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	秘書検定1級、ビジネス文書検定1級、サービス接遇検定1級、 日本ビジネス実務学会、秘書・サービス接遇教育学会、日本秘書協会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：komatsu.yumi@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
日常生活で円滑な人間関係を構築するために必要なマナーについて学ぶ。また、卒業後の就職も念頭に置き、社会人として身に付けておきたい敬語や来客対応・電話応対等の基本的なビジネスマナーについても学ぶ。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 日常生活におけるマナーについて学び、円滑な人間関係の構築ができるようになる。	目標	A・B・G
② 社会人として求められるビジネスマナーを身に付ける。	目標	A・B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業概要と進め方、評価方法) 社会生活におけるルールとマナー、人間関係	資料配付 テキストpp.50-52 ディスカッション、発表	テキスト該当箇所を読んで予習する
2	第一印象の重要性	テキストpp. 2-11 資料配付 ロールプレイング	〃
3	職場でのルールとマナー 仕事の進め方	テキストpp.12-18 映像資料視聴予定 ディスカッション、発表	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	敬語の基礎知識(1)	テキストpp.53-68 プリント演習	配付のプリント課題に取り組む
5	敬語の基礎知識(2)	テキストpp.53-68 プリント演習	1回～5回までを復習し、小テストに備える
6	来客応対(1)	小テスト テキストpp.19-48	テキスト該当箇所を読んで予習する
7	来客応対(2)	テキストpp.19-48 資料配付 グループワーク	配付のプリント課題に取り組む
8	電話応対(1)	テキストpp.70-86 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
9	電話応対(2)	テキストpp.70-86 資料配付 グループワーク	6回～9回までを復習し、小テストに備える
10	手紙・文書作成のマナー(1)	小テスト テキストpp.88-110 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
11	手紙・文書作成のマナー(2)	テキストpp.88-110 プリント演習	配付のプリント課題に取り組む
12	慶弔の知識(1)	テキストpp.156-165 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
13	慶弔の知識(2)	テキストpp.166-174 プリント演習	10回～13回までを復習し、小テストに備える
14	食事・パーティのマナー	小テスト テキストpp.112-138 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
15	旅行のマナー	テキストpp.140-154	〃
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②：後期末試験 70%、小テスト及び授業参加態度（グループワーク等演習時の積極性等） 30%</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点については、シラバスの最初に掲載している「学業成績評価の共通基準」に基づきます。 詳細は初回授業時に説明します。 			
教科書			
<p>書名：新生活教養 著者名：近喰晴子 他著 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）</p>			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容は進度によって前後することがあります。 授業の内容によって、スーツ着用を指示する場合があります。 予習・復習については、授業内に適宜指示します。 			

授 業 科 目 名	生 活 教 養 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 任 教 授 氏 名 : 渡 辺 雅 子 <small>わた なべ まさ こ</small>		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福 島 女 子 短 期 大 学 (現 福 島 学 院 大 学) 事 務 局 研 修 担 当 (平 成 元 年 4 月 ~ 平 成 6 年 3 月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	伊 達 市 子 ど も ・ 子 育 て 会 議 委 員 、 伊 達 市 学 校 施 設 利 活 用 審 議 会 委 員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福 島 女 子 短 期 大 学 (現 福 島 学 院 大 学 短 期 大 学 部) 準 学 士 日 本 保 育 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は 最 初 の 授 業 時 に 説 明 し ます 。 メ ー ル ア ド レ ス : watanabe.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>現代社会では、コミュニケーション能力が求められています。そのコミュニケーション能力の基本の一つに「マナー」があげられます。</p> <p>本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な人間関係を円滑に図るためのマナー（訪問のマナー、応対のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得していきます。</p> <p>授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて、演習や実践を通して学んでいきます。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 社会人としての基本マナー（訪問・応対・電話等のマナー）を身に付ける。	目標	A・B・G
② 冠婚葬祭お付き合いのマナーの基礎知識を修得する。	目標	A
③ 会食のマナー（食作法）について、実践を通して身に付ける。	目標	A・B

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	<p>オリエンテーション</p> <p>授業概要と到達目標 授業内容（学外授業を含む） 評価 その他</p> <p>訪問のマナー(1)</p> <p>訪問前の準備 手土産について 玄関先でのマナー 席次のマナー</p>	<p>授業計画</p> <p>教科書・配付資料・スライド</p> <p>DVD「スマートなマナー①」5分</p> <p>「和室での作法」7分</p> <p>「上座・下座」5分</p>	<p>授業計画</p> <p>教科書P32～37を見ておく</p> <p>課題①</p> <p>教科書P27～37、44～48、配付資料を見て、席次をまとめる（A4判1枚）</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) 客間でのマナー 辞去のマナー ◎事例研究 もてなしのマナー 茶菓のいただき方 茶菓の出し方	課題①の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「スマートなマナー②③」10分 「煎茶のいれ方」3分 茶菓の出し方の演習	課題② 就職活動で企業を訪問した際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題③ 訪問のマナー小テストの準備
3	◆小テスト①：訪問のマナー 電話のマナー(1) 対応のポイント かけ方(応用編) ◎かけ方の演習	課題②の発表・解説 教科書・配付資料・スライド 電話機を使用しての演習：事例研究(ディスカッション)	課題④ 就職活動で電話をかける際言葉遣いをまとめる(A4判1枚)
4	電話のマナー(2) 受け方(応用編)① ◎受け方の演習①	課題④の発表・解説 前回実施の小テスト(返却)・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会社の星：電話」7分 電話機を使用しての演習：事例研究(ディスカッション)	課題⑤ 職場で電話を受ける際言葉遣いをまとめる(A4判1枚)
5	電話のマナー(3) 受け方(応用編)② ◎受け方の演習② 伝言メモ作成の留意点	課題⑤の発表・解説 教科書・配付資料・スライド 電話機を使用しての演習：事例研究(ディスカッション) DVD「家族からの電話」3分 伝言メモの作成(演習)	課題⑥ 職場で電話を受ける際言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題⑦伝言メモの作成 課題⑧電話のマナー小テストの準備
6	◆小テスト②：電話のマナー 対応のマナー 来客対応の心構え お迎え 名刺の受け渡し 取次ぎ 案内 見送り ◎事例研究 (アポイントメントがないケース他)	課題⑥⑦の発表(実物投影機)・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会社の星：名刺」5分 「案内の仕方」3分 名刺と名刺入れを使用しての演習(二人一組) グループワーク	課題⑨ 職場でお客様を迎える際言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題⑩ 教科書P128～134を見て食事の仕方の疑問点をまとめておく(A4判1枚)
7	会食のマナー：西洋料理 メニュー テーブルセッティング レストランでの基本マナー 食べ方の基本 グラスの扱い方・乾杯のマナー 西洋料理における酒の知識	前回実施の小テスト(返却)・解説 課題⑨⑩の発表・解説 教科書・配付資料・スライド ナプキン、カトラリー、洋食器等を使用しての演習 DVD「スマートな食べ方の流儀①②③」15分(5分×3項目)	課題⑪ ナプキン・カトラリーの使い方を日常生活でも実践する 課題⑫ バイキングとビュッフェについて調べておく(A4判1枚) 課題⑬会食のマナー小テストの準備
8	会食のマナー：パーティーのマナー パーティーの基礎知識 立食パーティーのマナー 服装のマナー ◆小テスト③：会食のマナー(総合問題)	課題⑫の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会食マナー①」7分 皿・グラス・カトラリー等を使用しての演習 グループワーク(ディスカッション) DVD「会食マナー②」10分	課題⑭ カイセキ料理(会席料理・懐石料理)について調べておく(A4判1枚)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	会食のマナー：日本料理 日本文化としての箸のマナー 日本料理の流れ（種類） 食べ方の基本マナー 日本酒の基礎知識 ◆学外授業「食作法演習」事前指導	前回実施の小テスト（返却）・解説 課題⑭の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「箸のマナー」20分 「会席と懐石」7分 「土瓶蒸しの食べ方」3分 箸・椀・和食器等を使用しての演習	課題⑮ 箸使いを日常生活でも実践する 課題⑯ 食作法演習事前レポートの作成（A4判1枚）
10	◆学外授業「食作法演習」実施 ① 特別講義「現代の結婚式事情」 ② 日本料理の食作法（演習）	日本料理食作法演習の実践 *予定：12月中に実施 ウエディングエルティ	課題⑰ 食作法演習事後レポートの作成（A4判2枚） 課題⑱ 中国料理（4大料理）・飲茶について調べておく（A4判1枚）
11	◆学外授業「食作法演習」事後指導 会食のマナー：中国料理 中国料理の種類 中国料理の基礎知識 食べ方の基本マナー 中国茶・中国酒の基礎知識	課題⑯⑰の提出・課題⑱の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「高級中国料理を学ぶ」20分 「中国茶」7分 箸・レンゲ・中国食器等を使用しての演習	課題⑲ 挙式のスタイルをまとめておく（A4判1枚）
12	冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー 招待状の返信 お祝い電報 祝品・祝金 祝儀袋の表書き 服装と当日のマナー	課題⑲の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「六曜」7分 「ウエディングマナー」15分 返信用ハガキ、祝儀袋の表書き、袱紗の使い方の演習 グループワーク（ディスカッション）	課題⑳ 表書きを筆ペンで書いてみる 課題㉑ 授業で視聴したDVDの結婚披露宴受付時のパッドマナーをまとめておく
13	冠婚葬祭お付き合いのマナー 人生の祝い事（赤ちゃん・子どもの祝い事） 帯祝から十三参りまで 冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	課題⑳㉑の発表（実物投影機）・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「七五三の由来」3分 「お正月の過ごし方」30分 （15分×2回）	課題㉒ 五節句・二十四節気・雑節について調べておく（A4判1枚）
14	冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(2) 1月から12月までの行事	課題㉒の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「節分」10分 「ひな祭り」8分 「七夕の祝い」6分 「8・9月の行事」15分 「クリスマスって何？」5分	課題㉓ 自分の誕生月の行事を二つ以上取り上げ由来や祝い方等をまとめておく（A4判1枚）
15	冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー 葬式のスタイル 葬式の手順 お悔やみ電報 供物・供花 弔慰金 不祝儀袋の表書き 服装のマナー 通夜・告別式への参列のマナー	課題㉓の提出 教科書・配付資料・スライド DVD「お香典・お焼香悩み解決」12分 焼香・玉串奉奠・献花の演習 袱紗と不祝儀袋を使用しての演習 不祝儀袋の表書きの演習	課題㉔ 表書きを薄墨の筆ペンで書いてみる
期末試験	後期末試験	筆記試験	後期末試験に向けて、教科書・配付資料、既修内容を再確認

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、宮代キャンパスでのオフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
目標①②：後期末試験（筆記試験）50% 目標③：食作法演習（事前レポート5%・事後レポート15%）20% 目標①：小テスト①②（2回×5%）10% 目標①③：小テスト③（1回：グループごとに実施）10% 目標②：課題②の内容10% ＊その他、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。	
教科書	参考書
＊1年次「生活教養」で使用した教科書を使用します。 書名：新生活教養 ― 社会人としての基本マナー ― 著者名：近喰晴子・三村善美 他 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別） ※授業内容に応じて参考資料を配付します。	特に指定しません。
その他補足事項	
1. 配付資料を整理するための専用ファイル（A4判）を1冊準備してください。 2. 学外授業など、指定された場合にはスーツを着用してください。 3. 学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合があります。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出てください。（申し出がない場合は出席扱いとはしないので注意をしてください） 5. 学外授業「日本料理：食作法の演習」は履修者全員で実施します。必ず出席してください。 ＊12月中にウエディングエルティにて実施予定です。後期時間割確定後に日時を決定します。 6. 学外授業の食事代の一部として、一人あたり2,500円の実費を徴収します。 その他の経費は大学で補助します。	

授 業 科 目 名	現代人間関係論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：小 松 由 美		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	パフォーマンス教育協会認定エグゼクティブパフォーマンスインストラクター			
社会貢献としての委員会・職 等	日本ビジネス実務学会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本女子大学大学院人間社会研究科(現代社会論専攻)博士課程後期単位取得、 修士(国際学)、国際パフォーマンス学会、パフォーマンス教育協会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：komatsu.yumi@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>社会の中で私たちはさまざまな集団に属し、多くの人々と関わります。情報化、グローバル化する社会にあって人々の価値観が多様化するなか、近年、特に他者との関わり方で悩む人々が増えています。現代社会とそこに生きる個人を取り巻く問題や状況を把握し、よりよい関係を築く方法や問題の対処を考えるとともに、ソーシャルスキルとしてのパフォーマンス能力を身に付けます。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 変容する社会と多様化する人々の価値観を理解し、円滑な人間関係が構築できるようになる。	目標	A・F・G
② 自分を知り、持っている善さを等身大で表現する力を身に付ける。	目標	D・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業概要と進め方、評価方法) 人と人の繋がりを考える	資料配付 テキスト①pp.11~26 テキスト②pp.8~11	テキストを読む。
2	人間関係を理解するための基礎 自分と他者	資料配付 テキスト①pp.27~46	テキストを読む。
3	社会環境の変化と人間関係	テキスト①pp.47~79	テキストを読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	他者との適切な距離感とは	テキスト①pp.80～96	テキストを読む。
5	第一印象が人間関係に及ぼす影響	資料配付 テキスト②pp.12～14、24～26	テキストを読む。
6	自分を知る(1)	テキスト②pp.15～19 ワークショップ	自己分析を振り返り、日常生活に生かす。
7	自分を知る(2)	テキスト②pp.20～21、27～29 ワークショップ	自己分析を振り返り、日常生活に生かす。
8	多様な価値観	テキスト①pp.121～131	テキストを読む。
9	感情とのつきあい方	テキスト①pp.121～131	テキストを読む。
10	言葉の選び方とコミュニケーション	テキスト①pp.132～153 テキスト②pp.33～35、38～40	テキストを読む。
11	アサーション メッセージ・気持ちの伝え方	資料配付	上手な気持ちの伝え方を身に付け、実践する。
12	人間関係の問題への対応と解決方法	資料配付 グループワーク	学んだことを実践する。
13	ライフステージにおける人間の発達と成長	資料配付 テキスト①pp.106～120	テキストを読む。
14	ストレスに強い自分づくり	資料配付	学んだことを実践する。
15	よりよい関係づくりのために	資料配付 テキスト②pp.47～48	前期授業内容を総復習する。
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②：前期末試験 80%、授業参加態度（グループワーク等演習時の積極性等） 20%</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点については、シラバスの最初に掲載している「学業成績評価の共通基準」に基づきます。 詳細は初回授業時に説明します。 			

教科書

書名：友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える
著者名：菅野仁
発行所：ちくまプリマー新書
価格：740円（税別）

書名：“就活”はコミュニケーション力から
著者名：戸田昭直、小松由美、瀬尾幸江
発行所：西文社
価格：700円（税別）

その他補足事項

- 講義科目ですが、実践力を養うためワークショップ、グループワーク等を取り入れています。
- 授業内容は進度によって前後することがあります。
- テキストは2冊使用します。なお、予習・復習については、授業内に適宜指示します。

授 業 科 目 名	地域ボランティア活動		授業形態・単位数	実習・1単位
			開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美		開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	時間割外
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会福祉の現状と課題を踏まえ、地域福祉への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的なボランティア活動を実践する。	A	知識
	B	技能
	C	論理的思考力
	D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力
	○ F	多様性の理解力
	○ G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	イ	ディスカッション、ディベート
ウ	グループワーク	
エ	プレゼンテーション	
○ オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会福祉施設、地域、在宅及びボランティア団体での実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。	目標	E・F・G
③ ボランティア活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。	目標	E・F・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について ボランティアの基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習：福島市内や出身市町村の社会福祉施設の概要について調べる。
2	実際のボランティア・NPO事例紹介 (社会福祉施設、地域、在宅、災害時等におけるボランティア・NPO活動)	演習	予習・復習：ボランティア、NPO活動の実践例のまとめ
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法) 社会福祉施設、地域活動でのボランティア (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで	演習	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会：令和2年7月4日(土)予定) 実習事後指導		復習：ボランティア活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、実践上の課題等を整理する。
5	実習事後指導	実習のまとめ	実習のまとめ レポート提出
期末試験	実習のまとめレポートの提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②：(1) 実習日誌の記録 (各30点) (2) レポートは10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。 本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジュメ及び資料を配付する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
<p>年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。</p>			

授業科目名	地域振興活動		授業形態・単位数	実習・1単位
			開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名：教授 氏名：日下輝美	開講期	時間割外	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状と課題を踏まえ、地域活性化への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的な活動を行う。</p> <p>実習にあたっては、特に、福島市の中心市街地で開催される行事（イベント）および、福島県、福島市、福島市本町商店街振興組合、中小企業同友会、青年会議所等団体（NPO含む）が企画する行事（イベント）に関わり、企画立案等の実体験を通して地域振興活動について学ぶ。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 事前学習で、福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状を理解する。		目標 A
② 実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。		目標 E・G
③ 地域振興活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。		目標 A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について 地域振興活動と実習にあたっての基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習：福島市内の行事について調べる。
2	ゲストスピーカーの招聘 福島市中心市街地、福島県内で開催される行事（イベント）や伝承、観光、まちづくり活動について	演習	予習・復習：実習内容の選定

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法) 地域振興活動 (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで	演習 実習	
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会：令和2年7月4日(土)予定) 実習事後指導		復習：活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、実践上の課題等を整理する。
5	実習事後指導	実習のまとめ	実習のまとめ レポート
期末試験	実習のまとめレポートの提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②③：(1) 実習日誌の記録 (各30点) (2) レポートは10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。 本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジュメ及び資料を配付する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
<p>年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。</p>			

授 業 科 目 名	音 楽 演 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 ・ 2 年 次
担 当 教 員	職名：兼担教授 氏名：山 崎 信 政 <small>やま ざき のぶ まさ</small>		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島県全私立幼稚園協会教育研究委員 国立市社会福祉協議会評議員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 メールアドレス：yamazaki.nobumasa@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
音楽を楽しみ、その楽しさを他と分かち合えることを目標とする。音楽を楽しむためには、スキルアップが必要であり、知的好奇心を持って自ら取り組む力を一緒に培っていききたい。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
		C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① いろいろな楽器に触れ、奏法を習得する。	目標	A・B
② 童謡からJポップまで様々な分野の歌に触れ歌のレパートリーを広げる。	目標	A・B
③ コミュニケーションツールとしての音楽の幅を広げる。	目標	B・D
④ グループで音楽や表現活動を創り上げる。	目標	B・D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 年間授業の流れと留意点。授業の進め方の確認		
2	いろいろな楽器に触れ合奏を楽しむ	ディスカッションしながら合奏の楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでもおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	いろいろな楽器に触れ合奏を楽しむ	ディスカッションしながら合奏の楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
4	いろいろな楽器に触れ合奏を楽しむ	ディスカッションしながら合奏の楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
5	いろいろな楽器に触れ合奏を楽しむ	ディスカッションしながら合奏の楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
6	いろいろな楽器に触れ合奏を楽しむ	ディスカッションしながら合奏の楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
7	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
8	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
9	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
10	いろいろな歌遊びを楽しむ 遊びの楽しみを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
11	いろいろな歌遊びを楽しむ 遊びの楽しみを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
12	いろいろな歌遊びを楽しむ 遊びの楽しみを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
13	絵本や紙芝居に音楽を付ける	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
14	絵本や紙芝居に音楽を付ける	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
15	絵本や紙芝居に音楽を付ける	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
16	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
17	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
18	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
19	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
20	グループ毎に音楽表現を創作する	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	グループ毎に音楽表現を創作する	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
22	グループ毎に音楽表現を創作する	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
23	自らテーマを設け音楽表現を創作する ミニコンサートをする	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
24	自らテーマを設け音楽表現を創作する ミニコンサートをする	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
25	自らテーマを設け音楽表現を創作する ミニコンサートをする	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
26	DVDミュージカル映画鑑賞	DVD視聴によりディスカッションしながら音楽表現について考える	授業配付プリントを読んでおく
27	DVDミュージカル映画鑑賞	DVD視聴によりディスカッションしながら音楽表現について考える	授業配付プリントを読んでおく
28	DVDミュージカル映画鑑賞	DVD視聴によりディスカッションしながら音楽表現について考える	授業配付プリントを読んでおく
29	それぞれの音楽経験を振り返り、今後の音楽活動について考察する	ディスカッションしながら音楽を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
30	それぞれの音楽経験を振り返り、今後の音楽活動について考察する	ディスカッションしながら音楽を通したコミュニケーションの回り方を考える	授業配付プリントを読んでおく
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③④：授業内容に応じたレポートを提出する。30点満点の採点。 目標①②③④：毎回の授業の感想から各自の授業内容の取り組みを評価する。40点満点の採点。 目標①②③④：授業内容に応じた発表や、ミニコンサートでのグループ内での取り組み状況により評価する。 30点満点の採点。</p>			
教科書			
特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配付する。			

授業科目名	美術演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：古 畑 雅 規 ふる はた まさ のり		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	名古屋芸術大学・芸術学士 中学校・高等学校教諭一種免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：furuhata.masanori fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけでなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェなどを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
		ウ グループワーク
		エ プレゼンテーション
	○	オ 実習・フィールドワーク
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	B
② さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	A
③ 意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業内容と計画の説明 (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 本科目の留意点など	
2	動物のオブジェの制作 ～形の成り立ち	板・アルミ箔・樹脂粘土などを使いオブジェを乗せるための土台づくり	制作する対象の資料を用意する
3	動物のオブジェの制作 ～骨格のバランス	アルミ箔・樹脂粘土などを使い動物の基礎の形づくり	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い肉付けする	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
5	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い背景も同時に制作する	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
6	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	樹脂粘土を使い細部に手を加え完成させる	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
7	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アクリル絵具などを使いおおまかに着彩	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
8	動物のオブジェの制作 ～絵具によるグラデーション	アクリル絵具などを使いグラデーションをとり入れて着彩	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
9	動物のオブジェの制作 ～プロポーシオンとその背景	アクリル絵具などを使い全体のバランスを整え仕上げ。ニス塗り完成	身近な動植物の観察 (Web 検索、写真撮影など)
10	「未来の自分」を描く ～アイデアスケッチ	アイデアノート・鉛筆を使いテーマに沿って描くための準備作業	絵本などを閲覧
11	「未来の自分」を描く ～絵画の構図	アイデアノート・鉛筆 ダーマート (黒) を使い水彩紙に下描きをする	絵本などを閲覧
12	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンの使い方を知りながら描く	絵本などを閲覧
13	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンでの着彩の仕上げ	絵本などを閲覧
14	「未来の自分」を描く ～水彩絵具の特性	バックを水彩絵具で着彩して完成	絵本などを閲覧
15	授業のまとめ	作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
16	動植物を図形化して描く ～絵画やデザインの基礎	イラストボード・定規などで図形を描くための準備	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
17	動植物を図形化して描く ～様々な図形	定規やコンパスの使用方法を学びながら正確に描けるようにする	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
18	動植物を図形化して描く ～図形としてのバランス	図形を完成させる	空き時間などを使って制作を進める
19	完成させた図形に着彩 ～絵具の使い方	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
20	図形に着彩 ～混色の技法	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	図形に着彩 ～色（明度）の効果	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～制作の準備	制作する対象物のアイデアをまとめる	制作する対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～素材の特性	板・粘土を使い土台をつくる	粘土以外の素材を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分の制作	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分の制作	身近な風景の色を観察する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分を完成させる	身近な風景の色を観察する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～背景の効果	アクリル絵具で背景を描く	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～全体のバランス	全体の色のバランスを考えて着彩	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～仕上げ	ニス塗りをして完成させる	
30	授業のまとめ	作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：作品評価 60点（6作品の技術力、表現力など総合で評価） 目標③：授業態度 20点（授業への意欲、質疑応答の内容などで評価） 目標①：期末試験 20点（ペーパー試験）			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・材料費として2,640円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授 業 科 目 名	心 理 学 概 論 心理学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	H30年以降入学 1年次 H29年度以前入学 4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：岸 良 範	よし のり	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～令和2年3月)		
社会貢献としての委員会・職等		日本臨床心理士資格認定協会理事 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長 他		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
社会福祉士		教養教育科目	選択必修	
精神保健福祉士		教養教育科目	選択必修	
公認心理師		教養教育科目	必修	
認定心理士		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは木曜日に駅前キャンパス研究室にて行います。 メールアドレス：kishi.yoshinori@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
この授業は、人間を心理学の視点から理解し基礎知識、論理的思考力を身につけ、その過程の中で人間の多様性を理解し、それぞれの専門領域への応用への礎となることを目指します。また各回の授業では、その都度提示するテーマを様々な方法(簡単な実験を含む)で調べ、授業内で討論をするアクティブラーニングの方法をとり授業理解の確認のためにフィードバック用紙への記入と提出が要求されます。予習、復習にはその内容相応の時間が必要とされます。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理学に関する正確な知識を身に付ける。	目標	A
② 論理的思考力を身に付ける。	目標	C・G
③ 多様性への理解力、応用力を身に付ける。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	心理学の成り立ち 人の心理学的理解 1. 脳の仕組みと感情・情緒	講義及びグループにおける ディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	人の心理学的理解 2. 欲求・動機づけと行動	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
3	人の心理学的理解 3. 感覚・知覚・認知(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
4	人の心理学的理解 4. 感覚・知覚・認知(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
5	人の心理学的理解 5. 感覚・知覚・認知(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
6	人の心理学的理解 6. 学習・記憶・思考(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
7	人の心理学的理解 7. 学習・記憶・思考(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
8	人の心理学的理解 8. 知能と創造性	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
9	人の心理学的理解 9. 様々な人格理論	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
10	人の心理学的理解 10. 集団と適応(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
11	人の心理学的理解 11. 集団と適応(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
12	人の心理学的理解 12. 人と環境(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
13	人の心理学的理解 13. 人と環境(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
14	人の心理学的理解 14. 人の成長・発達と心理(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
15	人の心理学的理解 15. 人の成長・発達と心理(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
期末試験	前期末試験		
16	人の心理学的理解 16. 人の成長・発達と心理(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
17	日常生活と心の健康 1. ストレス反応	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
18	日常生活と心の健康 2. ストレス要因による心理的反応	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
19	日常生活と心の健康 3. ストレスからの回復	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	心理的支援の方法と実際 1. 人格検査(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
21	心理的支援の方法と実際 2. 人格検査(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
22	心理的支援の方法と実際 3. 様々な検査(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
23	心理的支援の方法と実際 4. 様々な検査(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
24	心理的支援の方法と実際 5. カウンセリングの概念(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
25	心理的支援の方法と実際 6. カウンセリングの概念(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
26	心理的支援の方法と実際 7. カウンセリングとソーシャルワーク	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
27	心理的支援の方法と実際 8. 精神医学的視点 DSM-5	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
28	心理的支援の方法と実際 9. 心理療法(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
29	心理的支援の方法と実際 10. 心理療法(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
30	心理的支援の方法と実際 11. 心理療法(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：(1) 筆記試験・記述方式のテストを各学期末に実施（成績全体の60パーセント） 目標③：(2) 小レポートの評価、理解度の確認のためのフィードバックを含む（成績全体の40パーセント）			
教科書		参考書	
書名：グラフィック心理学 著者名：北尾倫彦 他 発行所：サイエンス社 価格：1,800円（税別）		理解の進度に応じて随時紹介する。	
その他補足事項			
理解度に応じてシラバスの順序が変更されることがあります。			

授 業 科 目 名	社 会 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：牧 ^{まき} 田 ^た 実 ^{みのる} (本務先：福島大学 職名：教授)	開 講 期	後 期	
		授 業 回 数	15 回	
		期 末 試 験 の 有 無	有	
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島大学教員（平成7年4月～現在に至る）等			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	玉川村まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議（座長） 三春町振興対策審議会（副会長）			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、学術修士 日本社会学会、地域社会学会、コミュニティ政策学会、都市計画学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教養教育科目	選 択		
社 会 福 祉 士	教養教育科目	選 択 必 修		
精 神 保 健 福 祉 士	教養教育科目	選 択 必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後 に 教 室 で 質 問 等 に 対 応 メ ー ル ア ド レ ス : makita educ.fukushima-u.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>初学者を対象に社会学の基礎を講じる。 授業では社会学の「古典理論」をそれぞれの理論家たちが生きた「現代」との格闘の記録として位置づけ、これを知的な道具として現代日本社会の諸問題を考えていきたい。具体的には、代表的な社会学理論のエッセンスをできるだけ平易に解説し、ついでその視角から現代日本の社会と文化をめぐる現実の問題にアプローチしていく。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 社会学理論のエッセンスを理解できる。	目標	A
② 現代日本の社会・文化状況を社会的に捉えることができる。	目標	C
③ 現代日本の社会・文化状況について自分なりに論述することができる。	目標	D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	ガイダンス ～社会学の基本的性格	講義、シラバス 質疑応答	シラバスを読んでおく
2	自殺と社会(1) ～自殺の社会的分析	講義・配付資料 質疑応答	配付資料を読んでおく
3	自殺と社会(2) ～自殺と社会の類型	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	自殺と社会(3) ～現代日本と自殺	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
5	宗教と資本主義(1) ～プロテスタントと資本主義	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
6	宗教と資本主義(2) ～日本資本主義の理念的要因	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
7	自由からの逃走(1) ～ナチズムと権威主義的性格	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
8	自由からの逃走(2) ～日本のファシズムと自由の問題	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
9	孤独な群衆(1) ～他人志向型パーソナリティ	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
10	孤独な群衆(2) ～現代日本の若者と社会的性格	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
11	潜在的機能(1) ～意図せざる結果	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
12	潜在的機能(2) ～予言の自己成就	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
13	日常生活の社会学(1) ～社会的行為	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
14	日常生活の社会学(2) ～相互行為の秩序	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
15	まとめとふりかえり ～社会学で学んだこと	講義・配付資料 質疑応答	全体のふりかえり
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、メール等で説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：期末試験（60点）、小レポート（40点）			
教科書		参考書	
使用しない。		授業時に随時紹介する	

授 業 科 目 名	職 場 と ス ト レ ス		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 ・ 2 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂 木 積 雄		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島県立医科大学第2内科、日本大学臨床病理学教室、カリフォルニア大学デイビス校臨床免疫学教室、国立福島病院内科他（40年）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員、環境省福島地方環境事務所健康管理委			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福島県立医科大学・医学博士 医師、産業医、認定内科医 日本内科学会、日本肝臓学会、日本リウマチ学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	詳 しくは 初 回 授 業 時 に 説 明 し ます。			

授 業 の 概 要		授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目		
<p>仕事や職業生活に関する強い不安・悩み・ストレスなどを自覚している労働者の割合は5割以上に達すると報告されており、長時間にわたるに主な労働を背景とした過労死等（業務における過重な負荷による脳・心臓疾患や業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする死亡や疾患のこと）の問題解決に向け、法的な整備も進められつつある。</p> <p>本講義では、職場のメンタルヘルスに関する基本的事項と「働き方改革」が国民的課題となっている背景に関する理解を深めるとともに、誰もが働き甲斐をもって前向きに仕事にとりくめる職場環境の在り方に関する基本的事項を習得する。</p>	○	A	知識	
			B	技能
		○	C	論理的思考力
			D	文章・身体・感性等に関する表現力
			E	課題対処力
		○	F	多様性の理解力
			G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素			
			ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		○	イ	ディスカッション、ディベート
		ウ	グループワーク	
	○	エ	プレゼンテーション	
		オ	実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標		授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)		
①	職場におけるストレスの要因、ストレスが心身に悪影響をもたらすメカニズム、及びストレスへの対処法に関する基本的な理解を深める。	目標	A・C・F	
②	長時間にわたる過重な労働が心身に及ぼす影響について医学的観点から理解する。	目標	A・C	
③	職場に桶うメンタルヘルス対策推進のために導入された「ストレスチェック制度」、及び労働者の健康・安全・権利に関する法制度に関する理解を深める。	目標	A・C	
④	働きやすい職場環境と職場風土の醸成（心がおれない職場）について基本的な理解を深める。	目標	F	

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	職場のメンタルヘルス対策（総論）	教科書補足資料1 (パワーポイント使用)	教科書 p. 1～10を事前に読む。
3	今、職場で起こっていること(1) ・ストレスを感じている労働者の増加 ・新卒者の高い離職率	教科書補足資料2 - 1	教科書 p. 1～10を事前に読む。
4	今、職場で起こっていること(2) ・労働者の過労死・等の事例と背景 ・医療・介護・教育・保育・運送業・等の現場での事例と対策 ・労働問題をめぐるキーワード（働き方改革、長時間労働、労働時間は空く義務、安全弁領義務違反、三六協定、過労死、労働災害、サービス残業、残業代未払、非正規雇用、同一労働同一賃金、脱時間給制度、向き癩癩ルール、ハラスメント）	教科書補足資料2 - 2 DVD視聴（30分）「見えない日本の困窮：働いているのに暮らせない」「教師の過労自殺」（映像使用）	教科書 p. 1～10、 p.11～20を事前に読む。
5	今、職場で起こっていること(3) ・各種のハラスメント（パワハラ、セクハラ等）の実態と対策 ・「イクボス宣言」	教科書補足資料2 - 3 (パワーポイント使用)	教科書 p. 1～10を事前に読む。
6	過剰なストレスが及ぼす心身への影響(1) ・心身の異常をきたすメカニズム ・心身のストレス反応の種類	教科書補足資料3 - 1 DVD視聴（45分）「職場とストレス」（映像使用）	教科書 p.11～20を事前に読む。
7	過剰なストレスが及ぼす心身への影響(2) ・働き盛りに多い自殺 ・職場のストレスとストレス対策	教科書補足資料3 - 2 DVD視聴（45分）「自殺とその予防」（映像使用）	教科書 p.11～20を事前に読む。
8	職場で経験されるうつ状態・うつ病の増加 ・うつ病とはどんな病気？ ・「現代型」うつ病 ・うつ病の治療	教科書補足資料4 DVD視聴（15分）「うつ病」（映像使用）	教科書 p.21～30、 p.41～64を事前に読む。
9	うつ病の人の職場復帰 ・職場復帰支援プログラム ・産業保健スタッフの役割 ・産業保健スタッフと事業場外資源との連携	教科書補足資料5	教科書 p.65～76、 p.107～136を事前に読む。
10	(1) 増加する適応障害 — 職場不適応症 (2) 職場で経験される神経症・心身症	教科書補足資料6 DVD視聴（30分）「現代型うつ病」（映像使用）	教科書 p.31～40、 p.77～84を事前に読む。
11	(1) アルコール依存症とうつ病 ・アルコールの心身への影響 ・アルコール依存症の精神薬理学 (2) 不眠による心の病への影響 ・睡眠障害の種類・対策・治療 ・睡眠障害の精神薬理学	教科書補足資料7 DVD視聴（60分）「アルコール依存症」「概日リズムと睡眠」（映像使用）	教科書 p.85～96、 p.157～166を事前に読む。
12	ストレスチェック制度 ・概要、実施の手順、結果の評価と対策	教科書補足資料8	教科書 p.137～146を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	活力ある職場にするために(1) ・「働き方改革」法案の概要 ・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)のとれた働き方とは	教科書補足資料9-1 DVD視聴(60分)「いくらで働く? 賃金の経済学」「同一労働同一賃金ガイドライン」(映像使用)	教科書 p.215~223を事前に読む。
14	活力ある職場にするために(2) ・仕事にやりがい・充実感を得ながら責任を果たすことのできる職場環境と業務体制の構築 ・「心の折れない職場」づくりに不可欠な要素	教科書補足資料9-2 DVD視聴(45分)「なぜ変わらない働き方のジレンマ」(映像使用)	教科書 p.215~223を事前に読む。
15	まとめ		
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①②③④:(1) レポート:レポートは70点満点の祭典とする。課題は授業内容に沿い、興味関心を持った領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (2) その他:授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する(30点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。 (※評価方法の詳細に関しては初回授業時に説明しますが、事前に「本学で学ぶために」に記述されている、7. 授業の出欠と単位認定、8. 授業受講上の留意点、等を熟読してください。)			
教科書		参考書	
書名:職場のメンタルヘルス対策最前線 著者名:中村純 発行所:昭和堂 価格:1,700円(税別)		書名:心が折れる職場 著者名:見波利幸 発行所:日本経済新聞出版社 価格:850円(税別)	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	食生活と健康		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：特任教授 氏名：石川和信		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	聖路加国際病院、山形大学医学部、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、福島県立医科大学、国際医療福祉大学医学部・保健医療学部			
社会貢献としての委員会・職等	厚生労働省医師国家試験委員、医療系大学間共用試験実施評価機構専門部会委員、日本老年医学会高齢者災害医療委員会委員、日本シミュレーション医療教育学会副理事長、日本医学教育学会代議員、日本老年医学会代議員・指導医、日本動脈硬化学会評議員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	医学博士、総合内科専門医、循環器専門医、老年病専門医			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問を受けます。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>平成から令和に入った現在、私たちの社会で問題になっている主要な病気を取り上げ、どのような要因で健康が損なわれていくのかについて、一般教養のレベルで、幅広く理解を深める。</p> <p>超高齢化社会を迎え、病気を抱えながら生活する人々は増加する一方である。授業では、医学的な知識を可能な限り専門用語を使わず解説するので、将来、人と関わる職種に就くに際して有用な教養を獲得できると考えられる。</p> <p>また、生活習慣病と食生活、自分や家族の健康と食生活の2つのテーマについて、自分の興味に沿った課題を設定し、発表内容を学生相互で討論し評価する。</p>	○ A	知識	
		B	技能
	○ C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力	
	○ F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○ イ	ディスカッション、ディベート	
○ ウ	グループワーク		
○ エ	プレゼンテーション		
	オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 私たちの社会で問題になっている主要な病気（健康問題）に関する知識を身につける。	目標	A	
② 生活習慣病に食生活がどのように関わっているかを調査できる。	目標	C・E	
③ 自身や家族の健康と食生活の問題点について考察し発表できる。	目標	C・E・F	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 概要・到達目標・評価について 健康とは？ 栄養の役割は？ 三大栄養素とは？	教科書、スライド グループワークと発表	予習：教科書 chapter 1 & 3 (p 10-18、56-78)
2	高血圧とは？ なぜ悪いのですか？ 食事での塩分量の関わりは？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 5 (p 268-271)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	動脈硬化とは？ メカニズムは？ 体のどこに起こりますか？ コレステロールは悪者ですか？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 3、8 - 4 (p 249 - 267)
4	増え続ける糖尿病 血糖値って？ 全身への影響はどんなもの？ カロリーはどうすればいいのですか？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 2 (p 240 - 248)
5	メタボリックシンドローム どういう人ですか？ メタボ検診とは？ 過体重と肥満はどう違う？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 1 (p 230 - 239)
6	痛風と高尿酸血症 プリン体って何ですか？ 痛風発作って？ 食事はどうすればよいですか？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 6 (p 272 - 277)
7	生活習慣病について考える I 食生活が生活習慣病にどのように関わっているか、 文献・新聞記事・ニュース・Websiteで調べる	グループワーク 課題（テーマ）設定、グループ作業（調査実施計画）	授業1～6回の内容を見返して来てください
8	消化器のしくみ 胃炎・胃潰瘍はストレスで起こる？ 腹痛と下痢を繰り返す過敏性腸症候群とは？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 2 (p 22 - 54)
9	肝臓病について アルコールと肝臓 肝硬変って何？ 脂肪肝と食事との関係は？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 7 (p 278 - 283)
10	生活習慣病について考える II 生活習慣病に食生活がどのように関わっているかについて調べた結果を発表する	課題（テーマ）調査のプレゼンテーション、発表ピア評価、調査レポート提出（各自）	授業7回後、計画的に発表準備を進めて下さい
11	ミネラル・微量元素 イオンバランスって？細胞の中と外との違い 鉄・マグネシウム・亜鉛が足りないとは？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 5 (p 150 - 202)
12	慢性腎臓病について タンパク質やカリウムを制限する食事とは？ 血液透析患者さんの生活とは？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 8 (p 284 - 289)
13	ビタミンの役割 どんなビタミンがありますか？ ビタミンが足りないとどうなりますか？	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 4 (p 96 - 148)
14	がんと栄養 食品に含まれる発がん物質とは？ がん患者さんの栄養 手術で食べられないとき	教科書、スライド 理解を確かめるミニテストと解説	予習：教科書 chapter 8 - 10、8 - 11 (p 293 - 300)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	コースのまとめ 自分自身や家族の健康と食生活についての考察	総合討論(ワークショップ) KJ法、ディベート、プレゼンテーション、個人レポート	予習：授業1～14回を振り返っておく 当日、レポート提出
期末試験	前期末筆記試験	授業1～15の内容から出題します	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①：期末試験(MCQ、一部筆記) 70点 ②：第7、10回の授業(課題調査)への取り組み(レポート、発表内容とスキル、討論) 20点 ③：第15回授業：健康と食生活の問題点への取り組み(レポート、総合労論での質疑) 10点			
教科書			
書名：よくわかる栄養学の基本としくみ 著者名：中屋豊 発行所：秀和システム ISBN978-4-7980-2287-4 価格：2,200円(税別)			
その他補足事項			
幅広く健康と病気についての基本的知識を備え、食事をはじめとするライフスタイルをどうすればよいのかについて学んでおくことは、将来、いろいろな人と接する職業をめざす人の役に立つと思います。			

授 業 科 目 名	英 会 話 I		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 任 講 師 オカンボ メリッサ ブラザ 氏 名 : Ocampo Merissa Braza		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	留 学 研 修 指 導 シンガポール 平成29年— 現 在			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	博 士 (教 育 学) 北 海 道 大 学 大 学 院、教 師 認 可 試 験 (フィリピン) 衛 生 検 査 官 国 家 ボー ド の 検 査 (フィリピン) 言 語 学 習 の 国 際 心 理 学 会 日 本 大 学 英 語 教 育 学 会 (ジャセート) 会 員 全 国 語 学 教 育 学 会 (ジャールト) 会 員 Mind, Brain, and Education JALT SIG			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択 必 修		
開 講 キャンパス	福 島 駅 前 キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フィ ス ア ワー ・ メー ル ア ド レ ス 等	オ フィ ス ア ワー は 初 回 授 業 時 説 明 し ます。 メー ル ア ド レ ス : ocampo.merissa@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>英語の授業で幸福と前向きな心理学を教えることは、生徒の健康を改善するために必要です。アメリカの心理学者、ジェームズによれば、「ストレスに対する最大の武器は、ある考えを別の考えよりも選ぶ能力です」。選択がいつぱいの最近の世界では、明らかに私たち全員が不安やストレスを抱えがちです。このように、このコースは学習者が彼ら自身の精神的健康のケアをする手助けをします。彼らは自分の頭脳の力をどのように高めるかを学びます：前向きで、幸せで、他人や自分自身への思いやりのある人になるということです。</p> <p>さらに、基本的な英語構文や語力を身に付け、英語での自己表現力を高めていきます。そして、童謡を歌うことを通してリスニングと英語の発音に慣れるようにします。授業は、アットホームな雰囲気です。学生の幸福感の促進の方を伝える。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 英語での実践的心理学は、学生を育成することを目的としています。英語で心理学に興味を持ち、最近の問題を国際的に理解するための知識を評価する。	目標	A
② 英語でポジティブ心理学と幸福を高めること。	目標	G
③ 英語劇の発表会を通して英会話力を高めることができる。	目標	A
④ 他の学生やメンタルヘルスの専門家とのコラボレーションを通じて、自己慈悲や前向きな心理学的活動など、さまざまな研究や自己啓発活動を行う能力。	目標	A
⑤ 社会的、文化的理解を深めるために必要な心理的知識の評価。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・一年分の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ Introducing the science of happiness 幸せの科学の紹介	グループリーディング、ディスカッション	タスクシートのコピー
2	Happiness promotion. A cookie and your happiness クッキーとあなたの幸せ	口述とディスカッション	タスクシートのコピー
3	a. Remember good things in your life. Enjoyment makes sense あなたの人生で良いことを忘れないでください。楽しみは理にかなっています	グループリーディング、口述とディスカッション	タスクシートのコピー ア、感覚を説明する エ、過去形
4	b. Remember good things in your life. It feels so good! それはとても良い感じ	グループワークとディスカッション	イ、意見を与えます
5	c. Remember good things in your life. Invisible photo gallery. 幸福感の促進・マインドフル・フォトを用いたポジティブ感情と感謝の増強	グループワーク	物事や経験を説明する
6	d. Remember good things in your life. Smile times 3 plus 3 plus 3 スマイル×3+3+3	グループワークとディスカッション	質問する
7	e. Remember good things in your life. Our positive web ポジティブウェブ	グループワークとディスカッション	形容詞と語彙
8	Gratitude 感謝. Say "thank you" to people who help you. 助けてくれる人に「ありがとう」と言ってください。	グループワークとディスカッション	感謝を表す
9	Someone special 特別な人	グループワークとディスカッション	ポジティブで重要な経験を思い出す
10	My gratitude list. 感謝リスト	グループワークとディスカッション	感謝を表し、理由を与える
11	Take time for friends and family. 友人や家族のために時間をかけてください	グループワークとディスカッション	誰かに感謝する方法は？
12	Cherish, savoring 大切に、味わう Family relationships and personality 家族関係と性格	グループワークとディスカッション	人格の言葉
13	Do good things. 良いことをする。	グループワークとディスカッション	賛辞を与える
14	Random acts of kindness. きまぐれの親切。	グループワークとディスカッション	きまぐれの親切

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	Random acts of kindness. Students' stories. きまぐれの親切。 学生の物語。	グループワークとディスカッション	パーソナライズされた物語を読む、物語、書く
期末試験	前期期末試験		
16	Teaching tolerance, forgiveness, and positive psychology 寛容性・許し・ポジティブ心理学の寛容性を教える	口述、グループワークとディスカッション 配付資料	メタファーを理解すると引用する
17	Take care of your health and your body. 自分の健康と体の世話をすること	口述、グループワークとディスカッション 配付資料	流暢さのドリル
18	The science of laughter, smiling, and exercise. 笑い、笑顔、そして運動の科学。	口述、グループワークとディスカッション 配付資料	聞く、話す練習
19	Mindfulness マインドフルネス・傾聴を通してマインドフルネスを養う	グループワークとディスカッション 配付資料	リスニング、識別音
20	Good things, right now 良いこと、今	グループワークとディスカッション 配付資料	現在系
21	Positive words, meditation ポジティブな言葉、瞑想	口述、グループワークとディスカッション 配付資料	リスニング、良いことに気付く
22	Self-compassion 自己慈悲、哀れみと同情	グループワークとディスカッション 配付資料	私は自分自身に同情することができますか？
23	Loving kindness and compassion meditation 愛情のある優しさと思いやりの瞑想	グループワーク、ワークショップ 配付資料	読書、聞いている
24	Learn to deal with your problems and stress. 自分の問題とストレスに対処することを学ぶ	グループワーク、ワークショップ 配付資料	読書、聞いている
25	Good advice: proverbs and quotes 良いアドバイス：ことわざと引用	グループワーク、ワークショップ 配付資料	過去形、物語
26	Seminar about Positive Psychology in Learning English (invite a speaker) 英語学習におけるポジティブ心理学に関するセミナー(講演者を招待)	招待講演者によるセミナー 生徒にトーク中に学んだことを理解し、分析し、評価させる。	講義を聞いて、その話についてのあなたの印象や意見を書いてください
27	It's All Good: Happiness and Positive Psychology 本当に素晴らしい：幸福と前向きな心	グループワークとディスカッション 配付資料	流暢さ、過去形、現在形

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	Noticing positives and savoring ポジティブに気づき、味わう	グループワークとディスカッション 配付資料	ポジティブな自己反射
29	Engagement and mindfulness エンゲージメントとマインドフルネス	グループワークとディスカッション 配付資料	与え、理解する
30	Relationships, power poses 人間関係づくり、パワーポーズ	グループワークとディスカッション 配付資料	与える、感謝する
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
日標①②③④⑤：前期・後期末試験（各 50%） 日標①②③④⑤：授業への貢献、態度、提出物など（50%） ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行う。 ※英検の対策は英語学習への動機づけの一つとして行う。			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
1. 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可） 2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。			

授 業 科 目 名	英 会 話 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：サインブヤン オドバヤル (本務先：リングイスト語学スクール)	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	特記事項なし		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 メールアドレス：linguist-info protonmail.com		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>皆が楽しんで勉強ができるようグループワークや自主的な課題、国際交流などが多い授業です。</p> <p>英語や海外のことが好きになるような授業です。世界50位内に入るオーストラリアのクイーンズランド大学で強烈な人気を集めている手法で授業を行います。</p> <p>異文化交流、グループワーク、言語学、海外の音楽、映像、ゲスト講師、プレゼンテーション、スピーチなどを含めた授業になります。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 外国語をとっても簡単に習得できるコツを習います。	目標	A
② 海外の人と友達になれるぐらいの英会話力を身につけます。	目標	B
③ 世界のことを知り、日本人以外の76億人に興味を持つようになります。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	英語を簡単に身に着ける為には	PPT、オンライン対戦ゲーム	スマホなど、ネット対戦できる端末、筆記用具
2	初対面の海外の人とする会話	グループワーク	筆記用具 作る、覚える、話す
3	本物の英語の発音とリスニング力を身に付けよう	今はやりの洋楽を使うオンラインゲーム	スマホなど、ネット対戦できる端末
4	1時間で英単語100個覚えられる人間の脳のハッキング	PPT、オンライン対戦、ことばのゲーム	スマホなど、ネット対戦できる端末

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	中学校で習う文法があれば会話に困らない	グループワーク、オンライン課題	宿題ショート作文
6	海外の友達ができた時の英会話	ペアワーク	宿題ショート作文
7	外国人の友達を作りましょう	外国人のゲスト達と交流	宿題ショート作文
8	海外に行った時に絶対に役立つ最低限の英会話	ペアワーク	宿題ショート作文
9	海外の文化を知ろう	PPT、動画、映画のシーン	宿題ショート作文
10	海外のネット友を作ろう	アプリ	スマホ、ネット環境のある端末
11	マイナーな国の文化を知る	PPT、動画	プレゼン準備
12	プレゼンテーション、各グループで	Slideshow	宿題ショート作文
13	日常の中で勉強できる英語	映画、ドラマ、アニメ、歌	宿題ショート作文
14	日常の各場面で出てくる英語	PPT	宿題ショート作文
15	国際交流	外国人のゲスト達と交流	
期末試験	Speaking and QA		
16	前期の総復習	オンラインクイズ対戦	宿題作文
17	ネイティブ並みの発音をゲットしよう	PPT	メモリー課題
18	圧倒的に語彙を増やすコツ 言葉の分類と語源	PPT グループワーク	ショート作文
19	現代の若者が使う英語 スラング	PPT グループワーク	ショート作文
20	ゲームを通して語彙をゲット	パソコンやスマホ	ショート作文
21	英語の美しさに触れる ことわざ 言い伝え	PPT グループワーク	ショート作文
22	プレゼンテーション1 音楽	プレゼン	プレゼン準備
23	外国人と交流しよう	グループワーク	語彙準備
24	Vocabulary Championship	対戦	ショート作文
25	和製英語、ネイティブはどう表現しているの？	PPT、クイズ	プレゼン準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	日本語にはあまりない英語の重要単語	PPT、オンライン課題	図書準備
27	BIBLIO BATTLE	対戦	ショート作文
28	困っている外国人を助ける英語	グループワーク	プレゼン準備
29	プレゼンテーション2 映画	プレゼン	
30	総復習	クイズ	
期末試験	Speaking and QA		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①：宿題ショート作文 1、3、4、5、11、18、20、26回目の受講態度（30点） 目標②：前・後期末試験（50点） 目標③：プレゼンテーション（3回予定） 7、9、10、11、12、15、21、22、23、28、29回目の受講態度（20点） 以上の合計100点で評価する。			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
※受講する学生のレベルや習熟度に合わせて授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	英 会 話 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：高橋了治		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特記事項なし		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		特記事項なし		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北学院大学大学院文学研究科英語英文学専攻博士前期課程修了、文学修士(英文学)、中学・高等学校教諭専修免許状(英語)		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授 業 終 了 後 に 教 室 で 質 問 な ど に 対 応 し ま す 。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
この授業では、英語のスピーキングやリスニングを通して日常生活における基本的な英語表現や英単熟語の習熟を図ります。また、外国の文化や習慣やものの考え方にも注目して異文化理解への関心を深め、場に応じた自己表現を英語で行えるように指導します。	○ A	知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○ D	文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○ F	多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	○ エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① テキストにでてくる基本的な英単熟語を会話で応用できる。	目標	A
② CD音声による英文スクリプトを聞き取って内容の大意を把握できる。	目標	F
③ 様々な状況を想定しながら英語で簡単な自己表現ができる。	目標	D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業内容、評価方法。 授業の進め方と留意点。Self-Introduction など。	授業計画 テキストの使用法	自分なりに英語を学ぶ意義を 考えておくこと
2	Formulaic Expressions and Further Activities (1) 定型表現とライティング(1)	テキスト・CD プリント使用	返却課題の見直し改善
3	Unit 1 Family 家族 Adding information and clarifying comment 情報の追加と明言	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 p.11 ~ 14 意味調べ・聞き取り・音読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	Unit 2 Friends 友達 Cheering people up and offering support 人を励まし支える	テキスト・CD プリント使用	Unit 2 p.15 ~ 18 意味調べ・聞き取り・音読
5	Unit 3 Culture 文化 Asking for agreement and showing agreement 念を押ししたり意思を示す	テキスト・CD プリント使用	Unit 3 p.19 ~ 22 意味調べ・聞き取り・音読
6	Unit 4 Education 教育 Talking about what's possible and impossible できること、できないことを話し合う	テキスト・CD プリント使用	Unit 4 p.23 ~ 26 意味調べ・聞き取り・音読
7	Formulaic Expressions and Further Activities (2) 定型表現とライティング・発表(2)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
8	Unit 5 Sports スポーツ Asking if someone is serious and adding afterthoughts 発言内容の確認と訂正	テキスト・CD プリント使用	Unit 5 p.27 ~ 30 意味調べ・聞き取り・音読
9	Unit 6 Work 仕事 Positive emphasis and unfortunate events よい知らせや悪い知らせの伝え方	テキスト・CD プリント使用	Unit 6 p.31 ~ 34 意味調べ・聞き取り・音読
10	Unit 7 Food 食事 Asking and explaining why something happened 理由を尋ねる	テキスト・CD プリント使用	Unit 7 p.35 ~ 38 意味調べ・聞き取り・音読
11	Formulaic Expressions and Further Activities (3) 定型表現とライティング・発表(3)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
12	Unit 8 Studying English 英語学習 Giving mixed answers and strong statements どっちつかずの答え方とはっきりした答え方	テキスト・CD プリント使用	Unit 8 p.39 ~ 42 意味調べ・聞き取り・音読
13	Unit 9 Health 健康 Thanking someone and responding to thanks 感謝の伝え方と受け取り方	テキスト・CD プリント使用	Unit 9 p.43 ~ 46 意味調べ・聞き取り・音読
14	Unit 10 Clothes 服装 Admitting and denying things 肯定の仕方と否定の仕方	テキスト・CD プリント使用	Unit 10 p.47 ~ 50 意味調べ・聞き取り・音読
15	Unit 1 ~ 10 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	理解不足の項目について復習をしておく
期末試験	前期末試験		
16	Formulaic Expressions and Further Activities (4) 定型表現とライティング・発表(4)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
17	Unit 11 Traveling 旅行 Returning a favor and saving money 親切のお返しと節約	テキスト・CD プリント使用	Unit 11 p.51 ~ 54 意味調べ・聞き取り・音読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	Unit 12 Music 音楽 Making direct and indirect requests 要望の伝え方	テキスト・CD プリント使用	Unit 12 p.55 ~ 58 意味調べ・聞き取り・音読
19	Unit 13 Movies 映画 Talking about what people are saying and not saying 発言内容の報告	テキスト・CD プリント使用	Unit 13 p.59 ~ 62 意味調べ・聞き取り・音読
20	Unit 14 shopping 買い物 Giving and choosing options 選択肢を与える・選択する	テキスト・CD プリント使用	Unit 14 p.63 ~ 66 意味調べ・聞き取り・音読
21	Formulaic Expressions and Further Activities (5) 定型表現とライティング・発表(5)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
22	Unit 15 Internet インターネット Expressing and dealing with worries 悩みを打ち明ける・対処する	テキスト・CD プリント使用	Unit 15 p.67 ~ 70 意味調べ・聞き取り・音読
23	Unit 16 Weather 天気 Asking for a comment and making balanced comments コメントを求める・する	テキスト・CD プリント使用	Unit 16 p.71 ~ 74 意味調べ・聞き取り・音読
24	Unit 17 Feelings 感情 Confident statements and uncertain statements 確定した事柄や不確定な事柄を述べる	テキスト・CD プリント使用	Unit 17 p.75 ~ 78 意味調べ・聞き取り・音読
25	Formulaic Expressions and Further Activities (6) 定型表現とライティング・発表(6)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
26	Unit 18 Government 政治 Persuading with negative questions 否定疑問文で説得する	テキスト・CD プリント使用	Unit 18 p.79 ~ 82 意味調べ・聞き取り・音読
27	Unit 19 Art 芸術 Talking about what we can and can't imagine 想像したことを話し合う	テキスト・CD プリント使用	Unit 19 p.83 ~ 86 意味調べ・聞き取り・音読
28	Unit 20 The Future 未来 Talking about similar experiences 似た経験について話し合う	テキスト・CD プリント使用	Unit 20 p.87 ~ 90 意味調べ・聞き取り・音読
29	Formulaic Expressions and Further Activities (7) 定型表現とライティング・発表(7)	テキスト・CD プリント使用	既習項目の確認と返却プリントの見直し改善
30	Unit 11 ~ 20 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	理解不足の項目について復習をしておく
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標① : 期末試験 (50%)
目標②③ : 授業内課題の提出 (30%)
目標②③ : 授業への貢献、意欲など (20%)

教科書

書名 : English Listening and Speaking Patterns 3
著者名 : Andrew E. Bennet
発行所 : 南雲堂
価格 : 2,000 円 (税別)

その他補足事項

1. 授業には英和辞典を持参してください。(電子辞書可)
2. 授業の実施状況によって、進度が変わることがあります。
3. 教科書以外で教材が追加されることがあります。

授 業 科 目 名	国 際 理 解 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：客員教授 氏名：坂本恒夫		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社外取締役（2000～2003年、2003～2006年）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム 会長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	明治大学大学院博士後期課程（経営学博士）博士 日本経営学会、日本経営財務研究学会、証券経済学会、日本経営分析学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後、研 究 室 で 説 明 す る。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>本科目では、個別の国の概要について具体的に説明していきます。最初に、歴史を説明し、その国の現状を解説した後、抱えている課題について詳しく述べていきます。</p> <p>特に、日本との関係およびその交流の歴史について勉強します。</p>	○ A	知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力
	○ F	多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○ イ	ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
○ エ	プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 国際的な現状の理解を深め、多様性、応用力を身に着けます。	目標	A・F
② 各国の抱えている課題を説明し、今、世界で何が起きているかを理解します。	目標	A・E
③ 日本との関係を深く分析し、その国に対しての日本の付き合い方について考えます。	目標	A

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び、授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 方 法 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業進め方の留意点	講義 配付資料	
2	第1章 イギリス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
3	第2章 フランス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	第3章 オーストラリア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
5	第4章 ニュージーランド (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
6	第5章 アメリカ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
7	第6章 アジア諸国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
8	第7章 中国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
9	第8章 台湾 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
10	第9章 香港 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
11	第10章 韓国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
12	第11章 マレーシア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
13	第12章 タイ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
14	第13章 シンガポール (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
15	第14章 まとめとディスカッション	講義 配付資料	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	前期末試験（レポート形式）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に依る到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：レポート50点 目標①③：ディスカッションの参加度50点			
教科書			
使用しない。			

授業科目名	国際理解演習 (シンガポール)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：中丸 一志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	株式会社ナカノフドー建設 建築施工管理10年 建築設計及び工事監理24年			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	日本大学工学部 工学士 一級建築士、設備設計一級建築士、一級施工管理技士、宅地建物取引士 建築学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：nakamaru.kazushi fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。 また、それについての個別指導も行う。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	<input type="radio"/> エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 集団行動に関するマナーの取得、旅行計画の立案等を学習できる。		目標 A
② ホスピタリティとインバウンド、イノベーションを学ぶことができる。		目標 A
③ 各自の興味ある分野（ビジネス、観光、デザイン、建築など）を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。		目標 F・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法) 及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的 シンガポールの歴史 (歴史・人種・言語)	授業計画 配付資料 インターネット検索	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポールの地理・気候・経済・産業 (貿易・観光)	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの街並みと建築・交通事情	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	シンガポールの食文化 入国手続き他事前準備・現地の法律について	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査
5	現地での行動について（渡航前の最終確認） 各グループ旅程プレゼンテーション	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査
6	現地体験(1)／1コマ 飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項の確認 （移動バス内）飛行機搭乗（羽田＝SG）	シンガポール研修の実施 （2021年2月21日～26日6日間予定）全体及び個別指導	シンガポールの調査
7	現地体験(2)／1コマ ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マライオンパーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
8	現地体験(3)／2コマ ニューウォータービクターセンター視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
9	現地体験(3)／2コマ 各自のテーマによる自主研修①	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
10	現地体験(4)／2コマ 各自のテーマによる自主研修①	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
11	現地体験(4)／2コマ 各自のテーマによる自主研修①	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
12	現地体験(5)／2コマ 各自のテーマによる自主研修②	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
13	現地体験(5)／2コマ 各自のテーマによる自主研修②	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
14	現地体験(6)／2コマ 各自のテーマによる自主研修③	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
15	現地体験(6)／2コマ 各自のテーマによる自主研修③	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
期末試験	最終レポート発表	プレゼンテーションの評価・指導	プレゼンテーションの練習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③：事前レポート20点、最終レポート40点で評価する。</p> <p>目標①③：団体行動・グループの在り方を40点で評価します。</p> <p>※海外研修における所定の全プログラムに出席してください。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションを除く）に出席できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績評価を行います。</p>			

教科書	参考書
使用しません。	使用しません。
その他補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> • シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要になります。 • その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 最少催行人数を10名、最多催行人数を15名程度とする。なお、履修者が10名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が10名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となります。 (2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月下旬より指導を開始とします。 (3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないでください。 	

授 業 科 目 名	国際理解演習 (バリ島) バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：佐 藤 敦 子	開 講 期	半期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学認定こども園園長（平成28年2月～現在）		
社会貢献としての委員会・職 等	日本音楽療法学会東北支部福島県代表、福島市私立幼稚園協会監事、福島県私立幼稚園、認定こども園連合会監事		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本音楽療法学会認定音楽療法士、国立音楽大学教育音楽学科卒業、芸術学士、幼稚園一種免許状取得、明星大学大学院修了修士（教育学）、幼稚園専修免許状取得、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会、日本保育学会所属		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
1. 現地バリ島の研修に参加し、本授業が指定する5つの公式行事に参加する。 2. 音楽や、踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 3. バリ島の文化、芸術、歴史、宗教、教育についての理解を深める。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="checkbox"/>	E 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	F 多様性の理解力
	<input type="checkbox"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="checkbox"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="checkbox"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	ウ グループワーク	
<input type="checkbox"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="checkbox"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける。	目標	F
② 友人と協力しながら、バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、表現力向上、協調性、思いやりを身につける。	目標	D・G
③ バリ島に関する文化、芸術、生活、歴史、宗教、教育の中からテーマを一つ選びレポート提出する。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション（授業の進め方・評価方法他） バリ島研修の目的、意義、概要について ・現地の子どもたちとの交歓交流の内容 ・訪問先の具体的な説明	授業計画資料配付	バリ島の事前学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	バリ島研修のDVD鑑賞 バリ島について （宗教・歴史・芸術・文化・気候風土・人々の生活の様子・現地の治安など） 研究テーマとレポート作成について （研究テーマの仮決定） 渡航手続き	DVD	バリ島の事前学習
3	交流の練習(1) 交流の選曲	資料配付 ダンスの練習	〃
4	交流の練習(2) ダンスの振り付け	ダンスの練習	〃
5	交流の練習(3)	〃	〃
6	研修旅行の実施（1日目） ・飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項確認（移動バス内で実施） ・飛行機搭乗（成田＝バリ島）	バリ島海外研修の実施 2020年8月23日～28日〔4泊6日〕予定 全体および個別指導	現地での学習・研究
7 8	研修旅行の実施（2日目） ・ハラパン幼稚園での歓迎式典、園児との交歓交流、自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学 ・現地での文化視察（美術館、寺院見学）	〃	〃
9 10	研修旅行の実施（3日目） ・タガス村での歓迎式典、子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス、ガムラン楽器体験 ・タガス村でのバリダンスレッスン受講、ケチャックダンス鑑賞	〃	〃
11 12	研修旅行の実施（4日目） ・ケランビタン宮殿での子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス ・ケランビタン宮殿でのバリダンスレッスン受講 ・ケランビタン宮殿でのバリ衣装体験	〃	〃
13	研修旅行の実施（5日目） ・デブダンショーを鑑賞	〃	〃
14	研修旅行の実施（6日目） 日本への帰国準備、バリ島からの出国準備 空港・飛行機でのマナー（ホテル・移動バス内で実施）	〃	〃
15	事後指導 反省会・レポート作成指導		

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③：現地での公式プログラム参加（50点）

（真剣に参加したか、交流の仕上がりはどうか、友人と協調していたか、子どもたちと積極的に交流していたか、交流先でのエチケット・マナーは良かったか、健康管理は保たれていたかなど）

目標①②③：交流のためのダンスレッスン参加（12点）

（積極的に参加していたか、アイデアは出していたか、お互いに協力し合っていたかなど）

* 1回欠席につき2点減点

目標②：事前指導への参加態度（10点）

（積極的に参加していたか、注意事項を聞いていたか、持参品をきちんと準備できていたか、書類の提出はなされていたかなど）

* 1回欠席につき2点減点

目標③：空港や機内、渡航中のマナー（8点）

（本学の学生としての品位は保たれていたかなど）

目標③：最終レポートの内容（20点）

※海外研修における現地研修・公式プログラムについては、体調不調もしくは病気・怪我等で所定のプログラムに参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点とする。

その他補足事項

1. 履修届は指示された日時までに行うこと。
 2. 渡航手続き、交歓交流の練習等については、授業時間外に実施する。
* 夏期休業期間に実施する場合もある。
 3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週1～2回程度行う。（放課後等に実施）
 4. 渡航手続きは、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。
* 夏期休業期間に実施する場合もある。
 5. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。
（現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい）
 6. 各自の健康状態を把握する必要上、健康チェックの用紙を提出してもらう。
 7. 研修旅行中、常備薬や医師からの薬が必要と思われる場合は、各自の責任において薬を持参すること。
 8. 現地での体調管理については、最大限のサポートをするが、自己管理、自己責任とする。
 9. 団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。
（現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする）
 10. 海外旅行保険付保が必要な要件の他、ご家族からの「承諾書」が必要となる。
 11. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合がある。
 12. 最小催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。
- ※海外研修の実施にあたり、自然災害、国際情勢（テロ等）や、鳥インフルエンザが発生した場合、または新型コロナウイルス感染症による肺炎が終息しない場合等、十分な安全を確保できないと判断した場合については、海外研修の実施を中止、または延期する場合がある。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼担准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士 (スポーツ科学) 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本スポーツ協会公認バレーボール指導員 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 メールアドレス：shimada.takahiro fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>前半はバレーボールのルールを理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。</p> <p>後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。	目標	B
② コンビネーションやフォーメーションなどの戦術的理解を深める。	目標	A・B・E
③ チームづくりやチームワークを学ぶ。	目標	A・E
④ バレーボールのルールやコートマナーを学ぶ。	目標	A・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	バレーボールの用語を予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能①サーブとレシーブ (サーブを中心に)	グループワーク	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能②サーブとレシーブ（レシーブを中心に）	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基本技能③パスの技術と動き（オーバーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基本技能④ パスの技術と動き（アンダーハンドパスを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基本技能⑤ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ミートを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基本技能⑥ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ステップを中心に） 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割（ローテーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割（ポジションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ディフェンスの戦術① サブレシーブフォーメーション（5人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ディフェンスの戦術② サブレシーブフォーメーション（3～4人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション（マンアップフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション（マンダウンフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション（クイックを絡めたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション（移動を加えたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
講 評			
授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に应ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標① : 技能テスト 30点 目標②④ : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点 目標③④ : 授業参加時の態度 （コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点 目標①②③④ : 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p> <p>以上、合計100点で評価する。</p>			
教 科 書			
使用しない。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（体育館用のスポーツシューズであれば可） ・授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリ類の着用は認めない。 爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。 長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。 服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。 			

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (卓 球)	授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 技 ・ 1 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 非 常 勤 講 師 氏 名 : 宮 崎 利 勝 (本 務 先 : 仙 台 大 学 職 名 : 講 師)	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	20 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特 記 事 項 な し		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑 波 大 学 大 学 院 (体 育 学 修 士) 日 本 体 育 学 会 日 本 バ イ オ メ カ ニ ク ス 学 会 日 本 陸 上 競 技 学 会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	5 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後 に 教 室 で 質 問 等 に 対 応 メ ー ル ア ド レ ス : ts-miyazaki sendai-u.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>主に試合形式を中心に実施する。前半では基本技術の習得やルールなどについて内容を展開していく。試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得する。</p> <p>また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようにする。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① ゲームを通じ、実戦に用いられる基本的技能を習得する。	目 標	B
② ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。	目 標	A・B
③ ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。	目 標	G
④ ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。	目 標	A

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 シラバス持参	シラバスを熟読しておくこと
2	基礎技術① 各打法の紹介、ラケットの握り方、簡易ゲームの実施	グループワーク	用語やルールについて予習すること
3	基礎技術② 打球時の基本姿勢、フォアハンド、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	基礎技術③ バックハンド、バックショート、裏面打法、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基礎技術④ フットワーク、前後左右への動き、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基礎技術⑤ 各種サーブとレシーブの紹介1、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基礎技術⑥ 各種サーブとレシーブの紹介2、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	ゲームの方法 シングルス① シングルの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	ゲームの方法 シングルス② 正規のルールによる審判法を解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	ゲームの方法 ダブルス① ダブルスのフォーメーションについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	ゲームの方法 ダブルス② ダブルスの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	競技としての卓球を知る	視聴覚教材(45分程度)を用いて、戦術やルールを理解させる。	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ゲーム トーナメント形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ゲーム トーナメント形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ゲーム トーナメント形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	ゲーム リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	ゲーム リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	ゲーム リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	まとめ 基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価(サーブ レシーブ 各打法) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）
目標①②：技能テスト 30点 目標②④：試合中の観察評価（ルール・戦術理解） 30点 目標③：授業への意欲態度 40点 出欠状況により減点する場合がある
教科書
使用しない。
その他補足事項
服装はスポーツウェア上下を必ず着用すること。着用していない場合は出席を認めない場合がある。 屋内用運動シューズを持参すること。 ラケットについては毎時貸し出す予定。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (バドミントン)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 本 かなめ 要	開 講 期	通年
		授 業 回 数	20回
		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし	
社会貢献としての委員会・職 等		日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員 (2004年まで6年間) 全国私立短大体育大会運営委員競技副委員長、テニスの部競技委員長 (日本私立短期大学協会 体育研究委員会委員在籍中) 国見町子ども・子育て支援推進協議会委員 (2015年まで2年間)	
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		日本体育大学体育学部健康学科卒業 学士 (体育学) 日本体育大学体育専攻科修了 (高等学校教諭1級免許状取得) 中学・高等学校教諭1級免許状 (保健体育) 衛生管理者証 スキー2級 (SAJ)、柔道初段 (講道館) パラグライダーパイロット技能証 (JHF) スクーバダイビングOW (DACS、CMAS) 日本応用心理学会会員、日本ブリーフセラピー協会会員	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		教養教育科目	必修
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 メールアドレス：f.kaname fuushima-college.ac.jp	

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。</p> <p>また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。</p> <p>5つのフライトの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○ ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	○ オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① バドミントンのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。	目標	A・B
② ドライブ、ハイクリア、サービスなどの基本技能ができる。	目標	B
③ 戦術を工夫し、試合で生かすことができる。	目標	B・E
④ トーナメントやリーグ戦などの組み立てができ、仲間と試合を楽しめる。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義 授業計画(シラバス)持参	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		バドミントンの用語を予習してくる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方) 		ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する 	グループワーク	ダブルスのルールを予習してくる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク> 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルのルールを理解する ・審判法 	グループワーク	シングルのルールを予習してくる。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能テスト		課題としている技能を練習しておく。

講 評

授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③ : 技能テスト 30点

目標E : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解） 30点

目標③④ : 授業参加時の態度

（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況） 30点

目標①②③④ : 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点で評価する。

教 科 書

使用しない。

その他補足事項

- 服装はスポーツウェア上下、バドミントンシューズ（屋内用のスポーツシューズであれば可）
- 授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリー類の着用は認めない。
爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。
長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。
服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (ジャズダンス)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：佐藤 香 (本務先：発達支援事業所 キッズスペースキャン 職名：理事長/キャン ダンススタジオ 職名：代表/フィジカルムーブメント専門学校 職名：校長)		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	キャンダンススタジオを開設、指導（平成元年～現在に至る）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県生涯学習審議会委員（平成16年～平成18年）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島ドレスメーカー学院 デザイナー科卒業 健康運動指導士 保育士 肥満予防健康管理士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス(まちなか宝生園)	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問などに対応します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>前半はダンスを踊るための基本である体づくりや、リズムによって踊るためのリズムトレーニングなど基礎技術の習得を図る。また、体を上手に使うための骨格への意識（アライメント）や呼吸と動きなどの理解も深める。</p> <p>後半はそれを元に、フレーズから徐々に、一連の流れのある動きをマスターし、パートナーワークやグループワークを通し自分たちで創作できるようにする。</p>	○ A	知識	
	○ B	技能	
		C	論理的思考力
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力	
	○ F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
○ ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション	
○ オ	実習・フィールドワーク		
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 自分の体への意識やそのコントロールの仕方を身に着ける	目標	A・B	
② それぞれが音楽に合わせて楽しく踊り、表現できる事を目標とする。	目標	E・F	
③ 課題曲に対して表現がマッチしているか、みんなで協力し取り組んでいるかを目標とする。	目標	E	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明		
2	体を動かす準備をしようⅠ ・アライメントチェック (自分の姿勢を確認しよう) ・ストレッチ	現在の自分の姿勢をチェックします。	
3	体を動かす準備をしようⅡ ・ストレッチ ・筋トレ など	グループワーク	正しいアライメント法を身体で表現出来るよう復習してくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	正しい身体の動かし方を学ぶⅠ ・ 上肢の動き ・ 下肢の動き	グループワーク	正しい身体の動かし方の手順を覚えてくる。
5	正しい身体の動かし方を学ぶⅡ ・ ダイナミックな動き ・ スムーズな動き	グループワーク	正しい姿勢、正しい身体の動かし方を復習してくる。
6	リズムの取り方を学ぶ(4ビート) (伝える、合わせる、感じる) ・ U pのリズム ・ ダウンのリズム	グループワーク	U pのリズム、ダウンのリズムを理解、復習してくる。
7	リズムの取り方を学ぶ(8ビート) ・ U pのリズム ・ ダウンのリズム	グループワーク	8ビートの取り方を復習してくる。
8	基本となるステップを学ぶⅠ ・ 下肢を中心としたステップ	グループワーク	各種ステップの名称と動きを覚えてくる。
9	基本となるステップを学ぶⅡ ・ 下肢と上肢の動きの組み合わせ	グループワーク	
10	基本となる下肢、上肢の組み合わせ ・ 音楽に合わせた動き	グループワーク	上肢と下肢の基本動作を復習してくる。
11	ステップのコンビネーションを学ぶⅠ ・ 基本的なコンビネーション	グループワーク	ステップのコンビネーションを復習しておくこと。
12	ステップのコンビネーションを学ぶⅡ ・ 基本的なコンビネーション	グループワーク	
13	ステップのコンビネーションを学ぶⅢ ・ まとめ	グループワーク	
14	動きを構成してみよう ・ 自分で動きを作る リズムに合わせて表現する事の楽しさを体感する ・ リズムに合わせて踊ってみよう	グループワーク	自分で構成した動きを復習してくる。音楽に合わせて正しいステップを踏めるようにしておくこと。
15	リズムに合わせて表現する事の楽しさを体感する ・ 即興で踊ってみよう	グループワーク	
16	ジャズの基本&応用 ・ アイソレーション ・ クロスフロアー	グループワーク	スムーズに動けるようにしておくこと。
17	振付を覚えようⅠ ・ 課題曲を覚える	グループワーク	振付の確認、復習をしてくる。
18	振付を覚えようⅡ ・ 課題曲を覚える ・ 発表	グループワーク	振付の確認、復習をしてくる。
19	グループで課題曲を作る ・ 位置や構成も含める	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	グループで課題曲を完成させる ・位置や構成も含めしっかり覚える	グループワーク	実技試験の練習をしておくこと
期末試験	実技試験 各自での発表、グループでの作品発表		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：技能・知識の習得度 60点、授業への参加態度 30点、授業参加への意欲 10点			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
上履き（厚底でないもの） 上下動きやすい服装 ヨガマットまたはバスタオルなど			

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (サ ッ カ ー)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 技 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 非 常 勤 講 師		開 講 期	通 年
	氏 名 : 原 ^{はら} 隆 ^{たか} 弘 ^{ひろ}		授 業 回 数	20 回
	(本務先:株式会社AC福島ユナイテッド 職名:アカデミーダイレクター)		期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	株式会社AC福島ユナイテッドアカデミー アカデミーダイレクター期間 4 年			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	(一財) 福島県サッカー協会キッズ委員会 委員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東京教育大学体育学部健康教育学科卒業 保健体育科 高等学校教諭専修免許 公益財団法人日本サッカー協会 公認 S 級 コーチ			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択 必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	5 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>サッカーのプレーそれ自体を楽しむ。それを深めるためにボールを「止める」、「蹴る」、「運ぶ」、という基礎技術を身につける。また、原理原則やルールについても理解し、同時に仲間とコミュニケーションを取り、協調してプレーすることの大切さを学ぶ。試合運営の方法や審判法についても学習する。</p> <p>以上のことを学び、身体活動や仲間との活動の楽しさ・重要性を実感してもらい生涯スポーツにつなげる。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	○	ウ グループワーク
	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① サッカーのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。	目標	B
② 戦術的理解を深める。	目標	A・B・E
③ チームづくりやチームワークを学ぶ。	目標	A・E
④ サッカーのルールやマナーを学ぶ。	目標	A・E

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明	講義 授業計画(シラバス)持参	サッカーの用語を予習しておく。
2	<基本練習①> キックの種類(インサイド、インステップ他)、トラップ、ドリブル、1対1、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	<基本練習②> シュートパス～ロングパス、グラウンダーと浮き球のパス、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	<基本練習③> ドリブルとシュート、壁パス他、動きの中でのパス、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	<ディフェンス> ディフェンスの基本(チャレンジ&カバー)、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	<オフェンス> ポジショニングと役割、コンビネーション、パス&ゴールの基本、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	<コンビネーション> 1対1、3対1、4対2、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	<個人技能の確認①> ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	<個人技能の確認②> ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	<個人技能の確認③> ドリブルのタイム計測、リフティングの回数、ミニゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	<ゲーム①> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	<ゲーム②> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	<ゲーム③> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	<ゲーム④> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	<ゲーム⑤> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	<ゲーム⑥> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	<ゲーム⑦> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	<ゲーム⑧> ゲームとフォーメーション、戦術	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	<実技テスト①> ドリブルシュート、リフティング	実技試験	苦手な技能について練習してくる。
20	<実技テスト②> ドリブルシュート、リフティング	実技試験	苦手な技能について練習してくる。
成績評価の講評			
授業終了後、希望者には技能テスト等の講評について説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①：実技テスト 30点 目標②④：試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点 目標③④：授業参加時の態度 （コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点 目標①～④：特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p> <p>以上、合計100点で評価する。</p>			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> • 服装はスポーツウェア上下、グラウンド用シューズ。 • 授業中、ネックレス、ピアスなどのアクセサリ類の着用は認めない。 爪は怪我防止のため、手入れをしておくこと。 長髪はゴムなどで束ねて運動の妨げにならないよう努めること。 服装身だしなみについて、注意を受けた場合はその都度減点する。 			

授 業 科 目 名	福祉心理学 I		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦	開 講 期	前期	
		授 業 回 数	15回	
		期 末 試 験 の 有 無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	精神科専門医として46年間の経験			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 授業終了後に教室で質問などに対応します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師などの資格取得に必要な、人の正常な発達と発達障害、機能不全家族・歪んだ親子関係と虐待、反応性愛着障害、人間の脳と障害の関係などについてと、福祉学と心理学の基礎について学ぶ。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 公認心理師、精神保健福祉士などの国家資格をめざして、発達障害児・者などの心理的ケアと福祉的ケアに必要な福祉心理学の基礎を学ぶ。	目標	A・C・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	正常児の発育と発達 (その1)	資料 (レジュメ) とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
2	正常児の発育と発達 (その2)	資料 (レジュメ) とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
3	言葉と社会性の発達の遅れの8つの原因	資料 (レジュメ) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
4	子どもの発達の遅れを見分けるポイント	資料 (レジュメ) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	子どもと大人の自閉症スペクトラム障害 (ASD)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
6	子どもと大人のアスペルガー症候群	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
7	子どもと大人のADHD (注意欠陥多動性障害)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
8	学習障害 (LD)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
9	反応性愛着障害 (被虐待児症候群)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
10	反応性愛着障害と発達障害との関連	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD: 虐待と発達障害 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
11	てんかん	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD: てんかんの症状と対応 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
12	人間の脳と障害の関係 (その1)	資料 (レジюме) とテキストと脳の模型を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
13	人間の脳と障害の関係 (その2)	資料 (レジюме) とテキストを用いて DVD: 人間の脳と精神障害 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
14	障害児・者の療育指導と家族療法	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
15	障害児・者の心理・社会的治療と福祉的援助	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標①: 期末テストの成績 (40%) と各回の豆テストの成績 (20%) と課題 (レポート・20%)			
教科書			
書名: 機能不全家族 著者名: 星野仁彦 発行所: アートヴィレッジ 価格: 1,600円 (税別)			

授 業 科 目 名	福祉心理学Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：まつ だ 田 る り	開 講 期	後期	
		授 業 回 数	15回	
		期 末 試 験 の 有 無	有	
授業に関する主な実務経験と期間	仙台市児童相談所非常勤嘱託心理判定員（平成14年4月～平成17年3月）、社会福祉法人善き牧者会児童養護施設小百合園非常勤心理士（平成17年6月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ理事（平成24年11月～）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院文学研究科人間科学科心理学専修博士課程前期二年の課程修了（修士（文学））、日本家族心理学会、日本遊戯療法学会、公認心理師、臨床心理士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：matsuda.ruri fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>この授業では、社会の中で人々が安心・安全で幸せな生活を送る支援をするために、心理学的な知識や技術がどのように役立つかを学びます。これまでの社会福祉の歴史、理念、現在の施策、制度などの背景をおさえつつ、どういった支援の場があり、実際にどのような支援が行われているかを学びます。</p> <p>学んだことを、自分のこれまでの経験や報道などで聞きしたことと結びつけて深め、自分が支援をしたい対象はどんな状況にいるどんな人々なのか、より具体的にイメージできるようになってもらえればと思います。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。	目標	A・C
② 福祉の分野やそれぞれの支援対象者への心理支援の必要性とあり方、実践内容を学ぶとともに、課題についても理解する。	目標	A・F
③ 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉心理学の概要について	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
2	社会福祉の展開と心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	生活を支える心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
4	暴力被害者への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
5	高齢者への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
6	障害・疾病のある人への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
7	生活困窮・貧困者への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
8	児童虐待への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
9	子供と親への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
10	認知症高齢者の心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
11	ひきこもり・自殺予防の心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
12	精神障害者への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
13	家族・職員への心理支援	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
14	福祉・介護分野での多職種協働(IPW)と心理職の位置づけ	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
15	IPW実践について	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③：筆記試験40%

目標①②③：キーワードチェック（授業の内容にかかわるキーワードについての問題に答える）15%

目標③：復習ミニレポート45%

教科書

書名：福祉心理学 公認心理師の基礎と実践17

著者名：中島健一

発行所：遠見書房

価格：2,600円（税別）

授 業 科 目 名	福祉心理学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂木 積雄 <small>もてき せきお</small>	職名：教授 氏名：藤原 正子 <small>ふじわら まさこ</small>	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茂木：福島県立医科大学・日本大学医学部・カリフォルニア大学デビス校・国立福島病院・JCHO二本松病院等（39年） 藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター・上田保健所等（18年6月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茂木：「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員、環境省福島地方環境事務所健康管理医 藤原：福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	茂木：福島県立医科大学・医学博士 医師・産業医・認定内科医・産業医・日本内科学会・日本肝臓学会・日本リウマチ学会 藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士・SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会・日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：moteki.sekio fukushima-college.ac.jp fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>WHOは「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義している。健康でその人らしく満たされた生き方について様々な社会的課題（ストレス、子育て、職場のメンタルヘルス、アディクション、障害、疾病、認知症、虐待、貧困、社会参加等）、その治療・予防・生活の質と希望・心理支援について学ぶ。</p> <p>我が国の社会福祉の歴史と現在の制度の概要を学び、福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を学ぶ。各福祉分野における心理支援の重要性と課題を学ぶ。福祉心理学的心理支援の実際を学ぶ。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 健康でその人らしく満たされた生き方について様々な社会的課題、その治療・予防・生活の質と希望について学び、各福祉分野における心理支援の重要性と課題についての理解を深める。	目標	A・E
② 我が国の社会福祉の歴史と現在の制度の概要を学び、福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を理解する。	目標	A・D
③ 福祉心理学的心理支援の実際を理解する。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の概要と目標 評価方法、授業の進め方の留意点 医療職（福祉職、他）に求められるもの 	資料1 (パワーポイント使用)	医療・福祉に関する情報の収集 (新聞記事、等)
2	職場のメンタルヘルス対策（総論） <ul style="list-style-type: none"> 働く人の命を奪う過労死と過労自殺 	資料2 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
3	今、職場で起こっていること(1) <ul style="list-style-type: none"> ストレスを感じている労働者の増加 新卒者の高い離職率 働き方改革 	資料3 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
4	今、職場で起こっていること(2) <ul style="list-style-type: none"> 各種のハラスメント（パワハラ・セクハラ等）の実態と対策 育児と仕事の両立、女性の社会進出 「イクボス宣言」 	資料4 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
5	過剰なストレスが及ぼす心身への影響 <ul style="list-style-type: none"> 働き盛りに多い自殺 職場のストレスとストレス対策 	資料5 DVD視聴（45分）「自殺とその予防」（映像視聴）	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
6	依存症（総論） <ul style="list-style-type: none"> 最近の動向と背景（社会的要因、他） 薬物依存症と行動依存 衝動性障害と強迫性障害、脳内報酬系 	資料6 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
7	アルコール依存症 <ul style="list-style-type: none"> 精神依存と身体依存 治療と支援の阻害要因 	資料7 DVD視聴（30分）「治療・支援への長い道のり」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
8	薬物依存 <ul style="list-style-type: none"> 治療と支援 社会復帰への道 	資料8 DVD視聴（30分）「薬物依存～回復への道」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
9	知的障害者と精神障害者の就労支援 <ul style="list-style-type: none"> 障害者雇用の現状と課題 社会的および福祉的支援 犯罪が繰り返される背景 	資料9 DVD視聴（30分）「居場所があれば立ち直れる～再犯を繰り返す受刑者たち」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
10	医療と介護の現場が抱える課題（総論） <ul style="list-style-type: none"> 高齢者医療 終末期の医療 介護離職、多重介護 	資料10 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
11	医療現場における認知症患者の身体拘束 <ul style="list-style-type: none"> 現状と課題及び防止対策 認知症の理解 高齢者虐待 	資料11 DVD視聴（30分）「認知症への理解」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
12	介護人材不足の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 子育て介護職と働き方改革 	資料12 DVD視聴（30分）「介護人材不足解消のヒント」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	がん患者の医療と社会的支援 ・がん患者が抱える苦痛と課題 ・緩和ケア ・ガンサバイバークラブ（GSC）の活動	資料13 DVD視聴（30分）「がんになっても自分らしく生きる～最新医療と暮らしを考える」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
14	先天性難聴者の現状と課題 ・先天性難聴の原因と予防対策 ・社会的支援と就労	資料14 DVD視聴（30分）「先天性難聴～手話の世界」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
15	児童虐待の現状と課題 ・虐待（死）に至った事例の検討 ・虐待が心身の成長に及ぼす影響 ・子育て支援とゼロ歳児からの虐待防止対策	資料15 DVD視聴（45分）「〇〇、18歳 児童虐待」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
16	後期オリエンテーション 福祉の心	配付資料	配付資料を理解しまとめる
17	社会福祉の展開と心理支援	教科書pp.11-22	学習チェック表を基にまとめる
18	総論：生活を支える心理支援	教科書pp.23-38	学習チェック表を基にまとめる
19	暴力被害者への心理支援	教科書pp.39-50	学習チェック表を基にまとめる
20	高齢者への心理支援	教科書pp.51-66	学習チェック表を基にまとめる
21	障害・疾病のある人への心理支援	教科書pp.67-82	学習チェック表を基にまとめる
22	生活困窮・貧困者への心理支援	教科書pp.83-96	学習チェック表を基にまとめる
23	児童虐待への心理支援の実際	教科書pp.99-112	学習チェック表を基にまとめる
24	子どもと親への心理支援の実際	教科書pp.113-127	学習チェック表を基にまとめる
25	認知症高齢者の心理支援の実際	教科書pp.128-139	学習チェック表を基にまとめる
26	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際	教科書pp.140-152	学習チェック表を基にまとめる
27	精神障害者への心理支援の実際	教科書pp.153-167	学習チェック表を基にまとめる
28	家族・職員への心理支援の実際	教科書pp.168-180	学習チェック表を基にまとめる
29	福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ	教科書pp.181-192	学習チェック表を基にまとめる
30	IPW実践事例報告	教科書pp.193-204	学習チェック表を基にまとめる

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③：レポートは前期・後期各25点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。

その他小テスト等：前期：授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する（25点満点）。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。

後期：毎回振り返りシートを作成し、翌週に再確認する資料とする（25点満点）。

（※評価方法の詳細に関しては初回授業時に説明しますが、事前に、「成績評価への補足的対応措置」を熟読しておいてください。）

教科書

書名：福祉心理学
著者名：中島健一
発行所：遠見書房
価格：2,600円（税別）

参考書

書名：職場のメンタルヘルス対策最前線
著者名：中村純
発行所：昭和同
価格：1,700円（税別）

その他補足事項

授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。

授 業 科 目 名	福祉キャリア研究		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂木 積雄	職名：教授 氏名：日下 輝美	開 講 期	通年
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茂木：福島県立医科大学・日本大学医学部・カリフォルニア大学デイビス校・国立福島病院・JCHO二本松病院・等（39年） 日下：柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茂木：「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員、環境省福島地方環境事務所健康管理医 日下：福島県社会福祉協議会評議員 福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	茂木：福島県立医科大学 医学博士 日下：東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻修了（修士（経営学））、日本地域福祉学会、日本社会福祉学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 茂木積雄 moteki.seki@fukushima-college.ac.jp 日下輝美 kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「公認心理師」の職業及び、資格とその取得方法についての理解を深め、学生がいずれかの専門職に就いたとき、多職種と必要な連携をスムーズにとれるよう、実際に現場で活躍する専門家を招聘して話を聴きます。</p> <p>また、学生個人がより主体的に自分の興味や関心にあった進路選択をできるよう支援していきます。</p> <p>キャリア・ポートフォリオを各自が自宅や授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の一年間の変化、成長を確認します。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会人基礎力に対する自己評価ができる。	目標	A・D
② 図書館を活用し、身近な課題や問題（社会問題等も含め）調べる力を身につける。	目標	A・D
③ 各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自己分析を行いプレゼンテーションできるようになる。	目標	D・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉学部で目指すことのできる資格について キャリアデザインを考える(1) 今現在、自分はどんな仕事をしたいと考えているのか	担当：日下 グループワーク	
2	対人援助職として求められる人材像とは ～地域福祉の仕事と求められる人材～ 今回のフィールドワークの連絡	担当：茂木 グループワーク	予習：まちなか宝生園について調べる
3	社会福祉施設訪問 社会福祉施設の社会的役割と相談職・介護職員の仕事を知る「社会福祉法人 まちなか宝生園」	担当：日下 フィールドワーク	復習：課題レポート作成
4	フィールドワークについてグループワーク 社会福祉施設の社会的役割と相談職・介護職員の仕事について	担当：日下 フィールドワーク	復習：授業のまとめ
5	フィールドワークの発表 社会福祉施設の社会的役割と相談職・介護職員の仕事について	担当：日下 フィールドワークの発表 課題レポートの提出	復習：課題レポート作成
6	キャリアデザインを考える(2) 社会福祉士について 社会福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当：日下 DVD「社会福祉士の仕事」(30分) レポート提出	復習：社会福祉士についてレポート作成
7	キャリアデザインを考える(3) 精神保健福祉士について 精神保健福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当：茂木	復習：精神保健福祉士についてレポート作成
8	キャリアデザインを考える(4) 公認心理師について 公認心理師の職域、資格の説明、受験、就職の状況について	担当：茂木	復習：公認心理師についてのレポートの完成
9	図書館を活用し、身近な課題や問題（社会問題等も含め）調べる力を身につける。① (図書館司書の協力を得る)	担当：茂木 ラーニングコモンズ	予習：課題や問題を調べてくる
10	図書館を活用し、身近な課題や問題（社会問題等も含め）調べ・発表する力を身につける。②	担当：茂木 ラーニングコモンズ	予習：振り返り発表のレジュメ作成
11	9・10で学んだ、ラーニングコモンズで学んだ課題についてグループワークを行う ①	担当：茂木	予習：成果発表
12	9・10で学んだ、ラーニングコモンズで学んだ課題についてプレゼンテーションを行う ②	担当：茂木	予習：成果発表
13	キャリアデザインを考える(4) 公務員の仕事について 職域、資格の説明、進学、過去の求人の状況について	担当：日下	復習：公務員について調べる レポート作成
14	キャリアデザインを考える(5) 『社会人基礎力』とは	担当：日下 一般企業人をゲストスピーカーとして招聘	復習：課題レポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	まとめ 自分のキャリアデザインについて考えること	担当：日下	予習：課題レポート提出
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③：期末試験（各30点、平均値） 目標①②③：ディスカッションの発言20点満点、キャリア・ポートフォリオの記述内容20点 目標①②③：レビュー30点満点、総計100点。 本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
本科目は、原則としてクラスセミナーと交互に開講します。ただし、クラスセミナーは、事務局各課の連絡や行事も入るため、本科目の開講週が変わることを予め断わっておきます。			

授 業 科 目 名	アカデミック・スキル演習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通年
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>大学での学びは、自ら課題や問題を見出し、根拠となる資料を基に自ら整理し、考えて、答えを導き出していく力を身につけていくことが求められている。</p> <p>学生の主体的な学びを進めていくための基礎となるレポートや小論文の書き方、プレゼンテーションの方法、情報の探し方、研究テーマの決め方等について学ぶとともに、グループワークを通して、チームの中で役割を果たすことが出来る力を涵養する。</p>	A	知識
	B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力
	E	課題対処力
	F	多様性の理解力
	<input type="radio"/> G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 大学での学び方を理解する。	目標	C
② 基本的なレポートの書き方を身につけ、テーマに沿った内容で書きあげることができるようになる。	目標	C・D
③ チームでの活動を通して、グループの一人として目的達成のために行動できるようになる。	目標	C・D・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 自己紹介	グループワーク	教科書第1章を読む
2	自己理解と他者理解 他己紹介	グループワーク ワークシート	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	大学での講義の受け方、ノートの取り方	講義 グループワーク	教科書第2章を読む
4	情報の調べ方 図書館の活用(グループ1)	グループワーク	教科書第3章を読む
5	情報の調べ方 図書館の活用(グループ2)	グループワーク	教科書第3章を読む
6	情報に対する態度 研究の倫理、コンプライアンス	講義 グループワーク	教科書第3章を読む
7	本を読むということ	講義 グループワーク	教科書第4章を読む
8	レジュメ、レポートの作り方	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
9	レポートの書き方 ①	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
10	レポートの書き方 ②	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
11	卒業研究に向けて 研究テーマの決め方	講義 ワークシート	教科書第5章・第6章を読む
12	グループ研究	グループワーク	グループごとに発表準備を行う
13	グループ発表 ①	プレゼンテーション コメントシートの作成	グループごとに発表準備を行う
14	グループ発表 ②	プレゼンテーション コメントシートの作成	グループごとに発表準備を行う
15	まとめと振り返り 課題レポートの提出	講義	教科書第8章を読む
期末試験	無		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①：随時のリアクションペーパー 10% 目標②：課題レポートの提出と内容の適切性 50% 目標③：グループ発表の充実度と積極的参加 40% 上記の方法で評価する他、授業への参加態度等も含めて総合的に評価する。			
教科書			
書名：アカデミック・スキルズ 第3版 著者名：佐藤望・編著 ほか 発行所：慶應義塾大学出版会 価格：1,100円(税別)			
その他補足事項			
本科目は、1年次クラスセミナーと交互に開講される。詳細な日程に関しては、初回授業またはクラスセミナー時に説明する。 グループワークを中心とした授業を行うため、グループメンバーとの協働の態度が求められる。			

授 業 科 目 名	人体の構造と機能及び疾病		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂 ^{もて} 木 ^き 積 ^{せき} 雄 ^お		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県立医科大学、日本大学臨床病理学教室、カリフォルニア大学デイビス校臨床免疫学教室、国立福島病院内科他（40年）			
社会貢献としての委員会・職 等	「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員 環境省福島地方環境事務所健康管理委			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島県立医科大学・医学博士 医師、産業医、認定内科医 日本内科学会、日本肝臓学会、日本リウマチ学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会福祉士、精神保健福祉士および心理関係専門職として医療・保健・福祉・教育および産業保健などの種々の現場で就業する際に、チーム医療の一員として専門性を如何なく発揮し、患者・家族・等を心理学的側面からの確で効果的に支援する上で必須となる、ヒトの体と医学的知識に関する概要の理解に努める。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 医療の現場で比較的高頻度にみられる疾患の種類、原因及び病像について自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A
② 社会的に問題となっている医学や医療の状況についての原因や対策などを考える上で必須となる知識を習得する。	目標	C
③ 疾病に関する理解を深めることにより、疾病を抱える患者及び家族が直面している様々な問題点を系統的及び論理的に把握するための基礎を習得する。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化	教科書補足資料1	教科書P1～24を事前に読む。
3	第2章 身体構造と心身の機能(1) 身体部位の名称 各器官の構造と機能(1)	教科書補足資料2-1	教科書P25～33を事前に読む。
4	第2章 身体構造と心身の機能(2) 各器官の構造と機能(2)	教科書補足資料2-2	教科書P34～52を事前に読む。
5	第3章 疾病の概要(1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍	DVD視聴「メタボリック症候群」(映像利用)	教科書P53～P60を事前に読む。
6	第3章 疾病の概要(2) 脳血管疾患	DVD視聴「脳梗塞」(映像利用)	教科書P61～65を事前に読む。
7	第3章 疾病の概要(3) 心疾患 高血圧	DVD視聴「心筋梗塞」(映像利用)	教科書P66～71を事前に読む。
8	第3章 疾病の概要(4) 糖尿病と内分泌疾患	DVD視聴「糖尿病の最新治療」(映像利用)	教科書P72～75を事前に読む。
9	第3章 疾病の概要(5) 呼吸器疾患 消化器疾患	DVD視聴「慢性閉塞性肺疾患」(映像利用)	教科書P76～79を事前に読む。
10	第3章 疾病の概要(6) 消化器疾患	DVD視聴「出血性胃潰瘍の内視鏡的治療」(映像利用)	教科書P80～83を事前に読む。
11	第3章 疾病の概要(7) 血液疾患と膠原病	教科書補足資料3	教科書P84～P86を事前に読む。
12	第3章 疾病の概要(8) 腎臓疾患	教科書補足資料4	教科書P87～P90を事前に読む。
13	第3章 疾病の概要(9) 泌尿器疾患	DVD視聴「尿失禁」(映像利用)	教科書P91～94を事前に読む。
14	第3章 疾病の概要(10) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	DVD視聴「白内障と緑内障」(映像利用)	教科書P95～102を事前に読む。
15	第3章 疾病の概要(11) 感染症	DVD視聴「インフルエンザ」(映像利用)	教科書P103～106を事前に読む。
16	第3章 疾病の概要(12) 神経疾患と難病 先天性疾患	DVD視聴「ALS(筋委縮性側索硬化症)」(映像利用)	教科書P107～116を事前に読む。
17	第3章 疾病の概要(13) その他の高齢者に多い疾患	DVD視聴「摂食嚥下障害」(映像利用)	教科書P117～128を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	第4章 障害の概要(1) 視覚障害 聴覚障害	DVD視聴「障害者ランナー・リオへの道」(映像利用)	教科書P129～136を事前に読む。
19	第4章 障害の概要(2) 平衡機能障害 肢体不自由	教科書補足資料5	教科書P137～145を事前に読む。
20	第4章 障害の概要(3) 内部障害 知的障害	教科書補足資料6	教科書P146～151を事前に読む。
21	第4章 障害の概要(4) 発達障害	DVD視聴「発達障害」(映像利用)	教科書P152～155を事前に読む。
22	第4章 障害の概要(5) 認知症	DVD視聴「アルツハイマー病」(映像利用)	教科書P156～161を事前に読む。
23	第4章 障害の概要(6) 高次機能障害 精神障害	DVD視聴「脳血管障害」(映像利用)	教科書P162～172を事前に読む。
24	第5章 リハビリテーションの概要(1) リハビリテーションとは リハビリテーションにおける障害評価	教科書補足資料7	教科書P173～182を事前に読む。
25	第5章 リハビリテーションの概要(2) リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションにかかわる専門職 リハビリテーションの4つの側面	教科書補足資料8	教科書P183～192を事前に読む。
26	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷 心身機能と身体構造・活動・参加の概念 背景因子 健康状態と生活機能低下の概念	教科書補足資料9	教科書P193～203を事前に読む。
27	第7章 健康のとりえ方(1) 健康の概念とプライマリヘルスケア 日本の人口統計 人口の高齢化と家族	教科書補足資料10	教科書P204～217を事前に読む。
28	第7章 健康のとりえ方(2) 国民健康づくり対策 感染症対策	教科書補足資料11	教科書P218～224を事前に読む。
29	第7章 健康のとりえ方(3) 産業保健 歯科保健	DVD視聴「うつ病の治療」(映像利用)	教科書P225～231を事前に読む。
30	まとめ	教科書補足資料12	教科書既習内容ポイントを再確認
期末試験	後期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③：

- (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施
- (2) レポート レポートは30点満点の祭典とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。
- (3) その他 授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。

教科書

書名：新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病
著者名：社会福祉士養成講座編集委員会
発行所：中央法規
価格：2,200円（税別）

その他補足事項

授業の進捗度、等により、授業内容を変更する場合があります。

授 業 科 目 名	精神疾患とその治療 精神医学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次 (旧カリ) 4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	精神科専門医として46年間の経験			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 授業終了後に教室で質問などに対応します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、 診断、治療についての理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神医学・精神医療の歴史を理解する。	目標	A
② 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。	目標	A
③ 精神医学の概念について理解する。	目標	A・C
④ 精神医学診断の基本的な方法について理解する。	目標	A
⑤ 代表的な精神障害について理解する。	目標	A・F
⑥ 治療の概要について理解する。	目標	A・C
⑦ 病院精神医学および地域精神医学について理解する。	目標	A・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 1～p. 7予習 当日レクチャーの復習
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 9～p.18予習 当日レクチャーの復習
4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとらえ方	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.19～p.25予習 当日レクチャーの復習
5	心理検査（知能検査、性格検査、身体的検査）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.27～p.43予習 当日レクチャーの復習
6	認知症その他の器質性精神障害（脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.59～p.71予習 当日レクチャーの復習
7	統合失調症（精神分裂病）	ビデオ供覧『統合失調症を理解する』（30分）	次週予定のテキスト p.86～p.100予習 当日レクチャーの復習
8	気分（感情）障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.100～p.110予習 当日レクチャーの復習
9	神経症（不安障害）、不安神経症（パニック障害）、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
10	ストレス関連障害、PTSD（心的外傷後ストレス障害）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.123～p.126予習 当日レクチャーの復習
12	パーソナリティ障害（境界性、自己愛性、反社会性、演技性パーソナリティ障害）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.137～p.150予習 当日レクチャーの復習
13	知的障害（精神遅滞）、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.150～p.164予習 当日レクチャーの復習
14	ADHD（注意欠陥・多動性障害）、LD（学習障害）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.165～p.172予習 当日レクチャーの復習
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
期末試験	前期末試験		
16	摂食障害（拒食症と過食症）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.127～p.132予習 当日レクチャーの復習
17	性同一性障害、異常性愛（性的倒錯）、ED（勃起障害）	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	各種依存症、嗜癖行動（ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習
19	多重人格、解離性障害、憑依（つきもの）状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.120～p.123予習 当日レクチャーの復習
20	児童虐待、被虐待児童候群	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
21	睡眠障害（睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.132～p.137予習 当日レクチャーの復習
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168予習 当日レクチャーの復習
23	アダルトチルドレン（機能不全家族に育った人）、共依存症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.173～p.186予習 当日レクチャーの復習
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.250～p.265予習 当日レクチャーの復習
26	薬物乱用と薬物依存（覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習
27	夫婦間暴力（ドメスティック・バイオレンス）、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST,家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.214～p.230予習 当日レクチャーの復習
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.187～p.205予習 当日レクチャーの復習
30	精神医学に関する各種法令	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.295～p.318予習 当日レクチャーの復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③④⑤⑥⑦：毎回の豆テスト40%、期末試験60% 詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名：精神疾患とその治療 第6版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所：へるす出版 価格：2,800円（税別）			

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 助 教 氏 名 : 松 田 る り		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	仙台市・宮城県スクールカウンセラー（平成11年4月～令和2年3月）、宮城県総合教育センターりんくるみやぎ不登校・発達支援心理相談員（平成24年4月～令和2年3月）、仙台市児童相談所非常勤嘱託心理判定員（平成14年4月～平成17年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	宮城県発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業専門家チーム委員（平成21年4月～平成24年3月）			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院文学研究科人間科学科心理学専修博士課程前期二年の課程修了、修士（文学）、日本家族心理学会、日本遊戯療法学会、公認心理師、臨床心理士			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：matsuda.ruri fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>発達心理学は、生涯を通しての人の変化を見ていく学問です。人が抱えている問題を理解し支援するためには、その人の現在の姿だけではなく背景を見ていくこと、つまり、育ってきた環境や経過を知ろうとすることが必要になります。そのためには、人の発達段階の特徴や課題を理解しておくこと、認知や感情、自己といった人間の機能の発達の様相を理解しておくことが大切です。</p> <p>発達について学ぶことは、自分自身をも振り返り見直すきっかけになります。学びを通して自分への理解を深め、他者にどう関わるかを考える一助としてもらえればと思います。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① それぞれの発達段階における特徴について理解し説明ができる。	目標	A・F
② 認知機能や感情・社会性の発達について理解し説明ができる。	目標	A・F
③ 想定される事例や概念について、授業で学んだ知識を用いながら考え意見をまとめられる。	目標	C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 発達心理学とは	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	発達の生物学的基礎	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
3	感覚と運動の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
4	アタッチメントとその発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
5	認知の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
6	社会性の発達、心の理論	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
7	感情の発達と自己	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
8	対人関係の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
9	ことばと思考の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
10	青年期の発達と心理的な特徴①自己認知	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
11	青年期の発達と心理的な特徴②アイデンティティと対人関係	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
12	成人期の発達と心理的な特徴	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
13	老年期の発達と心理的な特徴	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
14	定型発達と非定型発達① 非定型発達についての基礎的な知識及び考え方を学ぶ	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
15	定型発達と非定型発達② 起こりやすい困難や支援方法について考える	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：筆記試験40% 目標①②③：キーワードチェック（授業の内容にかかわるキーワードについての問題に答える）15% 目標③：復習ミニレポート45%			
教科書			
書名：発達心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ12） 著者名：林創 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円（税別）			

授 業 科 目 名	発達心理学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：まつ だ 田 る り		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	仙台市・宮城県スクールカウンセラー（平成11年4月～令和2年3月）、宮城県総合教育センターりんくろみみやぎ不登校・発達支援心理相談員（平成24年4月～令和2年3月）、仙台市児童相談所非常勤嘱託心理判定員（平成14年4月～平成17年3月）			
社会貢献としての委員会・職等	宮城県発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業専門家チーム委員（平成21年4月～平成24年3月）			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院文学研究科人間科学科心理学専修博士課程前期二年の課程修了、修士（文学）、日本家族心理学会、日本遊戯療法学会、公認心理師、臨床心理士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：matsuda.ruri fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>発達心理学は、生涯を通しての人の変化を見ていく学問です。人が抱えている問題を理解し支援するためには、その人の現在の姿だけではなく背景を見ていくこと、つまり、育ってきた環境や経過を知ろうとすることが必要になります。そのためには、人の発達段階の特徴や課題を理解しておくこと、認知や感情、自己といった人間の機能の発達の様相を理解しておくことが大切です。</p> <p>発達について学ぶことは、自分自身をも振り返り見直すきっかけになります。学びを通して自分への理解を深め、他者にどう関わるかを考える一助としてもらえればと思います。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① それぞれの発達段階における特徴について理解し説明ができる。	目標	A・F
② 認知機能や感情・社会性の発達について理解し説明ができる。	目標	A・F
③ 想定される事例や概念について、授業で学んだ知識を用いながら考え意見をまとめられる。	目標	C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 発達心理学とは	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
2	発達の生物学的基礎	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	感覚と運動の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
4	アタッチメントとその発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
5	認知の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
6	社会性の発達、心の理論	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
7	感情の発達と自己	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
8	対人関係の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
9	ことばと思考の発達	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
10	青年期の発達と心理的な特徴①自己認知	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
11	青年期の発達と心理的な特徴②アイデンティティと対人関係	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
12	成人期の発達と心理的な特徴	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
13	老年期の発達と心理的な特徴	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
14	定型発達と非定型発達① 非定型発達についての基礎的な知識及び考え方を学ぶ	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。	復習ミニレポート
15	定型発達と非定型発達② 起こりやすい困難や支援方法について考える	教科書を用い、パワーポイントで資料提示を行う。 グループワーク	復習ミニレポート
期末試験	前期末試験		
16	後期オリエンテーション なぜ発達心理学を学ぶのか	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
17	アタッチメント	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
18	感情の機能が人の適応状態に及ぼす影響	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
19	感情の発達	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	親子関係	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
21	子供の発達と父親	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
22	子供時代の仲間関係とその支援	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
23	反抗期の役割	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
24	青年期の課題	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
25	ワーク・ライフ・バランスを女性の立場から考える	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
26	ワーク・ライフ・バランスを男性の立場から考える	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
27	恋愛と結婚	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
28	エイジングパラドックス	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
29	非定型発達と児童虐待	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
30	非定型発達の豊かさ	教科書と配付した資料にもとづきディスカッション	復習ミニレポート
期末試験	筆記試験は行わず、ディスカッション参加と各回のレポートにより評価する。		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
前期	目標①②③：筆記試験40% 目標①②③：キーワードチェック（授業の内容にかかわるキーワードについての問題に答える）15% 目標③：復習ミニレポート45%		
後期	目標①②③：ディスカッション参加についての評価45% 目標③：復習ミニレポート55%		
教科書			
書名：発達心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ12） 著者名：林創 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円（税別）			

授 業 科 目 名	臨床心理学概論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 村 泰 博		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学） 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会、日本健康心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本科目では、臨床心理学の成り立ちや代表的な理論など、臨床心理学という学問の全体像について学ぶ。ただし、本科目の狙いは各理論の基本的な事柄について理解することにあり、それぞれの理論についてさらに深く知るためには、自主的に学んだり、3年以降のゼミにおいて学びを深めてほしい。</p> <p>補足の意味で毎回キーワードについてまとめを行ってもらう時間を設ける。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 臨床心理学の成り立ちについて概説できる。	目標	A
② 臨床心理学の代表的な理論について概説できる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	日本の臨床心理学	講義	教科書の予習・復習
3	世界の臨床心理学	講義	教科書の予習・復習
4	臨床心理学の定義・理念・体系	講義	教科書の予習・復習
5	精神分析的アプローチ	講義	教科書の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	分析心理学的アプローチ	講義	教科書の予習・復習
7	行動論・認知論的アプローチ	講義	教科書の予習・復習
8	ヒューマニスティックアプローチ	講義	教科書の予習・復習
9	システミックアプローチ	講義	教科書の予習・復習
10	グループアプローチ	講義	教科書の予習・復習
11	コミュニティアプローチ	講義	教科書の予習・復習
12	ナラティブ・アプローチ	講義	教科書の予習・復習
13	非言語的アプローチ	講義	教科書の予習・復習
14	統合的アプローチ	講義	教科書の予習・復習
15	日本生まれのセラピー	講義、資料配付	教科書の予習・復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：期末試験50点、キーワードのまとめ30点、ミニレポート20点、ほかに評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
教科書			
書名：臨床心理学概論 著者名：野島一彦・岡村達也（編） 発行所：遠見書房 価格：2,400円（税別）			

授 業 科 目 名	心理学研究法	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	H30以降入学 2年次 H29以前入学 3・4年次
担 当 教 員	職名：客員教授 氏名：阿 部 恒 之 (本務先：東北大学 職名：教授・副研究科長)	開 講 期	前期
		授 業 回 数	30回(2コマ連続)
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等	日本学術会議連携会員、(社)美容の価値を考える会理事長等		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院文学研究科博士課程修了、博士(文学) 日本心理学会、日本感情心理学会、日本顔学会、日本生理心理学会等		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	専門教育科目	2年次：必修、3・4年次：選択	
認定心理士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：abe7t tohoku.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
以下の内容をアクティブラーニングによって修得する。 ① 心理学における実証的研究に必要な技能 ② グループワークを通じた研究遂行技能 ③ 研究結果のプレゼンテーションスキル ④ 研究における倫理	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	<input type="radio"/> F	多様性の理解力
	<input type="radio"/> G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/> ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
<input type="radio"/> オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理学の研究を遂行するために必要な基本的な方法論を身につける。	目標	B
② 心理学的謎を見つけ、研究課題として立てることができるようになる。	目標	E
③ 心理学の研究を実際に行えるようになる。	目標	B
④ グループでの討議を通じて討議能力を身につける。	目標	G
⑤ 自ら行った研究をわかりやすく発表できるようになる。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	ガイダンス	(すべての授業で資料を投影しながら進める)	
2	授業内容の全体概説		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	文献調査法 1	班編成	これ以降、大研究のテーマを班毎に随時討議のこと
4	文献調査法 2	班別討議	
5	文献調査法発表、面接法 1	小研究発表 1	班毎に小研究をまとめて参加のこと
6	面接法 2	班別討議	
7	面接法発表、観察法 1	小研究発表 2	班毎に小研究をまとめて参加のこと
8	観察法 2	ビデオを用いた観察法実習	
9	観察法 3	ビデオを用いた観察法実習、班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
10	観察法発表 1、観察法 4	小研究発表 3、班別討議	
11	観察法 5	フィールドワーク(現実場面における観察実習)	班毎に観察テーマ・分担等を決定して参加のこと
12	観察法 6	フィールドワークの続き	
13	観察法発表 2	小研究発表 4	班毎に小研究をまとめて参加のこと
14	プレゼンテーションスキル	コンピュータ実習	
15	中間試験	試験による定着学修	ここまでの習得内容をよく復習しておくこと
16	中間試験の解答解説	試験の解答確認を通じた振り返り	
17	質問紙調査法 1	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカーの講義復習
18	質問紙調査法 2	班別討議	
19	質問紙調査法発表 1	小研究発表 5	班毎に小研究をまとめて参加のこと
20	質問紙調査法 3	班別討議	
21	質問紙調査法発表 2、実験法 1	小研究発表 6	班毎に小研究をまとめて参加のこと
22	実験法 2	班別討議	
23	実験法 3	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
24	実験法発表、検査法 1	小研究発表 7	
25	検査法 2	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
26	検査法発表	小研究発表 8	
27	大研究の班別実習 1	班別討議による総仕上げ	十分な討議を行なうこと
28	大研究の班別実習 2	班別討議による総仕上げ	
29	大研究発表	発表	全員が発表に貢献するよう役割を分担すること
30	大研究発表・講評	相互評価(各人が他班の発表と自班のメンバーの貢献を評価)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 目標①②④⑤：授業中・時間外の活動（小・大研究の班別討議への参加・発表）40% (2) 目標①②：中間試験30% (3) 目標①②：期末試験30% 以上の配分に基づき、総合的に評価する。			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
<p>授業は2コマ連続で行う。班を編成し、ほぼ毎回、指定されたテーマに関する実習（小研究）を行い、授業時間外も活用してまとめてもらう。また、各班で自主的に決めたテーマについて、授業で修得した技法を用いて研究し（大研究）、最後の授業回で発表してもらう。</p> <p>データ解析・プレゼンテーションなどでコンピュータを多用するので、各自、事前にエクセル・パワーポイントの習熟につとめて欲しい。</p> <p>得るものは多いと思われるが、小研究・大研究に関わる授業時間外の学修負担は大きい。授業への不参加、小・大研究分担の不履行は、自分のみならず班員への迷惑になるので、履修する場合は相応の覚悟をして、欠席しないよう努めること。</p>			

授 業 科 目 名	感情・人格心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：田 辺 みのる 稔	開 講 期	前期	
		授 業 回 数	15回	
		期 末 試 験 の 有 無	有	
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		福島市児童福祉専門部会 会長（2018.4より） 二本松市立幼稚園適正規模検討委員会 議長（2019.10より）		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
公認心理師		専門教育科目	必修	
認定心理士		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー：毎週月曜日 16：10～（宮代キャンパス研究室） メールアドレス：tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
人格（性格）の諸理論に関する全般的な理解をテーマに、人格研究の歴史的な経緯から、各理論の基本的な着眼点、研究方法を学んでいく。また各研究や各理論相互の結びつきや誕生の経緯、各理論が果たしてきた役割に注目し、人格（性格）の理解をキーワードに心理学全体の流れを把握できる知識を獲得していく。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	○	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
		ウ グループワーク
		エ プレゼンテーション
		オ 実習・フィールドワーク
	授業の到達目標	
① 人格研究に関する流れ（歴史）を習得し説明できる。	目標	A・C
② 各理論相互の誕生の経緯を説明できる。	目標	A・C
③ 各理論相互の関連・結びつきを把握し説明できる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。講義課題、授業の進め方、評価方法に関するガイダンス	「人格心理学」（3・4年次開講）と前期同時開講であることの説明。	
2	人格に関する一般的とらえ方： 受講者がとらえるパーソナリティを題材に日常的な「表出行動」と「対処的行動」の相違点から「行動」のとらえ方について学ぶ	体系的な学びの前に、受講者各人がとらえる人格（性格・パーソナリティ・個性）について議論していく。（履修者数によりグループディスカッションとする場合もある）	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	感情とパーソナリティ 感情の発達・感情と行動の関係性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論－心理学の歴史を復習のこと 教科書 p 1～11
4	人格研の理論：帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
5	人格研の理論：帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格の理論：類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 48～57を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
7	人格の理論：類型論② 類型の意味ととらえ方。アイゼンク・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～63を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論：特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64～67を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論：特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 67～79を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 14～16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 16～18を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
12	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
14	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト以降の力動論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
15	まとめ 各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 1～11、p 48～57、p 58～99、p 101のまとめ。
期末試験	前期末試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標①②③：期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。</p> <p>レポート 期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。</p> <p>小テスト 授業内容の理解度あるいは授業項目上必要とされる事前の知識等の確認のため、単元区分で3回の小テストを実施する。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：性格心理学への招待 著者名：詫間武俊・鈴木乙史 発行所：サイエンス社 価格：2,100円（税別）</p>	<p>特に定めないが、「発達心理学」、「教育相談」等で使用される教科書をよく読んでおくこと。</p>
その他補足事項	
<p>本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を活用していく。実習等により欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。</p>	

授 業 科 目 名	人 格 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 田 邊 稔	み の る	開 講 期	前 期
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特 記 事 項 無		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福 島 市 児 童 福 祉 専 門 部 会 会 長 (2018. 4 よ り) 二 本 松 市 立 幼 稚 園 適 正 規 模 検 討 委 員 会 議 長 (2019.10 よ り)		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		玉 川 大 学 大 学 院 文 学 研 究 科 修 士 課 程 (教 育 学 専 攻) 修 了 修 士 日 本 応 用 心 理 学 会 ・ 日 本 社 会 心 理 学 科 ・ 日 本 カ ウ ン セ ン グ 学 会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
公 認 心 理 師		専 門 教 育 科 目	選 択	
認 定 心 理 士		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー : 毎 週 月 曜 日 16 : 10 ~ (宮 代 キ ャ ン パ ス 研 究 室) メ ー ル ア ド レ ス : tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目		
人 格 (性 格) の 諸 理 論 に 関 す る 全 般 的 な 理 解 を テ ー マ に、 人 格 研 究 の 歴 史 的 な 経 緯 か ら、各 理 論 の 基 本 的 な 着 眼 点、 研 究 方 法 を 学 ん で い く。ま た 各 研 究 や 各 理 論 相 互 の 結 び つ き や 誕 生 の 経 緯、各 理 論 が 果 た し て き た 役 割 に 注 目 し、 人 格 (性 格) の 理 解 を キ ー ワ ー ド に 心 理 学 全 体 の 流 れ を 把 握 で き る 知 識 を 獲 得 し て い く。	○ A	知 識	
		B	技 能
	○ C	論 理 的 思 考 力	
		D	文 章 ・ 身 体 ・ 感 性 等 に 関 す る 表 現 力
		E	課 題 対 処 力
		F	多 様 性 の 理 解 力
		G	対 人 関 係 構 築 力
	アクティブラーニングの要素		
	○ ア	協 定 等 に 基 づ く 外 部 機 関 と 連 携 し た 課 題 解 決 型 学 習	
		イ	デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、デ ィ ベ ー ト
	ウ	グ ル ー プ ワ ー ク	
	エ	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
	オ	実 習 ・ フ ィ ー ル ド ワ ー ク	
授 業 の 到 達 目 標		授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 人 格 研 究 に 関 す る 流 れ (歴 史) を 習 得 し 説 明 で き る。		目 標 A ・ C	
② 各 理 論 相 互 の 誕 生 の 経 緯 を 説 明 で き る。		目 標 A ・ C	
③ 各 理 論 相 互 の 関 連 ・ 結 び つ き を 把 握 し 説 明 で き る。		目 標 A ・ C	

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 年 間 授 業 の 流 れ と 留 意 点。講 義 課 題、授 業 の 進 め 方、 評 価 方 法 に 関 す る ガ イ ダ ン ス	「 感 情 ・ 人 格 心 理 学 」 (2 年 次 開 講) と 前 期 同 時 開 講 で あ る こ と の 説 明。	
2	人 格 に 関 す る 一 般 的 と ら え 方 : 受 講 者 が と ら え る パ ー ソ ナ リ テ ィ を テ ー マ に 日 常 的 な 「 表 出 行 動 」 と 「 対 処 的 行 動 」 の 相 違 点 か ら 「 行 動 」 の と ら え 方 に つ い て 学 ぶ	体 系 的 な 学 び の 前 に、受 講 者 各 人 が と ら え る 人 格 (性 格 ・ パ ー ソ ナ リ テ ィ ・ 個 性) に つ い て 議 論 し て い く。(履 修 者 数 に よ り グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と す る 場 合 も あ る)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	感情とパーソナリティ 感情の発達・感情と行動の関係性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論－心理学の歴史を復習のこと 教科書 p 1～11
4	人格研の理論：帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
5	人格研の理論：帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格の理論：類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 48～57を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
7	人格の理論：類型論② 類型の意味ととらえ方。アイゼンク・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～63を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論：特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64～67を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論：特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 67～79を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 14～16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 16～18を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
12	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
14	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト以降の力動論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
15	前期部分のまとめ 前期の各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 1～11、p 48～57、p 58～99、p 101のまとめ。
期末試験	中間試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	1. 前期分の復習と「感情・人格心理学」(2年次開講)以降に取り上げていく領域に関するガイダンス。 2. 人格の測定: 人格の測定Ⅰ 類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論
17	人格の測定Ⅱ 類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	教科書p31~44を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
18	人格の理論:フロイトからの流れ⑥ エリック・バーンによる交流分析 ゲーム分析、脚本分析など	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
19	人格の理論:学習理論① 行動主義とパーソナリティⅠ 行動の獲得と学習。学習の基本的なメカニズムの理解 ワトソンとレイナーの理論	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
20	人格の理論:学習理論② 新行動主義とパーソナリティⅡ 行動の獲得と学習。学習メカニズムの理解 ミラーの行動獲得過程	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
21	人格の理論:学習理論③ 新行動主義とパーソナリティⅢ スキナーの理解。随伴性行動	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
22	人格の理論:学習理論④ 新行動主義とパーソナリティⅢ 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
23	人格の理論:学習理論③ 行動主義とパーソナリティⅢ 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定
24	人格の理論:現象学的人格論① 現象学・実存哲学の影響と人格論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p27~30を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
25	人格の理論:現象学的人格論② 現象学的パーソナリティ理論。ロジャーズの人間理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p27~30を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
26	人格の理解:状況論① 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p30~32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
27	人格の理解:状況論② 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p30~32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
28	人格の理解:状況論③ 状況論を踏まえて、5因子研究の問題点と展望を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p30~32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	総括：全体の振り返り① 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
30	総括：全体の振り返り② 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に於ける到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：筆記試験	中間試験20%期末80%の比率で70点満点とする記述方式のテストを学期末に実施。		
目標①②③：レポート	期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。		
目標①：その他	授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映出来るよう計画していく。		
教科書		参考書	
書名：性格心理学への招待 著者名：詫間武俊・鈴木乙史 発行所：サイエンス社 価格：2,100円（税別）		特に定めないが、「発達心理学」、「教育相談」等で使用される教科書をよく読んでおくこと。	
その他補足事項			
本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。実習等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。			

授 業 科 目 名	知覚・認知心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：和田 裕一 (本務先：東北大学 職名：准教授)		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	東北大学大学院情報科学研究科准教授（平成19年10月～現在）			
社会貢献としての委員会・職 等	日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士（情報科学）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問などに対応します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A・C・F
② 心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C
③ 人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション — 知覚・認知心理学とは —	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 — 大脳の基本構造・機能局在・大脳半球の機能差 —	資料映像（幻肢痛）、簡易実験	確認テストのための復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 網膜レベルの処理 —	フラッシュ教材 (網膜のしくみ)、簡易実験	
4	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 視覚情報処理経路 —	資料映像 (視覚情報処理)	確認テストのための復習
5	知覚の統合作用 — その1 —	実験デモ (錯視)	
6	知覚の統合作用 — その2 —	実験デモ (錯視)	
7	知覚の統合作用 — その3 —	実験デモ (錯視)	確認テストのための復習
8	情報の符号化と記憶 — 感覚記憶、注意による情報選択その1 —	簡易実験 (感覚記憶)、 実験デモ (変化盲)	
9	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その2 —	簡易実験 (注意のスポットライト)	確認テストのための復習
10	情報の符号化と記憶 — 短期記憶と情報の符号化 —	簡易実験 (処理水準)	
11	情報の符号化と記憶 — ワーキングメモリ —	実験デモ (メモリスパンテスト)	確認テストのための復習
12	情報の符号化と記憶 — エピソード記憶 —	資料映像 (目撃証言)	
13	情報の符号化と記憶 — 検索と忘却 —	実験デモ (TOT現象)	
14	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その1 —	簡易実験 (意味的プライミング)	確認テストのための復習
15	まとめ		詳細に関して試験の約1ヶ月前に告知するので、試験当日までに各自そのための準備を進めておくことが求められる。
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標①②③：筆記試験</p> <p>最終的な成績評価には、筆記試験結果に課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書			
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。			
その他補足事項			
<p>授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等に変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力をお願いしたい。</p>			

授 業 科 目 名	認 知 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	通 年
	氏名：和田 裕一 <small>わだ ゆういち</small>		授 業 回 数	30回
	(本務先：東北大学 職名：准教授)		期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		東北大学大学院情報科学研究科准教授 (平成19年10月～現在)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士 (情報科学)		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専門教育科目	選択	
公認心理師		専門教育科目	選択	
認定心理士		専門教育科目	選択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		120時間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授業終了後に教室で質問などに対応します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A・C
② 心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C・D
③ 人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A・C・D・F

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	イントロダクション — 認知心理学とは —	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 — 大脳の基本構造・機能局在 —	資料映像 (幻肢痛)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学習【予習・復習】
3	脳の構造と機能 — 大脳半球の機能差 —	簡易実験	確認テストのための復習
4	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 網膜レベルの処理 —	フラッシュ教材 (網膜のしくみ)	
5	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 視覚情報処理経路 —	資料映像 (視覚情報処理)	
6	知覚の統合作用 — 時間的統合作用 —	実験デモ (錯視)	
7	知覚の統合作用 — 空間的統合作用その1 —	実験デモ (錯視)	
8	知覚の統合作用 — 空間的統合作用その2 —	実験デモ (錯視)	確認テストのための復習
9	情報の符号化と記憶 — 感覚記憶 —	簡易実験 (感覚記憶)	
10	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その1 —	実験デモ (変化盲)	
11	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その2 —	簡易実験 (注意のスポットライト)	
12	情報の符号化と記憶 — 短期記憶と情報の符号化 —	簡易実験 (処理水準)	
13	情報の符号化と記憶 — ワーキングメモリ —	実験デモ (メモリスパンテスト)	
14	情報の符号化と記憶 — エピソード記憶 —	資料映像 (目撃証言)	確認テストのための復習
15	情報の符号化と記憶 — 検索と忘却 —	実験デモ (TOT現象)	確認テストのための復習
期末 試験	前期末試験		詳細に関して試験の約1ヶ月前に告知するので、試験当日までに各自そのための準備を進めておくことが求められる。
16	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その1 —	簡易実験 (意味的プライミング)	
17	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その2 —	簡易実験 (潜在記憶)	
18	高次の認知機能 — 思考：古典的な思考研究 —	思考クイズ	
19	高次の認知機能 — 思考：認知心理学的アプローチ —	実験デモ (ハノイの塔の問題空間)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	高次の認知機能 — 思考：推論 —	実験デモ（確率推論）	確認テストのための復習
21	高次の認知機能 — 思考：創造的思考 —	資料映像（サヴァン症候群）	確認テストのための復習
22	高次の認知機能 — 知能：知能の定義と知能検査 —		
23	高次の認知機能 — 知能：遺伝か環境か —	資料映像（知能テスト）	
24	高次の認知機能 — 知能と創造性の関係 —	簡易実験（創造性を測る）	確認テストのための復習
25	高次の認知機能 — 言語の脳内基盤 —		
26	高次の認知機能 — 言語の獲得：その1 —	資料映像(言葉を話すチンパンジー)	
27	高次の認知機能 — 言語の獲得：その2 —	資料映像（ことばの不思議）	確認テストのための復習
28	高次の認知機能 — 心的イメージ —	簡易実験（心的回転）	
29	高次の認知機能 — 認知と感情 —	簡易実験（情動プライミング）	
30	これまでの総括とディスカッション		
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③：筆記試験（前期末試験50％・後期末試験50％） 最終的な成績評価には、筆記試験結果に課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。 試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
<p>授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等に変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力を希望する。</p>			

授 業 科 目 名	教育・学校心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：まつ だ 田 る り		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	仙台市・宮城県スクールカウンセラー（平成11年4月～令和2年3月）、宮城県北部教育事務所・東部教育事務所専門カウンセラー（平成17年4月～令和2年3月）、宮城県総合教育センターりんくのみやぎ不登校・発達支援心理相談員（平成24年4月～令和2年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	宮城県発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業専門家チーム委員（平成21年4月～平成24年3月）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院文学研究科人間科学科心理学専修博士課程前期二年の課程修了、修士（文学）、日本家族心理学会、日本遊戯療法学会、公認心理師、臨床心理士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：matsuda.ruri fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>保育所・幼稚園から始まり小・中・高といった教育現場において子供たちに起こっている心理的問題、その背景について学びます。問題行動や困難を呈している子供にのみ焦点をあて関わるだけでは、学校を支援することはできません。どのような学校か、子供を育む家庭の状況や地域はどのようなものであるのかなど、子供を取り巻く全てのことに目を向ける必要があります。教育の場における問題について理解を深め、教育領域の支援者、特にスクールカウンセラーの役割、支援者同士の連携のあり方について考え学びます。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 教育現場において生じる問題およびその背景について概説できる。	目標	A
② 教育現場における支援にあたり、公認心理師や臨床心理士等心理の専門家がどのような役割を担えるかを考え説明できる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 学校という場で心理学をどう活用できるか	資料配付	資料の復習
2	教育現場において生じる問題及びその背景 教育の制度・法律・倫理	資料配付	資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	教育現場において生じる問題及びその背景 教育・学校の環境①	資料配付	資料の復習
4	教育現場において生じる問題及びその背景 教育・学校の環境②	資料配付	資料の復習
5	教育現場において生じる問題及びその背景 学校における問題・困難の理解①	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
6	教育現場において生じる問題及びその背景 学校における問題・困難の理解②	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
7	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 子どもの発達と教育	資料配付	資料の復習
8	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 どんな心理学的援助が考えられるか	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
9	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 スクールカウンセリング—その特殊性	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
10	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 スクールカウンセリング—アセスメント	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
11	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 スクールカウンセリング—児童生徒への支援	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
12	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 スクールカウンセリング—保護者への支援	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
13	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 スクールカウンセリング—場への支援と多職種連携	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
14	教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 学校外の教育相談機関	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
15	まとめ—学校という場で支援者になるということ	資料配付 個人・グループワーク	個人・グループワークミニレポート
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：筆記試験50% 目標①②：グループワークへの参加度20%、個人・グループワークミニレポート30%			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
学校に関連するニュースや情報について（いじめ、不登校、児童虐待、特別支援等）積極的に関心を持ち、知識を得たり調べたりしてください。また、疑問を持ったままにせず、文章や箇条書きにして書き留めておくと、グループワークにおいて役立ちます。			

授 業 科 目 名	発達臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：杉 ^{すぎ} 山 ^{やま} 雅 ^{まさ} 彦 ^{ひこ}		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	広島市専門家チームによる巡回相談指導委員 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科修了、教育学博士 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)、専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
発達臨床とは発達の過程、観点に基づいて臨床を考えていく。ここでは発達という段階あるいは変化のプロセスによって影響を受けることに関する対応あるいはサポートに関して検討していく。同時に発達のつまずきや発達障害に関して理解をし、その臨床的アプローチを検討すると主に、ケーススタディを通じて、実際の対応に関しても理解を深めていく。	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	<input type="radio"/> F	多様性の理解力
	<input type="radio"/> G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/> ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
<input type="radio"/> オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 発達を理解し、その臨床心理的な対応に関して知識を持ち説明できる。	目標	A
② 発達のつまずきへの対応に関する基本的な技術と支援計画を理解できる。	目標	B
③ 発達における相互作用の観点から臨床的対応を理解できる。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	発達とは何かに関する学習
2	発達とは 発達とはどのようなものか、あるいは本人からはどう見えるか	グループでの討論、発表	発達に関して再学習 配付資料の学習
3	乳幼児期特に母子関係 関係への介入	母子関係に関する講義と関係がどのように機能するかの討論と発表	振り返り、配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	集団の問題と集団への対応	集団とはどのように機能するかの講義と討論	振り返り、配付資料の学習
5	変化していくことのストレスと心理的サポート	変化していくことは本人からはどう見えるかの討論	配付資料と子どものストレスに関して学習
6	学童期思春期 不登校、非行の臨床	不登校、非行に関する講義と思春期の回避行動に関する討論	振り返り、配付資料の学習
7	青年期 アイデンティティの危機、不安の臨床、ひきこもりへの対応	アイデンティティの危機と不安に関する討論と講義	振り返り、配付資料の学習
8	成人期 中年の危機、うつの臨床	成人期とうつに関する講義とうつに関する討論	振り返り、配付資料の学習
9	老年期 機能の低下への対応	生涯という発達過程に関する討論	振り返り、配付資料の学習
10	関係性の発達の臨床 母子関係、家族関係	母子関係や家族関係がどのように変化していくかについての討論	振り返り、配付資料の学習
11	発達障害児者の臨床(1) ADHD、LD	発達障害を持つ人からは周囲がどう見えているかの討論	振り返り、配付資料の学習
12	発達障害児者の臨床(2) ASD	自閉的な傾向がある人から周囲がどう見えているかの討論	配付資料の学習 ケースに関して学習
13	ケーススタディ	ケースに関してグループで討論	配付資料の学習 ケースに関して学習
14	ケーススタディ	ケースに関してグループで討論	振り返り
15	まとめ	では発達とは何かの討論	授業のまとめと振り返り
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②に関して70点満点の期末テストを行う。</p> <p>目標②③に関して20点満点で討論発表時の行動を評価する、特に積極的な発表に関して最大3点を加点する。</p> <p>目標③に関して10点満点でケーススタディに関する行動を評価する。特に積極的な発表に関して最大3点を加点する。</p>			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	産 業 ・ 組 織 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：渡部敦子 (本務先：尚絅学院大学 職名：准教授)		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特記事項なし			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特記事項なし			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院教育学研究科博士課程前期終了 社会心理学会、グループ・ダイナミクス学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本授業では、産業領域の心理学について、労働者の心理、組織・集団心理、消費者心理、労働者の支援といった観点から概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 産業領域の心理学とはどのようなものか理解する。	目標	A
② 組織・集団における人間行動の特色を理解する。	目標	A・F
③ 労働にまつわる心理的健康問題と支援の在り方について理解する。	目標	A・F

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 産業・組織心理学とは何か	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
2	労働の心理：ワークモチベーションなど	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
3	人事管理：採用面接、人事評価など	配付資料 グループワーク	次回テーマの配付資料を読む
4	職業心理：キャリア発達、職業発達、職業選択など	配付資料	次回テーマの配付資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	職場の人間関係(1)	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
6	職場の人間関係(2)	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
7	組織心理学(1): コミュニケーション、集団意思決定など	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
8	組織心理学(2): リーダーシップ、チームワーク	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
9	マーケティングの心理: 広告、販売	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
10	消費者心理: 購買意思決定など	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
11	安全・リスク管理	配付資料	次回テーマの配付資料を読む
12	職場のメンタルヘルス(1): ストレスとマネジメント	配付資料 グループワーク	次回テーマの配付資料を読む
13	職場のメンタルヘルス(2): 復職支援、心理的支援	配付資料 グループワーク	次回テーマの配付資料を読む
14	職場のメンタルヘルス(3): ワークライフバランス	配付資料 グループワーク	次回テーマの配付資料を読む
15	振り返りとまとめ	配付資料	総復習と課題の発見
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標①②③: 期末試験70点満点、随時行う小テスト30点満点			
教科書		参考書	
使用しません。		書名: 公認心理師の基礎と実践20 産業・組織心理学 著者名: 新田泰生編 発行所: 遠見書房 価格: 2,600円 (税別)	

授 業 科 目 名	心理的アセスメント I		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：わた なべ ひろ ちか 渡 邊 宏 周		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士(臨床心理学) 臨床心理士、公認心理師、日本認知・行動療法学会、不安症学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本科目では、心理査定 の 定義、心理的問題を 理解する 観点と方法について学びます。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、得られた結果から、解釈とその活用について実践的に学習します。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
		C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理的アセスメントの意義を理解する。	目標	A
② 心理検査の各種方法を学ぶ。	目標	B
③ 検査の解釈とフィードバックの技術習得を目指す。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	心理的アセスメントの定義	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	行動観察	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	アセスメント面接	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	心理検査の基礎	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
6	認知機能検査	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
7	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる
8	質問紙法 QOL、SCI、SRS-18	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
9	質問紙法 SDS、STAI、GHQ-60	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
10	質問紙法 TEG	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
11	質問紙法 MMPI①	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法 MMPI②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
14	内田クレペリン検査	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
15	前期のまとめと振り返り		
期末 試験	期末試験	ペーパーテスト	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①③ : レポート(全2回) 30点満点 目標① : リアクションペーパー 15点満点 授業ごとに提出を求め評価します。 目標② : 授業や検査練習に臨む姿勢 15点満点 目標①②③ : 期末試験 40点満点 テストを学期末に実施して成績を評価します。 目標①②③ : 総計100点満点で評価する。			
教科書		参考書	
書名:「第14巻 心理的アセスメント(公認心理師の基礎と実践)」 著者名:津川律子 遠藤裕乃編 発行所:遠見書房 価格:2,600円(税別)		必要に応じ紹介する。	
その他補足事項			
【授業進行上、必要と判断される回にTA(ティーチングアシスタント)が入り、実験や演習を支援することがあります。TAによる支援がある回は事前にお知らせします。】			

授 業 科 目 名	心理的アセスメントⅡ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：わた なべ ひろ ちか 渡 邊 宏 周		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士(臨床心理学) 臨床心理士、公認心理師、日本認知・行動療法学会、不安症学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本科目では、前期科目である「心理的アセスメントⅠ」に引き続き、心理アセスメントについて学びます。知能検査や、投影法といった心理検査の実施方法や解釈、および、フィードバックの技術習得に向けた授業を行います。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理的アセスメントの意義を理解する。	目標	A
② 心理検査の各種方法を学ぶ。	目標	B
③ 検査の解釈とフィードバックの技術習得を目指す。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	発達検査について	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	知能検査 WISC-IV①	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	知能検査 WISC-IV②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
5	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
6	投影法 SCT	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
7	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
8	投影法 バウムテスト	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
9	投影法 P-Fスタディ	概要 検査実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	投影法 ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	投影法 ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
14	検査バッテリー／包括的解釈とフィードバック	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
15	後期のまとめと振り返り		
期末試験	後期末試験	ペーパーテスト	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標①③ : レポート (全3回) 30点満点 目標① : リアクションペーパー 15点満点 授業ごとに提出を求め評価します。 目標② : 授業や検査練習に臨む姿勢 15点満点 目標①②③ : 期末試験 40点満点 テストを学期末に実施して成績を評価します。 目標①②③ : 総計100点満点で評価する。</p>			
教科書		参考書	
書名:「第14巻 心理的アセスメント (公認心理師の基礎と実践)」 著者名:津川律子 遠藤裕乃編 発行所:遠見書房 価格:2,600円(税別)		必要に応じ紹介する。	
その他補足事項			
本科目は前期開講科目である「心理的アセスメントI」で得る知識が必要となります。 本科目を履修希望の学生は、「心理的アセスメントI」の履修を済ませて下さい。 【授業進行上、必要と判断される回にTA(ティーチングアシスタント)が入り、実験や演習を支援することがあります。TAによる支援がある回は事前にお知らせします。】			

授 業 科 目 名	心理学統計法 心理統計学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	H30以降入学 3年次 H29以前入学 3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	前期
	氏名：和田裕一 (本務先：東北大学 職名：准教授)		授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	東北大学大学院情報科学研究科准教授 (平成19年10月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士 (情報科学)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	H30以降入学：必修、H29年以前入学：選択		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問などに対応します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心理学を学ぶ上で必要となる統計的手法に関する基礎知識と主要な統計技法について概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・B・C
② 心理学実験や調査で扱う種々のデータの解析方法を会得し、データ解析を実践できるようになる。	目標	B・C・E
③ 表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション — 心理統計学とは —	エクセル実習 (エクセル入門)	
2	データを表現する方法 — 記述統計・尺度水準 —	エクセル実習 (数値計算)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	データを表現する方法 — 図表化 —	エクセル実習 (グラフ)	授業時間内に実習課題が終わらなかった受講生は、次回までに各自完成させておくこと(以下同様)。
4	データを要約する方法 — 代表値 —	エクセル実習 (基本的な関数)	
5	データを要約する方法 — 散布度と標準化 —	エクセル実習 (分散・標準偏差)	
6	2つの変数の関係を求める — 散布図 —	エクセル実習 (散布図)	相関に関する練習問題のプリント
7	2つの変数の関係を求める — 相関 —	エクセル実習 (相関係数)	ここまでの範囲の確認テストを実施する予定。
8	標本から母集団を推定する — 推測統計とは —	エクセル実習 (不偏分散)	
9	標本から母集団を推定する — 標本統計量 —	エクセル実習 (標準誤差)	
10	統計学的仮説検定の考え方 — そのロジックとは —		
11	統計学的仮説検定の考え方 — 有意水準 —		
12	平均を比較する — 平均の差の検定その1 —	エクセル実習 (母平均と標本平均)	平均の検定に関する練習問題のプリントその1
13	平均を比較する — 平均の差の検定その2 —	エクセル実習 (t検定)	平均の検定に関する練習問題のプリントその2
14	いろいろな統計手法	エクセル実習 (種々の統計関数を概観する)	
15	これまでの総括 — 要点の整理と総復習 —		
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標①②③：筆記試験 (前期末試験100%) 筆記試験の点数 (100%) を基本とするが、最終的な成績評価は学期中に何回か課されるレポートの提出状況や授業への積極的参加態度等を加味して決定する。なお受講者の人数や状況によっては、評価方法に変更を加える場合がある。詳しくは第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	図書館購入・本人購入の別
使用しない。講義毎に資料プリントを配付する。		書名：完全独習 統計学入門 著者名：小島寛之 発行所：ダイヤモンド社 価格：1,800円 (税別)	1 図書館購入 (1 冊) 2 本人購入 (冊)
その他補足事項			
<p>本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合がある。講義の一部は、表計算ソフト (Excel等) を用いた実習形式で行うことを予定している。PCは大学に準備されているものを使用するが、必要なソフトウェアがインストールされていれば個人所有のノートPCを使用してもよい。受講生は基本的なPC操作 (文字入力に困らない程度) が身につけていることが望ましいが、PC操作のスキルを学習する意欲があれば初学者も歓迎する。</p>			

授 業 科 目 名	心理学的支援法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：杉 山 雅 彦 <small>すぎ やま まさ ひこ</small>		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	広島市専門家チームによる巡回相談指導委員 認知・行動療法学会、常任編集委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科修了、教育学博士 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)、専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心理学的に人を支援するための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。その上で基本技術の習得を目指す。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から(社会的な相互作用という点から)身に付ける。心理学的支援の対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	○	A 知識
	○	B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。	目標	A
② カウンセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することが出来る。	目標	B
③ カウンセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。	目標	C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と(資料に関する)討議	良好な関係を作るための相互作用の試行とその検討	配付資料の学習 授業のまとめ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	精神分析的心理療法	スーパーエゴに関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
4	クライエント中心療法	内部的照合枠に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
5	認知行動療法	思考と評価に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
6	地域および関係者に関する支援	支援の意味に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
7	心理臨床相談センター見学	センターに関する討論、相談に来る際の心理に関する討論	配付資料の学習
8	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
9	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
10	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をすることが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
11	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
12	カウンセリングの方法 質問と肯定	質問や肯定に関する討議	模擬カウンセリングのためのまとめ
13	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
14	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる カウンセリングの意味と限界	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
15	まとめに代えて 不安とコンフリクト	不安に関する討議	授業のまとめ
期末試験	模擬カウンセリングのレポート提出 および筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①③に関しては40点満点の筆記試験を前期末に実施する。 目標②③に関して模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する、40点満点で採点する。 目標①②③に関して授業内での討論および議論に関して、主として論理性的の観点から20点満点で採点する。			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	カウんセリング概論		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名： ^{すぎ} 杉 ^{やま} 山 ^{まさ} 雅 ^{ひこ} 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	広島市専門家チームによる巡回相談指導委員 認知・行動療法学会、常任編集委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科修了、教育学博士 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)、専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
カウんセリングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から(社会的な相互作用という点から)身に付ける。カウんセリングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。	目標	A
② カウんセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することが出来る。	目標	B
③ カウんセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。	目標	C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と(資料に関する)討議	良好な関係を作るための相互作用の試行とその検討	配付資料の学習 授業のまとめ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	精神分析的心理療法	スーパーエゴに関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
4	クライアント中心療法	内部的照合枠に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
5	認知行動療法	思考と評価に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
6	地域および関係者に関する支援	支援の意味に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
7	心理臨床相談センター見学	センターに関する討論、相談に来る際の心理に関する討論	配付資料の学習
8	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
9	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
10	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をするのが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
11	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
12	カウンセリングの方法 質問と肯定	質問や肯定に関する討議	模擬カウンセリングのためのまとめ
13	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
14	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる カウンセリングの意味と限界	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
15	まとめに代えて 不安とコンフリクト	不安に関する討議	授業のまとめ
期末試験	模擬カウンセリングのレポート提出 および筆記試験		
16	変化することのカウンセリング 変化することの意味	変化とは何かの討議	配付資料の学習
17	困ったことを持つ人の心理	困ったことを持つ人が陥る心理のグループワーク	まとめ 配付資料の学習
18	援助をするということ、地域の貢献、その人にとって援助になるという事	クライアントから見て何が援助になるかのグループワーク	まとめ 配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	動機づけのカウンセリング カウンセリングを通して変化に動機づけられる過程の検討	動機づけに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングを受けることに関するまとめ
20	OARS(1) (1) 開かれた質問 (2) 賞賛	方法がどのように機能するかの討議	配付資料の学習
21	OARS(2) (1) 振り返り (2) 要約	方法がどのように機能するかの討議	配付資料の学習
22	うつの人へのカウンセリング	カウンセリングプロセスに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングプロセスのまとめ
23	不安が強い人へのカウンセリング	カウンセリングプロセスに関する討議	カウンセリングプロセスのまとめ
24	問題への接近としてのカウンセリング	問題を中核に、カウンセリングプロセスの検討	問題を中核としてカウンセリングプロセスのまとめ
25	変化のためのカウンセリングを維持するために 質問や反応の整理	カウンセリングを維持する要因の討論	維持するための方法のまとめ 模擬カウンセリングの準備
26	変化のための模擬カウンセリング(1)	模擬カウンセリング	模擬カウンセリングの記録の整理と分析
27	変化のための模擬カウンセリング(2)	模擬カウンセリング	配付資料の学習 模擬カウンセリングの記録の整理と分析
28	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(1) 初回から問題解決までのプロセスを検討する	出会いからのカウンセリングに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングの過程のまとめ
29	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(2) 変化のためのサポートとして何が必要か検討する	変化のための条件に関する討議	サポートに関するまとめ
30	まとめ	カウンセリングの意味についての討論	まとめ
期末試験	模擬カウンセリングのレポート提出 および筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①③に関して30点満点の筆記試験を前期末に実施する。</p> <p>目標②③に関して、模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する。前期分10点後期分40点で採点する。</p> <p>目標①②③に関して授業内での討論および議論に関して、主として論理性的の観点から20点満点で採点する。</p>			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	心 理 演 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 杉 山 雅 彦 <small>すぎ やま まさ ひこ</small>		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員 (平成23年4月～平成27年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	広島市専門家チームによる巡回相談指導委員 認知行動療法学会、常任編集委員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科修了、教育学博士 臨床心理士(臨床心理士資格認定協会)、専門行動療法士(認知・行動療法学会) 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス : sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>心理に関する支援を必要としている人あるいはその人を取り巻く人や環境に関して効果的な支援を行うための、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、コミュニケーション技術、心理面接場面、地域支援場面、心理検査場面等に関して検討し、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、事例の検討を行う。</p> <p>また心理に関する支援を必要とする人たち等の理解とニーズの把握や支援計画の作成、連携などに関して理解を深めると同時に、実行する際の問題に関しても検討していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 心理的支援を必要としている人たちに効果的な支援の知識を持つ。	目標	A
② 心理的支援の効果的な基本的技法を説明し、行うことができる。	目標	B
③ 心理的支援を必要としている人のニーズの把握や支援の計画を検討できる。	目標	E

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 心理に関する支援を必要とするとは?	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーション 聴くことの重要性の理解とロールプレイ	「聴く」ことに関するロールプレイと討論	「聴く」ことのまとめ 配付資料の学習
3	コミュニケーション 伝えることの重要性の理解とロールプレイ	「伝える」事に関するロールプレイと討論	「伝える」事のまとめ 配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	コミュニケーション ロールプレイと振り返り	コミュニケーション(対人相互作用)に関して討論	相互作用のまとめ 心理面接の学習
5	心理面接 ロールプレイ	ロールプレイ、グループワーク	記録等整理と分析
6	心理面接 ロールプレイ	ロールプレイ、グループワーク	記録等整理と分析
7	心理面接 ロールプレイと振り返り	ロールプレイ、討論	心理面接のまとめ 心理検査の学習
8	心理検査 心理検査時の心理の理解とロールプレイ	ロールプレイ	心理検査時の心理のまとめ 発表準備
9	地域支援等 危機介入 発表と討論	発表と討論	発表、討論のまとめ、発表準備
10	地域支援等 コンサルテーション 発表と討論	発表と討論	発表、討論のまとめ、発表準備
11	心理に関する支援を必要とするものの現実生活を視野に入れたチームアプローチ 発表と討論	発表と討論	発表、討論のまとめ、発表準備
12	他職種連携及び地域連携 発表と討論	発表と討論	発表討論のまとめ 配付資料の学習
13	ケーススタディ	グループワーク	ワークのまとめ 配付資料の学習
14	ケーススタディ	グループワーク	ワークのまとめ 配付資料の学習
15	公認心理師としての職業倫理および法的義務の理解	討論	討論のまとめ 授業の振り返り
期末試験	無		
期末試験の講評			
希望者にはレポートの講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②に関して、40点満点で模擬的心理面接およびそれに関するレポートを提出する。</p> <p>目標②③に関して、40点満点で発表討論に関する態度あるいは内容及びそのレポートを提出する。</p> <p>目標①③に関して、20点満点でケーススタディに関する態度及び討論を評価する、特に積極性と高い論理性に関して最大3点を加算する。</p>			
教科書			
資料は配付し、教科書は使用しません。			
その他補足事項			
<p>本授業は模擬心理面接と発表に関して、計2回のレポート提出を求めます。</p> <p>評価に関する提出物として、模擬カウンセリングに関するレポートと、課題の発表に関するレポートの両方を求めます。</p>			

授 業 科 目 名	心 理 学 実 験		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 助 教 氏 名 : 渡 邊 宏 周 <small>わた なべ ひろ ちか</small>		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特 記 事 項 な し			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福 島 学 院 大 学 大 学 院 心 理 学 研 究 科 臨 床 心 理 学 専 攻 ・ 修 士 (臨 床 心 理 学) 臨 床 心 理 士 ・ 公 認 心 理 師 ・ 日 本 認 知 ・ 行 動 療 法 学 会 ・ 不 安 症 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	専 門 教 育 科 目	必 修		
認 定 心 理 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ます。 メ ー ル ア ド レ ス : watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>この授業では、実験実習を通して心理学で用いられている実験に関する知識を身につけ実行できるようになることに加え、得られたデータを科学的に記述しまとめることができるようになることを主たる目的としています。</p> <p>実験後には毎回レポートの作成と提出を求めます。レポートを重ね、科学的な考え方や記述の仕方を身につける授業です。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 古典的な心理学実験について理解する。	目標	A
② 手続きやデータ集、分析といった実験に関する作法を身につける。	目標	A・C
③ レポート作成により、論理的・科学的な記述方法を身につける。	目標	C・D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	心理学実験の基本的な知識 因果関係と独立変数、従属変数	講義	教科書 P. 3 - 10
3	心理学実験における統計の知識	講義	教科書 P. 107 - 112

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	レポートの書き方	講義 ワーク	教科書P. 39-46
5	ミューラーリアーの錯視① 実験の説明	講義	教科書P. 17-28
6	ミューラーリアーの錯視② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	教科書P. 17-28
7	実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
8	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出①
9	触二点閾① 実験の説明	講義	教科書P. 29-38
10	触二点閾② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	教科書P. 29-38
11	実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
12	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出②
13	記憶に関する実験①	講義	教科書P. 47-64
14	記憶に関する実験②	グループワーク 実験の実施	教科書P. 47-64
15	実験結果を基にレポートを作成する	レポート作成	レポート作成
期末 試験	記憶の実験レポート	期末レポート	レポート提出③
16	前期のおさらいと実験倫理に関して	講義	配付資料を読む
17	視覚探索課題① 実験の説明	講義	配付資料を読む
18	視覚探索課題② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	配付資料を読む
19	まとめ・実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート作成
20	視覚探索課題のレポート作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出④
21	質問紙法に関する講義／実験	講義 グループワーク 実験の実施	配付資料を読む
22	まとめ・実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート作成
23	質問紙法のレポート作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出⑤

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	両側性転移① 実験の説明	講義	教科書P. 65-80
25	両側性転移② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	教科書P. 65-80
26	まとめ・実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート作成
27	両側性転移のレポート作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出⑥
28	パーソナルスペース①	講義	教科書P. 81-106
29	パーソナルスペース②	グループワーク 実験の実施	教科書P. 81-106
30	まとめ・実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート作成
期末試験	パーソナルスペースのレポート	期末レポート	レポート提出⑦
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：実験やレポート作成時の取り組み態度&リアクションペーパーにより評価します（30点満点）。 目標②③：レポートの完成度で評価します（10点満点×7回）。			
教科書		参考書	
書名：「心理学実験法・レポートの書き方」 著者名：西口利文・松浦均編集 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）		書名：「第6巻 心理学実験（公認心理師の基礎と実践）」 著者名：山口真美・金沢創・河原純一郎編集 発行所：遠見書房 価格：2,600円（税別）	
その他補足事項			
<p>心理学には、目的に応じて様々な実験方法があります。実験を通して計画力や問題解決能力を養いましょう。また、心理学の実験レポートの作成方法を学ぶことによって、文章力、論理的・科学的な思考力を身につけていきます。年間を通してレポート提出までの時間を十分にとり、書き方の指導を密に行います。レポート作成の時間中に、いかに、自主的・率先的な学習態度を示せるかが重要となります。</p> <p>実験は基本的には教科書「心理学実験法・レポートの書き方」に記されてあるものを行いますが、参考書に書かれてある事項についても補足的に説明していきます。特に公認心理師資格取得希望者は、今のうちから参考書に指定した「第6巻 心理学実験（公認心理師の基礎と実践）」を購入しておくことをお勧めします。</p> <p>※履修者の人数および実験内容や進行具合により、シラバスを一部変更せざるを得ない場合がありますが、その時は事前にお知らせします。</p> <p>【授業進行上、必要と判断される回にTA（ティーチングアシスタント）が入り、実験や演習を支援することがあります。TAによる支援がある回は事前にお知らせします。】</p>			

授 業 科 目 名	社会・集団・家族心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：まつ だ 田 る り		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		宮城県総合教育センターりんくるみやぎ不登校心理相談員（平成24年4月～令和2年3月）、仙台市児童相談所非常勤嘱託心理判定員（平成14年4月～平成17年3月）、社会福祉法人善き牧者会児童養護施設小百合園非常勤心理士（平成17年6月～平成27年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学大学院文学研究科人間科学科心理学専修博士課程前期二年の課程修了、修士（文学）、日本家族心理学会、日本遊戯療法学会、公認心理師、臨床心理士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
公認心理師		専門教育科目	必修	
認定心理士		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。 メールアドレス：matsuda.ruri fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>社会心理学は、集団・社会状況における個人の認知や行動がどのように影響を受け、逆に与えているのかを研究する学問です。社会の最小単位は2人集団で、夫婦、恋人、友達等も社会心理学の対象です。家族は社会を構成する重要な集団であり、個人の成長発達や価値観の獲得に大きな影響を持ち、密に相互作用しあいます。支援を行う際、支援対象者が所属する家族についての確にアセスメントを行うことは非常に大切です。この授業では、さまざまな社会的行動を説明するための代表的な理論や研究例、家族をとらえるための枠組み、家族の支援方法として家族療法の基礎を学びます。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。		目標 A・C
② 人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。		目標 A・C
③ 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。		目標 A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会・集団・家族心理学の領域	資料配付	復習ミニレポート
2	社会的認知	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	社会的自己	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
4	対人関係・対人行動	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
5	集団・組織	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
6	人の態度及び行動①	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
7	人の態度及び行動②	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
8	文化の影響	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
9	家族をどうとらえるか ― 家族システム理論	資料配付	復習ミニレポート
10	家族を理解する ― 主要な概念	資料配付	復習ミニレポート
11	家族の発達	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
12	家族への臨床的アプローチ ― 家族療法	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
13	子育てへの支援	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
14	家族が経験するストレスとその支援	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
15	家族内のコミュニケーション	資料配付 グループワーク	復習ミニレポート
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：筆記試験40% 目標①②③：キーワードチェック（授業の内容にかかわるキーワードについての問題に答える）15% 目標①②③：復習ミニレポート45%			
教科書		参考書	
使用しない。		書名：社会・集団・家族心理学 公認心理師の基礎と実践11 著者名：竹村和久 発行所：遠見書房 価格：2,600円（税別） 書名：家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助 [第2版] 著者名：中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 発行所：有斐閣 価格：2,500円（税別）	

授 業 科 目 名	障害者・障害児心理学 障害児・者への心理援助(旧カリ)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	H30以降入学 2年次 H29以前入学 4年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：渡 邊 宏 周 <small>わた なべ ひろ ちか</small>	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士(臨床心理学) 臨床心理士、公認心理師、日本認知・行動療法学会、不安症学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	専門教育科目	必修	
認定心理士	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
本科目では、様々な障害のある人に心理的なアプローチを提供するにあたり、その行動特徴や原因などをはじめ、必要となる基本的な知識を概説します。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 障害の概念や分類について基礎的なことを理解する。	目標	A
② 障害児・者の援助について基礎的な知識を得る。	目標	A・C
③ 障害児・障害者を援助する際の心構え・その方法論について説明できる。	目標	C・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要、到達目標、評価方法の説明など	配付資料	配付資料を読む
2	【障害】を学ぶ前の心構え アセスメントについて 他：ICIDHとICF	配付資料	配付資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	知的能力障害について 他：DSM-5とICD-10	配付資料	配付資料を読む
4	身体障害について 他：障害者別解消法と合理的配慮	DVD 【障害を越えて】30分視聴 配付資料	配付資料を読む
5	発達障害について① ADHD/LD	配付資料 個人ワーク	配付資料を読む
6	発達障害について② ASD	配付資料	配付資料を読む
7	発達障害について③ 発達障害のアセスメント TEACCH	DVD 【障害児への専門的指導法—TEACCH—】6分視聴 配付資料	配付資料を読む
8	行動分析学について	配付資料 個人ワーク	配付資料を読む
9	応用行動分析学について	配付資料 グループワーク	配付資料を読む
10	ペアレントトレーニング、 特別支援教育、療育について	DVD 【障害児への専門的指導法—ペアトレ—】7分視聴 配付資料	配付資料を読む
11	認知行動療法と気分障害について	配付資料 個人ワーク	配付資料を読む
12	認知行動療法と不安障害について	配付資料	配付資料を読む
13	強迫性障害/睡眠障害について	配付資料 個人ワーク	配付資料を読む
14	SSTと就労支援について	配付資料 グループワーク	配付資料を読む
15	総復習	パワーポイント	これまでの配付資料を読む
期末試験	後期末試験(ペーパーテスト)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①②③：期末試験 70点満点 テストを学期末に実施して成績を評価します。 目標②③：リアクションペーパー 15点満点 授業ごとに提出を求め評価します。 目標②③：レポート 15点満点 総計100点満点で評価します。			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	司法・犯罪心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	後期
	氏名：生島 浩 <small>しょうじま ひろし</small>		授 業 回 数	15回
	(本務先：福島大学 職名：教授)		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	法務省保護観察官 (昭和54年4月～平成13年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	ふくしま被害者支援センター理事長, 更生保護法人至道会理事など			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士課程修了、博士(文学)、公認心理師(第5931号)、臨床心理士(No.01795) 日本更生保護学会、犯罪心理学会、家族療法学会など			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問等で対応 E-mail: shojima educ.fukushima-u.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>この授業は、公認心理師のカリキュラムに則り、犯罪や非行をした者について、その原因や心理の分析、再犯のリスク評価、矯正・更生保護のための指導・助言、処遇プログラムについて学びます。また、家庭内紛争における当事者や子どもへの専門的関与、さらには、犯罪被害者等に対する相談援助について、その基本を修得する授業とします。</p> <p>予習では、教科書を精読して、司法犯罪・分野の制度、各専門職の職域、実践について概要を把握し、授業のなかで不明点を解消できるよう質疑応答に努めてください。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 司法・犯罪分野に関する支援システムの概要を理解する。	目標	A
② 非行・犯罪領域の心理的支援について基本を説明できる。	目標	B
③ 司法・犯罪領域に必須な多機関多職種の協働について基本を学ぶ。	目標	G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	司法・犯罪心理学とは何か～公認心理師カリキュラムとして求められるもの～	授業の進め方を説明します。 NHK「クローズアップ現代」視聴で講師紹介。	教科書：監修者・編者まえがきの予習・復習
2	司法・犯罪分野の概要(1)：特徴と留意点	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：18-19ページの予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	司法・犯罪分野の概要(2):非行臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書:20-26ページの予習・復習
4	司法・犯罪分野の概要(3):犯罪臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書:27-32ページの予習・復習
5	家族臨床(家事事件):システムの概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:38-43ページの予習・復習
6	非行臨床(少年事件):制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:46-52ページの予習・復習
7	非行臨床(少年事件):専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKBSドキュメンタリー「再出発の町」	教科書:72-75、88-91ページの予習・復習
8	非行臨床(少年事件):専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:110-111ページの予習・復習
9	犯罪臨床(成人事件):制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:51-52ページの予習・復習
10	犯罪臨床(成人事件):専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:92-95ページの予習・復習
11	犯罪臨床(成人事件):専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:121ページの予習・復習
12	犯罪被害者支援:制度・機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:33-37ページの予習・復習
13	児童・社会福祉との連携:児童相談所等の心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書:53-54、96-99、123ページの予習・復習
14	触法障害者の地域生活支援:医療観察制度における心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKETV「居場所があれば立ち直れる」	教科書:55-59、100-105、116ページの予習・復習
15	まとめと総ディスカッション:立ち直り支援として心理職が出来ること	授業全体のまとめを兼ねてテーマについて質疑応答	ディスカッションの準備として質疑をまとめる
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②：期末試験（小論文を含む） 70点
 目標③：総ディスカッション 30点
 ほか、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。

教科書

参考書

書名：公認心理師分野別テキスト 司法・犯罪分野
 著者名：生島浩 編著
 発行所：創元社
 価格：2,400円（税別）

書名：非行臨床における家族支援
 著者名：生島浩
 発行所：遠見書房
 価格：2,800円（税別）

その他補足事項

新聞等により非行・犯罪に関わる事件に関心を抱いて授業に臨んでください。また、犯罪白書を図書館や法務省のHPで参照して、予習や復習を含めた学習に活用するスキルを身につけることが肝要です。

授 業 科 目 名	心 理 療 法		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		精神科専門医として46年間の経験		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島市を含む県北地区の学校精神科医		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 授業終了後に教室で質問などに対応します。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
各種の精神障がい、特に児童・思春期・青年期の心理療法と発達障害の心理療法、「広義の心理療法」としての家族療法、行動療法、集団心理療法などについても教授。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標		授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
① 児童・思春期・青年期の心理療法を学ぶ。	目標	A
② 家族療法と家族の療育指導を学ぶ。	目標	A・C
③ 行動療法・認知行動療法を学ぶ。	目標	A・E
④ 集団心理療法、集団家族療法を学ぶ。	目標	A・C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	行動療法 (オペラント、系統的脱感作、モデリングなど)	資料とレジュメ	豆テストを実施するので 毎回授業内容を復習しておくこと。 テストの範囲については 授業以内に指示する。
2	認知 (ものの考え方) の歪みと認知療法	資料とレジュメ	
3	家族療法の原則とシステムズアプローチ	資料とレジュメ	
4	不登校の家族療法	資料とレジュメ	
5	摂食障害の家族療法	資料とレジュメ ケーススタディ	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】	
6	夫婦療法 (マリタルセラピー)	資料とレジュメ ケーススタディ	豆テストを実施するので 毎回授業内容を復習して おくこと。 テストの範囲については 授業以内に指示する。	
7	発達障害 (ADHD、LD、自閉症など) 児の家族指導	資料とレジュメ		
8	集団心理療法 (グループサイコセラピー)	資料とレジュメ		
9	集団家族療法 (グループファミリーセラピー)	資料とレジュメ		
10	各種のセルフサポート (自助) グループ	資料とレジュメ		
11	発達障害 (ADHD、LD、自閉症など) 児のSSTソーシャルスキルズ・トレーニング)	資料とレジュメ ケーススタディ		
12	発達障害児の指導における構造化とTEACCHプログラム	資料とレジュメ ケーススタディ		
13	学校の教師と心理・福祉・医療医のチームアプローチ	資料とレジュメ		
14	学校・職場の環境調整療法 (ミリュー・セラピー)	資料とレジュメ		
15	障害児の家族の悩みとカウンセリング	資料とレジュメ		
期末試験	前期末試験			
期末試験の講評				
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。				
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)				
目標①②③④：毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。				
教科書				
書名：機能不全家族 著者名：星野仁彦 発行所：アートヴィレッジ 価格：1,600円 (税別)				

授 業 科 目 名	公認心理師の職責		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 村 泰 博		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学） 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、 日本行動医学会、日本健康心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>本科目では、公認心理師の基本的な職務やその責任について学ぶ。本授業を通して公認心理師の役割について理解した上で、さまざまな他の授業においてさらに知識を深めてほしい。授業については教科書の内容を中心に進めるが、順の入れ替え、履修者による発表を行う。</p>	○	A	知識
		B	技能
		C	論理的思考力
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
		E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
		アクティブラーニングの要素	
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
	ウ	グループワーク	
	○	エ	プレゼンテーション
		オ	実習・フィールドワーク
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 公認心理師の役割について概説できる。	目標	A	
② 公認心理師の法的義務、倫理と情報の取り扱いについて概説できる。	目標	A	
③ 5分野における公認心理師の具体的な業務について概説できる。	目標	A	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	公認心理師の役割	講義	教科書の予習・復習
3	公認心理師の法的義務・倫理	講義	教科書の予習・復習
4	クライアント／患者の安全の確保のために	講義	教科書の予習・復習
5	情報の適切な取り扱いについて	講義	教科書の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	支援者としての自己課題発見・解決能力	講義、ミニレポート	教科書の予習・復習
7	生涯学習への準備	講義、ミニレポート	教科書の予習・復習
8	多職種連携と地域連携	講義、ミニレポート	教科書の予習・復習
9	5分野における具体的な業務①	発表準備	教科書の予習・復習
10	5分野における具体的な業務②	発表準備	教科書の予習・復習
11	5分野における具体的な業務③	発表準備	教科書の予習・復習
12	5分野における具体的な業務④	発表準備	教科書の予習・復習
13	5分野における具体的な業務の発表	発表	教科書の予習・復習
14	5分野における具体的な業務の発表	発表	教科書の予習・復習
15	公認心理師の今後の展開	講義	教科書の予習・復習
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：期末試験50点満点 目標②：レポート30点 目標③：発表10点、感想レポート10点 ほかに評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
教科書			
書名：公認心理師の職責 著者名：野島一彦（編） 発行所：遠見書房 価格：2,000円（税別）			

授 業 科 目 名	学 習 ・ 言 語 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 田 辺 稔		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福 島 市 児 童 福 祉 専 門 部 会 会 長 (2018. 4 以 前) 二 本 松 市 立 幼 稚 園 適 正 規 模 検 討 委 員 会 議 長 (2019.10 以 前)			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	玉 川 大 学 大 学 院 文 学 研 究 科 修 士 課 程 (教 育 学 専 攻) 修 了 修 士 日 本 応 用 心 理 学 会 ・ 日 本 社 会 心 理 学 科 ・ 日 本 カ ウ ン セ ン グ 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	専 門 教 育 科 目	必 修		
認 定 心 理 士	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー : 毎 週 月 曜 日 16 : 10 ~ (宮 代 キ ャ ン パ ス 研 究 室) メ ー ル ア ド レ ス : tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
① 人 の 行 動 が 変 化 す る 過 程 と ② 言 語 の 習 得 に お け る 機 序 を 学 ぶ 。 学 習 で は 学 習 ・ 行 動 領 域 の 心 理 学 と し て 学 習 ・ 行 動 研 究 の 歴 史 、 考 え 方 、 他 領 域 と の 接 続 を 念 頭 に 条 件 反 射 、 試 行 錯 誤 学 習 ・ 効 果 の 法 則 、 古 典 的 行 動 主 義 恐 怖 条 件 づ け 、 新 行 動 主 義 、 徹 底 的 行 動 主 義 認 知 主 義 の 流 れ を 学 び 、 言 語 の 習 得 で は 語 彙 の 獲 得 過 程 に 注 目 し な が ら 言 語 の 学 習 過 程 を 理 解 し て い く 。	○	A 知 識
		B 技 能
	○	C 論 理 的 思 考 力
		D 文 章 ・ 身 体 ・ 感 性 等 に 関 す る 表 現 力
		E 課 題 対 処 力
		F 多 様 性 の 理 解 力
		G 対 人 関 係 構 築 力
	ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 要 素	
	○	ア 協 定 等 に 基 づ く 外 部 機 関 と 連 携 し た 課 題 解 決 型 学 習
		イ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 、 デ ィ ベ ー ト
	ウ グ ル ー プ ワ ー ク	
	エ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
	オ 実 習 ・ フ ィ ー ル ド ワ ー ク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 人 の 行 動 が 変 化 す る 過 程 を 習 得 し 説 明 で き る 。	目 標	A ・ C
② 学 習 ・ 行 動 研 究 の 歴 史 を 説 明 で き る 。	目 標	A ・ C
③ 言 語 の 学 習 過 程 を 理 解 し 説 明 で き る 。	目 標	A ・ C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 授 業 の 流 れ と 留 意 点 。 講 義 課 題 、 授 業 の 進 め 方 、 評 価 方 法 に 関 す る ガ イ ダ ン ス		
2	学 習 の 基 礎 : 受 講 者 が と ら え る 「 学 習 」 を 題 材 に 日 常 的 な 「 行 動 」 の と ら え 方 に つ い て 学 ぶ	体 系 的 な 学 び の 前 に 、 受 講 者 各 人 が と ら え る 学 習 観 に つ い て 議 論 し て い く 。 (履 修 者 数 に よ り グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と す る 場 合 も あ る)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「赤ちゃんはどのように知識を得るのか」 チョムスキー／生成文法と言語獲得	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 121から p 128を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
4	言葉の学習 語彙の獲得過程を考える 喃語 初語 一語発話 二語発話 概念カテゴリー 理解語	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用	教科書 p 121から p 128を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
5	単語の意味の推論と学習 改めて「学習」とは何かを考える 単元2の受講者がとらえる「学習」を題材に再度意見を交わしていく。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用（履修者数によりグループディスカッションとする場合もある）	教科書 p 13から p 16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	レスポナント（古典的）条件づけ① パプロフの実験から得られた知見	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用	教科書 p 13から p 16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
7	レスポナント（古典的）条件づけ② ソーンダイク（試行錯誤学習・効果の法則） 自分たちの行動にみられる条件づけを挙げてみる	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用 （履修者数によりグループディスカッションとする場合もある）	教科書 p 16から p 26を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	レスポナント（古典的）条件づけ③ ワトソン（古典的行動主義 恐怖条件づけ）	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用	教科書 p 16から p 26を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	ソーンダイクの問題箱 試行錯誤 新行動主義 ① トールマン（認知地図 仲介変数）	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
10	新行動主義 ② スキナー（オペラント条件づけ） 自分たちの行動にみられる条件づけを挙げてみる	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 29から p 42を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	新行動主義 ③ スキナー（徹底的行動主義） 強化・弱体化 強化子・弱化学子、消去・消去抵抗	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 29から p 42を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
12	新行動主義 ④ スキナー（三項随伴性）	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 29から p 42を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	新行動主義 ⑤ スキナー（三項随伴性とABC分析）	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 29から p 42を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
14	新行動主義と認知心理学の台頭	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
15	学びの振り返り	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	後期末試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標①②③：期末試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。</p> <p>レポート 期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。</p> <p>小テスト 授業内容の理解度あるいは授業項目上必要とされる事前の知識等の確認のため、単元区分で3回の小テストを実施する。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：学習・言語心理学 著者名：郷式徹・西垣順子 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,200円（税別）</p>	<p>特に定めないが、「発達心理学」、「教育相談」等で使用される教科書をよく読んでおくこと。</p>
その他補足事項	
<p>本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を活用していく。実習等により欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。</p>	

授 業 科 目 名	神 経 ・ 生 理 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：角 田 裕 (本務先：福島県立医大第二内科および神経内科同門会員 職名：神経内科医師)		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島県立医科大学にて医学生、総合衛生学院看護学生を対象に講義・実習指導を行う（約20年間） その後も非常勤講師として講義を不定期にて行う			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島県介護保険審査員、福島県医師会裁定委員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福島県立医科大学医学部昭和48年卒業、医学博士取得 日本神経学会認定医、日本内科学会認定医、リハビリテーション学会所属い ずれも40年以上			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で対応			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
神経内科部門では解剖、専門知識だけでも膨大なものとなるので、重要かつ必要性の高いものをコンパクトにまとめ、用語や考え方は、記憶しやすいように講義のなかで繰り返し用いる。知識は論理的思考に必要であり、授業の機会あるごとに判りやすく解説する。さらに発展して多様な要素の多い心理学への応用力を期待する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 実用的な知識を中心にコンパクトに記憶してもらう。	目標	A
② 知識を元に長く使える論理的思考を習得する。	目標	C
③ 新しい事象への正しい対応力を養う。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	中枢神経系の解剖と機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
2	自律神経系、末梢神経の解剖と機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
3	神経系に関わる体の解剖と機能	①解剖・機能についてレポート (レジュメを参考とする)	配付レジュメを読む
4	神経症候学 — 高次機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	神経症候学—運動(錐体路系、外路系他)	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
6	神経症候学—知覚、感覚系	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
7	神経症候学—自律神経系、他	②神経症候学についてレポート(レジユメを参考とする)	配付レジユメを読む
8	脳卒中 ①	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
9	脳卒中 ②	③脳卒中についてレポート(レジユメを参考とする)	配付レジユメを読む
10	認知症と周辺疾患	「認知症とは」 ディスカッションする	配付レジユメを読む
11	神経疾患各論 ①	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
12	神経疾患各論 ②	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
13	ストレス(PTSD)、フレイル	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
14	脳神経系の検査、神経伝達物質	レジユメを用意します	配付レジユメを読む
15	総合的観点からみた脳神経系	レジユメを用意します ディスカッションが入ります	配付レジユメを読む
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①②③：期末試験(60点) 目標②：課題レポート(40点)			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
教科書は使用しないが、毎回レジユメを用意して講義を行う。 各授業ではテーマの他に、ワンポイントで役に立つ知識を加えて解説します。			

授 業 科 目 名	健康・医療心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 村 泰 博		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学） 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会、日本健康心理学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本科目は健康心理学と、医療心理学の2つの大きな柱から成る。内容はストレスに関する理論的な内容から保健医療現場における実践や災害に関する支援など幅広く学ぶ。領域が多岐に渡ること、後半の内容が実践的であることから、授業内で教科書の全てを網羅することが難しい。そのため履修者は授業時間以外に自主的に足りない部分を補う学習を行ってほしい。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① ストレスと心身の疾病との関係について概説できる。		目標 A
② 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。		目標 A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 健康心理学	講義	教科書の予習・復習
2	健康心理学におけるアセスメントと支援	講義	教科書の予習・復習
3	ストレスマネジメント	講義	教科書の予習・復習
4	各種の心理支援法	講義	教科書の予習・復習
5	医療心理学	講義	教科書の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	医療心理学におけるアセスメントと支援	講義	教科書の予習・復習
7	精神科、児童精神科	講義	教科書の予習・復習
8	院内独立型心理室	講義	教科書の予習・復習
9	心療内科	講義	教科書の予習・復習
10	小児科	講義	教科書の予習・復習
11	緩和医療	講義	教科書の予習・復習
12	産業保健	講義	教科書の予習・復習
13	地域保健活動の実際	講義	教科書の予習・復習
14	災害心理学	講義	教科書の予習・復習
15	多職種共同と医療連携	講義	教科書の予習・復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①：期末試験50点 目標②：キーワードのまとめ30点、ディスカッションへの参加度20点 ほかに評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。			
教科書			
書名：健康・医療心理学 著者名：宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編） 発行所：医歯薬出版株式会社 価格：3,000円（税別）			

授 業 科 目 名	関 係 行 政 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：講師	氏名：木村 泰博	開 講 期	前 期
	職名：助教	氏名：松田 るり		
	職名：助教	氏名：渡邊 宏周	授 業 回 数	15 回
	職名：講師	氏名：北本明日香		
職名：教授	氏名：藤原 正子	期 末 試 験 の 有 無	無	
職名：准教授	氏名：齊藤 隆之			
職名：教授	氏名：遠藤 寿海			
職名：教授	氏名：杉山 雅彦			
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専門教育科目	選択	
公認心理師		専門教育科目	必修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		各回の授業の前後に質問を受けつけます。 メールアドレス：各専任教員の他の担当科目によりご確認ください。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本科目では公認心理師の活動範囲である保健医療・福祉・教育・司法・産業の5分野における法律や制度について学ぶ。これらの法律をふまえ、公認心理師の役割について理解を深める。なお、本科目のみではそれぞれの分野における法律や制度について深く学ぶことは難しいため、他の専門教育科目の内容と併せて学習を進めることを望む。	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標		授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
① 5 分野それぞれに関係する法律・制度について概説できる。		目標 A

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	法・制度の基本と公認心理師 (木村)	講義	教科書の復習
2	公認心理師の法的立場と多職種連携 (松田)	講義	教科書の復習
3	公認心理師の各分野への展開 (渡邊宏)	講義	教科書の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	医療分野に関する法律・制度① 医療全般（ゲストスピーカー）	講義	教科書の復習
5	医療分野に関する法律・制度② 精神科医療（北本）	講義	教科書の復習
6	医療分野に関する法律・制度③ 地域保健・医療（藤原）	講義	教科書の復習
7	福祉分野に関する法律・制度① 児童福祉（松田）	講義	教科書の復習
8	福祉分野に関する法律・制度② 障害者・障害児福祉（齊藤）	講義	教科書の復習
9	福祉分野に関する法律・制度③ 高齢者福祉（遠藤）	講義	教科書の復習
10	教育分野に係る法律・制度（松田）	講義	教科書の復習
11	司法・犯罪分野に関する法律・制度① 刑事（北本）	講義	教科書の復習
12	司法・犯罪分野に関する法律・制度② 家事（齊藤）	講義	教科書の復習
13	司法・犯罪分野に関する法律・制度③ 少年非行（杉山）	講義	教科書の復習
14	産業・労働分野に係る法律（木村）	講義	教科書の復習
15	法律が命を支えるために（渡邊宏）	講義	教科書の復習
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①：レポート 70点 各回のコメントシート 30点 ほかに評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。</p>			
教科書			
<p>書名：関係行政論 著者名：元永拓郎（編） 発行所：遠見書房 価格：2,600円（税別）</p>			

授 業 科 目 名	社会福祉原論		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学) 社会福祉士(第46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会(福島県社会福祉士会)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：saito.takayuki fukushima.college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>現代社会は多くの社会問題・社会変動が起き、それに伴って生活問題の発生、生活(福祉)ニーズの多様化や高度化が進んでいる。このような背景の中、社会福祉に携わる者に求められるものもまた多様化し、高度化しているといえる。本講義では、テキスト等で学べる知識にとどまらず、実際の生活や社会をといった「現場」の実践を意識した現代社会と福祉についての多角的理解と考察を通して、社会福祉への関心と理解を深める。また、多様化・高度化する福祉問題の解決の基礎を身につけ、福祉的な視点をベースに豊かな心と広い視野をもつことを図るものである。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 現代社会と福祉制度・福祉政策の関係について理解する。	目標	A
② 社会福祉の意義・基本原理と思想・形成過程を理解する。	目標	A・F
③ 相談援助と福祉政策の関係について理解する。	目標	A・C・F
④ 今後社会福祉を学んでいく上での基礎的知識を身につける。	目標	A・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉を学ぶ意義とソーシャルワーカー	PPT、レジュメ配付、対話	講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅰ	PPT、レジュメ配付、対話	ノート整理と発展学修 次回への準備
3	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅱ	PPT、レジュメ配付、対話	ノート整理とディスカッションへの準備
4	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅲ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅰ	PPT、レジュメ配付、対話	講義時に指示
6	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	講義時に指示
7	福祉制度の発達過程Ⅰ	PPT、レジュメ配付、対話	ノート整理と発展学修
8	福祉制度の発達過程Ⅱ	VTR鑑賞 映画「シッコ」(60分 ※全体の一部を視聴)、対話	VTR視聴シートの作成
9	福祉制度の発達過程Ⅲ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
10	子育て支援と児童福祉の歴史	VTR鑑賞「ハートネットTV戦後 70年児童福祉」(30分)、対話	VTR視聴シートの作成
11	戦後日本の福祉	VTR鑑賞「ハートネットTV戦後 70年障害者福祉・高齢者福祉」(計 60分)、対話	VTR視聴シートの作成
12	福祉政策におけるニーズと資源Ⅰ	PPT、レジュメ配付、対話	ノート整理と発展学修
13	福祉政策におけるニーズと資源Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
14	福祉政策の課題Ⅰ	PPT、レジュメ配付、対話	ノート整理と発展学修
15	福祉政策の課題Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
期末 試験	前期末試験		
16	福祉政策の構成要素Ⅰ (気候等に応じてⅡ・Ⅲと順番の入れ替えあり)	PPT、レジュメ配付、対話	講義時に指示
17	福祉政策の構成要素Ⅱ (近隣のリサーチから「福祉」を探す)	リサーチ (グループワーク)	リサーチ結果の要約
18	福祉政策の構成要素Ⅲ	リサーチ結果のまとめ (グループによるプレゼンの準備)	次回発表の準備
19	福祉政策の構成要素Ⅳ	リサーチ結果の発表 (課題点①)	他グループ発表をふまえた内省。福祉に関する法律の確認
20			
21	現代社会における課題を考える	現代社会における新たな課題の ニューストピックスの問題点と改善点 を考える	ニュース等の視聴

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	法律を作ってみようⅠ	個人ワーク これまでの資料、作成用紙	個人作業からグループワークへの準備、グループでの発表準備
23	法律を作ってみようⅡ	グループワーク これまでの資料、作成用紙	
24	法律を作ってみようⅢ	発表・解説 (課題点②)	発表の振り返り
25	これからの福祉を考える	ディスカッション	講義時に指示
26	これからの社会福祉を担う者としてⅠ (福祉に関する作品の紹介)	個人シート作成→グループワーク	講義時に指示
27	これからの社会福祉を担う者としてⅡ (福祉に関する作品の紹介)	グループワーク	発表準備
28	これからの社会福祉を担う者としてⅢ (福祉に関する作品の紹介)	発表・解説 (課題点③)	発表準備
29	これからの社会福祉を担う者としてⅣ (福祉に関する作品の紹介)	発表・解説 (課題点③)	
30	まとめ 福祉の原点とは	ディスカッション	既習内容の振り返り
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②③④：〈基礎点〉定期試験80点(前期40点、後期40点)(a) 目標①③：〈加算点〉発言点+グッドコメントポイント(上限15点)(b)、課題点(最高5点×3回)(c) 〈評価〉(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
講義内で紹介する。			

授 業 科 目 名	医 療 福 祉 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：伊藤久美子 (本務先：南東北福島病院 職名：社会福祉士)		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	総合南東北病院・富久山地域包括支援センター・南東北福島病院にて社会福祉士として勤務（平成11年～現在）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特記事項なし			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	つくば国際大学産業社会学部社会福祉学科 社会福祉士・介護支援専門員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後 に 対 応			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本講義は、保健医療サービスの制度の理解の上に、今日の変化を踏まえて、保健医療機関でのソーシャルワークを展開する留意点を学ぶ。また、自らの価値観を再吟味する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 医療と福祉の関係について理解する。	目標	A
② 保健医療機関でのソーシャルワーク実践の方法及び留意点を理解する。	目標	A
③ 生命、健康、生活、人生に対する倫理、価値について考える。	目標	A・F・G

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	医療と社会福祉について	配付資料・レポート	新聞やニュースのチェック復習
2	医療ソーシャルワーカーの業務指針	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
3	保健医療機関における援助方法の実際①	資料配付・講義	社会福祉援助技術論の復習
4	保健医療機関における援助方法の実際②	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
5	ライフステージ（こども）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
6	ライフステージ（成人期）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	ライフステージ（高齢期）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
8	ライフステージ（障がい①）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
9	ライフステージ（障がい②）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
10	貧困と医療と福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
11	医療の発展と福祉	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
12	生命・医療・福祉（生活）について考える①	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
13	生命・医療・福祉（生活）について考える②	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
14	倫理綱領	資料配付・講義	新聞やニュースのチェック復習
15	まとめ 医療と社会福祉	資料配付・講義	半期のまとめ復習
期末試験	後期末筆記試験	資料配付・講義	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
到達目標①③：期末試験（記述方式）で理解度を確認します。（70点） 到達目標①②③：授業の中での発言や態度などで評価します。（30点）			
教科書			
使用なし。			

授 業 科 目 名	社 会 調 査 法		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
社会調査とはすなわち、社会を調べること、と言える。社会をどのような視点から調べるのか、調べた結果をどのように解釈していくのか、という点については、科学的根拠に基づいて論じることが求められる。本講義では、社会調査の基礎知識と方法の概略を学ぶことによって、社会のなかで公表されている様々なデータを正しく読み取る力を身につけることや、根拠ある情報を集め、集めた情報からの確に状況を把握し、解釈ができるようになることを目指す。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 社会調査の意義を理解し、社会調査に関する基礎的知識を身につける。	目標	A・B・C・E
② 社会調査に関する基礎知識をもとに、様々なデータを読み取る力を身につける。	目標	A・B・C・E
③ 社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。	目標	A・B

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 1-1. 社会調査の意義と目的 1-2. 統計法の概要	講義 教材：教科書	教科書 p. 1 ~ p. 54 を 事前に読む
2	2. 社会調査における倫理と個人情報保護	講義 教材：教科書	教科書 p. 157 ~ p. 164 を 事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	3-1. 量的調査の基本的な理解	講義 教材：教科書	教科書 p.55～p.75を事前に読む
4	3-2. 量的調査の具体的方法① ・全数調査と標本調査 ・標本とは	講義 教材：教科書	教科書 p.55～p.75を事前に読む
5	3-3. 量的調査の具体的方法② ・標本抽出	講義 教材：教科書	教科書 p.55～p.75を事前に読む
6	3-4. 量的調査の具体的方法③ ・質問紙調査 調査方法	講義 教材：教科書	教科書 p.55～p.75を事前に読む
7	3-5. 量的調査の具体的方法④ ・質問紙調査 調査票の作成・配布・回収	講義 教材：教科書	教科書 p.55～p.75を事前に読む
8	3-6. 量的調査の具体的方法⑤ ・量的調査データの集計と分析(1)	講義 教材：教科書	教科書 p.76～p.108を事前に読む
9	3-7. 量的調査の具体的方法⑥ ・量的調査データの集計と分析(2)	講義 教材：教科書	教科書 p.76～p.108を事前に読む
10	3-8. 量的調査の具体的方法⑦ ・実際の調査データを読み解く	グループワーク	
11	4-1. 質的調査の基本的な理解	講義 教材：教科書	教科書 p.109～p.156を事前に読む
12	4-2. 質的調査の具体的方法 ・調査手法(観察法、面接法など)	講義 教材：教科書	教科書 p.125～p.138を事前に読む
13	4-3. 質的調査の具体的方法 ・質的調査データの分析	講義 教材：教科書	教科書 p.139～p.150を事前に読む
14	5-1. 調査を設計してみる 調べたいこと・知りたいことを決め、調査を設計する	グループワーク	
15	まとめ 社会科学としての社会福祉	講義 教材：教科書	教科書 p.179～p.188を事前に読む
期末試験	前期末期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①：前期末期末試験 80% 目標②：グループワークのまとめの提出 20%			
教科書		参考書	
書名：社会調査の基礎 第3版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,200円(税別)		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
特記事項なし。			

授 業 科 目 名	相談援助の基盤と専門職		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：さいとう たかゆき 齊 藤 隆 之		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学) 社会福祉士(第46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会(福島県社会福祉士会)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：saito.takayuki fukushima.college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
相談援助の専門性に係る倫理や定義、およびその形成過程についてのベーシックな理解を図ると共に、今後専門職者として学習を進めるうえで必要な素養を身に着ける。特に講義内では、各単元について実践事例を交えながら社会福祉士の視点について学ぶものである。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 相談援助専門職の役割と意義について理解すると共に倫理・範囲および理念について理解する。	目標	A・C・F
② ソーシャルワーク形成過程を理解する。	目標	A
③ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	目標	A・C
④ ソーシャルワーカーとしての社会福祉士像を具体的に持つことができ、実践者としての研鑽の姿勢の必要性を理解することができる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	社会福祉士の役割と意義・現代社会と地域生活	PPT レジュメの配付	復習：講義資料に記載
2	ソーシャルワークの概念Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章1」確認 復習：講義時に指示
3	ソーシャルワークの概念Ⅱ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章1」確認 復習：講義時に指示
4	ソーシャルワークの構成要素	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章2」確認 復習：講義時に指示
5	ソーシャルワークの形成過程：源流	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章1」確認 復習：講義時に指示
6	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期・発展期	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章2、第4章1」確認 復習：講義時に指示
7	ソーシャルワークの形成過程：展開期・統合化	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第4章2・3」確認 復習：講義時に指示
8	ソーシャルワークの形成過程：日本	PPT、教科書 レジュメの配付	復習：講義時に指示
9	ソーシャルワーカーと価値・ソーシャルワーク実践と価値	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5章1・2」確認 復習：講義時に指示
10	ソーシャルワーク実践と権利擁護	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5章3」確認 復習：講義時に指示
11	クライアントの尊厳と自己決定	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第6章1」確認 復習：講義時に指示
12	ノーマライゼーションと社会的包摂	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第6章2」確認 復習：講義時に指示
13	専門職倫理	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章1」確認 復習：講義時に指示
14	専門職倫理と倫理的ジレンマⅠ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章2」確認 復習：講義時に指示
15	専門職倫理と倫理的ジレンマⅡ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章3」確認 復習：講義時に指示
期末試験	前期末試験		
16	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景	ケーススタディ 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章1」確認 復習：講義時に指示
17	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章2」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	地域を基盤としたソーシャルワークの8機能	PPT、教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第8章3」確認 復習：講義時に指示
19	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	PPT、教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章1」確認 復習：講義時に指示
20	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章2」確認 復習：講義時に指示
21	相談援助専門職の概念	教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第10章1」確認 復習：講義時に指示
22	相談援助専門職の範囲 諸外国の動向	教科書 レジュメの配付	予習：教科書「教科書第10章2・3」確認 復習：講義時に指示
23	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) 予防機能	ケーススタディ・教科書 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
24	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) 新しいニーズへの対応	ケーススタディ・教科書 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
25	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(3) 総合的支援機能	ケーススタディ・教科書 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
26	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(4) 権利擁護機能	ケーススタディ・教科書 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
27	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(5) 社会資源開発機能	ケーススタディ・教科書 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
28	事例研究	グループワーク	プレゼンテーションの準備
29	事例研究	グループワーク	プレゼンテーションの振り返り
30	総括	これまでの資料等 ディスカッション	定期試験に向けた総括学修
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①～④：〈基礎点〉定期試験100点（前期50点、後期50点）(a) 〈加算点〉発言点+グッドコメントポイント（上限20点）(b) 〈評価〉(a)+(b)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
<p>書名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職（第3版） 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）</p>			
その他補足事項			
講義内で紹介する。			

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論 I		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
社会福祉士		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>「相談援助の基盤と専門職」の学びを踏まえて、ソーシャルワークの定義・機能や役割、構造などの理解を深めるとともに、ソーシャルワークの展開過程と各段階において必要とされる知識や技術について理論的に学ぶ。</p> <p>本講義では、援助過程を機能として捉え、援助関係における人と環境の相互作用をシステム論的視座から理解し、援助の展開過程（プロセス）全体を丁寧に学ぶことでソーシャルワーカーの役割を整理していく。生活の中で生きづらさを抱える人々に向き合い、生活課題の解決にとどまらず、より良く生きることや自己実現を志向する援助を展開していくための基礎的理論と知識を身につけることを目指す。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① ソーシャルワーク実践を支える基本的な知識や技術を活用できるようになるために、ソーシャルワークの価値と倫理に根ざした態度を涵養する。	目標	F
② ソーシャルワーク実践を支える基本的な援助技術の意義と目的を理解し、実践力を養う。	目標	A・B・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1-1. 相談援助とはなにか ・ソーシャルワークとソーシャルワーカーの役割	講義 教材：教科書	教科書の目次ページの確認 教科書 p.1～p.26を事前に読む
2	1-2. ソーシャルワークの定義と構成要素 ・ソーシャルワークのグローバル定義 ・ソーシャルワークの構成要素	講義 教材：教科書	教科書 p.1～p.26を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	2-1. ソーシャルワークの構造と機能① • ソーシャルワークの構造 • ソーシャルワークにおけるニーズ	講義 教材：教科書	教科書 p.27～p.51を事前に読む
4	2-2. ソーシャルワークの構造と機能② • ソーシャルワークの機能	講義 教材：教科書	教科書 p.27～p.51を事前に読む
5	3. 人と環境の交互作用	講義 教材：教科書	教科書 p.52～p.67を事前に読む
6	4-1. 相談援助における援助関係① • 意義、形成要因、援助構造	講義 教材：教科書	教科書 p.68～p.84を事前に読む
7	4-2. 相談援助における援助関係② • 援助関係の質と自己覚知 • ソーシャルワークの実践領域	講義 教材：教科書 自己覚知ワーク	教科書 p.85～p.93を事前に読む
8	5-1. ソーシャルワークの展開過程Ⅰ① • 展開過程の全体像	講義 教材：教科書	教科書 p.95～p.101を事前に読む
9	5-2. ソーシャルワークの展開過程Ⅰ② • ケース発見からアセスメント	講義 教材：教科書	教科書 p.102～p.121を事前に読む
10	5-3. ソーシャルワークの展開過程Ⅰ③ • 支援目標の設定から支援の実施	講義 教材：教科書	教科書 p.122～p.136を事前に読む
11	6-1. ソーシャルワークの展開過程Ⅱ① • モニタリングからアフターケア	講義 教材：教科書	教科書 p.137～p.148を事前に読む
12	6-2. ソーシャルワークの展開過程Ⅱ② • 予防的対応とサービス開発 • ソーシャルアクション	講義 教材：教科書	教科書 p.149～p.153を事前に読む
13	7. アウトリーチ	講義 教材：教科書	教科書 p.155～p.165を事前に読む
14	8. 契約（エンゲージメント）	講義 教材：教科書	教科書 p.167～p.179を事前に読む
15	前期のまとめ • ソーシャルワークのプロセスの振り返り	講義 教材：教科書	
期末試験	前期末期末試験		
16	9-1. アセスメント① • アセスメントを支える専門援助的関係 • バイステック	講義 教材：教科書	教科書 p.181～p.188を事前に読む
17	9-2. アセスメント② • 統合的アセスメント • アセスメントのツール	講義 教材：教科書	教科書 p.189～p.204を事前に読む
18	10. 介入	講義 教材：教科書	教科書 p.205～p.221を事前に読む
19	11-1. モニタリング、再アセスメント	講義 教材：教科書	教科書 p.223～p.238を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	11-2. 効果測定、評価	講義 教材：教科書	教科書 p.239～p.248を事前に読む
21	12. ソーシャルワークの理論 ・歴史の変遷を踏まえて	講義 教材：配付資料	配付資料で復習
22	13. ソーシャルワークの実践アプローチ①	講義 教材：配付資料	配付資料で復習
23	14. ソーシャルワークの実践アプローチ②	講義 教材：配付資料	配付資料で復習
24	事例検討① ・援助の中でソーシャルワーカーが果たす役割	グループワーク 教材：配付資料	提示した事例を読み込む
25	事例検討② ・援助関係を構築する	グループワーク 教材：配付資料	提示した事例を読み込む
26	面接体験① ・ロールプレイの準備	グループワーク 教材：配付資料	自分自身のコミュニケーション技術を振り返る
27	面接体験② ・ロールプレイ体験	グループワーク 教材：配付資料	自分自身のコミュニケーション技術を振り返る
28	プランニング体験① ・事例をもとにプランを作成する プランは誰のものかを考えながら作成を試みる	グループワーク 教材：配付資料	アセスメント技術について振り返る
29	プランニング体験② ・事例をもとにプランを作成し、提出する	グループワーク 教材：配付資料	
30	プランニング体験③ ・作成したプランをクライアント役の学生に説明する	グループワーク 教材：配付資料	振り返りシートをまとめる
期末試験	後期末期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①：前期・後期末試験 70% 目標②：後期に実施するグループワークの課題提出 30%			
教科書		参考書	
書名：相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）		授業のなかで紹介する。	
その他補足事項			
特記事項なし。			

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：舟 山 信 悟 (本務先：社会福祉法人けやきの村 職名：理事長)		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人けやきの村 障害者支援施設けやきの村・青松苑・静心園 生活支援員・職業指導員(昭和55年4月～)を経て、青松苑・静心園・けやきの村施設長(平成19年4月～)を歴任。現在、常務理事(平成25年9月～)を経て、理事長兼相談支援センター所長(令和元年6月～現在に至る)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市障がい者自立支援審査会委員、福島市障がい者地域生活支援協議会委員、福島市社会福祉基金運営委員会委員、一般社団法人福島県社会福祉士会副会長、福島県立大笹生支援学校評議員、福島県障がい者スポーツ協会監事、福島県障がい者自立支援協議会委員、福島県福祉人材センター運営委員会委員、協会けんぽ福島支部健康づくり推進会議委員、福島県北地区障がい福祉連絡協議会会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北学院大学法学部法律学科 社会福祉士、精神保健福祉士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応 メールアドレス：michiminami18 yahoo.co.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義では、これまでに「相談援助の基盤と専門職」「社会福祉援助技術論Ⅰ」で学んだソーシャルワークにおける諸理論や基本的アプローチ等をもとに、ソーシャルワークのスキル、ICT技術の活用、ネットワーキングの方法等、実際にソーシャルワーカーとして従事する際に必要なスキルや方法を学びます。そのため、実践現場での具体的な活用方法や理論と実践の矛盾、葛藤、ジレンマ等について、実践事例等を挙げながら理解の深化を図ります。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① ソーシャルワークにおける面接技術、記録について理解する。	目標	A・B
② グループワークについて理解する。	目標	A・B・G
③ ICTの活用、社会資源の調整、ネットワーキングについて理解する。	目標	A・B
④ スーパービジョンについて理解する。	目標	A・B・E
⑤ ソーシャルワークの全体像を理解する。	目標	A・B・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション これまでの学びの振り返り	ディスカッション	復習；ディスカッションの振り返り
2	ソーシャルワークにおける知識と学問知Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第1章」確認 復習；講義時に指示
3	ソーシャルワークにおける知識と学問知Ⅱ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第1章」確認 復習；講義時に指示
4	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術 ①	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第2章」確認 復習；講義時に指示
5	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術 ②	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第2章」確認 復習；講義時に指示
6	ソーシャルワークと面接技術Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第3章」確認 復習；講義時に指示
7	ソーシャルワークと面接技術Ⅱ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第3章」確認 復習；講義時に指示
8	ソーシャルワークと面接技術Ⅲ	VTRの視聴 「ケースの心をとらえる面接」(45分) ディスカッション	ディスカッションの振り返り
9	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第4章」確認 復習；講義時に指示
10	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法Ⅱ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第4章」確認 復習；講義時に指示
11	ソーシャルワークとICT技術の活用Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第5・6章」 確認 復習；講義時に指示
12	ソーシャルワークとICT技術の活用Ⅱ	事例等による実践例の確認 グループディスカッション	ディスカッションのまとめ
13	これからのICT技術の活用（これからのソーシャルワークにおいてどのようなICT技術が想像できるだろうか）	プレゼンテーション準備	プレゼン準備
14	これからのICT技術の活用（これからのソーシャルワークにおいてどのようなICT技術が想像できるだろうか）	プレゼンテーション (課題①)	プレゼンの振り返り
15	前期のまとめ	対話による振り返り	レジュメのまとめと発展的学修
期末試験	前期末試験		
16	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用①	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第7章」確認 復習；講義時に指示
17	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用②	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第7章」確認 復習；講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用③	事例によるケーススタディ	事例のまとめ
19	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第8章」確認 復習；講義時に指示
20	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発Ⅱ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第8章」確認 復習；講義時に指示
21	ソーシャルワークにおけるネットワーキングⅠ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第9章」確認 復習；講義時に指示
22	ソーシャルワークにおけるネットワーキングⅡ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第9章」確認 復習；講義時に指示
23	ケアマネジメントの方法Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第10章」確認 復習；講義時に指示
24	ケアマネジメントの方法Ⅱ	ケーススタディ、実践での活用を考える	
25	スーパービジョンの方法Ⅰ	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第11章」確認 復習；講義時に指示
26	事例研究の方法	PPT、教科書 レジュメの配付	予習；教科書「第12章1」確認 復習；講義時に指示
27	事例検討（自己決定、権利擁護）	教科書	予習；教科書「第12章2・3」確認 復習；講義時に指示
28	事例検討（自立支援、尊厳の回復）	教科書	予習；教科書「第12章4・5」確認 復習；講義時に指示
29	連携を考える（模擬事例を使って）	模擬事例 ネットワーキング案の作成（課題②）	模擬事例の振り返り
30	総括	対話による振り返り	定期試験に向けた総括学修
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③④⑤：〈基礎点〉定期試験80点（前期40点、後期40点）(a) 目標②④⑤：〈加算点〉発言点（10点）(b)、課題点（5点×2回）(c) 〈評価〉(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
<p>書名：ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 著者名：相澤譲治 他 発行所：株みらい 価格：2,300円（税別）</p>			

授 業 科 目 名	地 域 福 祉 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 日 下 輝 美	開 講 期	前 期	
		授 業 回 数	15 回	
		期 末 試 験 の 有 無	有	
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	柴田町社会福祉協議会 (昭和60年7月~平成19年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了 (修 士 (経 営 学)) 日 本 地 域 福 祉 学 会 、 日 本 社 会 福 祉 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
精 神 保 健 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
地方分権化、社会サービスシステム、コミュニティワーク、住民参加の視点から地域福祉をとらえ、その理念、対象、政策展開、構成要件、財源、主体、推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動 (経済・地域社会・家族関係) を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について学習します。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 地域福祉の歴史的展開 (法律、制度等) 過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。	目標	A・C
② 地域福祉の基本的な考え方 (人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む) について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C・E・F
③ ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。	目標	E・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	講義・教科書	復習：現代の地域生活と地域福祉の整理
2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	講義・教科書	予習：教科書pp.10～23を読む 復習：地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	講義・教科書	予習：教科書pp.24～32を読む 復習：地域福祉の形成と発展の整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書pp.33～44を読む 復習：地域福祉の法律と組織の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	講義・教科書	予習：教科書の pp.45～51を読む 復習：社会福祉協議会の整理
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	復習：地域福祉の主体と対象の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	講義・教科書	予習：教科書の pp.52～59を読む 復習：地域福祉の専門職の整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	講義・教科書 小テスト	予習：教科書の pp.60～67を読む 復習：福祉に関連する社会資源の整理
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	講義・教科書	予習：教科書の pp.68～76を読む 復習：福祉ニーズの把握方法について整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書の pp.77～83を読む 復習：地域トータルケアシステムの整理
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	講義・教科書	予習：教科書の pp.84～92を読む 復習：福祉サービスの評価方法について整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書のpp.93～100を読む 復習：社会福祉計画について整理
13	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	講義・教科書	予習：教科書のpp.101～108を読む 復習：福祉教育の整理
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書のpp.119～125を読む 復習：地域福祉とNPO・ボランティア活動課題の整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書のpp.126～135を読む 復習：地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標①②：期末試験 (各30点・平均点) 目標②③：ディスカッションの発言20点満点 授業時間以外の必要な学修のノート提出：30点			
教科書		参考書	
書名：地域福祉の原理と方法 第3版 著者名：井村圭壯 編著 発行所：学文社 価格：2,200円(税別)		書名：地域福祉の理論と実際 第2版 著者名：都築光一監修 発行所：建帛社 価格：2,520円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> • B5版以上のノートを準備してください。「授業時間以外の必要な学修」を各回予習してください。 • 教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用います。 • 補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。 			

授 業 科 目 名	コミュニティソーシャルワーク	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了(修士(経営学)) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>コミュニティソーシャルワークの役割と機能について理解し、事例を通してその実践方法・展開過程についての知見を得る。</p> <p>それらによって、社会福祉におけるコミュニティソーシャルワークの重要性および実用性について理解することを目的とします。</p>	A	知識
	B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	<input type="radio"/> F	多様性の理解力
	G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コミュニティソーシャルワークの特徴を理解するため、身近な地域に焦点を当てながら、「地域包括ケアシステム」の視点で説明できるようになる。	目標	C
② 地域における社会資源を把握し、事例を基にその活用・調整・開発の重要性について自分の視点で論じることができる。	目標	F
③ 地域における福祉ニーズの把握の方法について、身近な地域に焦点を当てながら、自分の視点で説明できるようになる。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 地域福祉とは何か	授業計画 教科書補助資料1	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2章 地域福祉のあゆみ 1. デンマーク 2. イギリス 3. アメリカ 4. 日本における地域福祉の歴史①	教科書補助資料2-1	教科書P28~40を事前に読む
3	第2章 地域福祉のあゆみ 1. 日本における地域福祉の歴史② 2. 今日における地域福祉の課題	教科書補助資料2-2	教科書P40~46を事前に読む 課題(宿題)レポート
4	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1. 社会福祉協議会 2. 民生委員・児童委員	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P48~66を事前に読む
5	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1. 各種福祉関係団体 2. ボランティア・NPO組織	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P67~89を事前に読む 課題(宿題)レポート
6	第4章 住民による地域福祉活動 1. 地域福祉活動計画 2. 地域福祉活動プログラム	教科書補助資料4	教科書P102~127を事前に読む
7	第4章 住民による地域福祉活動 住民による地域福祉活動の課題	教科書補助資料5	教科書P127~130を事前に読む
8	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1. 専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉	教科書補助資料6 ゲストスピーカー招聘	教科書P136~146を事前に読む
9	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法①	教科書補助資料7	教科書P146~162を事前に読む
10	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法②	教科書補助資料8 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	配付資料を読む 課題(宿題)レポート
11	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1. 地域トータルケアシステムの実例 2. 福祉教育 3. 福祉サービスの提供と評価	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P162~191を事前に読む
12	第6章 地域福祉の財源 1. 地域福祉推進の基盤に関する財源措置	教科書補助資料10	教科書P200~217を事前に読む
13	第7章 これからの地域福祉に向けて 地域福祉と社会福祉に関する統計指標	教科書補助資料11 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P218~225を事前に読む
14	第7章 これからの地域福祉に向けて 東日本大震災と地域福祉	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	配付資料を読む
15	第7章 これからの地域福祉に向けて 現代社会と地域福祉の現状と課題	教科書補助資料13	配付資料を読む
期末試験	後期期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③：

- (1) 期末試験（各20点 60点満点）
- (2) レポート レポートは3回各10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。
- (3) その他
 - 授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とするため、評価点には含めない。
 - ゲストスピーカー講義の課題：10点

教科書

書名：地域福祉の理論と実際
著者名：都築光一編集
発行所：建帛社
価格：2,400円（税別）

その他補足事項

- 教科書補助資料として、「社会福祉の動向」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用います。
- 補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。

授 業 科 目 名	福祉行財政と福祉計画		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：日 下 輝 美		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>福祉行政には、福祉事務所や児童相談所をはじめとして各種の相談機関があり、私たち国民の生活を支えている。また、国や自治体の財政の現状においては、社会保障・社会福祉関連の予算が大きな比重を占めています。</p> <p>さらに90年代頃から、高齢者・障がい者・児童をはじめとして福祉計画の策定がすすみ、計画的で中長期的な福祉政策が期待されています。</p> <p>そこで、この授業では福祉行財政および福祉計画を中心に、その現状と課題を学びます。</p>	○ A	知識	
		B	技能
	○ C	論理的思考力	
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
		E	課題対処力
	○ F	多様性の理解力	
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
○ ウ	グループワーク		
	エ	プレゼンテーション	
	オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。	目標	A	
② 福祉行財政の実際について理解し、自分の言葉で他者に説明することができる。	目標	C	
③ 福祉計画の意義や目的、地域ニーズの把握・評価方法を理解する。	目標	F	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 福祉行財政と福祉計画 ① 1. 福祉と制度 2. 福祉の法制度の展開	授業計画 教科書補助資料1	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第1章 福祉行政と福祉計画 ② 3. 福祉計画の概要 第2章 福祉行政 ① 1. 行政の骨格	教科書補助資料2	教科書P 2～41を事前に読む
3	第2章 福祉行政 ② 2. 社会福祉と法制度 3. 福祉行政の組織 4. 社会福祉基礎構造	教科書補助資料3	教科書P 42～64を事前に読む 課題(宿題) レポートの作成
4	第3章 福祉財政 ① 1. 財政と社会福祉 2. 一般会計予算と社会保障関係費の動向 3. 地方自治体の財政と民生費の動向	教科書補助資料4 小テスト・グループワーク	教科書P 66～77を事前に読む
5	第3章 福祉財政 ② 4. 民間社会福祉事業の財源 5. 福祉サービスの利用と費用負担	教科書補助資料5	教科書P 78～80を事前に読む 課題(宿題) レポート作成
6	第4章 福祉行財政の組織・団体と専門職の役割 ① 1. 社会福祉基礎構造改革 2. 相談過程 3. 相談体制 4. 専門諸機関	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P 82～95を事前に読む
7	第4章 福祉行財政の組織・団体と専門職の役割 ② 5. 地域の相談システム 6. 専門職	教科書補助資料6 小テスト・グループワーク	教科書P 96～105を事前に読む
8	第5章 福祉計画の目的と意義 ① 1. 福祉計画の目的・意義	ゲストスピーカーの招聘	教科書P 108～110を事前に読む
9	第5章 福祉計画の目的と意義 ② 2. 福祉援助の現場から福祉計画へ 3. 計画のサイクルと福祉援助の現場	教科書補助資料7	教科書P 111～120を事前に読む
10	第6章 福祉計画の理論と技法 ① 1. 福祉計画の基本的視点 2. 福祉計画の課程と留意点	教科書補助資料8 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P 122～139を事前に読む
11	第6章 福祉計画の理論と技法 ② 3. 福祉計画におけるニーズ把握	教科書補助資料9	教科書P 140～147を事前に読む
12	第6章 福祉計画の理論と技法 ③ 4. 福祉計画における評価 5. 福祉計画における住民参加	教科書補助資料10	教科書P 148～161を事前に読む 課題(宿題) レポート作成
13	第7章 福祉計画の実際 ① 1. 福祉計画の事例研究の視点 2. 老人福祉計画・介護保険事業計画	教科書補助資料11 小テスト・グループワーク	教科書P 164～184を事前に読む
14	第7章 福祉計画の実際 ② 3. 障害者計画・障害福祉計画 4. 次世代育成支援行動計画	教科書補助資料12	教科書P 195～244を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	第7章 福祉計画の実際 ③ 5. 地域福祉計画	教科書補助資料13	教科書P 245～256を事前に読む
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標①③：期末試験 (各30点60点満点)</p> <p>目標②：ディスカッションの発言20点満点</p> <p>レポート：レポートは20点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。</p> <p>その他 授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。</p>			
教科書		参考書	
書名：福祉行財政と福祉計画 著者名：(編集) 社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,200円(税別)		書名：社会福祉士シリーズ 福祉行財政と福祉計画 第3版 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編 発行所：弘文堂 価格：2,500円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 教科書補助資料として、「社会福祉の動向」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用います。 補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。 			

授 業 科 目 名	社会福祉運営管理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	H30以降入学 3年次 H29以前入学 3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海 えん どう とし み	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>我が国の福祉制度は措置から契約へ移行したことにより、社会福祉施設等には「経営」の考え方が導入された。一方で、経営の効率化だけではなく、利用者の人権尊重とサービス利用によるその人らしい生活の実現に向けた、より良質なサービスの提供に基づく運営の継続性が求められるようになった。そのため、サービス提供を行う組織や団体は、適切なサービス提供体制を確保するために、明確なビジョンに基づく組織運営、人材確保・人材育成、働きやすい環境づくり等に組織全体として取り組まなければならない。</p> <p>社会福祉士は、サービス利用者のより良い生活の実現のために、福祉を取り巻く現代的課題に敏感になるとともに、事業計画等の立案、苦情対応、リスクマネジメント、OJT、連携（チームアプローチ）の調整などを通して組織づくりに関わることがある。本講義では、福祉サービス利用者にとって有益な福祉サービス組織のあり方をイメージでき、現場におけるサービスマネジメントの基礎を理解することを目指す。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
		ウ グループワーク
		エ プレゼンテーション
		オ 実習・フィールドワーク
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	目標	A・C・E
② 福祉サービスの経営管理とリスクマネジメントを含む運営マネジメントの基礎を理解する。	目標	A・C・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉サービスの概念	講義 教材：授業計画、教科書 コメントシートの記入	教科書 p. 1 ~ p.17を 事前に読む
2	法人の概念 ・コンプライアンスとガバナンス 福祉サービスに係る組織や団体① ・社会福祉法人の組織と運営	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.19~ p.47を事 前に読む
3	福祉サービスに係る組織や団体② ・社会福祉法人制度 定義、役割、税制、理事会・評議員会の役割 社会福祉法人制度改革の具体的内容	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.33~ p.47を事 前に読む
4	福祉サービスに係る組織や団体③ ・特定非営利活動法人制度 特定非営利活動法人の組織と運営	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.48~ p.62を事 前に読む
5	福祉サービスに係る組織や団体④ ・医療法人 ・医療法人制度改革の概要	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.63~ p.68を事 前に読む
6	福祉サービスに係る組織や団体⑤ ・営利法人と非営利法人 ・公益法人 ・市民団体、協同組合、自治会	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入 5回目授業までのコメン トシートの返却	教科書 p.68~ p.75を事 前に読む
7	福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論① 1) 経営戦略や事業計画に関する基礎理論 2) 組織に関する基礎理論	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.77~ p.98を事 前に読む
8	福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論② 3) 管理運営に関する基礎理論 4) 集団の力学に関する基礎理論	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.99~ p.113を 事前に読む
9	福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論③ 5) リーダーシップに関する基礎理論	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.114~ p.119を 事前に読む
10	福祉サービスの管理運営の方法① 1) サービスマネジメント	講義 教材：教科書、配付資料	教科書 p.120~ p.137を 事前に読む
11	福祉サービスの管理運営の方法② 2) サービスの質の評価 3) 福祉サービス第三者評価	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入 10回目までのコメン トシートの返却	教科書 p.138~ p.152を 事前に読む
12	福祉サービスの管理運営の方法③ 4) 苦情対応と苦情解決システム 5) リスクマネジメント 6) サービス管理の課題と方向性	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.153~ p.174を 事前に読む
13	福祉サービスの管理運営の方法④ 7) 人事・労務管理 8) 人材育成と定着へ向けて 9) 働きやすい労働環境の整備	講義 教材：教科書、配付資料 コメントシートの記入	教科書 p.175~ p.222を 事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	福祉サービスの管理運営の方法⑤ 10) 会計管理と財務管理	講義 教材：教科書、配付資料	教科書 p .223～ p .256を 事前に読む
15	福祉サービスの管理運営の方法⑥ 11) 情報管理と戦略的広報	講義 教材：教科書、配付資料 13回目までのコメント シートの返却	教科書 p .257～ p .276を 事前に読む
期末 試験	後期末期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：後期末期末試験 80% コメントシート 20% 授業中の教員からの発問に対する積極的的回答については、規程に基づいて加点する。			
教科書		参考書	
書名：福祉サービスの組織と経営 第5版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,200円（税別）		書名：社会福祉学習双書2020 社会福祉概論Ⅱ 著者名：社会福祉学習双書編集委員会・編集 発行所：全国社会福祉協議会 価格：2,400円（税別）	
その他補足事項			
特記事項なし。			

授 業 科 目 名	社 会 保 障		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専門教育科目	選択	
社会福祉士		専門教育科目	必修	
精神保健福祉士		専門教育科目	必修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		120 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
社会福祉士、精神保健福祉士国家試験指定科目「社会保障」の出題基準と出題傾向を勘案しながら、社会保障5制度の具体的内容を理解できることを目的とする。さらに、社会保障の概念と理念、社会保障の歴史、各国の制度比較、社会保障と財源と費用、社会福祉制度等については、統計資料、政府資料等も参照しながら学び、制度の変遷や今後の課題等を考えていくことができるようになることを目指すとともに、現代社会における社会保障の役割への理解を深めていく。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 日本における社会保障制度について理解する。	目標	A・C・F
② 現代社会における社会保障制度の役割と課題を理解できるようになる。	目標	A・C・F
③ 外国の社会保障制度について学び、日本の制度との違い、共通点を知る。	目標	A・F

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 1. 社会保障制度の概要	授業計画 教科書補足プリント	教科書 p.42～p.60を事前に読む プリントで復習
2	2-1. 医療保険 医療保険制度の概要 国民皆保険の意義	教科書補足プリント	教科書 p.126～p.135を事前に読む プリントで復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	2-2. 医療保険 国民健康保険のしくみ	教科書補足プリント	教科書 p.141～p.146を 事前に読む プリントで復習
4	2-3. 医療保険 健康保険のしくみ	教科書補足プリント	教科書 p.130～p.140を 事前に読む プリントで復習
5	2-4. 医療保険 後期高齢者医療制度のしくみ	教科書補足プリント	教科書 p.147～p.150 を事前に読む プリントで復習
6	2-5. 医療保険 診療報酬と医療供給	教科書補足プリント	教科書 p.151～p.160を 事前に読む プリントで復習
7	2-6. 医療保険 近年の医療保険制度の概要	教科書補足プリント	プリントで復習
8	3-1. 介護保険 介護保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.151～p.160を 事前に読む プリントで復習
9	3-2. 介護保険 要介護認定とケアマネジメント	教科書補足プリント	教科書 p.170～p.182を 事前に読む プリントで復習
10	3-3. 介護保険 介護保険のサービス内容と今後の課題	教科書補足プリント	教科書 p.183～p.185を 事前に読む プリントで復習
11	4-1. 雇用保険 雇用保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.188～p.190及 び p.201～p.210を事前 に読む プリントで復習
12	4-2. 雇用保険 雇用保険二事業と今後の課題	教科書補足プリント	教科書 p.201～p.210を 事前に読む プリントで復習
13	5-1. 労災保険 労働基準法の全体像 労災保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.191～p.201を 事前に読む プリントで復習
14	5-2. 労災保険 労災保険の給付 労災保険の費用負担	教科書補足プリント	教科書 p.191～p.201を 事前に読む プリントで復習
15	6. 労働保険の動向	教科書補足プリント	教科書 p.211～p.213を 事前に読む プリントで復習
期末 試験	前期末期末試験		教科書 p.86～p.98を事 前に読む プリントで復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	オリエンテーション 7-1. 年金制度 年金制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.86～p.98を事前に読む プリントで復習
17	7-2. 年金制度 老齢年金	教科書補足プリント	教科書 p.99～p.116を事前に読む プリントで復習
18	7-3. 年金制度 障害給付、遺族給付	教科書補足プリント	教科書 p.102～p.103を事前に読む プリントで復習
19	7-4. 年金制度 年金財政のしくみ	教科書補足プリント	プリントで復習
20	7-5. 年金制度 年金改革の歴史 2004年改正とその後	教科書補足プリント	教科書 p.117～p.124を事前に読む プリントで復習
21	7-6. 年金制度 3階建て構造と企業年金の基礎	教科書補足プリント	プリントで復習
22	7-7. 年金制度 社会保険の理論	教科書補足プリント	プリントで復習
23	8-1. 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(世界)	教科書補足プリント	教科書 p.18～p.24を事前に読む プリントで復習
24	8-2. 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(日本)	教科書補足プリント	教科書 p.25～p.40を事前に読む プリントで復習
25	9-1. 諸外国における社会保障制度の概要	教科書補足プリント グループワーク	教科書 p.296～p.322を事前に読む
26	9-2. 諸外国における社会保障制度の概要	教科書補足プリント グループワーク	教科書 p.296～p.322を事前に読む
27	9-3. 諸外国における社会保障制度の概要に関するグループまとめの発表	教科書補足プリント	他グループの発表内容を復習
28	10. 社会保障給付費の財政 日本の社会保障給付費の現状と特徴	教科書補足プリント	教科書 p.62～p.83を事前に読む プリントで復習
29	11. 社会福祉制度 各分野の概要 社会手当制度	教科書補足プリント	教科書 p.215～252を事前に読む プリントで復習
30	12. 社会保障制度の理念と課題 社会保障の理念と機能 社会保障の課題 社会保障とは	教科書補足プリント	教科書 p.4～p.16.教科書既習内容の確認 プリントで復習
期末試験	後期末期末試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標①：筆記試験 100点満点の筆記試験を前期末および後期末に実施</p> <p>目標②：レポート 授業内容に沿い、興味関心をもった領域について、各自で課題を設定する方式とする。 (冬期休業期間)</p> <p>目標③：グループワーク発表 後期に実施するグループまとめ（レジュメ）の提出および発表</p> <p>評価割合は、筆記試験40%、レポート30%、グループワーク30%とする。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：社会保障 第6版</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編</p> <p>発行所：中央法規出版</p> <p>価格：2,600円（税別）</p>	<p>書名：社会保障入門2020</p> <p>著者名：社会保障入門編集委員会・編集</p> <p>発行所：中央法規出版</p> <p>価格：2,400円（税別）</p>
その他補足事項	
特記事項なし。	

授 業 科 目 名	高 齢 者 に 対 す る 支 援 と 介 護 保 険 制 度	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 遠 藤 寿 海	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特別養護老人ホーム 介護職員 (平成11年9月～平成13年4月)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市障がい者地域生活支援協議会 会長 福島市地域包括支援センター運営協議会 副会長 福島市社会保障審議会 副会長		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス : endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>超高齢社会となった我が国においては、介護需要に応えるだけでなく、介護予防の視点を重視した幅広い高齢者福祉実践に関する理解が求められている。中核となる介護保険制度は、制度開始以降改正が重ねられ、近年は地域包括ケアシステムの構築と認知症対策を中心しつつ、新たに共生型サービスが制度化され、分野を超えた連携が求められてきている。本講義では、高齢者および高齢者福祉を取り巻く社会状況、諸制度や関連機関、高齢者分野におけるソーシャルワーク実践活動に必要な知識・技術等に関する理解を深め、社会に出た際に十分対応できる多様な専門知識の修得を図っていく。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 高齢者の生活実態、高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できるようになる。	目標	A・D・F
② 介護保険制度の全体像を把握し、具体的な支援機関とその役割について理解できるようになる。	目標	A
③ 高齢者の福祉・介護に係る様々な法制度について理解できるようになる。	目標	A
④ 高齢者虐待防止を含む、高齢者の権利擁護について理解できるようになる。	目標	A・F
⑤ 高齢者自身が望む生活スタイルに合わせた支援のあり方について考えられるようになる。	目標	A・E・F
⑥ 介護の概念や対象及びその理念等について理解できるようになる。	目標	A
⑦ 介護過程における介護技法や介護予防の基本的な考え方について理解できるようになる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション • 授業概要と評価方法、授業の進め方等の説明 1-1. 高齢者の特性①	オリエンテーション 講義 (配付資料)	配付資料を読む
2	1-2. 高齢者の特性② • 認知症	講義 (配付資料)	配付資料を読む
3	2-1. 少子高齢化と高齢者① • 高齢者の生活実態と社会情勢	講義 (配付資料)	配付資料を読む
4	2-2. 少子高齢化と高齢者② • 高齢者の福祉需要・介護需要	講義 (配付資料)	配付資料を読む
5	3-1. 高齢者保健福祉の発展① • 高齢者保健福祉の起源と生成	講義 (配付資料)	配付資料を読む
6	3-2. 高齢者保健福祉の発展② • 高齢者保健福祉制度の発展 • 法改正等の最近の動向	講義 (配付資料)	配付資料を読む
7	4-1. 高齢者支援の関係法規① • 高齢者保健福祉制度の法体系 • 老人福祉法①	講義 (配付資料)	配付資料を読む
8	4-2. 高齢者支援の関係法規② • 老人福祉法②	講義 (配付資料)	配付資料を読む
9	4-3. 高齢者支援の関係法規③ • 高齢者の医療の確保に関する法律	講義 (配付資料) グループ課題の提示	配付資料を読む グループ課題のまとめを行う
10	4-4. 高齢者支援の関係法規④ • バリアフリー法 • 高齢者住まい法	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめを行う
11	4-5. 高齢者支援の関係法規⑤ • 高齢者虐待防止法①	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめを行う
12	4-6. 高齢者支援の関係法規⑥ • 高齢者虐待防止法②	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめを行う
13	4-7. 高齢者支援の関係法規⑦ • 成年後見制度と日常生活自立支援事業 (民法、社会福祉法)	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめを行う
14	グループ課題プレゼンテーション①	グループ発表 (資料・PPT) 質疑応答	他グループの発表のレジュメを読む
15	グループ課題プレゼンテーション② 夏期休暇中課題の提示	グループ発表 (資料・PPT) 質疑応答	他グループの発表のレジュメを読む
期末試験	前期末期末試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	夏期休暇中課題のプレゼンテーション	グループ発表(資料)	事前に発表資料を準備しておく
17	5-1. 介護保険法① ・介護保険制度の概要、基本的枠組み、制度の目的	講義(配付資料)	配付資料を読む
18	5-2. 介護保険法② ・介護保険制度の仕組みとサービス体系① (保険者と被保険者、保険料、財源等)	講義(配付資料)	配付資料を読む
19	5-3. 介護保険法③ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系② (介護給付、予防給付、地域支援事業の概要)	講義(配付資料)	配付資料を読む
20	5-4. 介護保険法④ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系③ (財政安定化基金、介護報酬等)	講義(配付資料)	配付資料を読む
21	5-5. 介護保険法⑤ ・介護保険制度の運営と行政機関の役割 ・各種組織及び団体の役割(国保連、社協等)	講義(配付資料)	配付資料を読む
22	5-6. 介護保険法⑥ ・地域包括支援センターの役割と実際 (連携体系、活動、ネットワーキング)	講義(配付資料)	配付資料を読む
23	6-1. 高齢者福祉における専門職の役割と実際① ・介護支援専門員とケアマネジメント ・ケアプランの役割と実際	講義(配付資料)	配付資料を読む
24	6-2. 高齢者福祉における専門職の役割と実際② ・社会福祉士とその他の専門職 ・高齢者支援における連携とネットワーキング	講義(配付資料)	配付資料を読む 事例課題配付 (25回授業でグループワークを実施)
25	7. 高齢者福祉において社会福祉士に求められる支援の視点(事例検討)	グループディスカッション	配付資料を読む
26	8-1. 介護① ・介護の概念および介護の対象	講義(配付資料)	配付資料を読む
27	8-2. 介護② ・介護の方法	講義(配付資料)	配付資料を読む
28	8-3. 介護③ ・介護過程とケアマネジメントとの関係	講義(配付資料)	配付資料を読む
29	8-4. 介護④ ・認知症とそのケア ・終末期ケア	講義(配付資料)	配付資料を読む
30	9. 福祉用具の活用、住環境整備 まとめ	講義(配付資料)	配付資料を読む
期末試験	後期末期末試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標①～⑦：筆記試験 100点満点の筆記試験を前期末および後期末に実施</p> <p>目標①③④：グループワーク グループ課題（レジユメの提出）とプレゼンテーションへの取り組み状況（前期後期各1回および夏期休業期間）</p> <p>評価割合は、筆記試験50%、グループワーク50%とする。</p>	
教科書	参考書
使用しない。毎回、資料を配付する。	<p>書名：高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版 （2019年1月発行）</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集</p> <p>発行所：中央法規出版</p> <p>価格：2,600円（税別）</p>
その他補足事項	
<p>介護保険制度は改正が多く、教科書の内容も随時変わっていくため、参考書として挙げた「高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版」をベースにして、配付資料により授業を実施する。4年次の国家試験の際に必要な者は、新しい版がでているかどうか確認の上で購入を検討すること。</p>	

授 業 科 目 名	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：さい とう たか ゆき 齊 藤 隆 之		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学) 社会福祉士(46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会(福島県社会福祉士会)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：saito.takayuki fukushima.college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>障害者福祉は近年大きな制度的変革の波にさらされている。一方で、その歴史の変遷に源流を置く基本理念や概念は揺らぐことない共通基盤として、障害者福祉を理解しようとする者に代えがたい示唆を与えてくれる。本講義では、障害者福祉の歴史的展開、基本理念、諸概念への理解を深めた上で、法制度の実態とその課題を学ぶことで、障害者ソーシャルワークの射程である「障害者の生活」について現場の実例も交えながら実践的視座を身につけるものである。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
(全体)「障害者の生活を支援すること」について、その本来的意味をソーシャルワークの視点で理解し、実践的視座を養う。	目標	A・C・F
① 障害者福祉の歴史的展開からその理念、諸概念の本質を理解する。	目標	A・F
② 障害者福祉を取り巻く法制度、サービス、各種組織、専門職等について理解する。	目標	A
③ 障害者ソーシャルワークの視点を醸成し、その生活を支援することについて考察する。	目標	C・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 障害者福祉の視点	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書目次およびプロローグの確認 復習：講義時に指示
2	障害者福祉の歴史的展開と社会情勢	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第3章」の確認 復習：講義時に指示
3	障害者福祉の基本理念	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第2章」の確認 復習：講義時に指示
4	障害の概念と障害者の定義	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第1章」の確認 復習：講義時に指示
5	障害者の基本的理解と法体系①	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第4章」の確認 復習：講義時に指示
6	障害者の基本的理解と法体系②	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第6章」の確認 復習：講義時に指示
7	障害者福祉について考える	ディスカッション 映像資料「ハートネットTV「障害者総合支援法」(30分)」	これまでのレジュメ等の復習
8	障害者総合支援法によるサービス体系①	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第7章～第9章」の確認 復習：講義時に指示
9	障害者総合支援法によるサービス体系②	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第7章～第9章」の確認 復習：講義時に指示
10	障害者の権利擁護	教科書、映像資料	予習：教科書「第12章」の確認 課題シートの作成
11	映像作品の中の障害者	教科書、PPT、レジュメ配付 映像資料「最強のふたり」or「シンプルシモン」(映画の一部視聴75分)	課題シートの作成
12	障害者福祉を支える人々	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第13章～第17章」の確認。事例も含む 復習：講義時に指示
13	障害者のケアマネジメントとニーズ	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第5章」の確認 復習：講義時に指示
14	個別支援計画を作ってみよう！	プリント(課題点①) グループワーク	個別支援計画の作成準備
15	まとめ 障害者ソーシャルワークとは	ディスカッション	総括学修
期末試験	前期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②：〈基礎点〉 定期試験80点(a)
 〈加算点〉 発言点+グッドコメントポイント（上限15点）(b)
目標 ③：〈加算点〉 課題点（最高20点×1回）(c)

〈評 価〉 (a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。

※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。

※詳細については初回講義時に説明をする。

教科書

書 名：新・初めて学ぶ社会福祉3 障害者福祉論

著者名：杉本敏夫ら

発行所：ミネルヴァ書房

価 格：2,400円（税別）

授 業 科 目 名	児 童 ・ 家 庭 福 祉		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	通 年
	氏名：安部郁子 (本務先：福島大学 職名：特任教授)		授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		福島県立矢吹病院、福島県心身障害児総合療育センター、福島県しゃくなげ寮、福島県中央児童相談所、福島県浜児童相談所、福島県会津児童相談所、福島県女性のための相談支援センター 計38年		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		現在、福島県臨床心理士会会長 (～H2年3月) 西白河郡就学指導審議会委員 (～20年3月) 福島市就学指導審議会委員 平成24年度性暴力被害者等支援強化のための研修及び広報事業報告書(内閣府・福島県)、福島県男女共生センター相談室スーパーバイザー、厚生労働省「婦人保護施設の役割と機能に関する調査 検討」検討会委員、全国婦人保護施設等連絡協議会「売春防止法改正に向けたプロジェクトチーム」委員 職歴は同上		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		福島大学教育学部 教育学士 臨床心理士、日本箱庭得用法学会、日本家族療法学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
社 会 福 祉 士		専 門 教 育 科 目	必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		120時間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		初回授業時に説明する。 メールアドレス：i-abe educ.fukushima-u.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>本授業では、効果的な援助活動を展開するために必要な児童・家庭福祉の基本的内容を習得していく。</p> <p>そのために、子ども・家庭をめぐる社会情勢等について概説し、子ども・家庭福祉の状況、具体的課題を理解したうえで、子ども・家庭福祉の理念、法体系、実施体制、支援制度について理解し、考察を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	<input type="radio"/> ウ グループワーク	
	<input type="radio"/> エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 子ども、家庭をめぐる社会情勢について焦点を当て、子ども・家庭福祉の状況、具体的課題を説明できるようになる。	目標	A
② 子ども観や子どもの権利の観点から、子ども・家庭福祉の理念について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	B
③ 援助活動を展開するために必要な法体系、実施体制、支援制度がわかり、実践に備えることができるようになる。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業の内容)・評価方法 自己紹介と授業で学びたい事	授業計画 教科書の紹介 補足資料 振り返りレポート	自己紹介・授業で学びたいことをまとめておく
2	児童福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 19～24を読んでおくこと
3	現代社会と子ども家庭の状況 ① 少子高齢化社会と子育てをめぐる現状	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 31～38を読んでおくこと
4	② 現代社会と子ども家庭の問題	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 38～44を読んでおくこと
5	③ 子どもの育ち、子育てのニーズ	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 45～51を読んでおくこと
6	子ども家庭福祉とは 子ども家庭の福祉の理念・原理	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 2～10を読んでおくこと
7	子どもと家庭の権利保障	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 11～18を読んでおくこと
8	外国の子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 24～30を読んでおくこと
9	子ども・子育て制度の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 54～65を読んでおくこと
10	子ども家庭福祉にかかわる法体系 ① 児童福祉法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 70～74を読んでおくこと
11	② 関連法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 74～80を読んでおくこと
12	子ども家庭福祉の実施体制 ① 行政機関・関連機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 81～91を読んでおくこと
13	② 関連機関・福祉機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 91～96を読んでおくこと
14	③ 子ども家庭福祉の財政	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 97～101を読んでおくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	④ 子ども家庭福祉の専門職	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 102～111を読んでおくこと
期末試験	前期末試験		教科書 P 1～111 補足資料
16	⑤ 苦情解決と権利擁護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 112～116を読んでおくこと
17	子ども家庭・福祉に関わる福祉・保健 ① 母子保健	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 118～133を読んでおくこと
18	② 障害児と家族への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 134～148を読んでおくこと
19	② 児童健全育成	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 149～157を読んでおくこと
20	③ 保育	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 158～175を読んでおくこと
21	④ 子育て支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 176～186を読んでおくこと
22	⑤ ひとり親家庭への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 187～198を読んでおくこと
23	⑥ - 1 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 199～219を読んでおくこと
24	⑦ - 2 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 199～219を読んでおくこと
25	⑧ 児童虐待対策	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 232～246を読んでおくこと
26	⑨ 非行・情緒障害児への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 220～231を読んでおくこと
27	⑩ 女性の福祉	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 247～254を読んでおくこと
28	デートDV	教科書 補足資料 振り返りレポート	補足資料を読んでおくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
29	子ども・家庭福祉援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 255～265を読んでおくこと
30	施設ケアと子ども・家庭福祉の援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 266～275を読んでおくこと
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標：①②③： (1) 筆記試験 100点満点の記述式試験を2回実施の平均点 80% (2) カードレポート 各5点、計50点 20%			
教科書			
書名：新・社会福祉士養成講座 15「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編集 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）			
その他補足事項			
グループ・ワークも適宜実施する。			

授 業 科 目 名	低所得者に対する支援と生活保護制度		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさか てるみ 日 下 輝 美		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
社会福祉士		専門教育科目	必修	
精神保健福祉士		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>授業では、憲法第25条の国民の「生存権」を保障するものであるところの生活保護を中心とする公的扶助について学びます。</p> <p>現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対処する社会保障制度体系における公的扶助の概念、対象および歴史を概説し、わが国の低所得者の生活実態、福祉需要とその背景を明らかにします。</p> <p>わが国の救貧制度の中心をなす生活保護の目的・対象・方法及び生活保護行政、保護の動向等低所得者の支援の実態について取りあげる。自立支援プログラム、ソーシャルワーカーの役割、就労自立支援対策の実際を紹介します。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 低所得者の支援に関する制度についての知識を身につける。	目標	A
② 生活保護の目的と原理・原則を理解し説明できる。	目標	C
③ 自立支援プログラムについて理解する。	目標	F
④ 福祉専門職として必要な知識を習得する。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 第1章 公的扶助の概念 第1節 公的扶助の概念と範囲 第2節 公的扶助の意義と役割	授業計画 教科書補助資料1	予習：教科書P 2～15を 事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2章 貧困・低所得者問題と社会的排除 第1節 貧困・低所得とは何か 第2節 貧困と社会的排除 第3節 貧困低所得者問題の現代的課題	教科書補助資料2	予習：教科書P18～31を事前に読む
3	第3章 公的扶助の歴史 第1節 海外の歴史 第2節 日本の歴史	教科書補助資料3	予習：教科書P34～48を事前に読む
4	第3章 第3節 貧困・低所得者対策の動向	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書P49～58を事前に読む 復習：課題レポート作成
5	第4章 生活保護制度の仕組み 第1節 生活保護法の構成 第2節 生活保護法の目的と原理、原則 第3節 保護の種類と内容および方法	個別ワーク：生活扶助基準の設定方法の変遷をまとめる	予習：教科書P60～84を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
6	第4章 生活保護制度の仕組み 第4節 保護施設 第5節 被保護者の権利および義務 第6章 不正・不適正受給対策	地元新聞を活用し、貧困・低所得に関する事件や事故の記事を探し、グループディスカッションを行う	予習：教科書P85～92を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
7	第4章 生活保護制度の仕組み 第7節 不服申し立てと訴訟 第8章 生活保護の財源・予算	グループディスカッションの発表	予習：教科書P93～99を事前に読む
8	第5章 最低生活保障水準と生活保護基準 第1節 最低生活保障水準の考え方 第2節 生活保護基準の考え方 第3節 生活保護基準額の実際	個別ワーク：最低生活保障水準(月額)を試算する	予習：教科書P102～117を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
9	第5章 最低生活保障水準と生活保護基準 第4節 最低生活保障水準の実際	ゲストスピーカー招聘	予習：教科書P118～121を事前に読む 復習：課題レポートの作成
10	第6章 生活保護の動向 第1節 被保護人員および被保護世帯数 第2節 保護の開始・廃止の動向 第3節 医療扶助・介護扶助の動向	課題について図書館で調べディスカッションを行う(図書館におけるラーニングコモンズ)	予習：教科書P124～148を事前に読む 復習：課題レポート作成
11	第7章 低所得者対策の概要 第1節 生活困窮者自立支援法 第2節 生活福祉資金貸付制度 第3節 社会手当制度	個別ワーク：低所得者の対策をまとめる	予習：教科書P150～170を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
12	第7章 低所得者対策の概要 第4節 ホームレス対策 第5節 その他の低所得者対策	グループワーク	予習：教科書P171～182を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
13	第8章 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 第1節 国・都道府県・市町村の役割 第2節 福祉事務所の役割 第3節 福祉事務所専門職の役割	地元新聞を活用し、キーワード「貧困・低所得者」や「生活保護」等の記事を探し、グループディスカッションを行う	予習：教科書P183～197を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	第9章 貧困・低所得者に対する相談援助活動 第1節 生活保護制度における相談援助活動 第2節 貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際 第3節 他機関・多職種との連携・協働	グループディスカッションの発表	予習：教科書P200～225を事前に読む
15	第10章 生活保護における自立支援 第1節 自立とは何か 第2節 自立支援プログラムの位置づけ 第3節 自立支援プログラムの策定および実施	グループワーク	予習：教科書P228～246を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 目標①③④：期末試験（各20点・平均点） (2) 目標②：グループディスカッションの発表 20点 (3) レポート レポートは20点満点の採点とする。課題（宿題）は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出してください。			
教科書		参考書	
書名：低所得者に対する支援と生活保護制度 第4版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会（編） 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）		特に指定しない。	

授 業 科 目 名	保健医療サービス		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：伊 藤 久美子 (本務先：南東北福島病院 職名：社会福祉士)		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	総合南東北病院・富久山地域包括支援センター・南東北福島病院にて社会福祉士として勤務(平成11年～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	つくば国際大学産業社会学部社会福祉学科 社会福祉士・介護支援専門員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に対応			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義は保健医療の制度の成り立ちと構造を理解するとともに、目まぐるしく変わる制度の現状と課題を学ぶことを目的とする。</p> <p>また、保健医療における多職種連携、協働、チームアプローチの理論と実践を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 我が国における保健医療制度の歴史と現状を理解し、今日的課題を考えることができる。	目標	A・C
② その中でソーシャルワーカーの役割を理解する。	目標	A・F
③ 保健医療機関における様々な専門職について理解し、さらにチームアプローチについて理解する。	目標	A・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	医療と福祉について	レジュメを基に、ディスカッションを行いながら、進めます	
2	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①	教科書	P 1～P 19 必読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②	教科書	P 20～P 38 必読
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	教科書	P 39～P 62 必読
5	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	教科書	P 63～P 80 必読
6	保健医療サービスを提供する施設とシステム③	教科書	P 81～P 90 必読
7	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割①	教科書・資料配付	P 91～P 112 必読
8	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割②	教科書	P 113～P 130 必読
9	保健医療サービスの専門職の役割	講義・ディスカッション 教科書	P 131～P 162 必読
10	保健医療サービスの提供と経済的保障	教科書	P 163～P 196 必読
11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践①	教科書	P 197～P 204 必読
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践②	教科書	P 205～P 231 必読
13	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践	教科書	P 233～P 268 必読
14	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践	教科書	P 233～P 268 必読
15	まとめ 保健医療サービスの現状と課題	事前課題に基づき、グループワークを行います	P 20～P 38 必読
期末試験	前期末筆記試験		P 20～P 38 必読
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
到達目標① : 期末試験（記述方式）で理解度を確認します。（80点） 到達目標①②③：授業の中での発言や態度などで評価します。（20点）			
教科書			
書名：新・社会福祉士養成講座 17. 保健医療サービス 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,200 円（税別）			

授 業 科 目 名	就 労 支 援	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義は、雇用・就労の動向と労働施策の概要を踏まえ、障害者・低所得者の就労支援の現状と課題について理解することを目的とします。</p> <p>【講義内容】</p> <p>① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について学びます。</p> <p>② 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解を深めます。</p> <p>③ 就労支援分野との連携について学びます。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① わが国における就労支援にかかる諸制度について説明することができる。	目標	A
② 障害者・低所得者の就労支援の現状と課題について論じることができる。	目標	A・C・E
③ 就労支援を担う専門職の役割と連携の意義を述べることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	雇用・就労の動向と施策	教科書 教科書補足資料	教科書 p 10～32を事前に読む
3	障害者と就労支援①	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 32～56を事前に読む 予習のテーマ：「障害者の就労支援について」400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	障害者と就労支援②	「精神障害者の地域生活支援」DVD視聴(30分)(映像利用) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 57～88を事前に読む 復習：感想文を作成する
5	低所得者と就労支援①	新聞記事等を使用しペアワークを行います。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 90～110を事前に読む
6	低所得者と就労支援②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 111～136を事前に読む
7	専門職の役割と実際	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 138～156を事前に読む 復習：感想文を作成する
8	就労支援の連携と実際 まとめ	教科書 教科書補足資料	教科書 p 158～166を事前に読む
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 目標①②③：レポート(50%) レポート課題は授業内容に沿って設定します。 (2) 目標①②③：筆記試験(50%) 後期末に記述方式のテストを実施します。 *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。			
教科書			
書名：就労支援サービス第4版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編 発行所：中央法規 価格：1,600円(税別)			
その他補足事項			
授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。 授業の進捗状況や理解度に応じて、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	権利擁護と成年後見制度		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	後期
	氏名：中 ^{なか} 里 ^{ざと} 真 ^{まこと}		授 業 回 数	15回
	(本務先：福島大学 職名：准教授)		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県消費生活審議会会長、福島県公有財産審議会会長 福島県立医科大学臨床研究審査委員会委員ほか			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学博士後期課程、修士(法学) 日本私法学会、日本消費者法学会、日本観光学会 所属			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	選択必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。 メールアドレス：授業初回に伝えます。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
本講義は、「社会福祉士」の試験科目に対応した内容で授業を構成します。特に試験分野の授業科目名と対応する分野のうち、①相談援助活動と法の関わり、②成年後見制度の項目についての知識習得と内容理解を図ることが狙いです。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会福祉士に関連する行政法の内容を理解する。	目標	A・E・F
② 法的な思考方法を養う。	目標	A・C・F
③ 実務でも必要となる法的知識を身に着ける。	目標	A・C・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 相談援助活動において想定される法律問題	授業計画案内 問題認識の確認と応答	シラバスの内容確認
2	相談援助活動と法との関わり 日本国憲法の性質	レジュメ配付	出題課題の解答
3	相談援助活動と法との関わり 日本国憲法の基本原理(社会権)の理解	レジュメ配付	出題課題の解答

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	相談援助と法との関わり 民法の理解(日本民法典の構成とその内容)	レジュメ配付	出題課題の解答
5	相談援助と法との関わり 民法の理解(不法行為法の基礎①)	レジュメ配付	出題課題の解答
6	相談援助と法との関わり 民法の理解(不法行為法の基礎②)	レジュメ配付	出題課題の解答
7	相談援助活動と法との関わり 行政法の理解(行政行為)	レジュメ配付	出題課題の解答
8	相談援助活動と法との関わり 行政法の理解(行政事件手続き)	レジュメ配付	出題課題の解答
9	相談援助と法との関わり 民法の理解(権利の担い手と客体としての物権)	レジュメ配付	出題課題の解答
10	相談援助と法との関わり 民法の理解(契約法の基礎)	レジュメ配付	出題課題の解答
11	相談援助と法との関わり 民法の理解(家族法の基礎)	レジュメ配付	出題課題の解答
12	成年後見制度 制度の概要	DVD視聴 「自分らしい明日のために」 30分	出題課題の解答
13	成年後見制度 成年後見・保佐・補助	レジュメ配付	出題課題の解答
14	成年後見制度 任意後見制度	DVD視聴「伝えたい、実現 したい自分の生き方」30分 レジュメ・資料の配付	出題課題の解答
15	成年後見制度の最近の動向・講義のまとめ	レジュメ・資料の配付 資料読み取り	ここまでの授業内容の復習
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について掲示・オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>期末試験時の筆記試験で成績判定を行う。基準は上記「到達目標」①②③に照らして、下記の通りとする。</p> <p>80点以上：全ての項目がきわめて高い水準に達している</p> <p>79～70点：すべての項目が高い水準に足している</p> <p>69～60点：全体的に望ましい水準に達している</p> <p>59点以下：不合格</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：権利擁護と成年後見制度<第4版> (社会福祉士シリーズ)</p> <p>著者名：福田幸夫・森長秀・福祉臨床シリーズ編集委員会 (編集)</p> <p>発行所：弘文堂</p> <p>価格：2,750円(税別)</p>		<p>書名：ポケット六法 令和2年度版</p> <p>著者名：佐伯仁志、大村敦志 編集代表</p> <p>発行所：有斐閣</p> <p>価格：1,900円(税別)</p>	
その他補足事項			
<p>授業中、条文に触れる機会があるため、参考書に挙げたポケット六法(有斐閣)やデイリー六法(三省堂)など小型の六法を用意することが望ましい。また、教室を巡回し、条文の読み上げをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうことがある。受講者はその準備をしておくこと。</p>			

授 業 科 目 名	更生保護制度		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	前期
			授 業 回 数	8回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>高齢・障害受刑者の再犯防止施策では、社会福祉、医療、教育、雇用等の各領域との連携が求められています。社会福祉専門職は、罪を犯した人の社会復帰支援を行う上で、更生保護領域について理解を深めることが必要となります。</p> <p>【講義内容】</p> <p>① わが国における罪を犯した者や非行のある少年の状況、刑事司法手続きの流れについて学びます。</p> <p>② 更生保護制度の概要とその担い手である保護観察官、保護司、民間協力者等について理解を深めます。</p> <p>③ 医療観察制度の概要とその担い手である社会復帰調整官の役割について学びます。</p>	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 更生保護制度の概要とその担い手について説明することができる。	目標	A
② 更生保護制度における関係機関・団体との連携について理解し、その意義について述べるができる。	目標	A・E
③ 医療観察制度の概要について理解し、社会復帰調整官の役割を論じることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	更生保護制度の概要①	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 20～43を事前に読む 予習のテーマ：「罪を犯す人の背景について」400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	更生保護制度の概要②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 43～60を事前に読む
4	更生保護制度の担い手	「相次ぐ少年事件問われる保護観察」DVD視聴(30分) (映像利用) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 72～87を事前に読む 復習：感想文を作成する
5	更生保護制度における関係機関・団体との連携	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 92～104、121～127を事前に読む 復習：感想文を作成する
6	医療観察制度の概要①	新聞記事等を使用しペアワークを行います。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 132～144を事前に読む
7	医療観察制度の概要②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 144～170を事前に読む
8	まとめ	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 目標①②：レポート(50%) レポート課題は授業内容に沿って設定します。 (2) 目標①②③：筆記試験(50%) 前期末に記述方式のテストを実施します。 *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。			
教科書			
書名：更生保護制度〔第3版〕— 司法福祉 著者名：森長秀編 発行所：弘文堂 価格：2,400円(税別)			
その他補足事項			
授業内容の理解度を確保するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。 授業の進捗状況や理解度に応じて、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 I		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日経総出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士 (医療福祉学) 社会福祉士 (第46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会 (福島県社会福祉士会)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	15 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：saito.takayuki fukushima.college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>1 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>2 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を行う。</p> <p>※実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① ソーシャルワークにおける支援者としての視点や態度、倫理や価値などにかかわる基礎的な知識、技術を理解する。	目標	A
② ソーシャルワークとは何かについて考え、支援者に求められる価値・知識・技術の本来的意義とは何かに気づく。	目標	A・C
③ 福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、総合的かつ包括的な援助についての視点および基礎的技術を身につける。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション アイスペイキング	講義 グループ演習	振り返りシートの作成
2	自己理解と自己覚知	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
3	自己開示と他者理解	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
4	価値観の相違	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
5	人権と尊厳、平等と個性の尊重	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
6	社会正義の意味とSWとしての社会正義の理解	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
7	受容・クライアントの利益の優先・自立と自己決定	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
8	倫理綱領と倫理的ジレンマ	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
9	相談援助における面接の目的とその特性	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
10	様々なコミュニケーション技法	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
11	コミュニケーション技術の習得	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
12	面接における基本的応答技法Ⅰ	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
13	面接における基本的応答技法Ⅱ	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
14	ロールプレイと模擬面接	ロールプレイ	振り返りシートの作成
15	まとめ	講義	レポート作成準備
期末試験	後期末試験（最終課題レポート）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①～③：参加態度および課題提出（60%）、意見交換や質問など発言（40%）を含め、総合的に評価する。 演習科目であることを鑑み、不参加等は他者へ多大な影響を与えることから正当な理由なき欠席はマイナス3点、正当な理由なき遅刻、途中退席等については、マイナス1点とする。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教 科 書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	相談援助演習Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：舟 山 信 悟 (本務先：社会福祉法人けやきの村 職名：理事長)		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人けやきの村 障害者支援施設けやきの村・青松苑・静心園 生活支援員・職業指導員(昭和55年4月～)を経て、青松苑・静心園・けやきの村施設長(平成19年4月～)を歴任。現在、常務理事(平成25年9月～)を経て、理事長兼相談支援センター所長(令和元年6月～現在に至る)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市障がい者自立支援審査会委員、福島市障がい者地域生活支援協議会委員、福島市社会福祉基金運営委員会委員、一般社団法人福島県社会福祉士会副会長、福島県立大笹生支援学校評議員、福島県障がい者スポーツ協会監事、福島県障がい者自立支援協議会委員、福島県福祉人材センター運営委員会委員、協会けんぽ福島支部健康づくり推進会議委員、福島県北地区障がい福祉連絡協議会会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北学院大学法学部法律学科 社会福祉士、精神保健福祉士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応 メールアドレス：michiminami18 yahoo.co.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術について、他の科目との関連性を視野に入れつつ、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を養います。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れます。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により授業を実施します。</p> <p>③ ②の実技指導にあたっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含めます。</p>	A	知識
	B	技能
	C	論理的思考力
	D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	<input type="radio"/> F	多様性の理解力
	<input type="radio"/> G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 相談援助の過程において、社会福祉士に求められる基本的な援助技術を身につける。	目標	E・F・G
② 相談援助事例(グループに対する援助事例を含む)課題への取り組み及びロールプレイング等を通して、総合的かつ包括的な援助方法を理解する。	目標	E・F・G
③ 社会福祉士に求められているアウトリーチやソーシャルアクション等の活動について学び、実践につなげられるようになる。	目標	E・F・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1-1 相談援助演習Ⅰの振り返り ・援助の原則(自己覚知等) ・ソーシャルワーカーの価値と倫理 ・基本的な面接技法(バイステックの7原則を含む) 1-2 振り返りとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	
2	記録技法① 2-1 記録の種類と方法 2-2 面接場面での記録 2-3 振り返りとまとめ	講義 グループ演習	予習;教科書p.67-p.71を読んでおく。
3	記録技法② 3-1 ケース記録の作成 3-2 振り返りとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習;教科書p.72-p.77を読んでおく。
4	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)① 課題の把握とニーズの確定 4-1 インテークとエンゲージメント 4-2 倫理的配慮とアカウンタビリティ 4-3 振り返りとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習;個別援助の展開過程について振り返っておく。
5	相談援助の転換家庭と個別援助(ケースワーク)② アセスメント(1) 5-1 アセスメント面接の意味 5-2 アセスメント面接ロールプレイの準備 5-3 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習;教科書p.79-p.82を読んでおく。
6	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)③ アセスメント(2) 6-1 アセスメント面接ロールプレイ① 6-2 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
7	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)④ アセスメント(3) 7-1 アセスメント面接ロールプレイ② 7-2 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
8	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑤ プランニング(1) 8-1 プランニング演習 8-2 振り返りとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	予習;教科書p.83-p.87を読んでおく。
9	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑥ プランニング(2) 9-1 プランニング演習 9-2 振り返りとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
10	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑦ プランニング(3) 10-1 プランニング演習 10-2 振り返りとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
11	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑧ ケースカンファレンス 11-1 模擬ケースカンファレンス体験 11-2 チームアプローチの理解 11-3 振り返りとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習;教科書p.89-p.94を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑨ 評価と効果測定(モニタリング)(1) 12-1 効果測定演習(利用者満足度) 12-2 振り返りとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習;教科書 p.95 - p.104 を読んでおく。
13	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑩ 評価と効果測定(モニタリング)(2) 13-1 効果測定演習(支援内容評価)① 13-2 振り返りとまとめ	講義 グループ演習	予習;教科書 p.95 - p.104 を読んでおく。
14	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑪ 評価と効果測定(3) 14-1 効果測定演習(支援内容評価)② 14-2 振り返りとまとめ	講義 グループ演習	予習;教科書 p.95 - p.104 を読んでおく。
15	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑫ 再アセスメントと支援の強化、終結とアフターケア 15-1 再アセスメントの視点と支援の変更 15-2 終結の判断、アフターケア 15-3 振り返りとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	
16	集団援助(グループワーク)① 16-1 グループ(集団)への援助方法 16-2 グループワークと社会福祉士の関わり事例① 16-3 振り返りとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
17	集団援助(グループワーク)② 17-1 グループワークと社会福祉士の関わり事例② 17-2 振り返りとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
18	コミュニティワークのプロセス① 18-1 地域の福祉ニーズ(課題)の明確化の方法 18-2 福祉ニーズの分析方法 18-3 振り返りとまとめ	講義 グループ演習	予習;教科書 p.105 - p.119 を読んでおく。
19	コミュニティワークのプロセス② 19-1 地域社会の社会資源 19-2 サービスの開発と地域への働きかけ 19-3 地域活動プログラムの立案体験(1)	講義 グループ演習	予習;教科書 p.105 - p.119 を読んでおく。
20	コミュニティワークのプロセス③ 20-1 地域活動プログラムの立案体験(2) 20-2 策定したプログラムの発表 20-3 振り返りとまとめ	グループ演習 プレゼンテーション	
21	ソーシャルアクション 21-1 福祉計画の策定とソーシャルワーク 21-2 振り返りとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
22	事例研究の意味と方法 事例研究① ソーシャルワーカーの倫理と組織の業務 方針の間で 22-1 倫理的ジレンマとは 22-2 振り返りとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習;教科書 p.121 - p.129 を読んでおく。
23	事例研究② 認知症高齢者への生活支援 23-1 権利擁護と自己決定を支える 23-2 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習;教科書 p.130 - p.135 を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	事例研究③ 利用者のできる力を支える支援 24-1 利用者と職員の関係性と自立支援 24-2 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習；教科書 p.136 - p.140 を読んでおく。
25	事例研究④ 知的障害者の自立生活支援 25-1 短期・長期目標に沿った継続的支援 25-2 振り返りとまとめ	グループ演習	予習；教科書 p.141 - p.147 を読んでおく。
26	事例研究⑤ 障害児を持つ母親への支援 26-1 ソーシャルサポートネットワークの構築 26-2 振り返りとまとめ	グループ演習	予習；教科書 p.148 - p.154 を読んでおく。
27	事例研究⑥ 子どもの自己決定を支える 27-1 自己決定を支えるソーシャルワーカーの態度 27-2 振り返りとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習；教科書 p.155 - p.160 を読んでおく。
28	事例研究⑦ 地域住民の主体形成を目指して(1) 28-1 地域組織化(ネットワーキング)の方法 28-2 振り返りとまとめ	グループ演習	予習；教科書 p.161 - p.166 を読んでおく。
29	事例研究⑧ 地域住民の主体形成を目指して(2) 29-1 小地域福祉活動とは 28-2 振り返りとまとめ	グループ演習	予習；教科書 p.161 - p.166 を読んでおく。
30	相談援助演習Ⅱの振り返り 30-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 30-2 バイステックの7原則 30-3 まとめ	講義 配付資料	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記により、総合的に評価する。</p> <p>目標①②③：演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献、演習課題への取り組み等)により評価 60%</p> <p>目標①②③：レポート課題(GWや長期休暇中の宿題、予習課題等)の完成度と提出期限の遵守により評価 40%</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：ソーシャルワーク演習ワークブック【第2版】 著者名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会・編集 発行所：(株)みらい 価格：2,200円(税別)</p>		<p>書名：社会福祉士相談援助演習 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,600円(税別)</p> <p>書名：社会福祉士シリーズ21 相談援助演習【第2版】 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所：弘文堂 価格：2,500円(税別)</p>	
その他補足事項			
<p>ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業です。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うことに十分留意してください。</p>			

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 Ⅲ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士 (医療福祉学) 社会福祉士 (第46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会 (福島県社会福祉士会)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：saito.takayuki fukushima.college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p> <p>④ 後期（16～30回）は、相談援助実習体験を踏まえて、より良い援助観の涵養を目指していく。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 具体的な事例や援助場面を想定し、社会福祉援助技術に関する講義と現場実習とを関連づけながら、観察力、理解力、分析・応用力、理論化する力を身につける。	目標	B・E
② 計画・企画力、判断力、行動力を駆使できる高い自律性を身につけるとともに、主体的に行動する態度を身につける。	目標	B・E・G
③ 人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。	目標	B・E・F・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 相談援助実習Ⅲの位置づけ (2) 相談援助実習との関係	講義	予習：相談援助の技術の体系を整理しておく。 復習：ノート整理
2	相談援助における価値と倫理① 2-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 2-2 バイステックの7原則	グループ演習	予習：ソーシャルワーカーの倫理綱領を読んでおく。 復習：ノート整理
3	相談援助における価値と倫理② 3-1 実践場面での活用 3-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の行動規範を読んでおく。 復習：ソーシャルワークの価値とは何か、まとめる。
4	事例からソーシャルワークの意味を知る① 4-1 人権 4-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
5	事例からソーシャルワークの意味を知る② 5-1 差別・偏見 5-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
6	事例からソーシャルワークの意味を知る③ 6-1 自立支援 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
7	事例からソーシャルワークの意味を知る④ 7-1 クライアントの利益の最優先 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
8	事例からソーシャルワークの意味を知る⑤ 8-1 倫理的ジレンマ 8-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
9	相談援助場面での実践① 9-1 アウトリーチ 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：アウトリーチについて調べる。 復習：ノート整理
10	相談援助場面での実践② 10-1 チームアプローチ 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：チームアプローチについて調べる。 復習：ノート整理
11	相談援助場面での実践③ 11-1 ネットワーキング 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ネットワーキングについて調べる。 復習：ノート整理
12	相談援助場面での実践④ 12-1 社会資源の活用・調整・開発 12-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：社会資源について調べる。 復習：ノート整理
13	相談援助場面での実践⑤ 13-1 記録について(1) 13-2 ふりかえりとまとめ	配付資料 グループ演習	予習：相談援助場面でもとめられる記録の種類をまとめる。 復習：「記録を書く上での留意点」を整理する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	相談援助場面での実践⑥ 14-1 記録について(2) 14-2 ふりかえりとまとめ	配付資料 グループ演習	予習:前回授業内容を振り返る。 復習:「すぐれた記録」の条件についてまとめる。
15	ソーシャルワークのプロセスを理解する① 15-1 認知症の夫を介護する妻への支援事例 15-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
16	ソーシャルワークのプロセスを理解する② 16-1 知的障害者の地域生活移行支援事例 16-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
17	ソーシャルワークのプロセスを理解する③ 17-1 リハビリテーション病棟での退院支援事例 17-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
18	ソーシャルワークのプロセスを理解する④ 18-1 非行の相談を受けた児童相談所が行う家族支援の事例 18-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
19	ソーシャルワークのプロセスを理解する⑤ 19-1 生活保護を受給している一人親世帯の自立支援の事例 19-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
20	地域福祉活動を理解する① 20-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(1) 20-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
21	地域福祉活動を理解する② 21-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(2) 21-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
22	地域福祉活動を理解する③ 22-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(1) 22-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
23	地域福祉活動を理解する④ 23-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(2) 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
24	ケアマネジメントの過程を理解する① 24-1 支援計画作成演習(1) 24-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習 (高齢者または障害者の事例をグループで選択)	予習:高齢者ケアマネジメントの過程と、障害者の計画相談支援についてまとめておく。 宿題:グループ活動によるプラン作成。
25	ケアマネジメントの過程を理解する② 25-1 支援計画作成演習(2) 25-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	宿題:グループ活動によるプランの完成。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	支援計画プレゼンテーション 26-1 模擬カンファレンス体験 26-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 (カンファレンス形式によるグループで作成したプランの検討)	予習：カンファレンスの意義と目的をまとめておく。
27	サービス評価について理解する① 27-1 サービスの質を評価するしくみ 27-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	予習：第三者委員制度、QC活動等について調べておく。 復習：ノート整理
28	サービス評価について理解する② 28-1 福祉サービスの自己評価・第三者評価 28-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	予習：事例課題に取り組む。 復習：ノート整理
29	相談援助演習Ⅲのまとめ① 29-1 ソーシャルワークとは何か 29-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
30	相談援助演習Ⅲのまとめ② 30-1 実習及び演習での体験の振り返り 30-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>下記により、総合的に評価する。</p> <p>目標①～③：演習中の参加態度（自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献、演習課題への取り組み状況等）により評価 80%、レポート課題(GWや長期休暇中の宿題、予習課題等)の完成度と提出期限の遵守により評価 20%</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：ソーシャルワーク演習ケースブック 著者名：ソーシャルワーク研究教材開発研究会・編集 発行所：(株)みらい 価格：2,200円（税別）</p>		<p>書名：ソーシャルワーク演習のための88事例 実践につなぐ理論と方法を学ぶ 著者名：田中英樹・中野伸彦・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）</p> <p>書名：社会福祉士シリーズ21 相談援助演習 [第2版] 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所：弘文堂 価格：2,500円（税別）</p>	
その他補足事項			
<p>ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業である。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。</p>			

授 業 科 目 名	相談援助実習指導		授業形態・単位数	演習・3単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 くさか てるみ 氏名：日下 輝美	職名：准教授 さいとう たかゆき 氏名：齊藤 隆之	開 講 期	通年
			授 業 回 数	45回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	日下：柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月） 齊藤：社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 （平成17年4月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	日下：福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員 齊藤：日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日下：東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了(修士(経営学)) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会 齊藤：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学) 社会福祉士(第46500号) 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会(福島県社会福祉士会)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	90時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：日下 kusaka.terumi fukushima-college.ac.jp 齊藤 saito.takayuki fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>実習前には、実習の意義と目的及び方法、実習施設や分野の理解、実習に向けての対人援助技術の再確認、実習課題の設定と「実習計画書」の作成、実習の心構えと諸注意を学ぶ。</p> <p>実習後には、「実習日誌」「実習全体のまとめ」をもとに実習体験の振り返りと共有を行った後、実習反省会の開催、「実習報告書」の作成及び実習報告書のまとめを行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 相談援助実習の意義について理解する。	目標	F
② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。	目標	B・C・E・F
③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深め、自己に求められる課題を把握して、実習に臨むことができるようになる。	目標	B・C・E
④ 具体的な実習体験や援助活動を、専門的技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる。	目標	B・C・E・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会福祉士の役割と実習の目標と内容 実習全中後の流れ(全体像)と指導体制 他の科目との関連説明 実習契約構造の説明と実習の意義、実習生の権利	配付資料 教科書「相談援助実習の手引き」	予習:実習への動機と抱負整理 復習:実習先に関する資料収集
2	実習先の理解 実習の意義と目的 実習プログラム例 実習課題	教科書	予習:実習機関分析の下書き 復習:実習課題の整理
3	人とかかわるとは 自己覚知ワーク① 自己コンピテンスアセスメントシートの記入	教科書 自己コンピテンスアセスメントシート	予習:課題レポート作成 復習:課題レポートの修正
4	日本社会福祉士会の倫理綱領 社会福祉士の行動規範	教科書	予習:倫理綱領・行動規範の一読 復習:授業の整理
5	実習受け入れ施設・機関の理解① 機関分析(法的根拠・保健医療福祉制度)	配付資料 グループ学習	予習:実習先の情報収集 復習:授業の整理
6	事前訪問の意義と事前準備 「実習生プロフィール」の作成方法	教科書	予習:実習先の情報整理 復習:生活教養の復習、電話のかけ方の確認
7	実習受け入れ施設・機関の理解② 機関分析(業務の整理)	配付資料 グループ学習	予習:実習先の概要整理 復習:授業の整理
8	実習受け入れ施設・機関の理解③ 機関分析(利用者の理解)	配付資料 グループ学習	予習:学習成果発表会発表内容の企画・整理
9	実習受け入れ施設・機関の理解④ 機関分析(実習先の地域性・地域特性・社会資源)	配付資料 グループ学習	予習:社会資源を調べる
10	レジュメ「実習分野と施設・機関の理解」の作成 誓約書・健康診断書・細菌検査(検便)について	教科書 グループ学習	予習:「実習生プロフィール」の作成 復習:学習成果発表会準備
11	「実習分野と施設・機関の理解」の完成 「実習生プロフィール」(下書き)の提出	グループ学習	予習:学習成果発表会準備
12	実習分野別の学修成果発表会 テーマ「実習分野と施設・機関の理解」	グループ発表	予習・復習:学習成果発表会の整理
13	誓約書・実習生プロフィールの提出 「実習計画書」の書き方① 実習テーマ・課題の視点と立案の仕方	教科書 配付資料	予習:実習先地域の歴史や現状を調べる 復習:実習テーマの決定
14	「実習計画書」の書き方② 実習目標と課題の明確化	教科書 配付資料	予習:実習課題の探求 復習:目標と課題の整理
15	「実習計画書」(案)の確認①	個別指導	予習:「実習計画書」の下書き 復習:「実習計画書」の修正
16	「実習計画書」(案)の確認② 実習施設・機関の社会的役割と今後の課題等、グループまとめ	個別指導 グループ学習	予習・復習:「実習計画書」の修正

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	事前訪問予約等の確認 「実習計画書」(案)の確認③	教科書 個別指導	復習:事前訪問の連絡調整
18	実習中に学ぶグループ課題テーマの設定 (実習反省会に向けて) 「実習計画書」(案)の確認④	グループ学習 個別指導	復習:グループ課題の資料収集、整理
19	「実習計画書」の提出 実習指導担当者から助言・指導があった内容について修正し、提出		予習・復習:実習計画書の修正
20	「実習計画書」の発表会	個別発表 グループディスカッション	復習:他者の実習課題を確認し、自己の新たな課題の発見
21	直前ガイダンス① 実習開始にあたっての注意事項、確認事項 実習中の記録の種類と書き方	教科書	予習:教科書の「実際編」の熟読
22	直前ガイダンス② マナーの振り返り	グループ学習 ロールプレイ	復習:自己のマナーの再確認
23	「実習日誌」の書き方指導① 記録の意義と作成方法	教科書 グループ学習	復習・課題:「今日の出来事」を実習日誌スタイルで作成
24	「実習日誌」の書き方指導② 記録の実際(「実習日誌」の良い例、悪い例)	配付資料	
25	課題提出:「今日の出来事」実習日誌 添削指導 自己覚知ワーク② 自己コンピテンスアセスメントシートの再記入	グループ学習 個別指導 自己コンピテンスアセスメントシートの作成	予習:シート記載内容の達成状況整理
26	実習直前準備① 実習施設・機関等との実習計画書最終調整 実習終了時の諸注意・お礼状の書き方 実習自己評価表の書き方 帰校日指導日程調整	教科書 グループ学習	予習:教科書の該当部分の一読
27	実習直前準備② 準備物の自己・他者チェック 巡回指導教員との事前打合せ ソーシャルワーク技術チェック面接の準備	教科書 グループ学習	復習:ソーシャルワーク技術チェック面接事例の熟読
28	実習直前準備③ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
29	実習直前準備④ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
30	実習直前準備⑤ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認 授業担当教員による講評	
	配属実習(180時間以上)	体調管理、時間厳守 日々の振り返りと実習日誌の記録	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
31	実習の振り返り① 実習を終えての報告 自己覚知ワーク 自己コンピテンスアセスメントシートの記入 「実習自己評価表」の提出 「実習報告書」のフォーマット受領、提出方法・提出期限の確認	個別指導 自己コンピテンスアセスメントシート	予習：実習自己評価表の作成 復習：報告書等提出物の確認、「実習報告書」(下書き)作成
32	実習の振り返り② 実習体験の共有 プロセスレコードの作成、SWOT分析まとめ等	グループ学習	予習・復習：体験した内容のまとめと話し合った内容の整理
33	実習の振り返り③ プロセスレコード、SWOT分析まとめの発表	グループ発表	予習：グループ課題のテーマに沿った資料の収集・整理
34	実習の振り返り④ 実習評価に基づく個別指導 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備① テーマと発表方法の決定、発表概要の整理	個別指導 グループ学習	予習・復習：「実習報告書」(下書き)作成・修正
35	実習の振り返り⑤ 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備② 発表内容の情報収集と添削指導	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料のまとめ、「実習報告書」(下書き)修正
36	実習反省会の準備③ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配付資料等の作成	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料、PPT資料作成
37	実習反省会の準備④ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配付資料等の作成	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料、PPT資料作成
38	実習反省会の準備⑤ 発表リハーサル		
39	実習反省会の準備⑥ 発表リハーサル 「実習報告書」の提出		
40	「実習反省会」の実施 発表及び指導	グループ発表 実習指導担当者からの助言 後輩とのディスカッション	復習：他グループから学んだことを整理
41	「実習反省会」の振り返り	グループ学習	復習：後輩とのディスカッションのまとめ
42	「相談援助実習指導」の総合評価	個別指導	
43	「相談援助実習指導」のまとめ 授業への参加態度、グループ学習への貢献等の自己評価	グループディスカッション	
44	「相談援助実習指導」の総合評価	個別指導	
45	「相談援助実習指導」のまとめ 授業への参加態度、グループ学習への貢献等の自己評価	グループディスカッション	

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

社会福祉士及び介護福祉士の養成を行う学校指定の規定により、相談援助実習指導の評価には、4/5以上の出席が必要である。出席基準を満たすこと。また、学外施設・機関での実習を行うための指導であることから、遅刻厳禁とする。

以下の観点から総合的に評価するが、詳細は初回授業時に説明する。

本科目では、目標①～④について総合的に評価を行う必要があることから、下記の基準で評価を行う。

実習計画書及び実習日誌の記録状況：10%

実習報告書の内容及び提出期限の遵守：30%

授業時の参加態度：10%、提出課題の評価：20%

実習反省会：30%

教科書

書名：「相談援助実習の手引き」
著者名：福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室

参考書

書名：社会福祉士相談援助実習
著者名：日本社会福祉士養成校協会・監修
発行所：中央法規出版
価格：2,600円（税別）
その他の参考書籍等は、授業時間に提示する。

授 業 科 目 名	相 談 援 助 実 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 習 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：日下 輝美	職名：准教授 氏名：齊藤 隆之	開 講 期	時 間 割 外
			授 業 回 数	実 習 180 時 間 以 上
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	日下：柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月） 齊藤：社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 （平成17年4月～平成21年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日下：福島県子ども・子育て会議、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員 齊藤：日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	日下：東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会 齊藤：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士（医療福祉学） 社会福祉士（第46500号） 日本社会福祉学会、日本職業リハビリテーション学会 日本保健医療福祉連携教育学会、日本ダウン症協会 日本社会福祉士会（福島県社会福祉士会）			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	—	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：日下 kusaka.terumi fukushima-college.ac.jp 齊藤 saito.takayuki fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>社会福祉士の国家試験受験資格取得のために履修が義務付けられている配属実習（180時間以上）である。社会福祉が実践されている現場において、援助の対象者にどのように社会福祉の専門知識や専門技術をもって向き合い、課題解決を図るのか、また、社会資源がいかに関与されているか等を学んでいく。</p> <p>これまでに学んだ社会福祉援助に関する価値と倫理、専門知識、専門技術について、実習体験を通して主体的に学び、社会福祉専門職に求められる基本的な態度を育成することを目指す。</p>	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	<input type="radio"/> F	多様性の理解力
	<input type="radio"/> G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/> ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/> ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
<input type="radio"/> オ	実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門的援助技術」及び「関連知識」の理解を深め、対象者と向き合うことができる。	目標	A・B・F・G
② 社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。	目標	B・G
③ 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての行動ができるようになる。	目標	A・G
④ 自らの体験や活動を概念化、理論化、体系化していく力を養う。	目標	C
⑤ 関連分野との連携のあり方と内容を理解する。	目標	A・C・G
⑥ 支援計画の作成等を通して、本人・地域住民が主体となる支援の流れを理解する。	目標	A・B・F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	相談援助実習（180時間以上） <ul style="list-style-type: none"> 実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、4週間以上で、実日数23日以上となる。実習先によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合がある。 実習の内容については、実習先の分野や、施設・機関・団体等によって異なるので、留意されたい。 実習期間中は、配属実習先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や社会福祉援助のあり方等の理解に努める。 巡回指導教員による巡回指導を実施する。必要に応じて、実習指導者、実習指導教員、実習生の三者で相談の上、実習計画の再検討を図る場合もある。 		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①～⑥：実習指導者による実習生の実習態度や実習課題の達成状況等の評価に基づく。 「実習評価表」による評価を基準とし、巡回指導時に話し合った実習指導者からの評価を参酌して、相談援助実習指導担当教員が本科目について成績評価を行う。			
教科書		参考書	
書名：相談援助実習の手引き 著者名：福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室		書名：社会福祉士相談援助実習 著者名：日本社会福祉士養成校協会・監修 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）	
その他補足事項			
＊実習における留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先の利用者やその関係者等と円滑な人間関係を形成するよう努めること。 2) 利用者を理解し、そのニーズを把握すること。 3) 利用者やその関係者等と援助関係を形成する能力を強めること。 4) 利用者やその関係者の課題解決能力を高める援助について学ぶこと。 5) 社会福祉専門職としての職業倫理や、就業に関する規程を学び、組織の一員として働くことの意味を理解すること。 6) 実習先で行われている地域（コミュニティ）への働きかけを学ぶこと。 7) 社会福祉専門職としてのあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自分自身を客観的にみつめて自己覚知を深めるとともに、社会福祉援助業務を職業とすることへの理解を深めること。 8) 実習課題を常に意識し、社会福祉士の福祉実践を主体的に学ぶこと。 ＊実習費として、1日1,000円程度を徴収する。詳細は、相談援助実習指導の授業で説明する。 ＊施設によっては、事前に健康診断及び細菌検査等が必要である(対象学生のみ実費徴収)。実習先からの指示に従って、実習指導室を通して検査等を行い、診断結果を提出すること。 ＊実習前に実習先を訪問し（事前訪問）、実習先への挨拶、自己紹介、実習計画書の提出等を行う。			

授 業 科 目 名	精 神 保 健 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	精神科専門医として46年間の経験			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 授業終了後に教室で質問などに対応します。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
各ライフサイクルにおける精神保健と家庭・学校・職場・地域における精神保健について学ぶ。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 精神保健の基礎知識について理解する。	目標	A
② 各ライフサイクルにおける精神保健について理解する。	目標	A
③ 精神保健における個別課題への取り組みと実験を理解する。	目標	A・C
④ 地域精神保健と地域保健について理解する。	目標	A・F
⑤ 諸外国における精神保健の概要について理解する。	目標	A・C
⑥ 関連法規および施策について理解する。	目標	A・F

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	精神保健の概要、意義と課題	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 1～p. 16予習 当日レクチャーの復習
2	小児心身症、遺尿・夜尿・遺糞症、夜驚症、分離不安（乳幼児期における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 17～p. 24予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	いじめ、チック・抜毛癖などの習癖異常、場面かん黙（学童期における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 24～p. 33予習 当日レクチャーの復習
4	摂食障害（拒食症、過食症）、学校不適応の予防（思春期における精神保健）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p. 33～p. 41予習 当日レクチャーの復習
5	学生無気力、青い鳥症候群、思春期挫折症候群（青年期における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 41～p. 50予習 当日レクチャーの復習
6	うつ病、心身症の予防、適正飲酒（成人期における精神保健）	資料、レジュメ DVD視聴	次週予定のテキスト p. 50～p. 57予習 当日レクチャーの復習
7	空の巣症候群、更年期障害、更年期うつ病（更年期における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 57～p. 61予習 当日レクチャーの復習
8	認知症の予防、もの忘れと認知症の鑑別（老年期における精神保健）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p. 61～p. 70予習 当日レクチャーの復習
9	マタニティ・ブルー、育児不安とストレス、産褥期うつ病（妊娠中、産褥期の精神保健）	資料、レジュメ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
10	不登校の予防、非行・怠学の予防（学校における精神保健）	資料、レジュメ DVD視聴	次週予定のテキスト p. 191～p. 200予習 当日レクチャーの復習
11	燃え尽き症候群、仕事中毒・過労死の予防（職場における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 200～p. 211予習 当日レクチャーの復習
12	健康な家庭のあり方、アダルトチルドレンと共依存（家庭における精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 181～p. 190予習 当日レクチャーの復習
13	ガン患者のメンタルケア、死に至る患者のメンタルケア（ターミナルケアと精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 164～p. 180予習 当日レクチャーの復習
14	ひきこもりの予防と対策、現代の社会病理（地域における精神保健）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p. 211～p. 223予習 当日レクチャーの復習
15	DV（夫婦間暴力）の予防、単身赴任、離婚・別居の夫婦療法（夫婦関係の精神保健）	資料、レジュメ DVの対策と予防（30分）	次週予定のテキスト p. 52～p. 53予習 当日レクチャーの復習
期末試験	前期末試験		
16	児童虐待の予防、健全なしつけ方（親子関係の精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 188～p. 190予習 当日レクチャーの復習
17	性非行の予防、売春対策、セックス依存、異常性愛（性に関する精神保健）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 47～p. 48予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	月経前不機嫌 (PMS)、妊娠中絶、不妊症、レイプ・トラウマ、うつ病が女性に多い理由 (女性の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 47～p. 48予習 当日レクチャーの復習
19	外国人花嫁、パリ症候群、外国人労働者のメンタルヘルス (外国人の精神保健)	資料、レジюме	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
20	教師のメンタルヘルス、校内暴力・学級崩壊の予防、様々な学校病理 (教師の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 199～p. 200予習 当日レクチャーの復習
21	アルコール乱用・依存の予防と対策、(アルコールと精神保健)	資料、レジюме DVD視聴、ケーススタディ	次週予定のテキスト p. 92～p. 109予習 当日レクチャーの復習
22	老人虐待の予防、呆け老人をもつ家族の会 (介護者の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 82～p. 92予習 当日レクチャーの復習
23	過度のダイエットの危険性、イメージトレーニング (スポーツ選手の精神保健)	資料、レジюме	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
24	自殺の危険因子と予防因子、いのちの電話、集団 (群発) 自殺	資料、レジюме ケーススタディ	次週予定のテキスト p. 282、p. 311予習 当日レクチャーの復習
25	心身症、自律神経失調症、ガン・心臓病になりやすい性格 (リエゾン精神保健)	資料、レジюме 心身症とは何か (30分)	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
26	各種の自助グループ (アルコール、薬物・過食・ギャンブル依存)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 281予習 当日レクチャーの復習
27	精神保健施策の概要	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 225～p. 276予習 当日レクチャーの復習
28	精神保健における関係法規		
29	精神保健における関係施策 諸外国における精神保健		
30	精神保健福祉法とその関連性	資料、レジюме	次週予定のテキスト p. 260～p. 276予習 当日レクチャーの復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標①②③④⑤⑥：毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名：精神保健の課題と支援 第6版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所：へるす出版 価格：2,800円 (税別)			

授 業 科 目 名	精神保健福祉に関する制度とサービス		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 ^{きた} 本 ^{もと} 明日香 ^{あすか}		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「精神障害者の生活支援システム」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に学びます。 ① 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法との関わりについて学びます。 ② 精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービス等について学びます。 ③ 更生保護制度と医療観察法について学びます。 ④ 社会調査の概要と活用について基礎的な知識を学びます。	○	A 知識
		B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉法に至る法改正の変遷を理解し、人権擁護に関する手続きや現行法の問題点について述べるができる。	目標	A・E
② 精神障害者が置かれてきた歴史的背景の理解を深め、精神保健福祉士に求められる役割を説明することができる。	目標	A・C・E
③ 障害者総合支援法に至る法改正と障害福祉サービスの具体的内容を述べることができる。	目標	A・C
④ 更生保護制度と医療観察法における関係機関との連携を自分の視点で論じることができる。	目標	A・C
⑤ 精神保健福祉士にとっての社会調査の意義と目的を説明することができる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書補足資料 教科書	
2	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「精神障害のイメージ」400字
3	精神保健福祉法成立までの経緯と歴史 精神病患者監護法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 26～27を事前に読む
4	精神病院法と精神衛生法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 27～29を事前に読む
5	精神保健法(1)	テーマについてペアワークを行います。 教科書補足資料 教科書	教科書 p 29～32を事前に読む
6	精神保健法(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 33～36を事前に読む
7	精神保健福祉法(1)	DVD視聴 (30分)「精神保健福祉法に至る法改正の変遷」(映像利用) 教科書補足資料 教科書	教科書 p 37～41を事前に読む 復習：感想文の作成
8	精神保健福祉法(2)	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「精神科医療の権利擁護について」400字
9	精神保健福祉法(3)	教科書補足資料 教科書 DVD視聴 (30分)「大阪の精神科病棟への訪問活動より」(映像利用)	教科書 p 44～62を事前に読む
10	精神保健福祉士の役割	資料等を使用し、精神保健福祉士の役割についてディスカッションを行います。	教科書 p 63～71を事前に読む
11	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 障害者基本法と精神障害者施策	教科書 補足資料教科書	教科書 p 86～92を事前に読む
12	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス(1)	教科書補足資料 教科書 DVD視聴 (30分)「障害者はどう生きてきたか」(映像利用)	教科書 p 93～104を事前に読む
13	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 105～118を事前に読む
14	精神障害者を対象とした福祉施策・事業	教科書補足資料 教科書	教科書 p 119～171を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	レポート		
16	精神障害者に関連する社会保障制度の概要 医療保険制度	教科書補足資料 教科書	教科書 p 174～196を事前に読む
17	介護保険制度・経済的支援に関する制度	教科書補足資料 教科書	教科書 p 197～234を事前に読む
18	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職 や地域の支援者 行政組織と民間組織	教科書補足資料 教科書	教科書 p 241～263を事前に読む
19	専門職や地域住民の役割	教科書補足資料 教科書	教科書 p 264～269を事前に読む
20	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 刑事司法と更生保護	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「罪を犯した人に対する支援について」400字 教科書 p 272～288を事前に読む
21	保護観察所と更生保護の担い手	教科書補足資料 教科書 DVD視聴 (30分)「保護観察官の役割」(映像利用)	教科書 p 289～297を事前に読む
22	司法・医療・福祉の連携	教科書補足資料 教科書	教科書 p 298～313を事前に読む
23	医療観察法の概要と実際 審判と精神保健参与員	教科書補足資料 教科書	教科書 p 316～327を事前に読む
24	指定入院医療機関および指定通院医療機関における処遇	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「社会復帰調整官の役割について」400字 教科書 p 328～339を事前に読む
25	地域処遇と社会復帰調整官(1)	教科書補足資料 教科書 ゲスト講師招聘	教科書 p 340～347を事前に読む 復習：感想文を作成する
26	地域処遇と社会復帰調整官(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 348～351を事前に読む
27	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 意義と目的	教科書補足資料 教科書	教科書 p 354～367を事前に読む
28	量的調査法と質的調査法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 368～389を事前に読む
29	今後の制度の動向と精神保健福祉士	教科書補足資料 教科書	配付資料を事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書補足資料 教科書	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

- (1) 目標①② : レポート (50%)
前期末にレポートを行います。レポート課題は授業内容に沿って設定します。
 - (2) 目標①②③④⑤ : 筆記試験 (50%)
後期末に記述方式のテストを実施します。
- *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。

教科書

書名：精神保健福祉に関する制度とサービス第6版
著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編
発行所：中央法規出版
価格：2,700円（税別）

その他補足事項

授業内容の理解度を確認するため5回～6回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。
授業の進捗状況や理解度に応じて、授業内容を変更する場合があります。

授 業 科 目 名	精神障害者の生活支援システム	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>ソーシャルワークの原点である社会と人間の相互関係から対象者（精神障害者）の理解を含め、精神障害者を一人の生活者として捉える視点を涵養する。</p> <p>精神障害者の生活実態や人としての権利が侵害されてきた状況と精神保健福祉士の立ち位置と活動、精神障害者への退院・地域移行促進と地域生活支援の条件、居住支援・就労支援制度を活用した相談援助や生活支援活動、地域生活支援システムとしてのピア活動や各関係機関や行政機関の役割と機能、そしてそれらがつながって支え合う意味、災害支援や現代社会における精神障害者も含めた人々のよりよい生活に向けての取組など、生活支援についてみてゆく。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
	○	F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神障害者の生活支援システムについての知識を身に付ける。	目標	A
② 精神障害者の生活支援に対応する技術について理解を深める。	目標	B
③ 精神障害者を一人の生活者として捉える視点を身に付ける。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神障害とは①	画集『心像の世界』	精神障害に関する記事を調べる
2	精神障害とは②	ビデオ『名医にQ 統合失調症』20分	精神障害についてまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	生活のしづらさ① 生活支援とは	ビデオ『幻聴から幻聴さんへ』37分	生活のしづらさについてまとめる
4	生活のしづらさ② 精神障害者と社会	アクティビティ 動いて選択	社会的入院についてまとめる
5	生活者としての精神障害者 精神障害者の生活実態	ビデオ『藤原さんの事例』30分	事例の感想文作成
6	社会的入院者の退院促進・地域移行の条件	ビデオ『精神科病院から地域へ』30分	地域移行の条件を各自考える
7	精神障害者のピアサポート	テキストpp.149-156	感想文作成
8	精神障害者と家族	テキスト pp.156-161	テキストを読んでくる
9	精神障害者の生活と人権	テキスト pp. 53-77	テキストを読んでくる
10	精神障害者の居住支援①	テキスト pp. 79-109	テキストを読んでくる
11	精神障害者の居住支援②	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
12	精神障害者の就労支援	テキスト pp.111-140	テキストを読んでくる
13	地域社会における生活支援システム	テキスト pp.141-148、161-170	テキストを読んでくる
14	行政における相談援助	テキスト pp.170-217	テキストを読んでくる
15	ごくあたり前の生活をめざして	テキスト pp.219-236	テキストを読んでくる
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：期末試験60%、授業時の課題の取組と消化度・提出レポート内容40%により評価します。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します。			
教科書		参考書	
書名：精神障害者の生活支援システム第3版 著者名：上野容子・宮崎まさ江編 発行所：弘文堂 価格：2,700円（税別）		書名：精神保健医療福祉白書2019／2020年版 著者名：精神保健福祉白書編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,520円（税別）	
その他補足事項			
授業の進捗程度等により、授業内容を変更することがあります。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の 基盤（基礎）		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子 ふじ わら まさ こ		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
精神保健福祉士が行なう相談援助の基盤について学ぶ。すなわち、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助（ソーシャルワーク）の定義と理念、相談援助の形成過程についての理解を深める。精神保健福祉相談援助場を疑似体験することを通して相談援助活動について理解を深める。	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技能
		C	論理的思考力
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ	ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ	グループワーク	
	エ	プレゼンテーション	
	オ	実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
① 精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。	目標	A	
② 相談援助の概念と範囲、理念、形成過程について理解する。	目標	B	
③ 精神保健福祉相談援助場面の疑似体験を通して相談援助活動を体感する。	目標	E	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グループの力	グループ活動	感想文作成
2	ピアカウンセリング① 「ほめる」	W-up グルーピング、グループ活動	感想文作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ピアカウンセリング② 「ほめる」	グループ演習	小テスト
4	ソーシャルワークの価値	かちかち山 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	感想文作成
5	精神保健福祉士の役割と意義	テキストpp. 1-13 精神保健福祉士法	教科書を読んでもくる
6	社会福祉士の役割と意義 精神保健福祉士と社会福祉士	ゲストスピーカー招聘	教科書を読んでもくる pp.14-18
7	現代社会と精神保健福祉士	テキストpp.19-34	教科書を読んでもくる
8	SST① SSTであるために	グループ演習	感想文作成
9	SST② 「ほめる」	グループ演習	感想文作成
10	ソーシャルワークの定義 国際ソーシャルワーカー連盟の定義	テキストpp.35-43	教科書を読んでもくる
11	ソーシャルワークの形成過程 ソーシャルワーク理論①	テキスト pp.43-48、 pp.77-86	教科書を読んでもくる
12	ソーシャルワーク理論② 3方法の統合とジェネラリストソーシャルワーク	テキストpp.87-108	教科書を読んでもくる
13	家族療法 思春期の事例	配付プリント	感想文作成
14	家族療法 スカルプティング ソーシャルワークの構成要素としての価値・知識・技術 ソーシャルワークの理念① 一人間尊重、社会正義	テキストpp.49-63	教科書を読んでもくる
15	ソーシャルワークの理念② 利用者主体、尊厳の保持、 権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション	テキストpp.63-75	教科書を読んでもくる
期末 試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③：期末試験60%、授業時の課題の取組と消化度・提出レポート内容40%により評価します。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します。			
教科書			
書名：精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎] [専門] 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所：へるす出版 価格：2,900円（税別）			
その他補足事項			
授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。 参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とします。やむを得ない場合でも2/3以上の出席が最低限必要です。グループ課題を含む授業での遅刻や欠席は他の学生にも多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようくれぐれも留意してください。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の 基盤（専門）		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。 ① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	○	A 知識
	○	B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向を理解し、精神保健福祉士の役割を説明することができる。	目標	A・C
② チームアプローチと多職種連携について理解し、精神保健福祉士の専門性を述べるすることができる。	目標	A・B・C
③ 精神障害者の権利擁護について理解し、その意義について説明することができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程 インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施	教科書 教科書補足資料	教科書 p 108～127を事前に読む
3	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの動向 導入期から拡大期	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料 DVD視聴(20分)「ソーシャルワーカーの仕事」(映像利用)	教科書 p 129～137を事前に読む 予習のテーマ:「精神保健福祉士の役割について」400字
4	精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク 相談援助に係る専門職の概念と範囲	教科書 教科書補足資料	教科書 p 139を事前に読む
5	医療機関における専門職	教科書 新聞記事等を使用しペアワークを行います。	教科書 p 140～144を事前に読む
6	福祉関連行政機関における専門職	教科書 教科書補足資料 専門職に関するDVDを視聴(映像利用)	教科書 p 144～148を事前に読む
7	民間福祉施設・組織における専門職	教科書 教科書補足資料 専門職に関するDVDを視聴(映像利用)(30分)	教科書 p 148～151を事前に読む
8	チームアプローチと多職種連携	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 152～155を事前に読む 予習のテーマ:「連携について」400字
9	相談援助専門職の連携と協働	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 161～165を事前に読む 復習:感想文を作成する
10	精神障害者の相談援助における権利擁護 精神保健福祉士の生活支援	教科書 教科書補足資料	教科書 p 165～170を事前に読む
11	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割(1)	教科書 教科書補足資料 精神障害者の人権に関するDVD視聴(30分)(映像利用)	教科書 p 171～173を事前に読む
12	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割(2)	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	予習のテーマ:「権利擁護について」400字
13	当事者を支える視点・アプローチ	教科書 教科書補足資料	教科書 p 178を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	ライフステージごとのメンタルヘルス課題と精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料 不登校に関するDVD視聴(映像利用)	教科書 p 177～192を事前に読む
15	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>(1) 目標①②③：レポート (50%) レポート課題は授業内容に沿って設定します。</p> <p>(2) 目標①②③：筆記試験 (50%) 後期末に記述方式のテストを実施します。</p> <p>*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。</p>			
教科書			
<p>書名：精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎] [専門] 著者名：荒田寛 佐々木敏明 今井博康 他 発行所：へるす出版 価格：2,900円 (税別)</p>			
その他補足事項			
<p>授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。</p> <p>授業の進捗状況や理解度に応じて、授業内容を変更する場合があります。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉の理論と 相談援助の展開 I		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に学びます。</p> <p>① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について学びます。</p> <p>② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について学びます。</p> <p>③ 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開の理解を深めます。</p>	○	A 知識
	○	B 技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
		E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解し、精神保健福祉士の専門性と倫理を説明することができる。	目標	A・C
② 相談援助活動のための面接技術とソーシャルワークの展開過程を述べる事ができる。	目標	A・B
③ スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について説明することができる。	目標	A・B
④ 精神障害者のケアマネジメントの意義について説明することができる。	目標	A・B
⑤ チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割を論じることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	障害者福祉の理念と精神障害者の人権	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 1～19を事前に読む 予習のテーマ:「障害者福祉の理念」400字
3	国連原則、障害者権利条約、障害者差別解消法	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者権利条約について」(映像利用)	教科書 p 20～50を事前に読む
4	精神障害の概念、国際生活機能分類	教科書 教科書補足資料	教科書 p 50～63を事前に読む
5	精神保健福祉の歴史と理念 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 73～75を事前に読む
6	精神病患者監護法から精神衛生法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 76～78を事前に読む
7	精神衛生法から精神保健福祉法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 78～83を事前に読む
8	精神保健福祉の現状 精神医療の現状	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 精神科病院の現状について DVD視聴(30分)(映像利用) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 89を事前に読む 予習のテーマ:精神科医療に関する新聞記事をもとにレジュメを作成する 800字
9	精神医療の現状と地域生活支援の現状	教科書 教科書補足資料	教科書 p 90を事前に読む
10	精神保健福祉士の課題	教科書 教科書補足資料	教科書 p 91を事前に読む
11	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史 エリザベス救貧法から第一次世界大戦	教科書 教科書補足資料	教科書 p 95～99を事前に読む
12	リカバリーの時代	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「リカバリーについて」(映像利用)	教科書 p 99～102を事前に読む 復習:感想文を作成する
13	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史(1)	教科書 教科書補足資料	教科書 p 102～106を事前に読む
14	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史(2)	教科書 教科書補足資料	教科書 p 107～110を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	レポート		
16	日本におけるソーシャルワークの歴史 PSW誕生、Y問題	教科書 教科書補足資料	教科書 p 111～116を事前に読む
17	国家資格としての精神保健福祉士の意義 精神保健福祉士の専門性と倫理	教科書 教科書補足資料	教科書 p 119～143を事前に読む
18	ソーシャルワークの展開過程 受理面接（インテーク）から終結	教科書 教科書補足資料	教科書 p 151～156を事前に読む
19	ソーシャルワークの面接 面接の構造と技術	教科書 教科書補足資料	教科書 p 156～161を事前に読む
20	面接の方法①	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「電話によるインテーク」（映像利用）	配付資料を事前に読む
21	面接の方法②	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「訪問による面接」（映像利用）①	配付資料を事前に読む
22	面接の方法③	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「訪問による面接」（映像利用）②	配付資料を事前に読む
23	フェイスシートの作成	教科書 教科書補足資料 フェイスシートをもとに、各グループにてディスカッションと発表を行います。	予習のテーマ：フェイスシートの作成
24	個別支援 利用者理解の視点	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 162～170を事前に読む 予習のテーマ：「断酒会、AAについて」800字
25	グループを活用した支援	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 177～194を事前に読む 復習：感想文を作成する
26	地域を対象とした支援 災害時における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 195～220を事前に読む
27	スーパービジョンとコンサルテーション ケアマネジメント	教科書 教科書補足資料	教科書 p 220～253を事前に読む
28	チーム医療における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 263～267を事前に読む
29	チームアプローチおよび生活支援の理念 精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 270～279を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>(1) 目標①②⑤：レポート（50%） 前期末にレポートを行います。レポート課題は授業内容に沿って設定します。</p> <p>(2) 目標①②③④⑤：筆記試験（50%） 後期末に記述方式のテストを実施します。</p> <p>*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。</p>			
教科書			
<p>書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I 著者名：荒田寛 佐々木敏明 助川征雄 田村綾子 他 発行所：へるす出版 価格：3,100円（税別）</p>			
その他補足事項			
<p>授業内容の理解度を確認するため5回～6回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。また、グループにてディスカッションと発表を含む授業での遅刻や欠席は、他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようにくれぐれも留意してください。</p> <p>授業の進捗状況や理解度に応じて、授業内容を変更する場合があります。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉の理論と 相談援助の展開Ⅱ		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神障がい者の疾病および障害を考慮した上で、生活援助に必要なソーシャルケースワーク（個別援助技術）、ソーシャルグループワーク（集団援助技術）、コミュニティワーク（地域援助技術）などをふまえ、包括的な支援とリハビリテーションについて学ぶ。そのうえで、それらの技術における精神保健福祉士の役割・業務内容についての知識および技術を身につけ、さらには、障害特性に合わせた支援プロセスの実際について理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神障がい者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障がい者と家族の調整、及び家族支援を含む。）の展開について説明できる。	目標	A・B
② 精神障がい者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について説明できる。	目標	A・B
③ 精神障がい者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方とリハビリテーションの実際を説明できる。	目標	A・B
④ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できる。	目標	A・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークの支援レパートリー①	プリント	教科書 p. 1 - 8 を読んでくる。 配付資料予復習
2	ソーシャルワークの支援レパートリー②	グループ討議	各支援アプローチをまとめる。
3	個別支援の実際と事例分析①	事例演習	教科書 p. 9 - 27 を読んでくる。 配付資料予復習
4	個別支援の実際と事例分析②	事例演習	教科書 p. 28 - 33 を読んでくる。 発表準備
5	個別支援の実際と事例分析③	事例演習	教科書 p. 34 - 37 を読んでくる。 発表準備
6	個別支援の実際と事例分析④	グループ発表	感想文作成
7	個別支援の実際と事例分析⑤	グループ発表	感想文作成
8	集団を活用した支援の実際と事例分析① デイケア	事例演習	教科書 p. 38 - 52 を読んでくる。 配付資料予復習
9	集団を活用した支援の実際と事例分析② アルコール依存症者ミーティング	事例演習	教科書 p. 52 - 56 を読んでくる。 配付資料予復習
10	集団を活用した支援の実際と事例分析③ 心理教育	事例演習	教科書 p. 57 - 60 を読んでくる。 配付資料予復習
11	集団を活用した支援の実際と事例分析④ SST	事例演習	教科書 p. 60 - 63 を読んでくる。 配付資料予復習
12	集団を活用した支援の実際と事例分析⑤ ピアサポートプログラム、就労支援プログラム	事例演習	教科書 p. 63 - 71 を読んでくる。 配付資料予復習
13	事例による相談援助活動の検討① 危機介入、居住支援	事例演習	教科書 p. 72 - 77 を読んでくる。 配付資料予復習
14	事例による相談援助活動の検討② 就労支援、権利擁護	事例演習	教科書 p. 78 - 88 を読んでくる。 配付資料予復習
15	事例による相談援助活動の検討③ 権利擁護、医療観察法対象者への支援	事例演習	教科書 p. 88 - 90 を読んでくる。 配付資料予復習
期末 試験	前期末筆記試験		
16	精神保健福祉における精神障がい者と家族の関係		教科書 p. 91-100 を読んでくる。 配付資料予復習
17	家族支援の方法		教科書 p. 101-108 を読んでくる。 配付資料予復習
18	事例による家族調整・支援の検討	事例演習	教科書 p. 109-115 を読んでくる。 配付資料予復習
19	地域移行の対象、体制		教科書 p. 117 - 128 を読んでくる。 配付資料予復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	精神保健福祉士の役割と多職種との連携		教科書 p. 129-141 を読んでくる。 配付資料予復習
21	地域移行・地域定着支援の取り組み 事例による地域移行支援の検討	事例演習	教科書 p. 142-169 を読んでくる。 配付資料予復習
22	精神障がい者を取り巻く社会的状況		教科書 p. 171-183 を読んでくる。 配付資料予復習
23	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討、災害時支援	事例演習	教科書 p. 184-195 を読んでくる。 配付資料予復習
24	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方① 地域ネットワーク、アウトリーチ 精神科リハビリテーションの理念、意義、基本原則	プリント配付	教科書 p. 197-224 を読んでくる。 配付資料予復習
25	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方② セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア育成 リハビリテーション評価	プリント配付	教科書 p. 225-244 を読んでくる。 配付資料予復習
26	ケアマネジメントの原則、意義と方法	事例演習	教科書 p. 245-269 を読んでくる。 配付資料予復習
27	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク 事例による精神障がい者ケアマネジメントの検討	事例演習	教科書 p. 270-294 を読んでくる。 配付資料予復習
28	地域を基盤にしたリハビリテーションの意義 地域ネットワーク		教科書 p. 295-309 を読んでくる。 配付資料予復習
29	地域を基盤にした支援の具体的展開 事例による地域を基盤にした支援の検討	事例演習	教科書 p. 310-335 を読んでくる。 配付資料予復習
30	地域精神保健福祉活動の意義と展開 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討	事例演習	教科書 p. 338-355 を読んでくる。 配付問題学習
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②③④：期末試験60%、授業時の課題の取組と消化度・提出レポート内容40%により評価します。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します。			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）		書名：事例で理解する相談援助のキーワード 著者名：八木亜紀子編著他 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）	
その他補足事項			
授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助演習（基礎）		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤原 正子 <small>ふじわら まさこ</small>	職名：講師 氏名：北本 明日香 <small>きたもと あすか</small>	開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月） 北本：特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	藤原：福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在） 北本：社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他 北本：同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
① 相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な援助場面を想定したロールプレイング等の演習を行う。 ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ グループダイナミクス活用技術の習得 オ 情報の収集・整理・伝達技術の習得 カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 キ 記録の技術の習得 ② 地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげる。 事例演習にあたっては地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、ネットワークワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価についての内容を含める。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な技術について実践的に習得する。	目標	B
② 相談援助想定場面において専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	目標	E
③ 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な技術（自己覚知、他者理解、コミュニケーション技術、面接技法等）を習得する。	目標	G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グルーピングのウォーミングアップ 他已紹介	グループ演習、良いコミュニケーションのポスター	感想文作成
2	社会資源ゲーム① 情報収集・整理	グループ演習	社会資源を調べてくる
3	社会資源ゲーム② 情報収集・整理	グループ演習	調べた社会資源を整理する
4	社会資源ゲーム③ 伝達・発表	グループ演習	発表原稿の推敲、ポスターの作成
5	社会資源ゲーム④ 課題の発見・分析・解決	グループ演習	レポート作成
6	自己覚知① ハンディキャップの理解	紙粘土を使用	感想文作成
7	自己覚知② 人生の曲線、思い出の人への手紙	グリーンワーク	ワーク課題を完成させる
8	自己覚知③ ジェノグラム	ジェノグラム作成を通して 家族と自分を知る	ジェノグラムを完成させる
9	集団援助技術 SST① 基本的なコミュニケーション技術の習得 基本訓練	グループ演習	感想文作成
10	集団援助技術 SST② グループダイナミクス活用技術の習得 問題解決	グループ演習	感想文作成
11	基本的な面接技術の習得① 面接を始める 非言語コミュニケーション 共感	ロールプレイ	感想文作成
12	基本的な面接技術の習得② 焦点を当ててついていく 開かれた質問 傾聴	ロールプレイ	模擬問題
13	記録の技術の習得① 圧縮叙述体	ワークシート	事例記録を完成させる
14	記録の技術の習得② 要約体	ワークシート	事例記録を完成させる
15	地域福祉の基盤整備に係る事例演習	グループ演習	レポート作成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標①②③：演習中の授業参加態度（自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等）30%</p> <p>目標③：ワークシート等提出物30%</p> <p>目標②：授業時の課題の取組と消化度・提出レポート内容40%により評価します。</p> <p>シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します。</p>			

教科書	参考書
<p>書名：精神保健福祉援助演習 ― 実践力を育てるためのワークブック 著者名：岩間文雄、金田知子、與那嶺司 共著 発行所：相川書房 価格：2,200円（税別）</p>	<p>書名：精神保健福祉援助演習（基礎・専門） 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）</p>
その他補足事項	
<p>参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2／3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに担当教員に自由書式で理由書を提出し、授業資料を受け取りに来ること。 ※本科目は、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得を目指す学生を対象とする。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提示する。</p>	

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助演習（専門）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 ふじわら まさこ 氏名：藤原 正子	職名：講師 きたもと あすか 氏名：北本 明日香	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月） 北本：特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		藤原：福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在） 北本：社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他 北本：同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
精神保健福祉士		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ② 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③ ②の事例演習にあたっては、アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発についての内容を含める。 ④ 精神保健福祉相談援助に係る知識を技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識を技術として習得できるよう、精神保健福祉援助実習における体験も視野に入れて、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	○	A 知識
	○	B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	イ ディスカッション、ディベート	
○	ウ グループワーク	
○	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	目標	A・B
② 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的技術（インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア）を習得すると共に具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を通して総合的かつ包括的な援助技術を身につける。	目標	A・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神保健福祉援助演習(専門)の位置づけ、精神保健福祉援助実習との関係	ワークシート	ワークシートを完成させる ノート整理
2	精神保健福祉士の価値・倫理と葛藤 守秘 実習におけるスーパービジョン事例	教科書pp. 1 - 9、pp155 -166 日本精神保健福祉士協会倫理綱領、事例演習	ジレンマ状況 アンケート作成演習課題を 完成させる
3	精神保健福祉援助実習に向けた展開 — 機関の分析、 個別学習課題	教科書pp.167-173 個別課題演習	機関分析と問題意識を深める 課題に取り組む
4	施設見学 — 精神科医療機関、障害福祉サービス事業 所等①	学外施設見学	見学施設の事前学習、 見学レポートの作成
5	施設見学 — 精神科医療機関、障害福祉サービス事業 所等②	学外施設見学	見学施設の事前学習、 見学レポートの作成
6	精神科医療機関、障害福祉サービス事業所の実際	施設見学レポート発表 グループ討議	感想文作成
7	相談援助の過程① (インテーク、契約、アセスメント、 プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定 と支援の評価、終結とアフターケア) 地域生活支援事例 ケアマネジメントとは	教科書pp.67-72 事例演習	演習課題を完成させる
8	相談援助の過程② 地域生活支援事例	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
9	精神障がい配慮したコミュニケーション 精神症状を尋ねる、生活者の視点	教科書pp.31-42 演習課題への取り組み	「生活のしづらさ」について 考える 演習課題の完成
10	バイステックの7原則と人間尊重 — 実習事例から 援助関係を考える	配付プリント	バイステックの7原則について 整理する
11	集団援助事例① — SST 実習場面で会話を始める	W-up、場面演習	SSTの流れを復習する
12	集団援助事例② — SST 実習場面で断る プライバシー保護	W-up、場面演習	守秘義務レポート作成
13	集団援助事例③ — SST 就労支援	W-up、場面演習	就労支援のポイントをまとめる
14	事例演習① 退院支援、地域移行	配付プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
15	事例演習② 精神科リハビリテーション	教科書pp.61-66	精神科リハビリテーション に関するキーワードを調べる
16	事例演習③ その他の危機状態にある精神保健福祉	配付プリント 事例演習	演習課題完成
17	事例演習④ 社会的排除	教科書pp.17-20 事例演習課題への取り組み	演習課題完成
18	事例演習⑤ 地域生活継続 エコマップ	教科書pp.109-116 演習課題への取り組み	地域生活上困った時の社会 資源について調べる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	エンパワメント、ストレンクス視点、リカバリーとは	教科書pp.10-23 演習課題への取り組み	演習課題を完成させる ワークシートを完成させる
20	事例演習⑥ リカバリー、ピアサポート	配付プリント、演習課題への取り組み	演習課題完成
21	事例演習⑦ 教育、就労(雇用)	教科書pp.14-17 演習課題への取り組み	演習課題完成
22	事例演習⑧ 貧困、低所得、ホームレス	配付プリント、演習課題への取り組み	演習課題完成
23	事例演習⑨ 地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等) 課題の発見(その①)	事例演習 グループ分け、タイトル決定、シナリオ作成	事例を調べる
24	事例演習⑩ 地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等) 課題の発見(その②)	事例演習 グループ分け、タイトル決定、シナリオ作成	事例を調べる
25	事例演習⑪ 地域における精神保健 情報収集・整理	事例演習 シナリオ作成、演劇の練習	事例を調べる
26	事例演習⑫ 地域における精神保健 課題の解決へ向けて グループ発表	事例演習 全体のまとめ・意見交換	感想文作成
27	精神障害受容とグリーフワーク事例	『マイベストフレンド』	感想文作成
28	実習先種別および実習内容の理解 — 実習報告会	報告を聞いての質疑	実習報告会感想文作成
29	社会資源の活用・調整・開発 ネットワーキング	教科書pp.123-127 事例演習 配付プリント	演習課題完成
30	連携・チームワークにおける精神保健福祉士の役割 役割ロールプレイ	教科書pp.146-154 模擬チーム会議	精神保健福祉士の役割について整理
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②: 演習中の授業参加態度(自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等)30%とワークシート等提出物30%、提出レポート内容(「施設見学レポート(医療機関および障害福祉サービス事業所)」「精神保健福祉分野の図書感想文」「障害受容とグリーフワーク」)40%により評価します。</p> <p>シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します</p>			
教科書		参考書	
<p>書名: 精神保健福祉援助演習 — 実践力を育てるためのワークブック 著者名: 岩間文雄・金田知子・與那嶺司 共著 発行所: 相川書房 価格: 2,200円(税別)</p>		<p>書名: 精神保健福祉援助演習(基礎・専門) 著者名: 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所: 中央法規 価格: 2,700円(税別)</p>	
その他補足事項			
<p>参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようにくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに担当教員に自由書式で理由書を提出し、授業資料を受け取りに来ること。</p> <p>※本科目は、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得を目指す学生を対象とする。</p> <p>※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提示する。授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習指導		授業形態・単位数	演習・3単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤原 正子 <small>ふじわら まさこ</small>	職名：講師 氏名：北本 明日香 <small>きたもと あすか</small>	開 講 期	通年
			授 業 回 数	45回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月） 北本：特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	藤原：福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在） 北本：社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他 北本：同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	90時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
本科目は現場体験実習に向けて精神科医療機関および精神障害者を支援する障害福祉サービス事業を行う施設について学び、すでに学んだ講義（精神医学、精神保健学、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神保健福祉の理論と相談援助の展開等）内容を活用し、精神保健福祉士として必要な知識および技術の理解を深める。実習事前指導では、利用者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術の深化と修得、精神保健福祉士としての専門的援助技術や支援のあり方について概念化・理論化し、体系立てていく力を養う。また、職業倫理を見につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるように努める。実習に先立ち、実習事前訪問を行う。 実習事後指導では、実習の振り返りを個別・グループ別に取り組み、それらのプレゼンテーションを経て報告集にまとめる作業を通じて精神保健福祉士になる素地を涵養してゆく。	○	A	知識
	○	B	技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章・身体・感性等に関する表現力
		E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
	○	ウ	グループワーク
	○	エ	プレゼンテーション
		オ	実習・フィールドワーク

授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
①	精神科病院および精神障害者社会復帰施設の歴史、目的、理念、関係施設の概略等について理解を深め、保健医療現場の実際を知る。	目標	A
②	保健医療現場の実際について理解を深め、援助のあり方や受療援助、退院援助、地域生活援助、医療・福祉制度の活用、チームによる援助活動などを踏まえた上で、実習計画の中の援助プログラムについて考えることができるようになる。	目標	A・B
③	対象者の理解を深めつつ、援助活動の実際を知り、実習計画および実習課題を明確にし、自身の実習計画書を作成する。	目標	A・D
④	実習上の留意点について、特に、援助対象者のプライバシーに対する配慮等について理解して守れる。	目標	A・D
⑤	関連分野の専門職種との連携のあり方を修得する。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習全体の流れと学習内容	シラバス、プリント	復習：課題の整理
2	実習の意義と目的 どんな援助者になりたいか	テキスト p. 2-21	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：ワークを完成させる
3	実習を通して学ぶとは 実習したい機関・施設調べ 事前訪問の意義と事前準備 プロフィールの作成	テキスト pp.23-29、 pp.64-68 実習先連絡票	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：機関分析の下書き、 マナーの復習
4	実習施設理解と精神保健福祉援助① 医療機関	テキスト pp.30-32、 pp.160-170 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：医療機関について整理
5	実習施設理解と精神保健福祉援助② 精神科デイケア	テキスト pp.170-176 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：精神科デイケアについて 整理する
6	実習施設理解と精神保健福祉援助③ 就労支援事業	テキスト pp.33-37、 pp.177-200 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：就労支援事業について整 理する
7	実習施設理解と精神保健福祉援助④ 地域活動支援センター、相談支援事業	テキスト pp.200-210 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：地域活動支援センターに ついて整理する
8	実習施設理解と精神保健福祉援助⑤ 多機能事業所、自立訓練	テキスト p.211-215 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：学習課題を探る
9	実習中に必要な医療福祉制度	プリント	予習：制度概要を調べる 復習：制度についてまとめる
10	医療福祉制度の活用事例 実習への期待と不安	プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
11	実習におけるスーパービジョン 実習中の子供されるトラブルへの対処法	テキスト pp.89-103 pp.104-118	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
12	実習プログラム例 実習計画書の必要性	テキスト p.44-48	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：自分なりの計画立案

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	実習における学習課題の設定 実習テーマの立て方	テキストpp.15-16、 pp.154-159 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習テーマを探る
14	実習計画書作成個別指導① プロフィール表の作成	テキストpp.53-61 プロフィール表の清書	予習および復習：実習計画書の下書き
15	実習課題の設定	テキストpp.160-215 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習課題を探る
16	実習計画書作成個別指導②	教員による個別指導	予習および復習：実習計画書の作成
17	実習計画書報告①	学生による個別報告	復習：報告を聞いての感想文の作成
18	実習計画書報告② 守秘義務と実習誓約書	テキストpp.61-63 実習の手引き、プリント 実習誓約書の作成	復習：報告を聞いての感想文の作成
19	実習計画書作成個別指導③ 実習事前訪問について	テキスト p.53-68 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：実習計画書の清書、実習事前訪問の準備
20	実習日誌の書き方①	テキストpp.79-88、 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：記録の復習
21	実習日誌の書き方②	事例演習	復習：記録の模擬作成
22	「何かしてあげなければ…」から「寄り添い見守る」へ	テキストpp.17-22 プリント	復習：感想文の作成
23	個別支援計画作成演習①	ビデオ『精神障がい者ケアマネジメント』実践編 38分	予習および復習：ケアマネジメントについて調べる
24	個別支援計画作成演習②	ゲストスピーカー招聘 個別支援計画の作成	復習：個別支援計画の加筆・修正
25	実習先で出会う医療用語・略語	プリント	医療用語・略語の整理
26	実習日誌の書き方③ 場面の分析	実習の手引き	場面の分析の模擬作成
27	実習に向けた準備と心構え① 感染症予防、持ち物など	テキストpp.114-118 実習の手引き	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：準備物の自己チェック
28	実習に向けた準備と心構え② 服装、名札、実習中の連絡など	テキストpp.69-74 実習の手引き	服装等の自己チェック
29	夏季休業中の国試受験申込手続へ向けての諸注意	受験の手引き	国家試験受験の事前準備
30	実習終了時の諸注意、お礼状の書き方	実習の手引き	実習の事前準備をする
31	実習を振り返って①	グループワーク	実習全体のまとめを作成する
32	実習を振り返って② 実習個別報告指導	過去の実習報告書等 テキスト p.120-128	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：個別報告書の加筆・修正

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
33	実習個別報告① 医療機関	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料の作成
34	実習個別報告② 障害福祉サービス事業所	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料の作成
35	実習報告発表指導①	実習日誌 グループワーク テキストpp.133-149	復習：感想文の作成
36	場面の分析① 医療機関	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備
37	実習報告発表指導②	グループワーク	復習：今後の改善点を考える
38	場面の分析② 障害福祉サービス事業所	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備
39	実習報告発表指導③	グループワーク	復習：報告内容の整理
40	実習報告会発表に向けて	グループワーク	復習：発表資料の作成
41	実習報告会発表①	グループ発表	プレゼンテーション
42	実習報告会発表②	グループ発表	プレゼンテーション 復習：質疑課題への取り組み
43	実習報告書作成指導	p.129-132 実習の手引き	復習：実習報告書原稿の作成
44	精神保健福祉士の役割と価値	グループワーク	復習：精神保健福祉士の役割についてまとめる
45	精神科医療現場で使われる医療看護用語全体のまとめ	テキスト p.150-151 プリント	復習：用語の整理、今後の課題、自分なりの心構えについてまとめる

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標①②③④⑤：授業時の参加態度（自主的な発言、グループへの貢献度、発表等）30%、提出課題の消化度20%、実習計画書20%、実習報告会10%、実習報告書20%として評価する。
提出課題および実習関係資料の提出期限は厳守すること。
ほか、評価対象には4/5以上の出席が必要である。評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。詳しくは第1回目の授業時に説明する。

教科書

書名：精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版
著者名：日本精神保健福祉士協会 編集
発行所：中央法規
価格：2,700円（税別）

【教材】精神保健福祉援助実習の手引き

参考書

書名：PSW実習ハンドブックー実習生のための手引き
著者名：荒田寛他 編集
発行所：へるす出版
価格：2,400円（税別）

その他補足事項

※参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。グループ活動を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようにくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに自由書式で理由書を担当教員に提出し、配付資料を受け取りに来ること。
※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤原 正子 <small>ふじわら まさこ</small>	職名：講師 氏名：北本 明日香 <small>きたもと あすか</small>	開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	実習210時間以上
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月） 北本：特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	藤原：福島県精神保健福祉士会理事（平成17年～現在） 北本：社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他 北本：同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	○	A	知識
	○	B	技能
		C	論理的思考力
		D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E	課題対処力
		F	多様性の理解力
		G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素		
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ	ディスカッション、ディベート
	ウ	グループワーク	
	エ	プレゼンテーション	
○	オ	実習・フィールドワーク	

授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等が使える。	目標	A・B
② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できる。	目標	E
③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	目標	B・E
④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	目標	E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
【授業内容】			
<p>210時間以上の実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、5週間以上で実日数27日以上となる。実習は、相談援助の一連の過程を網羅的に学習できるよう、各実習生は、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等とで実施し、機能の異なる2以上の実習施設等で実習を行う。実習のうち精神科病院等の医療機関における実習を必須とし、90時間以上行う。実習施設・機関によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。実習の内容については、実習先の種別や施設・機関・団体によって異なるので各自留意されたい。</p> <p>実習期間中は、配属先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や精神保健福祉援助業務を理解する。医療保健福祉関係の各機関や施設での現場実習を通して、対象者へのサービス業務の本質や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びながら、精神保健福祉士に期待される役割を明確化する。</p> <p>実習担当教員による巡回指導(帰校日を含む)を実施する。必要に応じて実習指導者、実習担当教員、実習生の三者で相談して実習計画の再検討を図る。</p>			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標①②③④：実習内容に関する評価50% (実習指導者40%、自己評価10%)、提出物に関する評価50% (実習日誌30%、場面の分析10%、個別支援ケースレポート等10%) により評価する。			
教 科 書		教 材	
書 名：精神保健福祉援助実習の手引き 発行所：福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 実習指導室		「精神保健福祉援助実習 実習日誌」	
その他補足事項			
<p>※実習費 (実費徴収) 実習委託費として1,000円×27日間=27,000円程度を徴収する。</p> <p>※実習施設によっては、事前に健康診断および、細菌検査等が必要である。</p> <p>※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。</p> <p>※この授業は、藤原クラス、北本クラスで実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>			

授 業 科 目 名	福祉住環境演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：中 ^{なか} 丸 ^{まる} 一 ^{かず} 志		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	建築施工管理10年・建築設計及び工事監理24年			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本大学工学部・工学士・一級建築士・設備設計一級建築士 宅地建物取引士・福祉住環境コーディネーター2級 建築学会			
卒業	卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは金曜日午前中、福島駅前キャンパスにて行います。 メールアドレス：nakamaru.kazushi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>わが国は、世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。このような状況下、福祉を学ぶ者として、医療、福祉住環境について、総合的な知識を身につけておく必要がある。この演習では、福祉住環境コーディネーターの学習を通して、高齢者や障害者の住環境を構築するうえで、福祉住環境整備を統括して見わたすことができる人材としての知識を学ぶ。また、アクティブラーニングとして、福祉住環境コーディネーター検定試験問題の検討を行い、施設見学及び福祉用具ショールーム視察の事前・事後学習のレポートを作成する。</p>	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
		D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
	○	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
		イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
○	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 福祉住環境コーディネーター2級の資格取得を目指す。	目標	A
② 高齢者や障害者に対し、できるだけ自立した、いきいきと生活できる住環境を提案できる。	目標	E
③ コーディネーターとして、福祉に関わる各職種間のコミュニケーションが取れる。	目標	G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・演習の目標、進め方 ・演習選択の理由・目標	授業計画・配付資料	演習選択理由及び目標確認
2	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；高齢者・障害者の環境
3	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；高齢者・障害者の環境

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；高齢者・障害者の環境
5	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；高齢者・障害者の環境
6	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；自立支援のあり方
7	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；自立支援のあり方
8	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；疾患・障害
9	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；疾患・障害
10	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；疾患・障害
11	相談援助の考え方と福祉住環境整備の考え方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；相談援助
12	相談援助の考え方と福祉住環境整備の考え方	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；相談援助
13	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；基本技術
14	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；基本技術
15	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；基本技術
期末試験	前期末試験		
16	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；福祉用具
17	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；福祉用具
18	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の研究	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；試験問題
19	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の研究	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；試験問題
20	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の研究	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；試験問題
21	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の研究	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；試験問題
22	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の研究	映像プレゼンテーション・配付資料	予習；試験問題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	本学建築（宮代キャンパス）視察	事前レポート作成	予習；事前レポート作成
24	福祉用具ショールーム視察	事前レポート作成	予習；事前レポート作成
25	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（2025年問題・他）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
26	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（認知症ケアやさしさを伝える技術）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
27	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（コマンチュード実践例）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
28	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（幸せホルモンオキシトシン）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
29	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（電動車いす WHILL）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
30	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧（社会問題関係ビデオ）	映像プレゼンテーション・ 配付資料	予習；福祉住環境整備
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①②：筆記試験 80点満点の記述方式テストを学期末に実施。 目標③：レポート レポートは20点満点とする。（視察時の事前・事後学習レポート）			
教科書			
書名：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 最新版 著者名：東京商工会議所 発行所：東京商工会議所 価格：4,500円（税別）			
その他補足事項			
視察場所への交通費（1,100円程度）は学生個人負担となります。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県精神保健福祉士会理事		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、SocialWorkEngland登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心の健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	○	E 課題対処力
		F 多様性の理解力
		G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
		ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○	イ ディスカッション、ディベート
	ウ グループワーク	
	エ プレゼンテーション	
	オ 実習・フィールドワーク	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 心の健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。	目標	A
② 子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。	目標	A
③ 精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前暮らしている事例を通して、一人ひとりのリカバリーとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。	目標	D・E
④ 履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。	目標	D・E

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉		各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ① 不思議なレストラン プロローグ	プリント	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ② クッキングハウス誕生物語	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	〃
4	アディクションー 止めたいのに 止められない罪悪感	プリント	〃
5	精神障がい者の地域生活支援 ③ いくつになっても希望はある 〈恵子さんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④ 青春時代は病院だった 〈ユミ子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの心の発達と家族支援 ① 症状の見立て方、心の安全基地	〃	〃
8	子どもの心の発達と家族支援 ② 親の役割 子どもの養育としつけ	〃	〃
9	子どもの心の発達と家族支援 ③ 親の強制と過保護 支配性とコミュニケーションのパターン	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 ④ 分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	子どもの心の発達と家族支援 ⑤ 単身家族 絆の欠如 特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	〃 各自の研究テーマを探す
12	子どもの心の発達と家族支援 ⑥ 親の逸脱 世代間サイクル	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	統合失調症の認知機能リハビリテーション	〃	〃
14	テクノロジーによるリハビリテーション範囲の拡大 精神障害の予防	〃	〃
15	リカバリーのための統合的な見方と使命 各自の研究テーマ中間発表①	〃	〃 発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グルーピング	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	研究個別報告⑥	発表と質疑応答	発表準備と発表後の修正
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文作成
30	特別研究発表②	〃	発表準備と感想文作成
授業の到達目標に必ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標①②③④：授業における自主的な発言、発表等授業の参加度50%、発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。</p> <p>シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目授業時に説明します。</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：不思議なレストラン 著者名：松浦幸子 発行所：教育史料出版会 価格：1,500円（税別）</p>		<p>書名：子どもの精神医学 著者名：マイケル・ラター 発行所：ルガル社 価格：6,800円</p> <p>書名：精神障害と回復 — リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名：R.P.リバーマン 発行所：星和書店 価格：6,600円（税別）</p>	
その他補足事項			
<p>初回授業時に履修希望理由について200字程度書いて持参して下さい。</p> <p>授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。</p>			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年
担 当 教 員	職 名 : 講 師 氏 名 : 木 村 泰 博		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	茨城西南医療センター病院臨床心理士 (平成24年4月～平成27年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員 (平成25年10月～平成27年3月)			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士 (人間科学)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>認知行動療法や行動療法の基本的な理論、具体的な援助方法、および臨床心理学的問題の実際に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>本授業では、認知行動療法や行動療法に関して自らの関心をふまえた題材をもとに実際に研究を行う。</p> <p>履修者は担当教員の特別研究Ⅰ (臨床心理学研究) を前年度に履修済みであること。</p>	A	知識
	B	技能
	○ C	論理的思考力
	○ D	文章・身体・感性等に関する表現力
	○ E	課題対処力
	F	多様性の理解力
	G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	○ イ	ディスカッション、ディベート
ウ	グループワーク	
○ エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 認知行動療法に関して興味ある題材をもとに研究を行い、まとめる。	目 標	C ・ D ・ E

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
2	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
3	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
4	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
5	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
6	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
7	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
9	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
10	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
11	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
12	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
13	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
14	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
15	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
16	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
17	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
18	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
19	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
20	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
21	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
22	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
23	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
24	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
25	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
26	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
27	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
28	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
29	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
30	発表	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標①：研究レポート90点 目標①：研究遂行のための取り組み 10点			
その他補足事項			
予習として発表レジユメの作成を求める。 学習成果の発表機会などを適宜設ける。 <u>履修者は担当教員の特別研究Ⅰ（臨床心理学研究）を前年度に履修済みであること。</u>			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 岸 良 範	よ し の り	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 メ ー ル ア ド レ ス : kishi.yoshinori fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>臨床 (clinical) という言葉は、ギリシャ語で「寝台」を意味する「クリネーク」に由来する。元々臨床とは、医療的な治療を施す術がなくなってしまった病人に対して、枕元で魂の旅立ちを世話する僧侶の役割を示すものであった。その現代的意味では、援助を求める人に対して寄り添うということがその主題となる。ただし、寄り添うためには、人を知り、その上で支援の方法を考えていくことが大事なことである。この授業では、人間に対する様々な理論を学びながら、どのような支援が役立つのか、事例 (ケーススタディ) を通しながら検討していくことになる。</p> <p>その上で、そのテーマを研究につなげ、研究論文の作成を目指す。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/>	E 課題対処力
	<input type="radio"/>	F 多様性の理解力
	<input type="radio"/>	G 対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	<input type="radio"/>	ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/>	イ ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	ウ グループワーク	
<input type="radio"/>	エ プレゼンテーション	
<input type="radio"/>	オ 実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 様々な理論を通じて、研究の方法を知る。	目標	A・C
② 様々な症例を通じて、アセスメント力を高める。	目標	A・C
③ アセスメントを通じて、論理を身につける。	目標	A・F
④ 議論する力を身につける	目標	C
⑤ 研究を論文の形にする。	目標	C・D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1 ┆ 10	研究テーマの検討 先行研究の整理	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
11 ┆ 20	研究方法の検討と調査	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
21 ┆ 30	論文の執筆、発表	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
期 末 試 験 の 講 評			
期 末 試 験 終 了 後、希 望 者 に は 期 末 試 験 の 講 評 に つ い て、オ フ ィ ス ア ワ ー 等 を 通 じ て 説 明 し ま す。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）
<ul style="list-style-type: none"> • 目標①②④⑤：小レポート（20%） • 目標⑤：最終レポート（50%） • 目標③④：授業での討議、発表等への参加態度（30%）
教科書
<p>随時紹介する。</p>
その他補足事項
<p>授業の理解度に応じて、講義の順番の入替が予測される。 理解度に合わせて参考文献を随時紹介する。 最終レポートの作成・提出及び成果発表を求める授業である。</p>

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：渡 邊 つとむ 勉	開 講 期	通 年	
		授 業 回 数	30 回	
		期 末 試 験 の 有 無	無	
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士 (昭和57年1月～平成14年3月) 目白大学カウンセリングセンター相談員(平成14年4月～平成30年3月) あずま通りクリニック心理相談員(平成31年1月～現在に至る)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了、文学修士 博士(医学) 聖マリアンナ医科大学、臨床心理士、日本精神分析学会認定心 理療法士、公認心理師、日本心理臨床学会、日本森田療法学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室(401) メールアドレス：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員・学生の自由で活発な討論・ブレインストーミングを通じて、視野を広げる。 ・ 大学の最終年次なので、これまで学んできたことをカタチにする。 ・ 初めに計画した質・量におよばなくてもとにかく締め切りまでに、首尾一貫した論文(レポート)として完成する。 	A	知識
	B	技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力
	<input type="radio"/> E	課題対処力
	F	多様性の理解力
	G	対人関係構築力
	アクティブラーニングの要素	
	ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート
ウ	グループワーク	
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション	
オ	実習・フィールドワーク	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 複数の文献の中から自分のテーマを絞り込むことができる。	目標	C
② 首尾一貫した長文レポートを完成することができる。	目標	D
③ 研究の成果を簡潔に説明できる。	目標	E

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び、授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 方 法 【 予 習 ・ 復 習 】
1	一歩踏み込んで明らかにしたいことは何か?	全体討論	レジメ作成
2	先行研究探索①	発表と討論	発表準備
3	先行研究探索②	発表と討論	発表準備
4	先行研究探索③	発表と討論	発表準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	先行研究探索④	発表と討論	発表準備
6	先行研究探索⑤	発表と討論	発表準備
7	先行研究探索⑥	発表と討論	発表準備
8	先行研究探索⑦	発表と討論	発表準備
9	先行研究探索⑧	発表と討論	発表準備
10	先行研究探索⑨	発表と討論	発表準備
11	先行研究探索⑩	発表と討論	発表準備
12	先行研究探索⑪	発表と討論	発表準備
13	先行研究探索⑫	発表と討論	発表準備
14	研究計画作成①	発表と討論	発表準備
15	研究計画作成②・夏休み期間の研究予定表作成	計画予定表の提出	レジメ作成
16	研究調査活動①：夏休み期間の研究進捗の報告	報告と討論	資料収集・整理
17	研究調査活動②	報告と討論	資料収集・整理
18	研究調査活動③	報告と討論	資料収集・整理
19	研究調査活動④	報告と討論	資料収集・整理
20	研究調査活動⑤	報告と討論	資料収集・整理
21	研究調査活動⑥	報告と討論	資料収集・整理
22	研究調査活動⑦	報告と討論	資料収集・整理
23	研究調査活動⑧	報告と討論	資料収集・整理
24	研究調査活動⑨	報告と討論	資料収集・整理
25	研究調査活動⑩	報告と討論	資料収集・整理
26	進捗状況の確認	全体討論と指導	進捗報告
27	執筆指導①	論文構成の指導 レジメ配付	添削
28	執筆指導②	個別・全体討論	添削
29	執筆指導③	個別・全体指導	添削
30	研究発表と総合ディスカッション：レポート提出	全体討論と講評	最終稿完成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
前期 目標①：討論における発言（30点） 後期 目標②③：論文・レポート提出と発表（70点） 前期と後期の結果を総合して評価します。			
その他補足事項			
参考となる文献や論文は、そのつど紹介します。			

授 業 科 目 名	ゼミナール		授業形態・単位数	演習・4単位
			開 講 年 次	3～4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤原 正子		開 講 期	通年（2年間）
	職名：教授 氏名：日下 輝美			
	職名：教授 氏名：岸 良典		授 業 回 数	60回
	職名：教授 氏名：渡邊 勉			
職名：准教授 氏名：齊藤 隆之		期 末 試 験 の 有 無	無	
職名：講師 氏名：北本明日香				
職名：講師 氏名：木村 泰博				
職名：講師 氏名：桑木 道子				
授業に関する主な実務経験と期間		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
社会貢献としての委員会・職 等		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		各専任教員の他の担当科目シラバスによりご確認ください。		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間/年	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー等については初回授業時に各教員より説明します。		

授 業 の 概 要		授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>福祉や心理に関わる様々な事象や課題、問題等について、個々の興味関心に基づき、その見識を深めると共に、課題解決力を涵養する。2年間のゼミナール活動での学びや研究として以下のいずれかに取り組むこととする。また、それらについて、卒業研究として要旨の提出を義務とする。</p> <p><卒業研究と認められる取り組むべき内容></p> <p>① 論文執筆（文献、調査、評価/測定の実施報告等）</p> <p>② 作品制作（フィールドワークの結果としてリーフレット等を作成したものを含む）</p> <p>③ 開発（製品、商品、ソフトウェア等）</p> <p>④ イベントの実施</p> <p>⑤ その他、科内会議において合意を得たもの</p> <p>※倫理審査が必要と判断される調査を実施する際は科内会議に諮り、許可を得ることとする。</p>	A	知識		
	B	技能		
	<input type="radio"/> C	論理的思考力		
	<input type="radio"/> D	文章・身体・感性等に関する表現力		
	<input type="radio"/> E	課題対処力		
	F	多様性の理解力		
	G	対人関係構築力		
	アクティブラーニングの要素			
		ア	協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	<input type="radio"/> イ	ディスカッション、ディベート		
	ウ	グループワーク		
<input type="radio"/> エ	プレゼンテーション			
<input type="radio"/> オ	実習・フィールドワーク			
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
目標①：福祉・心理に関する課題や問題点を見出す。		目標	C・E	
目標②：課題解決力を涵養する。		目標	E	
目標③：2年間の研究活動の成果をまとめる。		目標	C・D	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ゼミナールの3年次年間計画と活動内容の説明	授業計画等を使用して、年間の計画を確認する。	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	問題意識とはなにか(1)~(3)	プレゼンテーションやディスカッションを通じた問題意識への気づき。	関心のあるキーワードについて説明できるよう準備。
3			
4			
5	研究及び各種活動を行う際の留意点(研究上の倫理、各領域特有の留意点等)	資料を活用したディスカッション等による。	配付資料の事前確認。
6	研究及び各種活動のための仮説設定について 文献の検索方法について (仮説生成と仮説検証の違い)	資料を活用したディスカッション等による。	配付資料の事前確認。
7	問題意識を明確化する(1)~(3)	自身の問題意識を明確化するため、先行研究を読むことや事前の個別指導を受ける。それをゼミ内でプレゼンすることにより、互いの問題意識に気づくと同時に、自分の問題意識を明確化する。	各自必要な準備学習を行う。
8			
9			
10	研究計画の立案(1)~(6)	明確化された問題意識に対して、何を明らかにしたいのかという知的好奇心を醸成し、研究計画の立案を行う。個々に指導を受けつつ、毎回のゼミナール内で自身の進捗状況等についてプレゼンを行い、仲間からの助言や指導教員からの指導等を受ける。	各自必要な学習を行うと共に、教員から個別に指導を受ける。
11			
12			
13			
14			
15			
16	データ収集等の準備(1)~(4)	立案した研究計画に基づいて、調査、制作等の各自の研究に必要な事柄を実施するための準備を行う。	各自の必要に応じて学習を個別に進める。個人的な判断をせず、不明点は教員に指導を受けながら進めること。
17			
18			
19			
20	データの収集等の実施(1)~(8)	フィールドワーク等の方法により調査等を実施する。	各自の必要に応じて学習を個別に進める。個人的な判断をせず、不明点は教員に指導を受けながら進めること。
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	活動状況の中間報告(1)~(3)	実施してきた調査等について、中間報告としてゼミ内でプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。
29			
30			
31	オリエンテーション ゼミナールの4年次年間計画と活動内容の説明	授業計画等を使用して、年間の計画を確認する。	
32	収集した結果のデータ化と整理(1)~(4)	得られた結果についてデータ化し、各種の方法を利用しながら整理を行っていく。	各自データ整理について助言・指導を受ける。
33			
34			
35			
36	整理したデータの分析(1)~(4)	得られたデータについて、分析を行う。	各自分析について助言・指導を受ける。
37			
38			
39			
40	考察と執筆(1)~(10)	分析した結果を元にして、考察、結論を導き出す。その上で、論文ないしは報告書の執筆を行う。	助言・指導・指摘事項等の反映、修正を行う。
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50	卒業研究要旨の作成(1)~(3)	個別に作業を進め、指導を受けるとともに、ゼミ内で進捗状況の共有をする。	助言・指導・指摘事項等の反映、修正を行う。
51			
52			
53	卒業研究要旨の完成	完成した要旨のチェックを受け、指導教員の署名の入った「卒業研究要旨申請書」を受け取り、要旨を提出する。	助言・指導・指摘事項等の反映、修正を行う。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
54	研究報告会の準備(1)~(4)	個別にプレゼンテーションの準備及び助言・指導等を受ける。	助言・指導・指摘事項等の反映、修正を行う。
55			
56			
57			
58	研究報告会(各ゼミ内又は複数ゼミ合同)(1)~(3)	プレゼンテーション、ディスカッション	プレゼンテーションの振り返りと助言・指導事項等の考察
59			
60			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標①②③: 卒業研究要旨の提出を行った者について、以下の割合で各ゼミナール担当教員が評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の発言・参加状況30% 2. レポート等課題への取組状況30% 3. 卒業研究のプロセス(活動状況)と成果40% <p>※卒業研究の要旨の体裁等については別途定める。</p>			
その他補足事項			
<p><要旨の提出については以下の通りとする></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人およびグループは問わないが、1グループ4名を超えないものとする。但し、ゼミ所属者数の都合等で4名を超えるグループとなる場合は、科内会議で審議の上認める場合がある。その場合であっても、5名を越えてはならないものとする。 2) 要旨は1グループ(個人を含む)あたり4ページとし、写真、図表等の使用を認める。 3) 要旨の体裁等は別途指示する。 4) 提出物は印刷した要旨1部に別紙「卒業研究要旨申請書」を表紙として付したものとし、左上をホチキスで止めることとする。「卒業研究要旨申請書」は学科実習指導室で受け取り、所属ゼミナール教員の署名を受けなければならない。また、要旨データについてはゼミナール担当教員へ提出をしなければならない。データの提出を受けた教員は速やかに学科実習指導室宛にメール添付等で提出を行うものとする。 5) 提出期間は原則として4年次の11月最終金曜日を含む週の月曜日9:00から金曜日17:00までとする。 6) 提出先は学科実習指導室前設置の提出BOXとする。 7) やむを得ない事情により要旨の提出が遅れる場合には、「卒業研究要旨未提出理由書」(体裁自由)を作成し、所属ゼミナール教員の許可および署名を受けた後、学科長へ提出すること。 <p>※要旨については、要旨集として発刊する。</p> <p><ゼミの変更理由について></p> <p>原則として変更は認めないが、教員の退職等のやむを得ない理由で4年次に「ゼミナール所属変更希望届」を提出した者については科内会議で審議し、許可する場合がある。変更を希望する場合には、事前に学科主任へ相談し、上記希望届を受け取らなければならない。</p>			